産業が振興して經濟が膨脹したため、貧富の懸隔は次第に甚しくなり、それに伴つて資本家と勞働者との間に爭議が續發し、社會の狀態が險惡になりゆく傾向がある。

明治天皇は、深くこのことを御軫念あらせられ、明治四十四年の紀元の佳節に、內閣總理大臣桂太郎に勅して、『益々憂勤して業を勤め敎を敦くし、人心に健全な發達を遂げさせよ』と諭され、また無辜の窮民が醫藥に事を缺いて天壽を全ふすることのできないのを憫れみ給うて、濟生の道を弘めるために、御內帑金百五十萬圓を下し賜うて施藥救療の資に充てさせられた。桂太郎は、天恩のあついのに感泣して、聖旨に副ひ奉らうとして恩賜財團濟生會を起した。かゝる社會狀態は萬國共通の趨勢であるから、戰時の傷病者を救護する目的で起つた萬國赤十字社も、平時における救護事業の必要を認めるやうになつて、同四十五年、昭憲皇太后はその奬勵金として日本赤十字社を經て萬國赤十字聯合會に金十萬圓を賜與せられた。なほ孤兒院、養育院、施療院、職業紹介所、無料宿泊所等の設備も各地方に整ひ、不慮の災害に遠近相救ふ機關も備はつて、諸種の社會事業は皇室の保護と政府の奬勵とによつて、年を逐うて發達した。

滿洲文化篇

一　遺跡から見た文化

石器時代の文化

第三紀の末葉、地表をうづめた氷河が北方へ退いた頃から、滿洲地方には人類が棲息しゐた。即ち舊石器人類である。これに關する主なる遺跡としては、濱江省ハルピン近郊の顧鄕屯と、興安北省滿洲里に近いヂヤライ・ノール炭坑があげられる。前者からは夥しいマンモス、野牛、犀等の古生物遺物と共に、石器、石屑、骨器、角器、牙器、植物性遺品、木炭末等の人工遺物も發見された。後者の遺物は、第四紀に生成したと考へられる。常に凍結せる泥、砂、小礫層より發見される。卽ち古生物遺物と共に、柳の枝を用ひた編物、鹿角鹿骨に加工せる骨器、更に最近に至つては舊石器人類かと思はれる頭蓋骨も發見された。

現在、滿洲國は、地理的に甚だ複雜な樣相を呈してゐる。人文的と共に、自然的影響を受けることの大きい新石器時代文化も、またかゝる自然環境に從つて種々の樣相を呈してゐる。今、これを大別するとほゞ三つに分けられる。第一は、奉天以北、東滿洲を中心とする遺跡である。これに屬するものは開原、鐵嶺、石碑嶺、陶頼招、吉林、三棵屯等が擧げられるが、その特長とするところは、打製石器を含むことである。さうして間島省の諸遺跡を通じて、深く北鮮の石器時代文化と聯絡を有してゐる。

然るに、奉天以南のいはゆる南滿洲の諸遺跡、卽ち遼陽、鞍山、大石橋、普蘭店、龍子窩、大連海岸、營城子、旅順、老鐵山一帶に見られる貝塚、或は新石器時代遺跡より出土する遺物は、第一群と若干異なつてゐる。かゝる遺跡よりは有孔石斧、石庖丁、石鏃等磨製石器を出すを特長とし、また土器においても鬲形土器、鼎形土器のごときものを多數に出土する。このことは、この地方の石器時代文化が、南方黃河流

域に發展した高度の石器時代文化の影響下にあつたことを意味する。

第三のものは、細石器文化である。細石器とは碧玉、玉髓、瑪瑙等の美麗なる硬玉を材料とし、それを打碎いて製作した細小なる石器であつて、かゝる一群の石器は、蒙古高原に廣く散布する。これは遊牧民の文化遺跡ともいはれ、滿洲においては、チチハル、鄭家屯、赤峰を結ぶ一線より以西の各地即ちハイラル附近、ドロツト附近、林西、大廟等にこの種遺跡が多い。興安嶺を中心とする地帶は、遊牧的細石器文化と農耕的大型石器文化との中間地帶を形成してゐたのである。

以上の文化は確然と分れてゐたわけではない。二者混合、或は三者混交の狀態にあつた。殊にそれが熱河省においては文化混在の形が著るしい。即ちこゝでは細石器文化、黃土文化の混在の上に、更に西方文化たる彩文土器文化が進出し、その存在を主張してゐる。

太古、東滿洲、南滿洲に居住せる住民は、彼等の製作せる石器、土器によつて原始的な生活を營んでゐたが、彼等を取圍む諸方からは、種々の異質の文化が流入した。黃河流域に發生せる新石器文化は、熱河省或は山東半島より海を越えて南滿洲に入り、北滿洲の方面にまで擴がつた。一方、甘肅、陝西の地方にまで及んでゐた西方彩文土器文化は、熱河省、錦州省に入り、更にその亞流は關東にまで達した。他方遊牧

漢代の文化

紀元前三世紀、北支那に覇を稱へた燕の領土は今の熱河省の南半を覆ふたが、秦起つて中原を統一するに及び更に遼東遼西の方面にまでその勢力を及ぼした。かくて漢人の南滿洲に移住する者益々多きを加へ、漢代に至つては遼西、遼東の二郡すら設置された。南滿洲における漢の勢力の中心は、今の遼陽であつた。從つて南滿地方には漢人の遺跡が數多くのこされてゐるが、そのうち特に著しいものは土城址及び墳墓である。

現在知られてゐる土城址のうち、旅順附近の牧羊城址、金州附近の大嶺屯城址は特に有名である。牧羊城址からは古代の諸遺物のほか、明刀、明字圓錢、一刀錢、半兩、五銖錢、大泉五十等の貨幣及び長宋字、樂央字、雙馬厭手文等の半瓦當が出て、漢代文化の名殘を雄辯に物語つてゐる。

漢代墳墓は、北は遼陽、鞍山、熊岳城附近から、南は關東州の董家口、大嶺屯、營城子、老鐵山麓一帶の地に見られ、當時、この方面に漢人勢力の華かなりしことが推測される。併しこれらは總て同一形式の墳墓ではなく、石墓、甕棺墓、塁固墓、貝墓、專墓等に分れてゐる。年代的にいへば前三者

は最も古く、貝墓がこれに次ぎ、專墓は更に後代に連絡するものである。

漢代墳墓の代表的なものは專墓である。これは槨室その他が煉瓦で構築されたものをいひ、優秀なる瓦製明器、漢式土器のほかに青銅製品、五銖錢、鐵製品、漆器斷片等を出土する。恐らく後漢代、漢土において專墓構築がはじまると共に、南滿洲においてもそれの盛行を來たし、遂に三國より六朝初期に至るまで行はれたものであらう。

遼陽太子河畔或は蓋平附近には、地下に構築された壁畫のある石槨墳が發見されてゐるが、これが漢式のものであるか或はまた高句麗のものかは未だ明かではない。

要するに、滿洲の西南、黃河流域に發展せる高度の文明は南滿洲における漢人勢力の增大と共に、次第にその方面にも擴がり、多くの遺物遺跡をのこした。かゝる高度の漢代文化が、未だ眠れる東北滿洲の諸民族に與へた影響は、甚だ大なるものがあつた。

高句麗の文化

遼東方面において、かくの如く漢人の勢力が榮えてゐた頃、その北及び東に續く二地方には、相次で新たなる民族、國家の勃興があつた。その一つは前漢中期北滿松花江流域に建國せる扶餘であり、第二は、前漢末より鴨綠江の中流及び佟家江流域によつて國を興せる穢族の國高家句麗である。

鴨綠江中流、輯安の平野は江に沿うて長さ約三里、幅は最廣のところでも一里を越えない狹長なる小平野で、こゝに幾多の高句麗遺跡が苔むしてゐる。

先づ首都なりし丸都城址は、現在の輯安縣城がそれに當り城壁はほゞ六町四方の正方形、城壁の外方には濠の跡がのこり、また城內諸所に高句麗瓦片が散布し、南壁附近には礎石も遺存する。次に注意すべきは丸都山城址である。南壁の中央、南門址は大きな甕城をなし、南門中の小平地には物見臺、貯水池、宮殿址等が散在して、その小平地を取卷く四方の峰峰をつたつて、堅固な石壘が構築されてゐる。更に有名な好太王碑は、平野の東方、太王陵の東約三丁のところに立つてゐる。

これらと共に、輯安の遺跡を最も特長づけるものは夥しい古墳群である。その數一萬を下らずと概算され、古墳は石塚と土塚とに分れてゐる。石塚の平面は正方形、外形は數層の石段を漸次積み上げて階段上ピラミツド形につくり、最上部は土饅頭で覆はれてゐる。美道は上部にうがたれ、玄室と連絡してゐる。玄室は巨大なる石材を積んで構築され、天井石のごときは一大巨岩を以て覆はれてゐる場合が多い。

土塚は石塚と異なり、平面、胴張りの激しい矩形の封土を有し、その下に單室或は複室の石室が構築されてゐる。天井

部は獨特の持ち送り式なるもの多く、甚だ西方的色彩が強い。さうして一部の石室内部の壁面には、一面に壁畫が描かれてゐる。例へば舞踊塚のごとき、玄室正面には墳墓の主人の像があり、左壁には厨房圖と共に舞踊圖が、右壁には狩獵圖及び牛車圖が各々見事に描かれてゐる。壁畫には壁畫のみでなく、銘文の存するものもある。

これらの古墳は、石塚、土塚ともに高句麗獨特の形式で、その起源がどこにあるかは不明である。要するに、初期高句麗の文化は、多くの點で、漢文化の影響を受けてゐるが、なほ北方及び西方文化の要素を多分に含み、加ふるに自己獨特の發展をなして、特色ある高句麗文化を形成してゐる。さうしてこの文化が、高句麗滅亡後、東滿洲に國を建てた渤海國の文化を強く支配したこと勿論である。なほ高句麗時代の遺跡は、その他にも高麗城子等の名を以て殘つてゐるものが多い。

渤海國の文化

後漢より唐代に亙つて、東方に雄飛せる高句麗も、唐高宗の總章三年に至つて唐と新羅の聯合軍のために亡ぼされた。その後、唐軍に捕へられて營州にあつた靺鞨人大祚榮なるものは、則天武后の萬歲通天年間、部衆を率ゐて東歸し、遂に東滿洲に國を建てて渤海國と稱した。渤海國はそれより遂の天顯元年耶律阿保機に亡ぼされるまで二百二十有七年、東滿洲に覇を綽へた。

渤海國の遺跡として先づ擧げられるものに、牧丹江省寧安の東南約十里、東京城に存する上京龍泉府の遺址がある。址はその中央に今なほ東西一里半弱、南北一里弱の廣大なる土壘を以てかこまれてゐる。府内の北部中央には廣い一劃を占める皇城址があり、皇城址の南方、諸官衙の存した一劃の中央南門址からは、四十八間幅の大道が南に延びて、外城南門に達してゐる。その大路によつて分けられた左京右京は、一條二條と條坊の跡を今なほ辿ることができる。かくのごときは正しく唐制によつたものに他ならぬ。

皇城中央部には南より北に竝ぶ五個の宮殿址があり、その他皇城の東隣には池、島、亭址等の殘る美しい禁苑の後も存し、府内には中央の大路を挾んで八ケ所の寺院址も發見された。また府址の南北一里餘、牡丹江の彼方なる三靈屯には渤海時代の大きな石槨墳墓も發見された。

本遺跡より出土せる遺物には多數の建築裝飾品、瓦、塼、佛像その他がある。このうち瓦縮の紋様は、一種特別なる蓮花紋であつて、高句麗文化の強き影響が認められる。また床に敷かれた正方塼には、蹙華紋と唐草紋との組合せ紋様が見られ、壁面を飾つた長方塼の小口には美しい忍多唐草がある。更に建築物裝飾品としては、第二宮殿址石垣上部を飾つ

た石製大獅子頭、宮殿の大棟につけられた陶製鴟尾竝に獸類等があるが、いづれも渤海國に及ぼした唐文化の影響を語るものである。

渤海の遺物として最も完全に殘るものに、南大廟の石燈籠がある。その形體は雄偉、作法は優麗、唐藝術の影響をうけた渤海國遺品中最優の一つである。

要するに、渤海國の文化は、一方に於て東方世界を風靡せる唐文化の影響をうけ、他方に於て民族的に連繫を有する高句麗文化を繼承し、しかも兩者を適當に融和せるものである。

また五個の宮殿のうち、第三宮殿からはわが國の和銅開珍が發見され、日本との文化の交流のあつたことも見逃せない事實である。

遼代の文化遺跡

東滿洲において、かくのごとく渤海國の勢威竝び行はれた時、その西隣なる東蒙古に於ては潢河流域を中心として契丹民族が遊牧生活を送つてゐた。その後契丹人の勢力は次第に增加し、遂に獨立建國して遼と號した。そして熱河方面へも侵略の手をのばし、更に渤海をも亡ぼし、滿洲、蒙古及び北支那の一部をも含む帝國を建設したのであるが、この國の滿洲における遺跡としては都城址、墳墓、寺院等があげられる。

都城址として有名なのは上京臨潢府址、中京大定府址、上京道慶州治址等がある。當時の都城構築は、城壁に石を用ひず、すべて日乾し煉瓦を積みあげ、四壁に各一個の門を擁し、城壁に沿つて外方に濠が掘りめぐらされた。

上京臨潢府址には諸所に瓦片、石獅子、石人、鐵鉄、石製佛像がのこり、往時の繁榮を知らしめるが、特に中央部竝に西邊には宮殿址かと思はれる高臺があり、礎石、石獅子等が遺存する。また、城外には東方と北方に甎築佛塔が殘つてゐる。

上京道慶州治は、その北方にある皇陵と共に有名である。皇陵は慶州治、即ち興安西省林西縣白塔子の西北三里餘、ワーリマンハにあり、聖宗、興宗、道宗三帝の陵が築かれてゐる。これら三帝陵の大きさはほゞ同じく、共に山腹を貫いて地下に構築された甎墓である。發掘された東陵はすべて六室あり、中央の圓形、圓天井の玄室を取圍んで、三個の同型の圓室がつらなり、更に羨道の廊下に連つて二室がある。圓室を結ぶ廊下の天井もまた穹窿形である。これらの墓室の各壁面には見事なる壁畫が描れてゐる。壁畫は單に當時の風俗、習慣、風景をしのばしめるのみでなく、また實に五代、宋にすぐれた繪畫として美術史上頗る價値高きものである。

遂代の墳墓は奉天省鞍山地方にも殘つてゐる。これは地下式八角形の石郭を持つ小墳墓で、緑泥片岩の壁石には人物、

車馬、駱駝、雲紋等が浮彫されてゐる。熱河省朝陽、赤峰附近にも、遼代と推測される專築、七角、丸天井の小墳墓がある。かくのごとく平面が多角形、或は圓形をなし、圓天井を持つてゐるのは遼代墳墓の特長であつて、恐らく彼等の住居形式をそのまゝ墳墓にうつしたのに由來するのであらう。

滿洲における遼代の佛寺としては錦州省義縣奉國寺の大雄殿があり、佛塔としては臨潢府址、大定府址、慶州治址等の專塔のほかに錦州省義縣嘉福寺の塔、同錦縣大廣濟寺の塔、奉天省海城縣析木城の塔がある。また熱河省の赤峰西南の遼萱山には遼代の岩窟寺院がある。

金代の遺跡

東蒙古を中心とし、遼が滿蒙を併せ有してゐた頃、東滿洲の森林地帶には女眞族が半獨立の狀態を持しつゝ居住してゐた。そのうち濱江省阿城附近を本據とせる女眞の一部、完顏部の勢力は遼末に至つて榮え、次第に東滿洲の生女眞を併せ遼の國勢の紊亂に生じて、漸次、遼の故地を併せ、遼保大三年には遼を亡ぼし、次で宋と事を構へて淮水以北をその領土となすに至つた。かくて女眞族の國家が成立し、蒙古軍に亡ぼされるまで百二十餘年この地方に覇を稱へた。

滿洲における金の遺跡としては、先づ上京會寧府址があげられる。城内には宮殿址と傳稱する高臺が南城西寄りに殘その上には多くの礎石、瓦片、專等が見られる。礎石はその他にも遺存するが、一般に美しい蓮瓣が彫り出されてゐるものが多い。なほこの遺跡からは多くの建築物裝飾品、夥しい金、宋代の貨幣、遼金代の鏡、銅印、玉器、玻璃器、佛像、或は興味深いシヤーマン教に關係ありと思はれる青銅性小像が出土する。

金代の墳墓としては新宗東方石碑嶺に遺存した完顏婁室の墳墓が知られてゐたが、今は破壞せられて墓制等を知ることが出來ない。たゞ往時、墓前に建てられてゐた石人、石獸等は今は大連滿洲圖書館に保存されてゐる。北滿洲各地には石人、石獸等が發見される。

更に金代の遺物として擧げられるものに、女眞字碑文がある。滿洲においては濱江省雙城縣西八十里、拉林河に近い石碑威子にある得勝陀碑、或は奉天省海龍縣附近にある二面の女眞字層崖碑等は特に有名である。金代の碑文としてはその他完顏婁室神道碑、完顏希尹神道碑等をはじめ、その他にも多い。

滿洲には金代に創建された數基の寺塔も殘つてゐる。有名なる遼陽廣祐寺の白塔、開原石塔寺の塔、鐵嶺圓通寺の塔のごときは皆それであり、その他尊勝陀羅尼經幢も多いが、その樣式は、遼代のものに比して變化はない。

二　滿洲社會と文化

滿洲文化史の特色

滿洲の文化は、新石器時代すでに地理的歷史的條件に從つて複雜なる樣相を呈してゐた。しかし高度に發達した黃河文明が、西南方より海を渡り、或は熱河を越えて南滿洲に侵入するに及び、この地方に新たなる文明の黎明が輝やきはじめた。漢文化はやがて四方の眠れる諸民族を揺り動かし、その最初に支那文明を多分に取り入れた高句麗の文化が形成された。しかし高句麗文化も決して漢文化の單なる模倣ではなく、これを消化し、獨特の文化を形成してゐた。そこには北方的西方的文化要素が多分に交流し融和されてゐた。この傾向は、單に高句麗文化のみに止まらず、その後滿洲に建國せる渤海、遼、金の文化のいづれにも見られるところである。即ちこれら諸時代の文化は、いづれもそれに相當する支那各王朝の文化に多少影響されてゐるが、しかもよくこれを消化して自家藥籠中のものとしてゐるのである。その後蒙古の興起によつて、滿洲は全蒙古、支那と共に一色に塗りつぶされたが、滿洲における元の遺跡、遺物は比較的少ない。

滿洲は元來清朝發祥の地である。從つて清朝時代には、特に滿洲に對しては鎖國的な諸制限を設けて、祖神の地として傳統を保持するやうに努力した。その後清朝の凌落を見たが滿洲は依然として舊軍閥の苛斂誅求下において、その生產乃至は社會及び文化等、いづれも舊態依然としてゐた。しかるに、この間に於て日蘇をはじめ、歐米列强の經濟的進出は目覺ましく、經濟的に完全なる諸外國の支配下に立つに至つたが、それがため滿洲の產業は一段と開發され、各種產物の海外販路の擴大及び產業の改良が行はれ、從つて物產は一層の增收を見、一般の生活狀態は著るしく改善され、嘗ての窮乏狀態からやうやく解放されるに至つた。しかも更に滿洲國成立と共に、國内の諸事業は更新一變され、新政府の下に三千餘萬の國民は、舊軍閥の搾取から解放され、その福祉增進には著るしきものが見られる。

現在滿洲國の總人口中約九割迄は漢民族で占められ、滿洲族は僅かに七分にも達せず、朝鮮人もほゞ滿洲人と同樣である。その他日本人、白系ロシヤ人、蒙古族、ラマ族がその主

なる構成分子である。現在これら諸民族の融合統一が滿洲國の王道樂土政治の第一の目標となつてゐる。そして以上のうち滿洲族と日本人とは、全體の數から見るときは極めて少數なるも、滿洲國建設に當つて、最も大なる役割を果したもので、今後、滿洲國の發展に最大の關係を有し、その點、滿洲の社會體制において重要なる位置を占めてゐる。

民族統合運動

滿洲國建國に際し、行政委員長張景惠氏は、五族共和、共存共榮をその理想として中外に宣言し、こゝに諸種族、諸民族の融合統一を目標とする滿洲國は、王道主義政治の下に一大發展の機會を得ることになつた。從つてこれらの諸種族、諸民族の問題は、滿洲國の政治工作において最も重要なる一環を形成しつゝ協和會、大滿洲國正義團、滿洲青年聯盟等の諸民族運動は、漸次積極的な進展を遂げつゝある。

古來、支那は匪賊の跳梁跋扈が著るしく、滿洲においてもその例にもれず、いはゆる馬賊をもつて有名である。これが滿洲事變においては約五萬と數へられてゐたが、事變勃發と共に張學良の部下及び在鄉不平分子によつて多くの武裝抗日匪賊が編成され、いはゆる東北義勇軍と稱して、張學良の指導下にあつて活動を開始した。これが支那本部の抗日反日運動と密接なる關係にあり、滿洲における治安攪亂の一大動力をなしてゐたものである。

しかし事變當時におけるこれらの東北義勇軍は、或は救國軍と稱せられ、その數約數萬に達し、殊に昭和七年三月一日の滿洲國成立後は、新國家反對の旗色を明かにして積極的な活動に乘り出し、組織的武裝勢力に發展して行つた。その他これに吉林軍及び馬占山系の殘黨を加へ、また一般の土匪を通算して、當時は少くとも三十萬を突破してゐたものと見られてゐる。

かくの如き反日反滿武力抗爭の激化に對して、日本政府は滿洲國の正式承認をなし、日滿議定書により共同防衞を以て斷乎たる決意を示した。その後日滿軍は李杜、丁超を追ひ、蘇炳文をソ聯領に追ひ込み、義勇軍の本據熱河、北支にまで戰闘は延長された。一方、政治運動の一般的取締法として治安警察法を制定し、更に一層强力なる法制の必要のために、遊徒盜匪懲治法の公布を見た。

かくて治安は次第に恢復され、安居樂業の地は到るところに出現し、さしもの軍匪も千を以て數へる少數となつた。支那事變遂行中に、わが政府は王精衞氏と緊密に提携するや、滿洲國もこれに加はり、日滿支一體となつて東洋平和のため邁進することとなり、滿洲國の五族共和思想は着々その緒に就いてゐる。

社會思想の變遷

滿洲において共產主義運動が最初に勃發したのは、大正十五年七月で、南支那の共產主義運動の發展の影響下に、中國共產黨大連地方委員會の組織されたのに始まる。その後、北滿における共產分子の活躍があり、朝鮮國境においても、朝鮮人の間に共產勢力が浸潤しつゝあつて、朝鮮共產黨滿洲總局が結成された。

滿洲事變後、中國共產黨は滿洲各地において積極的活動に入り、反日軍及び匪賊に働きかけた。しかし日滿官憲の取締嚴重にして屢次の檢擧あり、中國共產黨の活動は城執ではあつたが、次第に勢力を減退して行つた。

滿洲における日本主義運動の先驅は、滿洲青年同志會である。新京に本部を置き、大連、奉天、安東等に支部を持ち、最も活潑な動きを見せ、昭和十年秋には在滿愛國團體陣營の戰線統一を企圖したが成らず、二・二六事件後、自發的に解散してしまつた。

また昭和九年、全アジア會アジア民族同盟事務局が設けられ、種々運動をなしたが不成功に終つた。更に昭和十年には在滿愛國團體聯盟が建國祭を擧行、大楠公六百年祭を執行したが、特別の行動は見られない。

朝鮮人の滿洲移住は、移民の保護奬勵によるものよりは、諸種の自然的原因によるものが多かつた。即ち人口過剩と凶災の頻發、經濟的窮迫による生活の脅威等のため、逃避的性質の赴くまゝ、接壤地たる滿洲に生活の地を求めたものと、日韓合併以來、政治的不平分子が多く移住したものである。各地に朝鮮人民會、各農村に農民契があり、これは部落民の相互扶助、土着精神の涵養を圖ると共に、その生產品の共同販賣、生活必需品の共同購入、農耕資金融通斡旋など、經濟生活の向上發展につとめてゐる。鮮人問題に對する當局の指導方針は、現に在住する者に對し先づその生活の安定を圖り次に新たに移住する者を指導統制し、滿洲國における民族協和の精神に合致せしむるを本旨としてゐる。

社會事業の展望

明治大帝御大喪に際し、關東州に金七千圓の御內帑金御下賜があつたので、同州廳內に恩賜財團慈惠會を設立し、爾來御下賜金及び配當金竝に寄附金の交附を受け、每年、社會事業助成費として二萬圓內外を交附してゐる。

恩賜財團普濟會は康德元年に組織された。その他細民の救恤、建國犧牲者の遺族の撫恤、民間社會事業の奬勵補助等に御內帑金を御下賜あらせられた。

中央に民政部地方司社會科があり、地方社會事業の監督助成に任ずると共に、賑恤、救濟及び國內官私營社會事業の振

興奬勵を圖り、勞働に關する事項をも管掌してゐる。

地方社會事業聯合會の聯絡統制を圖るために、大同三年、滿洲國中央社會事業聯合會の創設を見、功勞者の表彰、講習生の日本派遣、日滿兒童融和促進事業等を實施してゐる。

農村生活の救貧防貧のため、康德二年義倉管理規則が公布され、各縣に於ては毎年穀物の徵收積立て、災害地窮民をして地方自主的に救濟に當ると共に、更に進んで民食の不足を補給し、或は生業資金を貸與する等、防貧事業の機能も充實してゐる。

更に郵老所を設立し、六十歲以上の老衰者を收容し、紙細工、機織、編物、家畜の飼育、植物の手入れ等をなさしめてゐる。また五歲以上十五歲未滿の貧民幼少年を收容保育するために、孤兒所が設けられてある。

殘廢所といつて、自活の力なく、扶養者もない殘廢者を年齡の別なく收容する機關もある。遺棄兒、貧困者の嬰兒のために、育嬰所を設けて保育し、五歲以上に達した時は、父母または親類に引渡し、引取人なき時には孤兒所に送る。滿人及び支那人の弊風たる棄兒の惡習を除くため、各種團體が救濟に多大の犧牲を拂つてゐるので、育兒施設は相當に發達してゐる。

その他、社會事業施設として施醫所及び遊民習藝所等がある。施醫所は貧民の治療、衞生防疫事務を取扱ひ、漢醫は內科、洋醫は外科その他の治療にあたつてゐる。遊民習藝所は主としてモヒ中毒患者、小盜兒、浮浪者等の輕罪者を强制的に收容して各種の技藝を授けるところである。

民辨事業としては世界紅卍字會、萬國道德會、全國理善勸戒煙酒會、紅十字會、世界慈善聯合總會、惜字會、孔學會、五臺山向善普化佛教會等がある。

勞　働

滿洲における勞働者は、これを民族的方面より見ると、滿洲人が絶對的多數を占めてゐるが、なほこのほかに日鮮人あり、ロシヤ人あり、その人的關係は頗る複雜多彩であり、その殆ど大部分は、農業勞働者、手工業勞働者及び苦力階級の占むるところとなつてゐる。

滿洲勞働界における特殊現象として看過し得ないものに、支那人勞働者の大量的入出滿問題である。これは滿支兩國の地理的、歷史的關係に、主たる原因を有するものであるが、この問題は、いはゆる勞働統制として問題化し、昭和八年頃當面の方法として、支那人勞働者の入滿は必要の最少限度に對してのみ許可するといふ方針をとり、且つ滿洲國當局にあつては、關東軍、關東局等と計り、滿洲における勞働統制の治安維持上の觀點よりしても、必要性と重大性に鑑み、關東局外國勞働者取締規則案を基礎として、康德二年、法令としての外國勞働者取締規則十四箇條を公布實施して統制に當つたが、發展途上にある滿洲國の現狀はこれら外來勞働者をなほ或る程度まで必要とされ、年に數十萬に及ぶその入國を認めざるを得ない狀態にある。殊に日支事變勃發後、滿洲國產業の生產擴充と相俟つてその要求量は多くなつた。

なほ滿洲國における勞働者の需要狀態は、特に農業勞働において、地方的に且又季節的に間歇的に考究を要すべき重大問題とされてをり、滿洲國政府當局にあつても、最近、內國移民問題に頗る關心を有し、これが具現に鋭意努力しつゝある狀態である。

滿洲における勞働者の生活狀態は、極めて低劣なもので、その典型的タイプは苦力である。苦力の多くは山東省及び河北省よりの移民によつて構成され、土着人たる漢族及び滿族の割合は極めて僅少である。

滿洲國勞働者の賃銀は、一般に極めて低廉で、勞働の種類によつて、能率において優秀な滿洲勞働者を、日本人勞働者よりも遙かに低廉な賃銀で雇ひ得る場合がある。勞働時間もまた極めて長く、前述の勞働賃銀の低廉と共に、滿洲における勞働狀態の低劣を物語るものである。しかし勞働運動は發達せず、勞働爭議も極めて僅少で、僅かに小規模の自然發生的罷業、小紛議を見たのみである。

三　風俗習慣から見た文化

飲食物と文化

滿漢人の食物といへば、直に支那料理を思ひ出すが、實際日常に滿漢人が食べるものは、それとは大分異なつたものがある。主食物は大米(米飯)、高粱及び玉蜀黍の類であり、大米を主食とする者は、少くとも中流以上の階級である。しかもそれは一日二回の食事のうち一回に過ぎない。この二回の食事の間に、いはばおやつとして點心といふ菓子、果物、種子物類を食べるから、都合日本人同樣三回といへばいへるが、その時間、回數の如きは不定であることが多い。下層階級のものになると、小麥、粟、高粱、玉蜀黍、大豆などで作つた飯、粥、饅頭、餅、麵などを常食とする。大蒜、生葱を好んで食すから、臭氣が甚だしいのにも驚くが、また餘りに簡單なのにも驚かされる。

副食物としては一般に魚類、獸類、鳥類及び野菜類を食べる。獸肉類では豚を第一とし、羊、鵞、鷄、鴨、鳩、鷲鳥、鴉等を食べるが、牛肉は殆ど食べない。また回教徒だけは豚を食べない。魚貝類としては蟹、蝦、蝦子、鮑、蜆、海鼠、鯉等。蔬菜類では葱、韮、大蒜を第一とし、白菜、芹、チサ

等を食べ、その他菌類、筍類、種子類を食する。

調味料としては豚油、大豆油、胡麻油を多く用ひ、更に不可缺の調味料としては鹽がある。

飲料は、日本人同様、茶を一日中幾回となく飲むが、水は生水では決して飲まない。酒もまたよく飲む。しかし酔つて暴れるといふことなく、その點、禮儀正しいところがある。

茶には綠茶、紅茶、磚茶、烏龍茶等數種あり、綠茶が最も多く用ひられる。街頭で湯を賣つてゐるのは、滿洲の一異風景であるが、これは彼等は茶を飲むことが非常に多いため、その都度沸かさずに街頭で据風呂のやうな金屬製の湯沸しを置いて白湯を賣つてゐるので、安直にそれを買つて來て茶を淹れる。勿論、上流の人々はこんなことをしない。

煙草と阿片

滿人はよく喫煙する。しかも彼等の喫煙は非常に麻酔性に富むものを好み、恍惚然發心するやうなる氣持になためである。從つて阿片が最も悦ばれ、抜け切れぬ惡習となつてしまつた。從來は一般に刻み煙草が多く用ひられ、その種類は十數種あつたが、松花江上流から出る南山葵といふ葉煙草が最も香りがよい。しかし現在では歐風の感化から紙卷煙草が多く用ひられ、都會の上流人士の間では日本煙草や歐米煙草が行はれてゐる。刻み煙草の吸飲法は、勿論一般には普通の煙管によるが、そのほかに水煙袋、即ち水煙管といつて、支那・滿洲に獨特のものがある。これは煙草が一度水中を通過した後咽喉に入る仕掛となつてゐるもので、一服々々煙草を詰め更へて、長い紙捻りで點火する非常に手間のかゝるもので、上流者は一般に奴僕にそれをやらして飲んでゐる。

阿片は、支那・滿洲の名と共に聯想されるほど有名なもので、それがまた非常に身體に害毒のあることも知られてをり、支那を亡ぼすものは阿片なりとさへ極言された。阿片を吸ふには寢臺に横臥し、煙鎗といふ笛形の吸管を口に咬へ、煙膏、即ち阿片液を練つて膏藥狀にしたものに酒精をつけて溫め、煙斗と稱する笛孔に一種の雁首を附したやうなものにその液を塗り、これに點火して吸ふのである。その味、その吸ふた氣持は味はつてみないものにはわからないし、また吸煙者は曰く言ひ難しといふが、兎に角、心神恍惚として夢心地になるものらしい。

滿洲國政府は、人民をしてこの弊風に染まないやうにするため、建國後は阿片を專賣制度となし、既にこの惡癖に染つてゐる隱者級の者のみにこれを販賣することとし、漸次に改革してをり、いはゆる阿片窟なる煙館を廢し、阿片の小賣所を設けて、これを直接國家の監督下に置いてゐる。

服飾文化

帽子には禮帽と便帽の二種がある。禮帽は清朝の制によると官帽と朝帽とに分けられ、官帽は更に四種あり、それぞれ季節に應じて被る。便帽は男子の常用として最も一般に用ひられるもので、これにも小帽と風帽の二種があり、小帽は冬季用のもので六辨を縫ひ合せた椀形の帽子、黒絨子、緞子、天鷲絨または綿布でつくる。風帽は一種の頭巾で、冬季に多く老人間に使用される。農夫や勞働者には饅頭形の高粱帽があり、苦力の如き最下層のものは耳帽といふ防水、防寒を兼ねた帽子もある。都會では歐風の中折帽、鳥打帽、ロシヤ式防寒帽も用ひられる。女は無帽が多く、極く稀に洋風帽を用ひる。しかし滿洲旗人の婦人中獨特の冬帽子がある。

漢・滿人の服裝は名稱こそ異なつてあるが、大體、洋服の樣式に似てゐる。小褂子（下着）を着て、庫子（ヅボン）を穿き、帶子（帶）をつけ、足には襪子（靴下）をはき、ヅボンと靴下の合せ目を腿帶子で卷く。下着の上には四季によつて異なる上衣を被る。更にその上に簡單な禮服とし馬褂子（羽織）を着る場合がある。被服の材料は主として綿布であるが、富者なれば絹布、麻布、毛織物等を使用し、色彩は黒、藍、淺黄、白、赤などが普通で、一般に柄物でなく無地が多い。

男子の禮服は西洋風が多く、舊式の禮裝は次第に少くなつていく。婦人の禮裝には立襟の上衣のほかに、し衣をつけ上衣の長さは膝に達し、袖は手首まで、上衣の下半身左右と背の裾とを割り、周圍を緣取り、全體に刺繍を施す。

喪服についても、古來から滿漢人は葬禮を重んずる結果、一定の方式に從ふやうに强制されてをり、殊に父母の死に遭ふときは三年の喪に服し、その服裝は男女共、白色の粗布を裏返し縫放しで着用し、上衣には粗麻製の外套を用ひ、最初の百日間はこの白衣を着、その後順次に黒、藍、灰色等の色に變へる。

最近、上流の家庭では、著るしく上海や天津あたりの流行の影響を受けて、歐風のものが多い。

靴下を穿くことと履物を穿くことは、どんな下級のものでも必ずする。素足を他人にさらすことと他人の面前で履物を脱ぐことは、非常な失禮に當ることとされてゐる。從つて履物を非常に大切にする風がある。

婦人の髪は、兩把兒頭といはれる二ツの輪に結つた高丸髷や、遇風樓といふ稚兒髷の大形のものがあり、處女は無裝飾のまゝ三ツ組にした髪を後方へ垂れる。既婚者の髪は髪揚げをなし、額の毛を抜き、剃りあげる。しかし都會地方の婦女子の間では歐風、日本風が流行し、斷髪したり、束髪樣のものが多く行はれてゐる。

纏足の起原は不明であるが、支那では古來、女は足の小さいのが尊ばれたので、女兒は四、五歳になると人爲的に足の

成長を止め、形を不自然にした。この弊風は今なほ殘存するが、急速に減少しつつある。

住宅文化

家屋の構造様式も民族を異にし、處を異にするに隨つて、その土地の自然に適した、また生活に適合した特徴を持つ。滿洲におけるその特徴は何かといへば、寒氣を防ぐために床下に杭を設けることと、長い間匪賊に惱まされてゐたために、これを防ぐ必要から家の周圍に墻壁を築いてゐることである。

家屋の構造を見ると、正門は普通南の中央に置かれる。勿論市街地では、敷地の關係から南向に出來ないこともある。簡單な門は一間で、扉が兩開となつてゐるが、少し上流になると、三間、五間などの建物の中央の一間を門とし、左右の各一間又は二間を門房といひ、使用人の居室などに充てて、この點、日本の田舍にも見られる樣式である。門を入ると煉瓦作り、または板作りの衝立樣のものがあり、內部があからさまに見えないやうになつてゐる。これを影壁といふ。影壁の向ふが院子といつて庭になつてをり、庭の東西に三間、五間または七間の廂房といふ建物があり、これは厨房、倉庫、家人の居室である。庭の北側、即ち門を入つた正面に、三、五、七間といつたやうな奇數間取りの正房、即ち日本の母屋にあたるものがあつて、これが主人夫婦の居室及び新しい客の應接室に使用される。この正房の左右には耳房といふ物置納屋にあたるものが付く。便所であつて茅房は決して屋內になく、屋外の東北隅に設けられるのが普通である。入浴を好まないところから浴室の設けは殆どない。窓は主として院子に面してつくられ、紙障子を用ひるのが普通で、壁は石、黑煉瓦、または日乾しの煉瓦や粘土でつくる。室の北または南の壁に沿うて幅五尺餘、高さ二尺位の高い床が設けられる。これが卽ち杭で、晝間は腰掛、夜は寢臺となり、冬期には採暖設備としても缺くべからざるものであり、炊事場からの火氣や煙などは必ずこの杭に通ずる仕掛けとなつてゐる。最後に屋根は切妻型といふ三角形で、兩側の壁が將棋の駒のやうな形になつてゐるのと、蒲鉾形のやうに拋物線を描いてゐるものとあり、前者は瓦葺が本當であるが、田舍では草葺が多く、後者は細木で小屋作にして高粱殼を敷き、その上に鹽を混じた泥を、少し良い家になると石灰を塗つたものである。農家や商店となると、幾分以上とは異なるが大差はない。卽ち居室が少くなつて、農家では豚小屋、鷄小屋、肥料小屋等が、また商店ならば商品の倉庫が設けられてあるだけである。

傳統の冠婚葬祭

産兒があると、その產室には安產の呪禁や、その他紙でつくつた娘々神や金銀紙で模造した金錢を供へる。產兒生後三日目には洗三と稱して、產婆を招いて產湯を使はせる。この日には親戚や朋友の中で最も親しいものが來て、賀意を表するが、產婆は產湯を使はせる前に、添盆を請うて、來客がこれに對して銅錢を湯の中に投げ入れて祝辭を述べる。また紅白の鷄卵や玩具等も入れる。この添盆の式が終ると、產婆は嬰兒の衣を脫がして浴湯せしめ、洗ひ終ると生薑の粉末と、艾を混ぜた灸を嬰兒の臍と首にする。產衣は男子なれば紅衣、女子なれば綠衣で脂粉を施す。產後十二日目に肉の入つた饅頭を產婦に與へる。これは胎盤の骨の開いたのを合せるためだといはれてゐる。

滿洲人は男子が二十歲になり、女子が十五歲になると結婚を許されるのが古い習慣である。結婚の申込は男の家から母親が女の家に赴いて行き、お互の戶籍や家歷を明かにし、贈物をなして婚約が成立する。いよ〳〵嫁を迎へる日となると男の家から年長の婦人が女の家へ行つて新婦の化粧をなし、花嫁は花輿で送り出される。花輿が男の家の門を入つてくれば、新郎は惡氣を拂ふために矢を三度放つ。花嫁は室瓶を抱いて輿を出で、祖先を祭る祭場に禮拜して後、新郎と竝んで杭上に座し、門を閉ぢて式を終れば外に出て年長者に禮拜する。年長者は中庭に出て酒肉の口開きを終り、吉詞を述べ、こゝに禮式が終り、新郎新婦は牀に上つて合歡の誓をなす。

夕刻になつて新郎は新婦に代つて、髮飾りの花をとつてこれを窓の低格にさす。三日を經て里還りをなし、月充ちて後、新婦は再び里還りをして、數日後夫の家に歸つて、これで婚禮の儀は全く終了する。

病人が危篤に陷入ると、杭上の寢臺から下して土間に移し、壽衣といふ經帷子やうのものを着せ、その上から陀羅經と書いた被褥をかける。死ぬと衣裳はなるべく厚くし、頭を黑布で包み、脚を麻繩で縛つて入棺する。棺の上等程誇りとし、死後三日目に讀經と通夜をする。五日目には紙製の車馬、童男女、或は最も普通には紙に錢形を捺したものを適當な地へ持つて行つて燒く。行列の途中では紙錢を撒く。男子は步行女子は乘車して列に入る。

嗜好と嫌惡

嗜好や嫌惡についても、信仰や習俗が異なるため、日本人とは全く別なものがある。例へば、日本では龜を長壽の象徵として好むが、滿漢人の間では、人道を忘れたものであるとして忌み嫌ひ、龜を意味する王八といへば馬鹿野郎といふことになる。動物の中では、龍は仁慈に富むとされ、鳳凰は天下泰平の時に出現するものとして好まれ、麒麟及び鹿は長壽幸福の象とされ、虎と猫は惡魔除け、獅子は勇氣の象とされるなど、その他、鶴、蝙蝠も尊ばれ、これらはすべて彫刻、

裝飾、模様、商標に用ひられる。反對に前述の龜や、その他兎は鷄姦するとし、豚、蝦、蟇、犬、鰐、狐等は好まれない。

植物では蓮花、梅花、蘭花、水仙、百合、海棠、桃花、菊、桂花、牡丹、竹等を好み、特に葫蘆は疫病除けとして尊ばれ、滿洲風物の一として、寒くなると紅いさんざしの實に飴をつけて、串團子のやうに串にさし、それを藁苞にさして賣り歩いてゐるのがある。これは糖葫蘆といつて葫蘆に因んだ食べものである。

文字では福綠壽の觀念から出たもの、または孔孟の教に基づいた道德上の標準的な文字が喜ばれる。例へば協、和、合、悅、泰、隆、財、發、茂、順、寶、福、壽、祿、仁、義、禮、智、信などはその代表的なものである。

色彩では總じて濃厚な原色を好み、從つて極彩色がよろこばれる。就中、紅色はその最も好む色で、彼等はこれに吉祥を見、正月の春聯、祝物の包紙、賀狀、案內狀にはすべてこれを用ひる。紅色に次では黃、綠、藍、青等が特に好まれ、この五色を正色といふ。また金色、銀色も尊ばれる。最も忌まれるものは白色である。

蒙古人の風俗習慣

遊牧の民である蒙古人の風俗習慣には、滿漢人のそれとは非常に異なるものがあつたが、彼等が次第に定住してくるに從つて漸次に滿漢人に同化されて來てゐる。故に主として相違してゐる點のみを述べよう。

食物では主食物としては高粱、粟、黍等の雜穀で、副食物としては羊肉を主とし、豚、鷄、魚肉は食べず、野菜も極く少い。飲料としては磚茶、燒酎、牛乳、羊乳、馬乳酒等である。調味料は主として鹽とバタである。食事は上流のもので二食、中流以下は一食である。食用具としては各人が常に小刀と箸とを携行してゐる。また酒を飲んで狂態を演ずるのが支那人と違ふ點である。

衣服は殆ど滿漢人と同一であるが、非常に寬闊なものを用ひる點が異なり、殊に上衣は赤、紫、黃色等の派手なものを好み、その外被は就寢の際に掛布團の代用となる程に丈が長くなつてをり、常時は帶にてこれを支へておく。この帶の前部には嗅煙草を入れ、右側に食事用の小刀、後部に燧石を下げ、靴は革または布製で、帽子は便帽のごときを冠る、かまたは手拭で鉢卷する。

婦人の服裝も極めて寬闊で、袖が大きく、上衣の裾は足を隱すほど長く、靴はすべて手製である。髮は前部において双方に分け、後頭部は結束して花簪をつける。處女は後頭部を辨髮として垂れる。

家屋は、いはゆる蒙古包といふ特色あるもので、水草を追うて移住するに便なるやうな構造を持つてゐるが、固定式のものもある。蒙古包の高さは一丈三、四尺、內部は佛壇、主人の寢室、酒壺置場、衣類箱、食器棚、水桶置場、土間等が整然と分けられてゐる。

婚禮上の儀式は、宗教上の差以外には滿漢人のそれと順序等は多く異ならないが、大體に早婚で、十六歲以上の男子の無妻なき程で、また主婦は必ず夫より年長であること、離婚は單に實家へ通知するのみで成立する點が異なる。

葬禮には大抵棺はなく、また墳墓もない。屍體は甕にてくるみ、これを野中に葬り、馬を放つてその上を踏ませる。或は單に野原に捨てて犬狼に食ひつくさしめる。そして早く喰はれる程福ありといはれてゐる。

娛樂としては角力、音樂、競馬、騎馬、狩獵、弓等、公獵といつて春、秋、冬の三回各部落總出で大卷狩を催した。

四　教育の實際

建國前の學校教育

滿洲國建國以前の學校教育は、いはゆる民生、民權、民族尊重の三民主義及び排外、抗日思想の普及徹底に力を注いだため、質實敦厚の美風は地を拂ひ、自由平等の民主主義は澎湃として國內に橫溢し、古來支那教化の中軸をなしたる孔孟の教は、弊履のごとく蹂躙せられ、民衆尊崇の對象であつた孔子廟は廢頽のまゝ放置せられ、放縱浮薄の利己主義、功利主義乃至急激の共產主義は、燎原の火の如く民心を蝕みつゝあつたばかりでなく、教育は人格完成の目的でなくて、すべて軍閥の自己的野心を充足し、或は權勢獲得の具に供せられたるため、建國以前、公立小學校約一萬五千と稱するも、省城または縣城所在地、或は軍閥巨頭の出身地を除いては、概ね設備不完全であり、また教師は情實緣故により採用された不適格者で、教育の成績全然見るべきものなきばかりでなく、むしろ、社會に害毒を流しつゝあつたといふも過言でない。

學校は國民教育の見地を度外し、全然地方の財政或は黨略により設置廢合せられたるため、その分布は極めて不公平で、地方においては財政の餘裕あるところ、または利益のあるところにおいてのみ設立せられ、苦だしきに至つては、公立學校として學校長の請負により經營せらしもの多く、建國後、この弊風を打破するに困難を感じたる例は尠くない。これに反し、奉天、吉林等軍閥權力者の在住地及び、省內においては、學校の種類及び數が、比較的多く、滿洲全體の學校數の約七割餘は、舊奉天省が占有し、建國後、康德元年末、十省に改正されたる後も、奉天省は、全國學校數の七割を占める狀態であつた。

設備のごときも、地方においては床板なき土間の校舎多く、省城所在地等には稀に輪奐の美を誇る高樓の聳立するところがある。

新國家の教育方針

新國家の教育は、何よりも先に、舊來の排他的黨義鼓吹の教育を根柢より是正し、建國精神の普及徹底に努めねばならなかつたのであるが、頑冥固陋なる徒輩が建國の理想を正しく理解せず、新國家の政權に服せざるいはゆる思想匪は、掠奪を事とする一般匪賊と共に所在に出沒し、新國家は治安の維持を第一義にしなければならず、當初は、産業、教育方面に力を注ぐ餘力がなかつた。卽ち國費の約百分の三が教育費として支出されたに過ぎず、その二分の一は中學校のためのものであつた。

新國家の理想に適合する教育は將來の研究に讓り、建國以前の學校體系をそのまゝ踏襲し、先づ學校教育より三民主義を根絶し、建國精神を普及徹底せしむることに力を注いだのである。教科目の整理、教科書の改廢、教員素質の向上を圖つて前記の目的を達すべく努力し、建國直後に一般社會に對し、孔子廟の復舊、孔孟尊崇の風を奬勵すると共に、學校に於ける三民主義や黨義の講義を嚴禁し、代ふるに論語、孝經等を教材とする經學の科目を加ふることとなつた。卽ち國語、地理、歷史、數學、英語等教科書はすべて上海で發行せる排日崇歐米の氣分濃厚で建國精神に悖るもの多く、卽時これを撤去すべきであつたが、多數の教科書を急速に編纂し、何百萬冊といふ配給は容易の業ではなかつたので、一面には新國家の理想に適合する教科書の編纂に着手すると共に、從來使用の教科書を審査し、不當の箇所を抹殺してこれを使用させた。教科書は原則として國定主義を採用し、大同二年にその編纂に着手した。中等學校教科書は一部帝國教育會をして編纂せしめ、文教部において審定したるものを使用させた。

教員の素質向上

教員の素質向上に關しては建國精神の認識を深めること、教員としての學術德性の向上を計ることの兩面に向つて力を注ぎ、各種の短期講習會を開催するのほか、國都新京に國立教員講習所を設置し、全國小中學校教員中より優秀なるものを簡拔し、六ヶ月再教育を施し、教員の指導者たらしめてゐる。講習科目は普通學科のほか建國精神、規律的訓練及び日本語に重點を置いてゐる。

また中等教員養成も急なるものがあるので、國費數十萬圓を投じて特に吉林に國立高等師範學校を設置した。修業年限は四ヶ年、入學資格は高級中學校卒業程度とし、修身、教育、經學、公民、歷史、國文、數學、物理、化學、日本語、地理、

英語、圖畫、手工、音樂、體操の分科に分ち教育しつゝある。

小學校教員養成の目的を有する師範學校の學生は、建國前と同じく、學資を補給するに拘はらず、卒業後必ずしも教員とならず、かつ師範學校教員にその人を得ざるため、卒業生は學力低く、小學校教員として適任ならざるものあり、師範教育の改善が叫ばれ、着々その緒に就いてゐる。

建國と同時に日本語の學習熱が勃興し、都會地には至るところに日本語講習所が設立された。當初、小學校に於て日本語を正科として課すべきや否やにつき論議されたが、康德二年より正科として課すべきことに決定し、日本語の教科書を編纂した。しかし地方では日本語の教師を得難く、事實は日本語教授の行はれてゐない所が多い。省立中等學校では日本語の教授、學校經營或は會計事務を擔任させるため、一校一二名の日本人教職員を採用してゐる。

建國當時採用せる日本人教師中には、素質の惡い者もあつたが、康德二年度に奉天、安東、錦州ほか四ヶ所に國費を以て修業年限六ヶ年の省立兩級中學校を新設し、校長を日本人にして教員は日滿半數とし、日本語を以て中等教育を授くることにしたところが、その成績極めて良好で、教授訓育の成績は他の中學校に比し嶄然頭角をあらはした。また奉天、吉林、安東、錦州、熱河、龍江の六省内の縣立小學校各一校及び新京、ハルピン兩特別市立小學校計八校に對し、滿人校長を補佐すべき日本人主事一名及び日本人教師一、二名を配し地方模範小學校としたが、これまた成績良好で、日本人教員の聲價は次第に高まりつゝある。

學制の制定と學校現況

滿州國政府は、康德四年五月二日訪日宣詔記念の佳節をトして新學制を制定公布した。新學制の特徵は、建國精神の明徵、國家觀念の宣揚、日滿一德一心と民族協和精神の體認、東方道德の涵養を根幹とし、國民生活の安定に必要なる實學を基調とするもので、大體、幼少年の國民教育に重點を置き日本語を國語の一として重視することとなつてゐる。

新學制における學校體系は、全段階を通じて修業年限は十三年または十四年とし、滿二十年または二十一年で大學を卒業し得ることとなる。

學校設立主體は、私立を除き、小學校は縣、旗區、村立で、北方は縣立、南方は村立が多く、中學校、師範學校及び實業學校は縣立または省立で、ある。

省立とは國家において經費を支辨し、省においてこれを管理するものである。

高等專門學校は國家の直接經營にかゝる。

康德五年一月現在の學校及び教員數は左の如し。

種別	學校	教師
初等教育		
國民優級學校	一六九七	四六九五
國民學校	六三六四	三二九三九
國民學舍	四〇〇二	四二七七
中等教育		
國民高等學校 農科	五八	五六一
國民高等學校 工科	一五	一五三
國民高等學校 商科	二六	三七三
國民高等學校 水產科	一	一五
女子國民高等學校	三一	四四二
師道學校	一五	二一二
高等教育機關	八	三一〇
其の他の教育機關		
師道訓練所	一二	三三
實業實習養成所	六	七一
國民義塾	一八三七	一九二三
私塾	一九六四	一九八五

教育行政

滿洲國教育行政の總本部は、國務院文教部で、各省には省長の下に教育廳を置き、滿人教育廳長の下に學務科及び禮教科が置いてある。學務科長は原則として日本人が當り、また教育廳に日滿各一人の視學官を置き、管内學事の視察及び監督に當つてゐる。縣人には滿人縣長の輔佐官として日本人參事官一人を置き、學事を掌らしむるため滿人教育局長及び滿人視學を置くを原則とし、黒河省では教育廳を置かず、民政廳が教育行政を掌つてゐる。また小縣には教育局をおかず、初等普通教育の監督にあたるべき滿人局長及び視學は、概して不適任無能のもの多く、地方教育の進展上、支障が少くない。日本人參事官は、各種の事務を掌り教育に專念することが出來ず、小學校教員の人事及び經營はこれを滿人局長または視學に全然委せきりの實情である。縣においては警務及び産業に關しては、それ〳〵日人指導官を採用してゐるので、日人教育指導官または視學を採用し、專ら教育行政に從事させる必要が一般に認められて、康德四年より先づ一部の縣に日人教育指導官を採用し、その成績は極めて良好である。

社會教育

全住民のうち無學文盲のものが九割を占める現狀では、社會教育の成績を擧げること甚だ困難であるが、その必要は甚だ大なるものがある。僻遠の地にあつては滿洲國建設の事實をさへ知らない者があるといふ。

從來、一般社會教育の施設として、建國前より民衆教育館

民衆學校、識字處、問字處、閱報處、圖書館等あつたが、いづれも内容が貧弱で經費極めて少く、これを利用するものきた極めて少數であつた。しかしこれらは自然の要求により發生せるもので、建國後これを踏襲し、毎年國費を投じてその内容の改善につとめてゐる。

一方、文教部では活動寫眞を利用し、全國各地に出張、文盲者の視覺に訴へて映畫教育を施し、建國精神の宣傳及び常識の涵養につとめてゐる。

大同元年、青少年に對し、犧牲奉仕の精神を涵養徹底せしむるため童子團聯盟を組織し、本部を新京に置き、地方に地方聯盟を設け、一定の誓詞規律標語の下に青少年の訓練を行ひつゝあるが、少數の都會地を除いては未だ充分に普及してはゐない。

社會教育上、現在、最も必要なるは、青年教育である。青年層の把握は難事中の難事であるが、青年をして建國の理想を體得させ、王道樂土の聖業に向つて一致精進せしむることに成功せば、建國の偉業は半ばその目的を達したといふを得べく、近來、頓に活躍して來た全國民を以て組織せる協和會の活動に俟つところが大である。奉天及び吉林兩省の數縣には青年訓練所が設けられ、地方青年をあつめて一定の期間、共同宿泊の下に、嚴格なる訓練及び農事に關する知識技能を教授して地方に歸還させ、地方の中心人物たらしめつゝあり、この組織は全國に普及せんとしてゐる。

孔子廟の修理、春秋二回の孔子祭の復活が民衆に與へた社會教育的影響も見逃すことが出來ない。また古代文化の尊重復舊につとめ、康德二年宋、元明時代の刻絲及び刺繍を印刷に附し、内外國に紹介し、翌三年には寫本三千八百餘冊より成る清朝歷代三百年の實錄を印刷して紹介するなど、文化遺産の吸收にもつとめてゐる。

更に奉天軍閥巨頭の邸宅を博物館及び圖書館とし、博物館には東洋史に關する標本及び美術品を陳列し、圖書館には四庫全書と共に重要なる漢滿蒙の圖書十數萬冊を藏してゐる。また東洋の思想、宗教、歷史、文學等の文化の由來を研究調査して精神文化の健全なる發達に資するため文化研究院が設立され、滿洲國精神文化研究の源泉地として自然科學研究の源泉地たる大陸科學院と相對するものとなつた。熱河省承德には、清朝乾隆時代の離宮及び喇嘛廟あり、當時の絢爛たる藝術も永年雨露にさらされ壞滅に瀕しつゝあるので、これを保存するため、熱河古蹟重修工務所を設け、差當り平面立體の兩圖を作製した。

五　宗教と文化の發展

宗教の種々相と佛教

滿洲に行はれてゐる宗教としては佛教、儒教、道教、回教、喇嘛教、薩滿教をその主なるものとし、これらは住民の文化的發展に多大の貢獻をなしてきてゐることは確かであり、殊に前五者は何百年間かに亘つて彼等の精神生活を指導して來たものである。

大體、種族別に宗教を見ると、滿洲人は薩滿教を、漢人は道教、佛教或はキリスト教を、蒙古人は喇嘛教、回々教系の漢人は回教を信仰してゐる。しかし一般民衆は内心いづれの宗教の教義に眞に隨喜して、これを固執するといふやうなことはない。從つてまた、どの宗教を嫌惡するといふこともない。要するに自分の實際生活に都合のよい神々を利用してゐるわけで、その神々に求めるところは非常に現實的な要求で例へば利殖、豊饒、繁榮、求子、安産、疾病、惡疫その他の災厄乃至天災から逃れ得ること等で、神に對する態度も全く迷信的である。しかしながら祖先を崇拜して、よくこれを祭ることはいづれの宗教も超越して、あらゆる階級の人間が行つてゐるところである。

佛教の滿洲傳來は古く、高句麗時代であるとされてゐるが現在では、昔ほど盛んでない。眞言、淨土、臨濟、曹洞、聖宗、昆盧及び天台の各宗が行はれてゐるが、いづれもたゞ寺院を有し僧院を有するので、宗派的區別もそれほど判然としてゐるわけではない。元來、僧侶には身體の虚弱のものか懶惰の者が多い。寺院は、通常、寺、庵または廟の稱號で呼ばれ、刹るところの都邑に存在するが、最も著名なものは金州の天齊廟即ち極樂寺と哈爾賓の極樂寺である。

道教と儒教

道教は、本來、老子の哲學的人生觀から出たもので、その末流に至つては佛教に倣つて種々の偶像を祀り、全く迷信化してをり、福利、子孫繁榮、長壽などの民衆の現實的要求を叶ひうるものとして民間信仰の中心をなしてゐる。

道教にも祖師の異なるによつて各種の宗派があり、滿洲で最も勢力のあるものは龍門派と稱せられるもので、盛んに偶像を設け、福祿壽を說き、冠婚葬祭を行つてゐる。なほ道教の入滿年代は正確に知り得ないが、大體、山東人の移住と共に傳へられたものといはれる。

道教での代表神ともいふべきは娘々でこれが最も大衆の受けがよく、その廟祠は到るところにあるが、就中、著名なのは大石橋郊外にある迷鎭山の娘々廟で、陰曆四月十八日のこ

の廟会の期間には、その前後五日間を通じて參詣者十萬の多きに達し、臨時聚落が出現するほどの賑ひである。娘々の神位は三體の女神で、中央が福壽、左右に治眼と授兒との側像があり、これに祈れば、子孫が授かり、金が出來、出世の道が開かれ、病氣が平癒し、長壽が保たれるといふ。

關帝廟もまた娘々廟と同樣に人氣のある神で、同じく道教の代表神である。主神は蜀の大將關羽で、元來は武の神、護國の神であつたが、いつの間にか財神ともされて非常な人氣を持つに至つた。

儒教はいふまでもなく、孔子の教を基礎としたものであるが、その教たる論語精神などは全くその影を沒し、殊に道教と混交されて純粹の儒教などは見られないが、それでも各省城、各縣城には必ず孔子の廟があり、祭典が行はれ來つてをり、殊に有識階級のものは表面上儒教を信奉し、その古典及び教義に通じてゐることを誇りとしてゐる。

滿洲國は民衆の指導方針を孔子にとり、その祭典も國家的に行ふことに規定したので、將來は純粹の儒教が發展するであらう。

薩滿教と回教

薩滿教は佛教の一分派であるが、滿洲、蒙古特有のものともいへるので、在來の滿人や蒙古人の一部がこれを信仰してゐる。一種の自然崇拜で、神と人とは別で、巫がその仲介をなすべきものであると信じられてゐる。清朝の儀式は皆これによつてなされたのであるから、現在でもその潜勢力は相當にあり、喇嘛教などにもこの分子が相當混淸されてゐる。この宗教の特徴は加治祈禱をなすことで巫が神鼓、神鈴、神鏡、神刀などを以て神を乘りうつらせるので、わが國の神おろしと一致してゐるのは奇である。

回教の教祖はマホメツトで、唐の時代にアラビヤ地方から支那の西域に傳はつたものである。この本堂は淸眞寺といはれ、必ず東に面して建立され、その奥の院には、教徒が崇敬する新月を拜する望月樓または明白樓といふ高樓がある。本堂の側には洗淨室があり、本堂へ上る者は必ずこの室において顏面手足全身を淨めなければならない。極端なる偶像を排斥するところから本堂は無裝飾で、たゞ壁龕といふ衝立樣のものがあるだけである。

回教の僧侶は阿渾といひ、アラビヤ文字のコーラン教を教典とする。回教徒はアラビヤ曆を奉じ、一年を三百六十日とし、その正月は陰曆の九月で、陰曆の八月は御月見封齋の苦行といふものをやる。即ちこの一ケ月は、午前二時と午後八時との二回に飮食し、日中の飮食と房事を禁ずる。回教は極端に排他的の信仰力を有し、他教徒とは親密な交際をなさず、從つてまた他教徒とは結婚せず、他教徒の手になつた飮

食物及び豚を食べない。更にまた賭博、飲酒は勿論、唱歌を唱ふこと及び喫煙も教義に違ふとされてゐる。

信徒間の團結力は強く、吉凶を共にし銀難には相扶け、各地でよく連絡を保つてゐる。現在滿洲では吉林、新京、伯都納、寧古塔、三姓、琿春、齊々哈爾、奉天などに最も盛んで教徒の數は二百萬と稱してゐる。

蒙古人と喇嘛教

喇嘛教は蒙古人の宗教である。彼等は生命を打込んでこれを信奉してゐる。曾て清朝は蒙古懐柔のために、その種に強烈な信仰を利用する政策をとるやうになつてから、滿洲に喇嘛教が流布されるに至つたのである。喇嘛教はその流れを佛教からとつたものであるから、西藏に入つた佛教に、西藏特有の邪神教が混淆されて出來たものである。

喇嘛とは梵語のウツタラ、即ち無上即優者を意味し、從つて一般僧侶の代名詞である。その教義も、佛教と殆ど變ることなく、須彌山説を立てて成住壞空の四時、六道輪廻及び十二因緣を説き、涅槃に歸入するを目的とするものである。この須彌山説は、佛教説法の方便であつて、極めて荒唐無稽なものであるが、これに對する地獄説と共に、未開な信者達の間に厚く信じられてゐるものであるが、地獄について面白いのは、炎熱燒くが如き印度地方の信仰においては、焦熱地獄が最悪地獄であるのに反して、酷寒の蒙藏地方では極寒地獄が最悪地獄とされてゐる。

喇嘛の寺院は廟といひ、寺院内にある喇嘛は朝夕各一回佛前において讀經し、晝は信徒の招請に應じて往いて讀經する。喇嘛の戒行は妻帶せざること、飲酒をせざること、喫煙せざることであるが、下級の喇嘛には破戒するもの多く、しかも蒙古の婦女子は、喇嘛と通ずれば良夫を得るとの迷信より殊更に喇喇と通じ、從つて喇嘛はこれを罪悪視してゐないといふ奇習がある。

喇嘛教は、佛教と同樣盛んに偶像を崇拜するが、殊に俗にいふ陰陽佛を功驗あらたかなものとし、その他釋迦、阿彌陀、金剛菩薩、寶生佛、文珠、觀音、彌勒、大黒神等がある。

この教には紅教と黄教の二種があり、紅教とは紅衣紅帽を被つてその行事が非常に奇猥のものが多く、これを淨化したのが黄教で、黄衣黄帽を被る。現在では後者の方が盛んで、滿洲に行はれてゐるのも殆ど黄教であり、奉天小西邊門外にある黄寺は滿洲の總本山である。

六　交通産業文化

文化と産業の先驅

今や滿洲國は、漸次にその秩序と治安を確立しつゝ、先進文明國に伍せんと不斷の努力をつゞけてゐる。眞に平和境の建設は、豊富な資源の開發と、文化の進展に俟たねばならない。而して交通は文化と産業の先驅であり、産業は國家繁榮の基礎であるが故に、交通と産業の發達なくしては、國運の隆昌も文化の發展も絶對に所期し得ないのである。

滿洲國は、その地勢上から見ると、海岸線に乏しく、河川による國内交通も、遼河、松花江を除いては見るべきものなく、遠くは關外夷狄の地、近くは清朝發祥の封禁地として、中國文化の恩惠に浴することが殆どなかつた。これがため、豊富なる天然資源と肥沃なる耕土とを有するに拘らず、約半世紀以前までは、近代社會から全く取り殘された未開未耕の邊境に過ぎなかつたのである。

近時、農産物、就中、大豆の世界的産地として、また各種の有用鑛物、殊に近代工業の原動力たる鐵及び石炭の供給地として、わが國の經濟生活に密接な關係を持つに至つた滿洲も、若しそこに鐵道を中心とする交通の發達がなかつたならば、恐らくは今日もなほ未開未墾の半殖民地として取殘されたであらう。滿洲をして今日の國際的存在たらしめたものは、一に鐵道を基底とする交通經濟發達の賜物である。

現代の交通運輸機關を大別すれば、鐵道、河運、空運、道路の四部門に分けられるであらう。滿洲國における交通機關の白眉は鐵道であり、殊に滿洲帝國建設以來の鐵道の發達の顯著なことは、世界にその例を見さるほどであり、また自動車運輸も旺盛となり、水運事業も着々完備し、更に近代交通機關の尖端を行く空運すら相當の發達を示しつゝある。

交通の現況

滿洲建國當時の鐵道路線は、鐵道六千二百餘キロ、輕鐵二百三十キロ、即ち面積百平方キロ當り延長は僅か〇・五キロで、日本内地の四粁には勿論、世界平均の一キロにも及ばざる狀態であつたが、産業開發は鐵道網完成に待つこと多きを認めた滿洲國は、鐵道建設は經濟開發を主眼とし、併せて國防の安固及び治安維持を目安となし、將來鐵道の總延長は二萬五千キロを目途とし、最初十年間に新線四千キロを敷設する計畫を樹て、主要鐵道は國有とするの方針の下に、これが具體化に着手すると共に、分立多岐なる諸鐵道を統一し、合理的經營をなし、その經濟的竝に技術的能率をあぐるため、大同二年三月以來諸鐵道の經營竝に新設鐵道の工事請負を南滿洲鐵道に委任したので、滿鐵側では鐵道總局を新設して滿洲國鐵道の經營を處理してゐる。康德五年末現在に於ける鐵道總局所管鐵道は、合計五十七線、九千八百四十六キロ餘である。

滿洲航空輸送會社は、大同元年に營業を開始し、康德五年

末現在で九千九百十キロを運航し、航空回數も週一回のものより、新京奉天線の週十三回まである。滿洲交通部では、康德六年度より全滿航空保安施設の大々的整備擴充をなしつゝあり、その施設はコースビーコン、着陸ビーコン、方向探知機、通信施設等で、これらの諸施設が完備すれば、濃霧、暗夜と雖も安全確實に飛行機を目的地に透導着陸させることが出來るのである。

滿洲國政府は、國防經濟の實情に鑑み建國以來、鐵道建設と共に道路の整備、自動車交通の助成に努めつゝあるが、國道建設は特に著るしく、この道路の整備は、自動車運輸業を刺戟し、急激な發達を示してゐる。

河運の便ある河川としては、北滿において北端滿蘇國境を流れる黑龍江、東部國境をなして黑龍江に注ぐ烏蘇里江に及び北滿の平野を灌流する松花江の三江を擧げることが出來、南滿に於ては渤海に注ぐ遼河と滿鮮國境を流れる鴨綠江とがある。いづれも船舟の便があり、鐵道開通以前までは陸路の馬車輸送と相俟つて滿洲運輸系統の双翼を形成してゐた。現在これら河川の航運營業はすべて滿鐵に委託されてゐる。

なほ滿洲の海港としては安東港、營口港、壺蘆島、大連港、旅順港があり、康德六年以來、東部滿洲の重工業地帶を形成する大東港の建設工事が進められてゐる。

日滿統制經濟の意義

滿洲國は、經濟政策の基調を統制經濟に置いてゐる。それは、滿洲國の成立が自由主義經濟の世界史的な頽廢期に直面してゐて、世界のどの國でも獨占的な統制經濟が支配的な經濟政策となつてゐたことにもより、また日本經濟と不可分の關係、卽ち日滿經濟の一元化を實現する方向に、滿洲國經濟を指導すべき必然性があるからでもある。從つて滿洲國の經濟建設綱要にも、その意味がはつきり盛られてゐる。卽ち

一、國民全體の利益を基調として資源を開拓し、實業を振興し、その利益を萬民に均霑せしめる。

二、國內賦存のあらゆる資源を有效に開發し、經濟各部門の綜合的發達を圖るために重要經濟部門には國家的統制を加へ合理化方策を講ずる。

三、資源の開拓、實業の奬勵にあたつては、門戶解放、機會均等の精神に則り廣く世界に資本を求め、先進諸國の技術經驗その他あらゆる文明の粹をあつめてこれを適切有效に利用する。

四、東亞經濟の融合合理化を目途とし先づ善隣日本國との相互依存の經濟關係に鑑み、同國との協調に重心を置き相互扶助の關係をます〳〵密接ならしめる。

以上の綱要の表現する精神は、日滿經濟ブロックの完成と

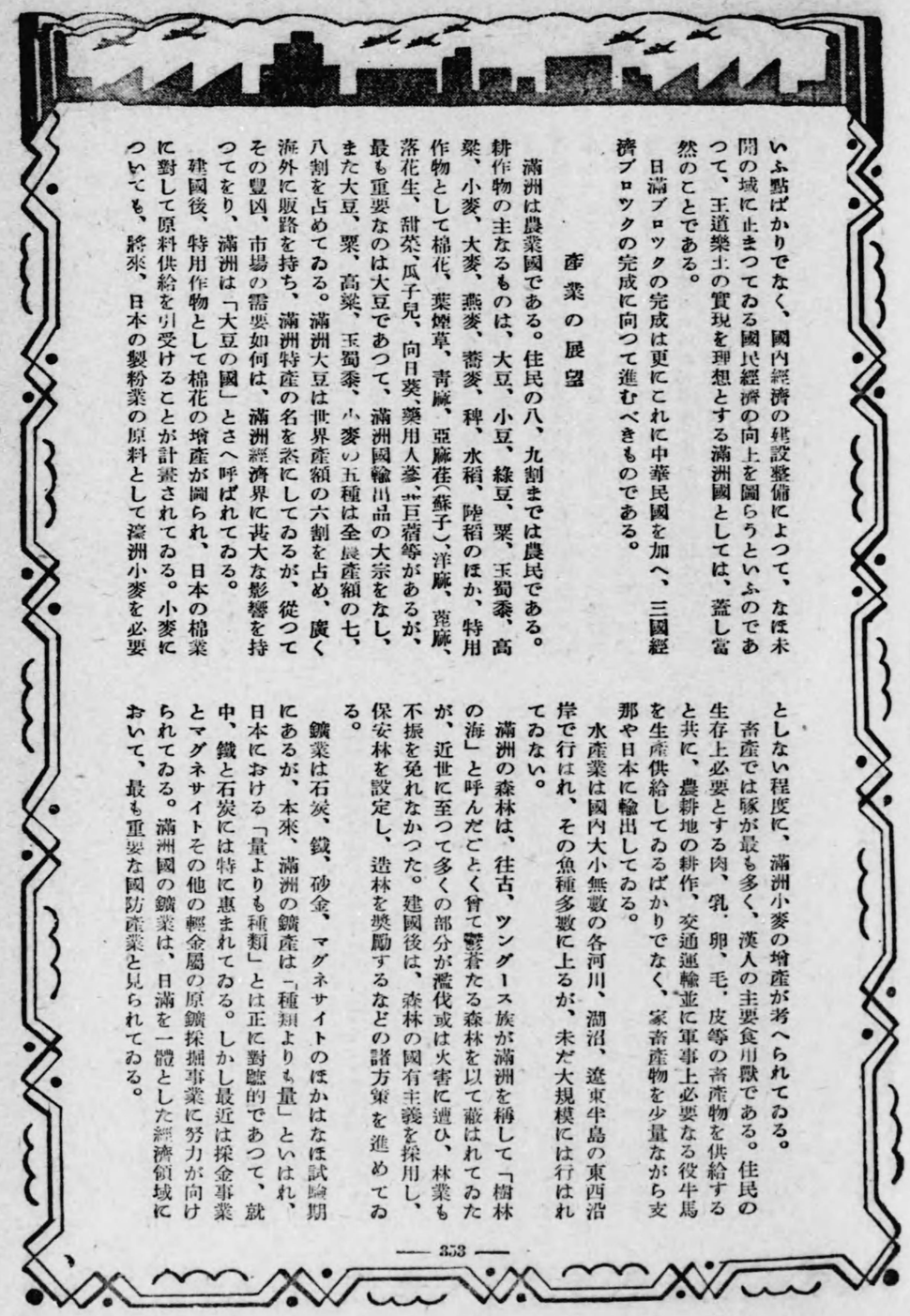
いふ點ばかりでなく、國內經濟の建設整備によつて、なほ未開の域に止まつてゐる國民經濟の向上を圖らうといふのであつて、王道樂土の實現を理想とする滿洲國としては、蓋し當然のことである。

日滿ブロックの完成は更にこれに中華民國を加へ、三國經濟ブロックの完成に向つて進むべきものである。

產業の展望

滿洲は農業國である。住民の八、九割までは農民である。耕作物の主なるものは、大豆、小豆、綠豆、粟、玉蜀黍、高粱、小麥、大麥、燕麥、蕎麥、稗、水稻、陸稻のほか、特用作物として棉花、葉煙草、青麻、亞麻荏(蘇子)、洋麻、蓖麻、落花生、甜菜、瓜子兒、向日葵、藥用人參、巨蒴等があるが、最も重要なのは大豆であつて、滿洲國輸出品の大宗をなし、また大豆、粟、高粱、玉蜀黍、小麥の五種は全農產額の六割を占め、廣く海外に販路を持ち、滿洲特產の名を恣にしてゐるが、從つてその豐凶、市場の需要如何は、滿洲經濟界に甚大な影響を持つてをり、滿洲は「大豆の國」とさへ呼ばれてゐる。

建國後、特用作物として棉花の增產が圖られ、日本の棉業に對して原料供給を引受けることが計畫されてゐる。小麥についても、將來、日本の製粉業の原料として滿洲小麥を必要



とせない程度に、滿洲小麥の增產が考へられてゐる。

畜產では豚が最も多く、漢人の主要食用獸である。住民の生存上必要とする肉、乳、卵、毛、皮等の畜產物を供給すると共に、農耕地の耕作、交通運輸並に軍事上必要なる役牛馬を生產供給してゐるばかりでなく、家畜產物を少量ながら支那や日本に輸出してゐる。

水產業は國內大小無數の各河川、湖沼、遼東半島の東西沿岸で行はれ、その魚種多數に上るが、未だ大規模には行はれてゐない。

滿洲の森林は、往古、ツングース族が滿洲を稱して「樹林の海」と呼んだごとく曾て鬱蒼たる森林を以て蔽はれてゐたが、近世に至つて多くの部分が濫伐或は火害に遭ひ、林業も不振を免れなかつた。建國後は、森林の國有主義を採用し、保安林を設定し、造林を奬勵するなどの諸方策を進めてゐる。

鑛業は石炭、鐵、砂金、マグネサイトのほかはなほ試驗期にあるが、本來、滿洲の鑛產は「種類よりも量」といはれ、日本における「量よりも種類」とは正に對蹠的であつて、就中、鐵と石炭には特に惠まれてゐる。しかし最近は採金事業とマグネサイトその他の輕金屬の原鑛採掘事業に努力が向けられてゐる。滿洲國の鑛業は、日滿を一體とした經濟領域において、最も重要な國防產業と見られてゐる。

工業は、以前は哈爾賓にやゝ發達し、製鐵工業、大豆工業、製粉工業に見るべきものがあつたに過ぎなかつたが、今日では以上の工業は勿論、各種の冶金工業、化學工業、窯業、紡績工業その他の近代工業の發展に一段の進境を示してゐる。

産業五ヶ年計畫

有事の際必要なる資源の現地開發、國内の自給自足等日本に不足の資源の供給竝に將來における滿洲國産業開發根基の確立を目指し、滿洲國及び關東軍、滿鐵三者を總動員して立案された産業開發五ヶ年計畫は、康德四年より實施したが、その後、支那事變により擴充修正されることとなつた。

その第一年度において、日本の對滿投資の激増並に支那事變に伴ふ日本の軍需資材の急激なる需要增加により、一部生産材の供給不足といふ惡條件に禍されながらも、全般的には大體、豫定計畫通りの好成績を收めた。第二年度においても頗る良好な成績を示し、殊に鋼材、オイルシエール、製鐵、水力電氣、石炭液化、アルミ工業、高粱、玉蜀黍、粟、稗、羊毛(在來種)、改良牛、國有鐵道、國防治安産業道路の建設改良等は計畫目標以上に達し顯著なる飛躍を示した。

而して第三年度たる康德六年には、更に日本側との圓滑なる折衝の下に、左の實施方策により、增産目標の達成に邁進した。

一、輸出貿易增進による爲替資金の獲得を圖ると共に、日滿爲替扶助の實現を要望する。
二、滿獨、滿伊爲替協定の强化
三、日本の對滿援助については對日輸出の增加に伴ひ、資材、資金の供給增加を要請、殊に國境建設の遂行に對しては日滿共同防衛の立場から日本側の積極的協力を期待する。
四、技術と勞働力の獲得については、現地調辨を强化すると共に、日本の對滿援助の增加を希望する。
五、配給機構を强化整備し、低物價政策の徹底を圖る。

開拓事業

滿洲國政府は、日滿協力による滿洲開拓事業の圓滑有效なる遂行を期するため、日本側の拓務省拓務局に相當するものとして、滿洲國機關たる産業部外局に開拓總局を設けたが、地方開拓事業機關の充實については、康德六年より實施せる北滿農畜林産五箇年計畫と同時に、左のごとき地方行政機構の改革を斷行した。

一、吉林、龍江、濱江、三江、北安の五省の實業廳を廢し開拓廳を設置する。
一、牡丹江省、東安省の實業廳及び民政廳に代へて開拓廳を置く。

一、通化省には實業、開拓、土木の各廳を置かず。
一、龍江、熱河、錦州、間島、三江、牡丹江、東安、北安の八省には土木廳を置かず。
一、興安東南西三省の官房に代へ總務廳を置く。
一、興安北省には民政廳に代へ開拓廳を置く。

滿洲建國以來、日滿ブロック經濟の緊密化、滿洲經濟の堅實なる發展、わが國の農村過剩人口對策として日滿協力のもとに行はれ來つた集團移民計畫は、多大の困難を克服して、着々成果を收めてゐる。

各地にある青少年義勇隊訓練所の成果も頓にあがりつゝありまた自由移民もそ〇數相當に多い。

全滿の未利用地を開拓する方針を具體化し、開拓政策の圓滑なる遂行を期するために、滿洲國政府では、康德六年特殊法人たる滿洲土地開發株式會社を設立した。

その資本金は二千萬圓である。

會社は第一次計畫として、向ふ二十年間に約七五〇萬町歩の開發工事を完成すべく進みつゝあり、このうち、約一割は水田、他は畑とする豫定で、地域は主として北滿國境地帶で差しあたつて荒地、未耕地、アルカリ地帶、牧羊地、濕地等を開墾開拓し、農地の增成に主力を注いでゐる。

第三章　中華民國文化篇

一　支那文化の發生

民族と文化

支那は廣い。地大物博の國である。從つてこれを地形的にわけると、不生産的な西部高地及び北部沙漠地帶と、生産的な大平原の東部低地とに區分されるが、更にこの東部低地は北支那、中支那、南支那の三平野より成り、北支那は黄河及び淮河の流域を占めて支那古文化の源泉地であり、中支那は揚子江流域を中心とする部分で支那人口の約半分位が住み、産物も多く近代文化の中心地で支那の心臓ともいふべく、南支那は珠江流域を中心とし、氣候炎熱で米作や養蠶が盛んでヨーロツパ文化の浸潤してゐる地方である。

かゝる環境の相違は、住民の上にも各地各樣の風土性を示し、南部と北部とでは家屋の構造、食料品、言語、性質、體格、才能、趣味などに至るまで相違してゐる。

支那における人種は、支那屬として漢族、西藏族、黄族あり、シベリヤ屬として滿洲族、蒙古族、トルコ族がゐる。このうち漢族は支那全人口の九割を占め、紀元前三千年頃から

黄河沿岸に移住し、漸次全土を占有した民族で、高い文化を持ち、繁殖力の強いのが特質である。古代の氐、羌、唐代の吐蕃、宋代の西夏等は西藏族に屬し、文化は低い。苗族は、漢民族に追はれて西南支那の山中に逃げ現在、雲南及び貴州の北部に住み、これも文化の程度は低い。滿洲族は、古の金即ち女眞と同族で、三百年前清朝を起し、支那本土に入り漢民族と同化した。蒙古族は、現在、內外蒙古をはじめ、新疆、青海にも住んでゐる。トルコ族は、東洋史上の匈奴、羯、柔然、突厥、回紇、詰骨等で、現在、甘肅、陝西地方に主として住み、性剽悍で、漢民族との抗爭を繰り返してゐる。

支那の歷史は、漢民族と周圍の異民族との爭覇抗爭の歷史であり、兩者の交涉は複雜多岐であつた。その結果、一時、塞外民族が武力に於て優勢を示しても、支那の地に君臨すると共に、いつしか漢文化に同化されて衰微して行つたのである。

史前時代の東洋文化

アジヤに於ける舊石器時代の遺跡は久しく發見されなかつたが、十九世紀末以來、陝西省の北部、北京附近、蒙古、シベリヤ等において舊石器時代の遺物が續々發見された。中でも、北京の西南四十哩ばかりの周公店において古代人類の遺骨が發見されたが、それは世界最古の人類と同時代のものと認定された。それが直に漢民族の祖先であるとはいはれないが、東亞における人類文化發展の始源の甚だ悠遠なることを示すに足る。

新石器時代の遺物は、北支那、內外蒙古に分布してゐるが、たゞ南支那一帶では、その遺跡は極めて寥々たる有樣である。

新石器時代からその末期には、多くの彩色土器の使用された形跡あり、これは新石器時代からの金屬期時代への過渡期に於て、支那が西方から强烈な文化を接受したことを證するものである。

人智の蒙昧なる古代人が、日月星晨の運行や地上萬象の變化に驚異したことはそこに自ら自然崇拜とか、神靈崇拜等の信仰形式を發展させ、天地、山川、日月とか、洪水等に關する神話が多數創造された。この中、天地開闢に關する神話が三皇說となつたのであり、その由來するところは相當古いが、大體、戰國時代以後に於ていはゆる三皇說とか五帝說に纏められたのである。

三皇說には二種あつて、一は天皇、地皇、人皇（秦皇）とする說、他は伏羲、神農、燧人とする說で、後者は牧畜とか農業とか、炊事とかの人類生活の進步の順序と關聯して考へられ、前者は更に天地の始めを想像して作られたものである。また五帝說に於ても、種々の說が行はれてゐるが、大體

黄帝、顓頊、帝嚳、帝堯、帝舜とするのが普通で、五行思想の發達と關聯して成立したもので、中でも黄帝は支那民族の傳統的開闢祖神である。

歷史時代初期の社會組織

人類の歷史は、人と共に始まるわけであるが、古代の遺物だけでは紀年的な正確な歷史は摑めない。眞の歷史は文字が出來てから始まつたといひ得る。されば支那に於ける歷史は殷、周時代から始まつた。

この時代の特色は、夷狄の中國文化への同化融合が盛んに行はれて、中國文●の光被する範圍が擴大したことで、南は楚、吳、越の長江から錢塘江流域、東は齊によつて海に達し、北は燕、趙の勢力が山西、河北より南滿洲にまで及び、西は秦が陝西から漢中を固めるに至り、中國の文化圈は驚くべき飛躍を遂げたのである。

當時の社會は、王の外に諸侯、大夫、士、庶民、奴隷などより成り、支配階級としての大人、君子と、被支配階級たる小人、庶民とに大別される。孟子によると、

君子は心を勞する代りに人に養はれ
小人は力を勞して人を養ふ

と記されてゐるが、士大夫と庶民との區別は相當嚴重に規定せられ、その制度は長く支那社會の規範となつた。

而してかゝる社會組織の規範となるものは禮と刑との觀念である。凡そ禮は天地に順應して行動するところに生ずるもので、これを廣くいへば政令を立てて民を養ふことであり、庠序作進退のことは儀といふのであるが、狹義にいへば禮即ち儀である。人は德を材とによつて差等を生ずる。これによつて賢者、能者、即ち支配階級たるべき士大夫は國家よりの待遇を受け、これに反し庶民は國家よりの特別の待遇がない。從つて禮は强制されないが、自ら上のなすところに準ずるのである。そしてこの庶民の行爲の規律を刑といふ。禮は庶民に下さず刑は大夫に上さず、といひ、社會組織はこの禮刑を基礎に立つてゐた。

社會の變貌

然るに周の統制力がゆるみ、自由競爭が激しくなると共に社會秩序の維持が困難となり、一方、庶民階級へも知識が擴大され、その質が向上されてきたので、人材登庸を新しき方面たる庶民階級へも及ぼし、或は呂不韋の如き一商人より、或は百里奚の如き奴隷より、一躍、宰相に重用せらるゝ者が出ると共に、他の一方では國を失つた諸侯や大夫等のなかに奴隷にまで成り下つたものも出て來た。これらは一般經濟の發展、商人の擡頭等といふ新現象と共に、今まで貴族に占有せられた支配階級の特殊地位が永久に保たれず、封建政治〉

崩壊を示してをると共に、身分の差別をゆるめた。

かゝる一般的形勢に伴つて起つた新現象は、刺客とか遊俠とかの類である。齊の桓公を劫して魯の侵地を返さしめた曹洙とか、晉の智伯のために仇を報ぜんとした豫讓、または燕の太子丹のために始皇をねらつた、荊軻などは最も有名であり、彼等はいづれも、士は己れを知る者のために死すといふ義俠心によつて行動したのであるが、これと共に、一方ではまた遊俠の徒として知られるものが出てきた。即ち趙の平原君、魏の信陵君、楚の春申君、齊の孟嘗君等はその先驅をなしたものがあるが、彼等はいづれも諸侯の一族であり、その政治的地位を利用してそれ〴〵門下に食客數千人を養つてをたのである。これは實力を要求する當時の社會の一表現であつて、一方では封建的の境域及び身分關係がゆるむと共に、自己の欲するところに仕へて身を立てんとするものと、有爲の材をあつめて自己の野望を遂げんとする有力者との、相互的要求が、かゝる一形態を生ぜしめたものである。

私有權の發達

周の初期以來、農事は相當盛んに行はれ、そしてその土地耕作法としての井田制が傳へられてをるが、かゝる周初の土地所有形態は時と共に變化するに至つた。それは經濟的には人口增加による土地の不足であり、次には鐵製農具または耕牛の使用といふやうな生産技術が、春秋以後、頗る進歩すると共に、一般經濟も發達し、商人の勢力が增大して、土地の私有兼併が行はれ、政治的には、漸次諸侯が獨立の國家となり、しかも諸侯同志の對立がはげしくなると共に、領主は自己の收入の增加を必要とし、稅率を增加し、農民の生活はます〳〵不安となり、そこで與へられた田地以外に、私かに耕地を開拓する者も生じ、こゝに於て私有制度が發達し、兼併の弊が起つてきた。かゝる傾向は、春秋のはじめよりすでに窺はれ、戰國になると魏の李悝は地力を盡くすの說を說いて個人の生産を奬勵すると共に、國內の收入の增加を圖り、また秦の商鞅は阡陌を開くの說を述べて農民の耕地開拓をすゝめ、廣大なる田地を私有する地主の社會的地位を重くして、それ〴〵自國を富强ならしむると共に、私有制を奬勵してをるが、これらはいづれも封建制度の瓦解を早めた大切な動機である。

商業及び都市の發達

支那における貨幣の最古の形式は、貝貨と稱せられ、殷墟より出土してをるが、これが進歩して骨製の貝貨となり、更に銅製の蟻鼻錢がつくられた。

農業が盛んに行はれ、文化の開發するに從ひ、かゝる天然物以外の生活必需品が交換の媒介物として存在するやうにな

る。玆に於て、農具または輕便なる利器が貨幣として用ひられ、前者からは布錢が、後者からは刀錢が發達したが、刀錢には齊の齊刀錢や趙の明刀錢が知られてをる。かゝる金屬貨幣が盛んに出來てきたのは春秋末以後である。

一方、この春秋末から戰國時代へかけては商業が大いに發達した。これは諸侯が强大となり奢侈に赴いたことや、諸侯の居城が人口增加して都市として發達したこと、更にまた諸侯相互の交際が盛んになり、いはゆる說客の遊說時代が出現し、從來、土地分授の制を支持し自給自足を主義として人民の私有地や自由產業を禁止してゐた民族的封建的經濟がその生命を失ひ、支那は一天下即一社會たるべき運命を開いたことなどを數へねばならぬ。

この結果、庶民の間から富豪が輩出せずにはゐられた。中にも、自己の財を出して國難を救つた鄭の商人弦高とか、三たび千金を蓄へた陶朱公とか、仲買人から諸侯の師となつた段干木等があるが、これはまた孔門の子貢が貨殖して孔子に叱責された話と共に、何れも商人の地位の向上を示してゐる。

當時の商業は、市といふ限られた商業區域に於て行はれた。この市には定期のものと常設のものとの二種あり、これら商業は主として黃河中流より山東へかけて榮え、かゝる交通及び經濟の發達は、各地に大都會をつくらしめた。即ち秦の咸陽（西安）、齊の臨淄（山東省）、趙の邯鄲（河北省）、魏の大梁（開封）、楚の郢（安徽省）などは殊に有名で、政治、產業、文化など一切の中心地として榮えた。

先秦時代の思想

春秋、戰國時代のごとき紛亂の世に於ては、社會苦を救はんとする種々の政治思想が、政界における自由任用の傾向と相俟つて生じてきた。これ即ち孔子をはじめとする諸子百家の學說である。

周初以來、各都市には學校が設けられて貴族子弟の教育に從事し、知識の開發に努めたのであるが、春秋末になるとかかる學校を破壞せよといふ論が、當時文化の一中心地であつた鄭の國に起つた。この時代の賢人達の中には、天道は遠く人道は邇しといふやうな天に對する古い信仰を捨てた者もあり、また民の利益は正義なりといふやうな考も出てきた。

かゝる時代に生れ、暗黑政治に苦しむ人民を見た孔子の思想が、先づ亂世の秩序を恢復することを念じたのは當然である。孔子の理想は、周公の政治を復興するにあつたから、その政治論において封建制度の維持を目標としてゐることもまた當然である。しかし、孔子の理想は、權力だけを爭ふ當時の社會には容れられず、終に失敗に歸した。こゝにおいて彼が弟子と共に道を語つたものが論語に載せられてゐるところである。

孟子は孔子の歿後百餘年、戰國の初期に出た。その說は孔子よりも一層政治的な點が多く、仁義を强調し、民に恒産を與へることや名分をやかましく論じ、特に自我の解釋を深めて獨特の哲學をつくりあげた。

荀子は、孟子より四、五十年遲れて出た。彼は孟子とは反對に、人間の性情を利己的方面から考へて性惡說を唱へた。しかし善を成し得る可能性はあるとし、欲望を適當に制限するために制度法律を設けて導くの必要を說いた。

周末ら亂世に出て、儒家と對抗し、正反對の說を述べたのは道家であり、その說は老子とされる。老子哲學の根本は、道の一字につきる。虛心にして私欲を去ることが、大道の自然に歸する所以であると說いた。

この老子の教を祖述したものは楊朱と莊子である。

墨子は、周から秦へかけては、孔老の二學派に對時するほどの勢力があつた。彼は、夏の禹王の精神を目標とし、兼愛卽ち無差別的愛を說いた。彼は理想家といふよりも宗教家に近く、非戰論を主張し、禮樂を排し、一切の奢侈を社會惡の生ずる根本と考へ、自ら苦しむを以て尊しとした。

次に注意すべきは五行家の思想であり、思想そのものは空漠たる點が多いが、その後世に及ぼした影響は實に大きい。五行說は、歷史の推移に應用されては王朝の興廢を說明し、更に人事の吉凶を占ふやうになり、支那の通俗信仰の上に偉大なる勢力を振つてきた。

最後に出現したのは、法家思想であるが、彼等の說によると、亂世を救ふのは强き力あるのみ、人事は時と共に變化すると說いた。管仲、李悝、商鞅、李斯等は代表的法家的政治家である。

美術及び外來文化

社會生活の發達と共に、當時、すでに自ら優秀な藝術が創造された。

殷にはじまつた青銅器文化は、周に至つて發達の極に達したことは、今日、わが國に遺存してゐる古器物についてみても明らかで、その形狀や紋樣の發達など見る立派なもので、周代文化の榮えた樣子を窺ふことができるが、これらの銅器は、周の王室の同姓諸侯と聯絡を圖るために分配したものが多い。

最近、北支那から戰國時代の作品と考へられる銅器、玉器等の優秀なる遺品が出たが、銅器はかなり薄手で輕快味を帶び、模樣は平面化して周初の品よりも遙かに退步せることを示してゐるが、玉器とか金銀加工の美しさは、人目を驚かすものがある。これら戰國式作品の特色は銅器の使用が一般化し、需要の增加したことであり、型の使用とか、模樣の繰返し等にこれを知ることが出來る。

春秋時代には、諸侯自身、工匠を設けて大いに奬勵した。紋樣の上には外來文化の要素も加はつてきた。

大體、戰國の頃になると、趙や泰等の國が、北方の夷狄と頻りに接觸してその裏風を採用した。それは、胡服、胡冠といふやうな服裝の變化のほかに、鎧その他の武具及び車戰より騎馬戰へと、戰術が變り、それら馬具に施された種々の珍奇な裝飾が傳へられることで、これ卽ちスキタイ文化と稱せられるものである。

二　上代文化の完成

一統思想の發展

寺建制度の崩壞が、必然的氣運を辿りつゝあるとき、一方集權的統一への希求は各方面にあらはれてきた。

例へば、管子に、國君は貨幣の流通を計るために商賣を統制し貨幣の鑄造權を握るべきことが記されてゐるが、これを思想的に見ると、諸種の統一運動であつて、孔子の春秋に著された周室を中心とする精神的統一運動もその一つであり、春秋大一統の理想と呼ばれてゐる。これはこの後しば〳〵、支那の統一運動に示される統一思想の根據となつたものである。

次で孟子は王道による世界主義を唱へ、道家や墨家は超國家主義と叫んだが、彼等はいづれも亂世を救ふ積極的方策を示さなかつた。

そこで德治主義や無爲主義は、時勢に迂遠なるものとして忘れられ、韓非子の法治萬能主義がひとり勢力を得てきた。それは武斷專制の帝國的統一を要求してきた時勢に適合したからであつて、かゝる法家の思想を採り入れて覇業に邁進したのが秦である。

卽ち、秦は早くより自由任用の法を採用して異彩を放つてゐたが、戰國に入り商鞅は變法自强の法を講じ、大いに富國强兵を策し、次で范雎の遠交近攻の策や張儀の連衡策などは、六國併合策としては最も優秀なものであり、かくて秦王政出づるや、法家の學者李斯を用ひ、かゝる傳統的法家の思想を利用して統一を完成することを得、こゝに新たなる政治形態としての集權的國家が成立したのである。

秦の始皇帝は、戰國時代に秦、趙、燕等の諸國が築いてゐた長城を修理增築していはゆる萬里長城となし、始皇の名を不朽ならしめたが、この長城は、長く支那本土と北狄との地理上、文化上の境界線を示すものと考へられるやうになつた。

儒敎の制度化

強大を誇つた秦が滅亡し、漢の高祖の大業が成就し、高祖歿後、武帝が出て支那國家組織の整備を全ふし、諸外國との交はりを多くし、新經濟政策を樹てて產業の興隆を圖つた。

上代文化も漢代においてほゞ完成された。

漢初の儒學が秦の焚書の後を承けて頗る振はなかつたことはいふまでもなく、例へば創業の際にはよく九千字以上を諷する者は官吏とされたと『漢書藝文志』に見え、また文帝の時に尙書の學者を天下に求めて漸く、濟南の伏生一人を得たに過ぎず、その他、易、詩、春秋に通ずるものは、僅かに二三人に過ぎないと『史記儒林傳』にいはれるほどの無學ぶりであつた。

然るに惠帝以後やゝ儒學も起るに至つたが、武帝が董仲舒の說により儒學を尊んで諸子百家を斥けてから急に盛んになつた。しかも武帝はこれらの學問が相當に出來たものは官吏として採用するやうにしたので儒學はます〳〵榮えた。

しかしこの儒學の奬勵は、かく名譽と利欲とを伴ふため、學問の普及の上には效果があつたが、學者の精神の上には墮落を來した。即ち彼等は儒敎の精神を學ばないで、たゞ官吏となる手段とし、或は註釋に專念するばかりであつたから、遺經を收めて書籍を後世に傳へる上には役立つた。即ち漢初の學者の第一任務は秦火によつて失はれた古書を、完全に原本に復成するといふことにあつたから、その志、溫古に急にして知新に遑あらず、自然、一經專門の訓古學が出來あがつたのである。

漢時代の文學と史學

文學の方面を見ると、その精神や氣力においては、到底周代には及ばないが、なほ相當見るべきものがあつて、散文には賈誼、董仲舒、司馬遷があり、詩賦は司馬相如が勝れてゐるが、この詩賦は戰國時代の代表的文學である『楚辭』の影響をうけて發達したものである。

史學者としては、司馬遷及び班固が知られてゐる。司馬遷は、前漢の初めに出て從來のすべての記錄や傳說を整理して『史記』といふ立派な歷史をつくつた。この書は紀傳體の歷史で、上古以來の興亡の跡を通觀すると共に、自らの政治的理想を述べてをり、支那における最もすぐれた史書である。次に班固は後漢の初めに出て、『漢書』といふ斷代史を創めたが、この二書は、共に支那史學界の二大著述として、後世正史の模範とされてゐる。

陰陽讖緯の思想

秦の始皇帝の高壓政治によつて、法家以外の學派は、悉く不振に陷つたが、法家も競爭者がなくなつたので、その學說の發展が止り、漢初、景帝の頃には多少行はれたが、武帝以

後はやうやく儒家とその地位を代へるに至つた。

墨家もまた、秦以後は衰へて再興せず、ただ道家は、漢初文帝に信ぜられてより再び盛んとなり、黃老の說と稱せられ社會の潛勢として大なる勢力を得、その情勢は長く後代に傳はつた。その代表者は武帝時代の淮南子である。

當時は、また、この黃老思想と關係のある陰陽、五行家の思想が大いに隆盛を極めた。始皇帝や武帝のごとき大君主が相共に神祕思想に惹き込まれて、不老不死の藥を求めたことが、かゝる思想を助長するに與つて力があつた。當時、社會信仰の中心としては禍を避け福を求める占術（家相、人相、夢占）が流行したので、朝鮮の樂浪からも占術圖が發見され、その日常化を示してゐる。

かくて漢代には、儒家も道家も、皆、かゝる思想の感化を受け、遂に前漢末には讖緯說なるものを生じた。讖とは豫言であり、緯とは經に對するもので、橫絲といふ意味である。即ち、神祕的豫言を以て經義を說明したものである。王莽や光武帝の興廢には、盛んにこの緯書が利用せられ、漢代思想の一特色であるが、この陰陽、讖緯の思想は、推古天皇の頃にわが國に傳はり、平安朝時代には陰陽道、修驗道として盛んに行はれた。

商人勢力の增大と素封の發達

前漢文化の特色は、その社會生活の進步にある。漢初の社會においては、戰國時代のごとき商業の發達は秦以來の紛亂に一時停滯し、人口も大いに減少して、秦代の十分の二、三にも達しない地方があつたといはれ、土地の兼併といふやうなこともあまりなかつたが、漢の統一の固まると共に再び豪族や商人の勢力は增大し、漸次、農民を壓迫してきた。高祖は、商人が絹を着たり車に乘るのを禁じ、惠帝の時には少しく緩和したが、なほ商人の官吏たることを許さずといふ重農抑商政策を採つたので、農本思想は、大いに盛んになつた。

しかし一般社會生活としては、その水準が非常に昻まつてきた。官吏は、漸次世襲の傾向を示し、官を以て自己の姓とするやうになつた。更に領土の擴大と相俟ち、統一國家の下において、交通經濟の發達に伴ひ、一般市場の開拓を促し、大仕掛の企業をする者も生じた。鐵工業で巨萬の富を得た者、奴隷を使役して數千萬の富を蓄へたものがあつた。

かくてこれら商人の發達は、ます〳〵農民を苦しめ、子錢家即ち高利貸が盛んに行はれ、農民は田宅を賣り、子孫を鬻ぐに至つた。

かゝる商人の優勢と土地兼併の傾向とは、舊來の貴族、即ち封君以外に、無位無官の富豪の發達となつたので、彼等商人はその富力により、その生活を享樂することは封君と同樣であつたから、これを素封と呼んだ。

この素封の發達は、當然、貴族の勢力に代るもので、一旦戰爭でも起ると、久しい間の平和に奢侈となつた封君は、頭を低くして富商の門を叩かねばならぬといふことは、早くもすでに吳楚の亂において見られた。

秦・漢時代の社會問題

武帝の內外に亙る積極政策は、國初以來の富力を傾けて足らず、種々の經濟政策を行ふに至つて、高祖以來の抑商主義はくずれたのであるが、この間、却つて商人の富は增大していつた。彼等は均輸平準の法の施行により、或は鹽の販賣によつて巨利を博しながら、國家の急を助けず、功利思想はいよいよ助長され、かゝる一般社會生活の向上に伴つて起る貧富の懸隔は、奴婢の發達を助長したのである。

春秋の頃までは官奴、卽ち國家の奴隷のみであつたが、戰國以後、富豪や大地主の發生と共に私奴、卽ち封君以下の奴隷が生じ、他人の富を計るに奴隷の數を以てし、王莽の頃には奴婢は牛馬同樣に取扱はれ、市にて公開賣買せられ、王莽の奴婢解放令の出る所以となつた。

光武帝は、王莽の政策に反對する地方豪族の力を利用して卽位したから、後漢になると富豪階級の勢力は一層助長され、豪族の土地兼併、不輸不入の莊園の萠芽が發生し、後には周回千里に及ぶ廣大なものも出來た。彼等は多くの奴婢を有し、商賈と結んで利殖に努めてゐたから、中農の苦惱もまた大であつた。

後漢の初めに中興の功臣や外戚は政治から遠ざけられてその家の保存が考へられたので、自ら家柄の發達を來たし四代續いて三公となつたものがあり、また學者の家でも代々その家學を傳へる傾向となり、その他手工業等にもそれ〴〵專門の家を生じてきた。これと共に、また奢侈の風潮を助長したので、例へば、當時は努めて厚葬が行はれ、洛陽貴族の生活は甚だ華美を極め、その昔は贅澤な王者が身につけた飾り物が、當時は僕妾の身につけられるに至つた。

されば名節の奬勵によつて作られた特殊な風尙も、後漢全部を蔽ふたものではなく、六代目の安帝の頃にはすでに官吏は政治に勵まず、誅求を敢てして自己一身の榮達を圖り、地方官と豪族との間には賄絡が行はれ、官吏登庸の上に陰影を投じてゐた。

物質文化の進步

音樂は、周秦以來のもの多く傳はらず、漢代の特色あるものとしては、武帝の時に出來た樂府がある。これを詩歌を音樂の調子に合せたもので、西域の樂を採り入れてあり、祭祀、宴會等に用ひられた。

また從來の曆に缺陷があつたので、武帝の時に太初曆をつ

くり、正月を以て歲首とした。

漢代は、生活程度が昻まつてきたので、物質文化も大いに進步した。建築、彫刻、繪畫、工藝等の上に、これを窺ふことが出來る。金銀をちりばめた器具や玉器や、銅鏡、漆器等は殊にすぐれてゐる。漆器の模樣などは、頗る流麗なものがあり、これらの漆器には、多くその製作地とか工人の官名、姓名等が年號と共に記されてをり、それによつて、漢代には、長安の外、主として蜀の地において夥くべき發達を遂げてゐたことが知られる。

繪畫も、漆器等の工藝品の上に種々の模樣や人物や動物等が巧みに描かれてゐる。殊に近年發掘された彩篋塚の出土品中にある漆を以て描かれた孝子傳の畫像は、漢代繪畫の代表的逸品である。また近時發掘された南滿洲營城子古墳の壁畫等にも漢代の畫風を知ることができる。

敦煌や外蒙古の匈奴の墓から漢代の精巧な織物が出たが、この絹製品は、漢代の代表的製作品であり、漢では各地に工場をつくつたが、特に齊の地には三服官があり、長安には東西の織室があつた。

その他、銅鏡の製作においても非常な發達を示した。

かゝる漢文化の發達は、領土の擴大と相俟つて、西方文化を吸收したと共に、また漢文化を周邊各地に擴充した。卽ち樂浪、南漢西域をはじめとし、北方においては外蒙古、更に西方コーカサスにも及んだのであり、特に西方から漢鏡や玉器等の模造品が出たことは、單なる文物の交流から一步を進めて、若干の影響を及ぼしたことが推測され、漢代における東西文化の融合を知ることが出來る。

佛敎の傳來

漢代において注意すべきは佛敎の傳來であるが、これは支那の文化に重要な影響を與へたばかりでなく、廣く東洋全體の文化史上より見ても、看過すべからざる事件である。

この佛敎の支那傳來は、普通には後漢の明帝永平十年、大月氏より傳はつたものとされてゐるが、實際はもつと早く、大體、西曆紀元前後に東西交通の副產物としてガンダーラ地方に行はれた佛敎が自然に入つてきたものである。

しかし、しばらくの間は一般には行はれず、後漢の末、桓帝の時、安息から安世高、月氏から支婁迦讖が來て、佛典の漢譯事業が起つてより佛敎は大いに弘まつたのである。

しかし當時はただ西域僧にのみ布敎を許し、支那人には僧たることを許さなかつた。

これより隋初までは、大體、飜譯時代で、重要經典の譯出と名僧の渡來とによつて基礎的事業が營まれたのである。

三　政情の激變と文化

清談の流行

漢末以來の爭亂と世相の變遷とは、民心を極度の動搖と恐怖とに陷れた。太平を希ひ、安定の治を望んだ民衆の充たされざる不滿は、厭世思想と明哲保身の逃避とに向けられた。そこに老莊思想が登場し、佛敎が飛躍的に盛行するのも當然である。

されば魏晉時代の思想界の中心は、老莊主義にあつたといふべく、儒敎は、新時代を導くべき潑溂さを失つた。即ち三國時代には王肅、何晏、王弼、杜預等が出て、易、老子、論語、左傳を註釋し、老莊哲學の儒敎化を圖り、次の晉になると清談の流行と共に、ますく老莊や佛敎的思想が弘まつた。

當時の士大夫は悉く老莊の說を好んで儒學を斥け、むづかしい禮法に拘はつてコセくするのは馬鹿らしいと、清談と稱して實際生活を離れた空理を論じ國家の治亂を念としなかつたのである。竹林の七賢人といふ常識はづれの行動をしてよろこんだ連中が出たのもこの時代である。こゝにおいて政治は弛緩し、風俗は頽廢するに至つた。

南北朝時代になると、一段と佛敎の影響が强くあらはれ、殊に梁の皇侃は『論語義疏』において佛敎を內敎といひ、儒敎を外敎といてゐる位で、儒敎はすでに一般民衆の生活と交涉が薄くなり、むしろ一部の學者の研究の對象と晉した。

一方、漢末以來の騷亂により人民の殺傷せられるもの限りなく、人口の減少は甚だしかつた。農民は流亡四散してその土に安んずる者は甚だ稀となつた。王粲の七哀詩によると、

門を出づるも見る所なし、白骨平原を蔽ふ、路に餓えたる婦人あり、子を抱いて草間に捨つ、顧みて聞く號泣の聲、涕を揮つて獨り還らず、未だ知らず身死するの處、何ぞよく兩つながら相完くせん。

と唱はれ、當時の悲慘なる情況を物語つてゐる。後漢の桓帝以來、晉の武帝の統一に至るおよそ百二十年の間に、天下の戶口は四分の一に減じたのである。

文化中心地の移動

前漢末以來、西北地方に侵入、雜居してゐた夷狄は、次第に支那化し、また農業の民と轉向しつゝあつて、その勢力は中原の爭亂と共に日に增してきたので、江統の如きは早くから『徙戎論』を著し、かゝる異種族の中原退去の必要を論じてゐたが顧みられなかつた。かゝる間に南匈奴の劉淵は、晉室の內亂と一般士氣の頽廢とに乘じて獨立し、その子の代には都の洛陽を陷れ、天子以下諸王を悉く殺したので、朝臣の

多くは南方にのがれた。これを永嘉の亂といひ、支那史上の重要事件であつて、支那人種の分布、南方文化の開發等に大なる關係あり、五胡の紛亂は玆に萠すのである。玆において南方にあつた王族の司馬睿が南遷した晉の遺臣たちに擁せられ、建康（今の南京）を都として國を建てた。これを東晉といふ。

東晉は百餘年間つづいた。その使命は中原の恢復にあり、復仇の念は相當熾んであつたが、清談の餘習に溺れ、更にまた內亂が頻發したりして、最初の目的は容易に達せず、むしろ文化の方面に大なる發展を示した。

卽ち、今まで文化の中心であつた北支那は、塞外異族の支配を受け、名族や大臣等の知識階級の多くが南渡したため、眞の文化の中心は、却つて南方に移つてしまつた。そればかりでなく、すでに早く西晉以來、北方に襲來した幾多の饑饉や天災及び引續く爭亂とに惱まされた中原の住民は、士地の豪族や有力者、卽ち塢主とか行主とかに引率され、相次で平和の里、南方へと移動してゐたのである。その多きものは十數萬にも及んだといはれてをり、かゝる流民群をいかに處理するかは、當時、南朝政治家の重大問題でもあつたが、かゝる情勢は、一方では六朝文化を創造すると共に、一方では南方の開發を促進せしめ、これ以後、江南の產米は愈に增加し、一面北方の荒廢に伴ひ、隋、唐以後において支那の富は關中より江南へと移つた。

南北朝の人情風俗

この間、北支那の地は、異族の侵入相次で、爭亂の地となり、諸國の興亡が甚だしく、いはゆる五胡十六國の擾亂が繰返された。然して北朝においては殘留した漢人による支那の傳統的文明を維持せんとする努力と、これを破壞して行かんとする夷族の强力なる意志とが絕えず爭ひ、結局、最後においては後者が勝利を得た點を大體としては認めねばならぬので五胡の時代であるが、彼等とても武力一點張りで支那を荒したのではなく、中には支那の文化を慕ひ、學問、文藝を好んだ英主もある。殊にこれら北方權力者の保護の下に佛敎が盛んになり、また美術上の傑作が殘された。就中、これら新銳の氣に滿ちた胡族の進出は、やうやく文化の停滯を生じ、國家としても老衰期に入らんとした支那民族に新しい刺戟を與へ、支那文化を若返へらしたことは忘れてはならない。これこそ次の隋、唐時代における、華やかな文化の基礎を與へたものである。

支那が南北二大國の對立となり、隋の天下統一まで百五十年間を南北朝時代といひ、北朝には後魏、東魏、西魏、北齊、北周の五朝交代し、南朝は宋、齊、梁、陳四朝の迭興が繰返され、特に南朝においては都を一にし文化を共通にする吳、

東晉を加へて六朝といひ、文化が大いに榮えた。

北朝の諸帝は質實剛健であつた。特に後魏の孝文帝の治績は著るしく、盛んに支那風を慕ひ、學問を好み、風俗言語等を支那化し、都を洛陽に遷すなど、努めて支那風を模倣した。殊に注目すべきは、常平倉、均田法等の社會的施設をなしたことと、西域方面との交通を盛んにしたことである。

これに反し南朝二十四君のうち、雄略を稱せらるゝ者は宋の武帝のみで、その他は多く遊惰放縱いふに足らず、北朝に對抗するだけの英傑を出さなかつた。しかし文學方面には傑出せる者多く、中でも梁の武帝は經、史、詩、文に通じ、禮制を統一し、學校を起し、儒學を復興すると共に、佛教に精しかつた。

更にこの時代は南北それ〴〵風俗を異にし、人情、風俗、學藝に至るまで相違した。しかし概して北人は多く儉素であるに反し、南人は兎角奢侈に流れ易いといふたとや、學者文人などの天才的特色は南方がすぐれ、一般人の教養においては北方が勝つてゐた。

世相の變遷

後漢末の紛亂より引きつゞいて三國の鼎立へと中原地方における政情の激しい變轉は、種々世相の上にも變化をもたらした。

後漢における名節の奬勵が調和を失つて苦節にまで進み、殊更に奇行をするやうになると、この風の窮まるところ遂に僞善者が輩出するに至つたが、一方、後漢以來、漸次形成されてきた家柄を重んずる傾向に伴ひ、官吏の登庸は不公平となり、實際の人物を識別するのに困難となかつた。三國の亂世に當り、曹操や孔明が法治主義、能率を採用するに至つた所以であり、たとへ不仁不孝、背德の者と雖も、苟も治國用兵の術を心得た者は遺すところなく採用した。されば士風は大いに變じ、舊來の道德は地を伴ふに至つた。

更にまた後漢が倒れて、一統の政治が破れると、地方の官吏は今までの威嚴もなくなり、地方の秩序は富の所有者たる地方の名望家、即ち群望によらねばならなくなつた。かくて漢末以來の傾向たる豪族の地位は次第に昂まつてきた。

かゝる狀態は生活現象の上にもあらはれ、漢代から家柄の者の生活が一般に貴族的になり、容儀の儀禮化が一般に行はれ、家柄の子弟は幼時より襁を忘れず、手には粉白を持ち口には清言を習ふといふなどの風習があつた。當時の思想界の特色である清談の風習も、主として家柄の者に限られてゐた。

然るに晉室の南渡と共に中原の名族は多く南下したが、彼等はむしろ僑姓たることを誇りとし、家柄や系譜を重んじ、家柄の低い者とは同座することをも恥とした。かくて南朝の初には士、庶の別が一層嚴重にせられ、戸籍にも黄白二種の

形式があり、士族に黄籍、庶民は白籍であつた。

かゝる人種が、夷狄に對して強い自負心を持つてゐたことは勿論で、この點が南人の强味であり、北朝に對抗して相當期間國家を維持し得た所以である。

貴族政治と經濟問題

當時は、爭亂のため田制が頗る紛亂し、農耕のため一千人の奴隷を使用したといふ者もあり、兼倂の傾向はます〳〵盛んとなつたので、西晉の武帝は占田法なるものを發布し、土地私有の最高限度を定めたが、これは王莽に次で行はれた土地私有の公的制限である。

然るに、その後、五胡の亂後、兼倂の風はます〳〵激しくなつた。妹に江南の王朝にてはかゝる法規は空文化し、貴族は手段を擇ばずして貨殖に專念し、その横暴を牽制する政策も幾度か講ぜられたが、大なる效果はなかつた。

隨つて北方においては、晉室南渡によつて土地の占有に大變動を生じ、そこに自ら土地所有に關する紛爭が頻發すると共に、また農民の離村による土地の荒廢も甚だしかつた。かかる亂雜さに統一を與へんとしたのが後魏の孝文帝である。當時、後魏には未だ官吏の俸祿制なく、隨時、恩賜によつてゐたが、これがため官吏の苛斂誅求を生ずるので、孝文帝は遂に俸祿制を定め、その財源の一として土地制度を改革したのが均田制である。しかし實施はなか〳〵困難で、幾許もなくこの法は崩れた。

次に商業の狀態を見るに、亂國の當時にあつては商人の活動は一般的に鈍り、生産力も減退した。當時の主なる財源は田租のほかに、商稅、關稅等種々あつたが、鹽の專賣による收入が相當大きく、河東の鹽地、山東の海鹽等あり、また銀や銅の採掘、酒の專賣等の收入が主たるものであつた。然して南北兩地に分れた國勢は、淮水附近での貨物の交換を旺んならしめたが、一方、南北共にそれ〴〵外國貿易が相當盛んに行はれてゐた。北方では織物、服飾、化粧品、樂器などを輸入して絹織物を輸出し、南方では象牙、犀角、瑇瑁、翡翠、沈香、眞珠、自唾、綿布を輸入して絲錦を輸出した。

文學の發達

文學はこの時代を通じて空前の發達を遂げ、一新生面を開いた。從來の文學は經世の文であり、道を載せる器であると考へられてゐたものが、文學のための文學といふ獨立的地位が認められ、藝術としてこれを鑑賞し批判せんとする風潮が起つた。

而してその中心は、曹操及びその子曹丕の下に集つた建安七子である。次の文帝になると、曹操の法治主義の反動としていはゆる流蕩の風を起し、大いに文學を奬勵した。それは

従來の道德的傳統を平氣で破壞する文人の行動であり、清談の風の直接の導因をなすものである。文帝は、また『典論』を著はし、文藝批評の先驅をなした。

一方、名族が文化の中心となつた時代になると、文學上にも技巧が極端にまで整ふやうになり、從つて詩賦が最もよく榮えた。江南華麗の地においては、いはゆる六朝文學が起つた。名族中心の南朝においては、各自その趣味生活を尊重し、自由に觀賞するの風が起り、藝術の力を藉りて思想を表現せんとする藝術主義とでもいふべき傾向が起つた。

南人には、自然山水の中に美を發見するといふ自然主義的思想が窺はれるが、それはまた老莊と佛教との影響でもある。有名な謝靈運の詩賦は、巧緻の極、自然に合せりと評せられ、陶淵明は田園詩人を代表する素朴派ともいふべきである。更にまた梁の天子の一族、殊に『文選』の編者としての昭明太子は有名である。

なほ、この頃、佛教の流行に伴ひ、聲明の影響によつて沈約が四聲譜をつくつたことは、支那音韻學の發達の上に重要なものである。

六朝美術の特色

當時の美術は、書畫共に、漸次、審美的傾向を生じ、六朝時代の精華を發揮した。

書家においては、東晉の王羲之及びその子王獻之のごとき古今獨歩の名人が出たが、その眞蹟は傳はつてゐない。このほか北朝の顏之推、陳の智永等もまた有名である。

繪畫においては、東晉の顧愷之が古今の名手として尊ばれる。彼が出づるに及んで、畫風にも鑑賞にも、繪畫史に一時代を劃するに至つたといはれる。この他南齊には謝赫の氣韻生動論があらはれ、繪畫に對する藏術的評論が起つてきた。

美術工藝の方面は、佛教の影響を受けること最も多く、ペルシヤ、印度、西域方面の藝を輸入して南北朝式の藝術を大成し、これを隋に傳へ、また朝鮮を通じてわが國までその影響を及ぼした。就中、石窟の開鑿は著名で、早く前秦の頃に敦煌に石窟を造つたのが支那の最初のものであり、爾來引續いて盛んにこの地に設けられ、佛像を刻んだのが今日の有名な千佛洞である。北魏になると雲崗や龍門や天龍山等にも石窟がつくられ、傑れた佛像が彫刻安置された。これら北魏時代の佛像彫刻は、荒削りの點はあるが、いかにも莊嚴な氣分に富んでをり、併せて王朝權力の强大さを表現し、眞に質量共に偉大であることが最も特徴である。しかし南朝諸國には佛教は盛んであつたが、材料の關係で石窟はすくない。

この他、堂塔の建立もまた盛んであつた。そしてこれら佛教美術の發達は、更に東方へ影響した。

宗教界の展望

當時の宗教界は、學術に比して頗る活氣を呈し、文化の一中心をなした。佛教の盛んになつたのは後漢末以來で、恰もこの頃は、戰亂相次ぎ人々は亂世の苦腦を脫すべく、しきりに精神的慰安を要求してゐた結果と、儒者の形式主義の弊とは老莊の虛無思想を盛んならしめたのであるが、老莊のいふ無爲自然は佛教の無我に近く、老莊の虛無は佛家の空に近い。玆において、老莊主義を歡迎した人々が一轉して佛教へ歸依し、また儒教の現實主義に滿足しなかつた人々が、佛教の三世の說、輪廻の法を聞いて佛門に歸依するに至つた。

北方の魏、南方の吳に於て佛教の隆盛は殊に著るしく、晉の統一の時には、洛陽の時、寺のみでも四十二ケ所の多きに達してゐた。

南北朝時代に入ると佛教はいよ〳〵隆盛となり、歷代の帝王は、みな、佛教を尊ばない者はなく、南朝では黑衣の宰相も度々出で、また梁の武帝のごとく自ら捨身の業をする王もあり、達磨大師が、海路、印度より渡來したのもまたこの頃である。

かゝる佛教の外的發展と共に、佛教教理の研究もまた大いに盛んとなり、隋唐時代における宗派成立の淵源をなした。殊に佛典の解釋に一新生面を拓き、支那佛教の特色を發揮したものが尠くない。

佛教に對抗して兩々相讓らなかつたのは、道教である。老子の書を根本經典となし、一方、卜占、神仙等の雜多な民間信仰も採り入れ、長壽、幸福、富貴等を求むるために道德を行ひ、鬼神を祀るもので、一種の現世的功利的宗教である。

四　支那文化の展開

アジア文化の中心

隋より唐への三百餘年間は、これを政治史上より見ると、その間、小波瀾はあるにしても、大體において漢民族が再び優勢となり、貴族政治の華が美しく咲き誇つた時代であり、これを文化の上から考へると、支那在來の文化の整頓と制度化とは殆ど完成し、東亞諸國に燦然たる光彩を放つたが、一方、唐時代になると、內外におけるその國威の發揚と交通往來の發達とによつて、印度や西域や南海方面の文化も、盛んに輸入せられ、宗教に學藝に風俗に、內外を混一した偉大なる文化の發生を見た。唐の文化の要素は複雜多趣となり、誠に絢爛の觀を呈したが、それは同時に、唐朝の偉大なる統一の力と組織力とにより完成されたものともいひ得べく、從つて、唐は文化的にも政治的にもアジアの中心であつた。

隋の煬帝は種々の土木事業を起したが、中にも南北を通ずる大運河の開鑿こそは隋の存在を永久に示すものであり、萬里の長城と共に、支那の二大偉觀として世界に誇るべきものである。

隋末の大亂に蜂起した諸將は、みな相當の人物であつたが、隋の一邊將たりし唐の高祖李淵は、長安を占領して地の利を占め、他の群雄を威壓すると共に、文化的敎養なる前朝の遺臣を優遇して新政に參加せしめたことは、唐の政治の文化的使命を暗示してゐる。

唐の時代には學制が整へられ、都の長安には國子監があつて敎育を掌り、その下には國子學、太學、四門學、律學、書學、算學があり、これらの學館へは四隣の諸國から多數の留學生が入學した。地方の州縣にもみな學校が設けられ、いづれも孔子廟が置かれた。

高宗の晩年から武后の頃に至り、統治の中心が亂れてきたが、武后の死後およそ十年、玄宗が若くして內亂を平定して即位すると共に、平和の天使は再びこゝに訪れ、開元、天寶の燦爛たる文化が華かに輝き、唐の文●は最高潮に達した。しかしその文化にはやうやく飽和衰頽の徵が見えてきた。

胡妖・流民

當時、唐の國威は殆どアジア全部に及び、都の長安には異國人の來往が劇しく七十餘國に達してゐたが、中でもイラン系統の綠眼の胡姬は、胡旋舞や胡騰舞、柘枝舞の名手として長安の酒家にあらはれ、貴人の子弟を魅弄し、胡食、胡餠等の食事をはじめとし、胡帽、胡服等の服裝飾品とか、呑刀、吐火、弄丸等の種々の遊戲など、生活、風俗、趣味等の各方面における異國趣味の流行のはげしさは、遂に胡妖といふ言葉さへ起つたくらゐである。

かくて文化を享樂する奢侈の傾向は、宮中は申すに及ばず長安の上下、更に地方の都市にまで及び、かゝる惠まれた社會の下に、忽焉として現はれたのが楊貴妃であり、政治に厭いた玄宗の寵は、貴妃傾國の美に注がれ、奢侈と女難と相並んで、玄宗の政治は紊れた。

かゝる貴族生活の半面において、報いられざる下層階級は動搖し、流民は續出した。流民は逃戶ともいひ、富豪或は僧侶、道士の莊園の發達に伴つて發生し、殊に兵亂、饑饉、官吏の壓迫等によつて止むなく流浪するものも多い。これら流民の行方は、再び歸鄉する者もあるが、多くは莊園に流入して小作となる。かゝる客戶の數は、玄宗の開元九年には八十萬戶であつたが、安祿山の亂後、德宗の頃には土戶百八十餘萬、客戶百三十餘萬に增加した。流民の激增は、勿論、國家の經濟に惡影響を及ぼしたが、しかも彼等が莊園に流入すると、そこに自ら主從の關係を生じ、地方豪族の勢力を增大せ

しめた。

流民と共に賤民も殖えた。賤民卽ち奴隸で、官賤民と私賤民あり、私賤民は家財資產と同一視され、賣買を許された。彼等の身分は子孫に傳はり、これを脫せんとするには、家長より放免されるか、自ら贖ふか、または朝廷より贖放されるかである。當時の豪族、富豪、佛寺、道觀等には多數の奴婢が附屬し、或は雜役に或は耕作に、または兵士に選拔されてゐた。

商業の躍進

唐の時代になると國內商業はます〳〵發展した。長安には東市、西市が出來、その中には市場取締の役所、卽ち市局があり、また幾多の行、卽ち同業商店の町とか、邸卽ち倉庫等もあつた。

この他、各地の都會にもそれ〴〵市が設けられた。洛陽、揚州、成都、荊州等は有名であつた。中でも、揚州は南北交通の要地たると共に、海外貿易港として隆盛を極め、揚一益二、揚州は一位、益州(成)都は二位と稱せられた。

小都市の城外、または村落にも小規模の市場がおかれた。これを草市、または鎭市といふ。これらの機關によつて田舍と都市とは聯絡し、商業は大いに開發された。

南北の交通には運河が盛んに利用され、唐初の漕運は二十萬石位に過ぎなかつたのが、開元以後になると、年々百萬石から二百萬石の米が運ばれた。この他に驛傳あり、關門あり、中央地方の交通は大いに開けた。

貿易港としては交州(河內)、廣州(廣東)、泉州(福建)、揚州(江都)等が榮え、殊に廣州はその中心であつた。

唐では、開元以來、これらの地に提擧市舶便といふ貿易監督官を置いて、一切の外國事務を處理せしめた。當時、唐からは絹、唐器、茶、銅錢等が輸出され、棉、象牙、藥品、香料、寶石などが輸入され、それと共に、彼我文化の融合が著るしく行はれた。

學藝の極盛時代

支那文化の極盛時代をなした陶代に於て、學藝の代表的地位を占めたものは詩文である。文章は、六朝以來初唐までは四六文が流行し、文選が愛好されたため徒に形式に拘つてゐたが、中唐に韓退之、柳宗元等が出て、いはゆる古文體を復興し、すべての文が散文體になり、自由な表現法をとり、潑剌たる氣分を示してきた。

次に、詩は唐に至り最も榮えたもので古今獨步の稱あり、しかも詩は支那文學の精華であるから、唐代は支那文學史においても黃金時代と稱されるのである。有名な詩人の傑作は多く『唐詩選』に錄されてゐるが、殊に玄宗時代に至つては李

白、杜甫等の天才が出て、從來の文選風の形式主義を捨て、自由な表現をとつて、韓、柳と相俟ち文學上の革新をなし天下を風靡した。わが王朝時代に愛誦された白樂天もまた率直の詩人として知られてゐるが、この頃より詩に口語を交へることが盛んになり、詩の平民化が行はれた。

歷代學術の中心たる經學もまた大いに重んじられた。隋の經學が南北兩系統を折衷して、新說の出づるものなかつたが如く、唐初においても漢魏六朝の風を傳へて師法を重んずるのみであつたが、その統一を必要とした太宗は、孔穎達に命じて五經正義をつくらしめた。玆に經學は、はじめて統一され、いはゆる漢唐註疏の學が完成したが、却つてこれは經學固を定せしめ、その進歩を止めたから、傑出した經學者は出現せず、たゞわづかに、韓愈が思想家として唐代を代表するのみである。

然るに唐の中頃から、古來の註疏に疑を挾み、獨創の意見を樹てることが行はれたが、これは宋代哲學の先驅ともいふことができる。

更に、六朝以來、學問の上で著るしい現象の一は、史學の發達にして、先づその著述の方針が私選より官選へと變つたことであり、次には劉知幾の史通の如き史論が流行したことであるが、特に史學家として注目すべきは、『通典』の著者杜佑である。

印刷・美術・工藝・音樂

當時、新しい現象として文化の發達に貢獻したものは、印刷術である。支那の印刷術は印度式の捺印佛像から木版印刷へ移つたもので、文宗の頃には明らかに印刷の行はれたことが知られてをり、唐末に印刷された字書、佛典は二、三殘つてゐる。

美術の方面には見るべきものが多い。先づ書では、唐になると草書にすぐれた張旭、氣品の高い顏眞卿、楷書には歐陽詢が出た。その眞蹟も稀には世に殘り、多くは碑銘に刻され法帖として傳はつてゐる。

繪畫においては、當時、やうやく隆盛の域に進み、名手も多く出た。太宗の時の閻立本は人物畫にすぐれ、彼の描いた帝王畫は、女子箴圖と共に支那古名圖遺品の双璧と稱される。次で玄宗時代に吳道子が出て、雄放なる描線を完成し、白描線を創始するに及び畫風は一變した。當時は李思訓、王維等の名手も輩出して山水畫を開始し、宋代畫風の先驅をなした。

工藝品は、唐代に至つて精巧の極に達したといふことが出來る。しかも當時の工藝品には、西方文化と融合した作品が多く、例へば、碑石、台座等に施してある豐麗優艶なる忍冬唐草模樣とか、正倉院御物等の織物に見える狩獵紋とか、聯

珠紋とか瓶胡などはその代表的なものである。更に明器としての種々の泥象は、唐代において發達の極に達した。

音樂に於ては、太宗の時に大唐の雅樂がつくられ、玄宗の時に完成された。舞樂もまた太宗の時に九功七德といふ文武の舞が出來たが、玄宗は都に左右の敎坊を設け、舞樂者養成所となし、或は繪人を選んだ梨園にこれを敎へ、實に盛んなものであつた。しかもこれら隋唐の音樂は全く西域樂を以て風靡されたといつてもよい位に西方の要素が多く、宮中の樂曲には康國樂、安國樂、龜玆樂、高昌樂、疏勒樂等が盛行し、樂人や舞工にもイラン系西域出身者の名が史上に澤山殘つてゐる。

宗敎の發達

佛敎は隋唐時代に最も榮え、支那佛敎の黃金時代をなした。佛敎の各宗派も、隋唐以前には確實に區分し得るものはなく、この時代に分派したのである。唐の玄奘は唐の高僧といふよりも、支那史上屈指の偉材といふべく、貞觀年間、陸路印度に赴き、十七年目に歸國したが、その紀行文は有名な『大唐西域記』である。

則天式后は、佛敎を利用して革命を行つたので、これより唐の佛敎は俄かに盛んになり、當時、各州に設けた官寺は、わが國の國分寺設立と密接な關係あり、僧侶の數も增加し、文宗の頃には得度者七十萬人を數へ、寺院の數も五千三百餘に上つた。これら寺院の中にはその壯麗宮殿を凌ぐものもあり、天下の資材の大部分はこの方面に消費されるに至つた。更に石佛や金銅等の佛像製作も盛んに行はれ、この結果、長安や洛陽にはこれを職業とするものさへ現はれた。

かゝる佛敎の形式的發達には、當然內容の發展を伴ふもので、支那佛敎の敎理的內容は殆どこの時代に完成された。隋代すでに天台、三論の二宗が大成されたが、特に三論敎の出現は注目すべきであり、宗が大成されたが、特に三論敎の出現は注目すべきであり、當時の貴族化した佛敎に反抗し、末法佛敎の先驅として彌來三百餘年に亙り異彩を放つたが、唐末宋書に亡ぼされた。唐時代にはこの他法相宗、華嚴宗等が開かれた。また佛敎徒の戒律を組織化した律宗も出來、更にこれら敎理の研究に對して解脫の實踐に專念するのが禪宗であり、これまた唐に至り大いに榮えた。その他淨土敎、密敎も盛んになつた。

しかも彼等は自らの敎學に專念するのみならず、施浴、施療を行ひ、貧民や老廢の徒の救濟のために種々の福田事業を行つた。

當時、道敎も頗に隆盛を加へ、佛・道の衝突も多かつた。キリスト敎の一異端で、ネストリウスの開いた景敎が、外國交通の結果として移入された。更に回敎が渡來し、支那ではこれを淸眞敎といひ今でも四、五千萬人の信徒があるといは

れ一大勢力となつてゐる。

宋代の文運

宋は文を以て國を建てたのであるから、國民の氣風はよくその學術の上にあらはれ、武功では失敗續きであつたが、文運は頗る盛んで、才學の士を輩出したことは、歷代にも比類少ない。

精神文化の中心をなすものは經學であるが、宋では經學といふよりもむしろ獨自の哲學が發達し、義理・精神に重きをおかれ、人性・天理を究明せんとするが故に、性理の學ともいはれ、獨創的主觀的の立場から聖賢の精神を把握してその時代に生きんとしたものであるから、これを宋學とも稱する。玆に於て、宋代の人物は理窟ぽくなつたが、その品性の高尚なることは、前代にその比を見ない。歐群脩、王安石、周敦頤、程明道、程伊川、邵康節、張橫渠、朱子、陸象山等はその代表的偉材である。

詩は、到底、唐に比すべくもなかつたが、文は殆ど唐を凌ぐの盛況を呈した。歐陽脩を中心とし、達意的の古文が盛んになつた。南宋になると、文章としては大體に衰へ、ただ胡銓や謝枋得のごとき慷慨激越の筆が民心を感奮せしめた。一方、語錄・白話を交へたものが盛んになり、これと共に詞が一層普遍化し、平民社會に行はれるに至つた。

官學は五代・以來衰微してをり、これを救はんとして起つたのが宋初の私學である。功利的學風を斥け、知行合一の人格教育の完成につとめたところに宋代教育の特徵がある。

史學は司馬光の『資治通鑑』を始めとし、袁樞は『資治通鑑記事本末』を著して新史體を創め、朱子は『通鑑綱目』を著して正統論を稱へた。これは宋代の國際情勢に刺戟された民族的自覺の表現として注目すべきである。これと共に一方では考古學が起り、文運の興隆誠に驚くべきものがあつた。

印刷はその技術頗る優秀となり、後世いはゆる宋版として尊重せられるものである。宋初には『大藏經』全部の彫造がなされた。

藝術の新傾向

當時注目すべき現象は、小說とか雜劇とかの民衆藝術の勃興したことであり、宋になるとその文章も俗語體となり、國民文學として創案されるやうになつた。雜劇とは雜多な遊藝といふ意味で、南宋になると、唐代の傳奇小說のごとき場當りの滑稽でなく、歷史上の事實を筋とする戲曲となつた。しかも都會のみならず村里にも行はれた。

音樂等も唐代は舞樂が主で貴族的であつたが、唐末の騷亂と共に、彼等が民間に散居するやうになると、それが宋代の民間俗樂を促すに至つた。

宋初の繪畫には、北宋畫を代表するものに李成、荊寬があり、南宋畫には董源を祖述大成した巨然が出、趙令穰が出るに及んで文人畫風を拓き、更に米芾及び米友仁が出て文人畫と南畫との融合が成され、飽くまで趣味を以て描き、職業的に描かれる域より脫した。北宋末には徽宗が畫院を興して繪畫を奬勵し、南宋になると畫院はます〳〵盛んとなり、南畫が隆盛に赴く傾向を示した。

書道もまた盛んで、法帖を刻することが盛んに行はれた。宋代の特色ある書風となつたのは仁宗以後で、當時、有名な四大家が出た。蔡襄、蘇軾、米芾、黃庭堅で、自由奔放、生氣潑剌の趣ありと稱せられる。

陶磁器の製造も著るしい發達を見た。唐の頃から釉藥も一層發達して四川の白瓷、浙江の靑瓷をはじめ相當立派なものが出た。宋代には南北各地に立派な窯が出來、支那陶磁器の最盛時代を現出した。

この他漆器、織物、殊に錦、金襴がつくられた。當時の特色ある趣味としては一般に茶道の盛んに行はれたことで、これは家庭に於てのみならず、禪寺に於てもその作法が重んじられ、この茶道と禪學と水墨畫とは關聯して流行し、その趣味がわが國に傳はつて東山時代の藝術となつたのである。

庶民生活の向上

宋の國威は頗る振はなかつたけれども、その社會生活の充足、人口の增加、一般文化の發展等、內部生活の擴充は著るしいものがあつた。

宋代の貨幣としては銅錢、鐵錢、金、銀、綿帛、紙幣等が用ひられた。支那に於てはじめて紙幣が現れたのは宋代であるが、その先驅としては唐代よりすでに手形が用ひられてゐた。

土地は公田と私田との區別があつた。唐末五代の騷亂により奴婢は社會より解放され、それと共に農耕技術及び生活上の關係から農耕に奴婢を使用することが漸減し、代りに自由小作人が現れた。北宋時代の小作人の數は全體戶數の三分の一に達し、南宋末には數千乃至萬餘の小作人を有する大地主も出現し、唐までの貴族階級の地位は、これらの豪農によつて占められるに至つた。

しかも依然たる官吏の誅求は重大な社會問題と化し、四川の地では早くも太宗の時に均產一揆なるものが起り、南宋になると湖南地方に同樣の均產匪があらはれた。

窮乏農村を救ふための社倉政策的諸機關も設けられてゐる。常平倉、義倉、社倉等である。その他一般の救貧制度としては行路病者や乞食を收容する居養院とか、貧民治療のための養濟院、扶助機關としての福田院、或は嬰兒を殺す惡風を除くための擧子倉、行き倒れを葬る漏澤園などの諸設備が

大いに整つた。

商業の發達に伴ひ、天下の富は都市に集中せられ都市は大いに繁榮した。殊に外國貿易に刺戟せられた南方の都市や、隨唐以後の漕運の發達に伴ふ運河沿線の都市が著るしく躍進した。

五　支那文化の後退

跋扈した蒙古的性格

蒙古とは勇敢無畏の義といはれる。宋はこの蒙古のために滅ぼされた。そして蒙古帝國の出現は、北方民族の徹底的勝利を意味するが、支那文化の發展はこのために中斷された。しかし東西交通の發達に伴ふ西方の科學文明傳來の機會を促し、支那文明に新しい側面を與へたことも事實である。

世祖が支那に君臨してより蒙古的性格は各方面に發揮されるに至つた。蒙古人は、武力を以て絶對のものとなし、自尊心が極めて強く、外國文化を謳歌するがごときこと、殊に支那文化を尊重する念などは更になかつた。

元代の社會には民族的に四階級が置かれた。蒙古、色目(西域人)、漢人、南人(南宋人)がそれである。この四階級に對し國家の與へる待遇は大いに異なり、蒙古人はあらゆる公權を享有し、色目及び漢人これに次ぎ、文化的に優秀なる南人は最下位に置かれ、時には甚だしい壓迫をも加へられた。これは蒙古人が支那の地を支配するより以前に、西域や西アジア地方の文明に接してゐたからである。かくて彼等は蒙古を根本の地と考へ、支那に對しても支那の文化、支那人の利害に基礎を置かぬ蒙古本位の政治を行つたので、支那は租稅を取つて蒙古人を養ふ場所である位に考へてゐた。

元の天子は多く儒學を尊び、また宗廟や諸種の儀禮、官制等には支那風を採用され、孔子の祭祀や科擧等も行はれたがこれは支那を始めるための便宜主義で、形式の模倣に過ぎなかつた。

元代は內外の征戰と社會の混亂と法制の弛緩とのため、內外の奴婢は一千萬に達し、歷代その比を見ず、彼等は種々の工藝、雜役に從事したり、軍隊に用ひられたり、臣下への恩賞にあてられた。

凡そ蒙古人の征伐は、掠奪と納貢とが主目的で、政治的興味は薄かつたから、その占領地の行政、民俗等は、大體、その地の舊風に從つた。

都市の發達

東西交通の隆盛を見たのは世祖の頃からである。その代表的なものは、世祖の朝に渡來し十七年間も在留したイタリヤ

人マルコ・ポーロと、元來順帝の時に來朝し當時有數の大旅行家であつたモロツコ人イブン・バツタとである。

玆に於て、都市や海運の發達もまた著るしく、宋代に有名であつた都市のほかに燕京や和林あり、海港には杭州、泉州などが榮え、中でも泉州は當時世界最大の貿易港であつた。泉州港にはあらゆる印度の貿易船や南支那の商人が來集して香料、寶石等の取引が行はれたと、ポーロはその旅行記に書いてゐる。また杭州についてはその町の繁昌の有樣を述べ、廣大なる市場にあつまる物貨及び印度その他の外國商人が市場に賣買する物貨を藏する多くの石造大家屋の存すること等を說いてをり、イブン・バツタもこの地を以て世界最大の都市なりとし、中にユダヤ人、キリスト教徒、回教徒等の市區もあつて、多數のトルコ人、ペルシヤ人、アラビヤ人等をはじめ、諸外國人が居住し殷賑を極めた旨を述べてゐる。

かく元朝は大いに海外貿易を奬勵し、世祖は市舶司を泉州、上海等二三の地に設け、その利を中央に收める方針を採つた。そこで南海貿易は非常に盛大になり、來航の諸國は二十餘國に及んだ。

一方、支那船による交通について見るに、支那の造船術は唐以來次第に發達し、五代の頃には四五百人の乘員を有する支那海船は、海賊防禦用の武器をも載せてペルシヤ灣に來航したといふが、更に宋元時代には、南洋航路の支那船に數百人より一千人に及ぶ乘員のゐるものもあつた。

學術技藝の盛衰

元の諸帝は外國人を重用すること唐以上であつたから、中亞、西歐より來朝仕官するものも非常に多く、元代の文化的施設は、すべてこれらの外來人によることが多かつた。西方の天文、曆法、數學、醫術、砲術、建築術等は相次で傳來し、支那文化の發展に貢獻した。更にこの頃アラビヤの地理學が傳來し、朱思本がはじめて新式の地圖をつくつた。

これに反して在來の經學は、漢人統治策としては尊重されたが、實際は頗る振はず、朱子學が形式的に用ひられただけであつた。この風潮と共に、一方、宋以後南支那一帶の地が大いに富裕となり、そこに逸民となり隱士となつた宋の學者文人の系統を中心として民間の學藝が盛んになり、却つて學問を通俗化する上に大なる成績を擧げた。この結果として隆昌を極めたのは雜劇である。雜劇はすでに宋・金に於ても存したのであるが、元代に至つてその隆盛の頂點に達したといふことができる。これを元曲といふ。『西廂記』、『琵琶記』は共に有名である。また小說も大いに勃興し、『水滸傳』と『演義三國誌』が知られてゐるが、これは低級なる蒙古人に理解しやすい方面が奬勵されたといふ點もある。

蒙古族は、元來、文字を有してゐなかつた。太祖が乃蠻を

滅ぼした時、その地に行はれてゐたウイグル文字を借用し、後、次第に改良されて今日の蒙古文字となつた。

藝術方面は、多く南宋系統の人々によつて興されたのであるが、元代の特別なる風尙によつて一變化を來した。先づ書道に於ては宋室の一族たる趙子昂が秀で復古主義を試み、その風は廣く行はれた。繪畫は南宋畫院の風を繼承した人々と、新に復古的精神を以て畫風に新味を加へた人々とがあり、この新畫の傾向は、元末に至り、黃公望、倪瓚、王蒙、吳鎭の四大家の出現によつて支那の畫風に一大變化を與へるに至つた。これまた、蒙古人中心の時代にあつて、失意の境遇に置かれた江南地方の讀書人が、世俗を超越して專ら文學藝術を樂しまんとした氣風を受けたものであり、從つてその繪も專門家の型を脫し、いはゆる南畫全盛の時代となつた。

宗教の普及狀態

元は、廣大なる領土を統治する必要上、各種族の有する宗教風俗等はそのまゝ許容したので、佛教、道教、回教、猶太教などが行はれ、また一切の差役等を免じて優遇した。

このうち、佛教は禪宗、道教は金眞教が主として行はれたが、最も盛んであつたのは喇嘛教である。喇嘛とは最上の義を有する西藏語であり、八世紀の頃、西藏に起つた佛教の一宗派で、專ら祈禱禁呪をしてゐたが、世祖が西藏を征するや喇嘛の八思巴を伴ひ歸つて帝師の稱號を與へ、遂に喇嘛教を蒙古の國教とした。喇嘛僧を毆る者はその手を截り、これを詈る者はその舌を斷つといふ程の保護をしたので、喇嘛僧は橫暴を極めた。

更にこの時代におけるキリスト教の再傳來も注目すべきで當時、蒙古地方には景教徒は相當居たらしいが、蒙古の征歐に震撼したローマ法皇等が、定宗の時、カルピニを和林に遣はし、次で憲宗の時にはフランシスコ派のルブキーが來朝したが、舊教を支那に傳へたものはモンテ・コリーノである。爾來、法王廳より引續いて布教僧が渡來し、揚州、杭州、鎭江には會堂が建てられたが、元の滅亡と共に彼等も去り、その後、一時、支那にはキリスト教は行はれなかつた。

回教は、元代色目人の跋扈と共に隆盛となり、深く民間に普及して今日に及んだのである。

文化の復古的傾向

元朝が綱紀を失ふと、早くより亂を懷うてゐた漢族の不平は至るところに爆發した。中でも有名なのは白蓮教と稱する秘密結社であり、中支那方面に蔓延して紅巾軍と稱した。この紅巾軍の餘黨である濠州(安徽省)の郭子興の部將として遂に崛起したのが、明の太祖朱元璋である。

かくて元が滅んで明が興つたのであるが、明代は、漢人國

家の復興といふ意味から、明初の文化の特色は、自ら復古主義となり、排外思想が行はれるに至つたので、外來の思想學藝は用ひられず、一方、國粹の儒學は朱子學が行はれたが、宋濂は太祖に斥けられ、弟子の方孝孺は成祖に反抗して殺されたので、興學の氣運は抑へられ、溌剌さを失ひ、それ以後の儒者は學問も節操もないものが多くなつた。

しかし太祖も成祖も共に學問を奬勵したので、成祖の時には、有名な永樂大典とか四書大全、五經大全、性理大全等をつくつて科擧の參考書と定めたが、このため却つて自由研究を妨げ、學問は形式主義に墮し、從つて固陋であつて、一家の見を立てる者はなかつた。

かゝる氣分を打開して簡潔な活きた學問を鼓吹せんとしたのが人格主義の理想哲學を主張した王陽明である。彼は宋の陸象山の心學を崇拜し、これを繼承したのみでなく、陽明自身の生活體驗と內省とによつて大成したのである。陽明學は一時大いに盛行したが、對外的に不振の明代の人心には眞に陽明の生きた心學を諒解する氣力はなかつた。從つて彼の末流は徒らに空理空論に走り、讀書を怠り剩へ酒食に溺れても良知を致せばよいといやうな背德者を出すに至り、思想界は沈滯してしまつた。

詩文に於ては唐宋時代の復古を目的としたもので清新の氣にはとしかつた。しかし明代文藝に於て注意すべきは、小說戲曲における方面である。小說では歷史小說が早くから流行し、『三國誌』『通俗演義』が有名である。この他佛・道二教を織込んだ小說が多く現れたが、中でも『西遊記』『金瓶梅』等がよく知られ、戲曲では『牡丹亭還魂記』が有名である。元代の雜劇は北曲と呼ばれ北支那に行はれたのであるが、明代になると、南方支那の音調と樂曲とを本とした南曲が現はれ、北曲を雜劇と呼ぶに對し、南曲を傳奇といふやうになつた。これら俗語體小說の發達は明代文學の誇りである。

この他、明末には經學不振の反動として一般に經世實用の學が勃興し、農藝、博物とか、兵學、史學、地理學等の著述が盛んになり、清朝學問の基礎をひらいた。

明代の美術工藝

書は、明朝中期の文徵明や祝允明と、末期の董其昌とが名高い。祝允明は個性の發揮につとめ、この風は明末に最も榮えた。

繪畫は、元末の四大家の流れを汲むいはゆる文人畫家たちによつて開かれた。宣宗は大いに畫道を奬勵したので、南宋畫院風の畫家が輩出したが、その代表者は戴文進である。しかしやがてこの畫風が衰退するや、明の中期に至り、明一代の大家である沈石田が出た。この頃、近代の新しい人物畫を大成して名を知られたのは仇英である。更に董其昌は文墨風

流に於て明末の一大家であり、書畫共に秀で、明末南畫の正統となり、清朝三百年の畫史は、彼の作風に統一されたともいはれる。

美術工藝では、銅器、錫器の精巧な作品を産出したが、殊に磁器と織物とがすぐれてゐる。支那磁器の名品は宋代であるが、明のものはまた特別な技巧の進歩があり、江西の景德鎭窯を中心として、青花(染付)及び彩磁の逸品が盛んにつくられた。

明代にはまた印刷術が、上下一般に頗る盛行した。官刊本や、家刻本も盛んに行はれたが、宋版に比すると粗雜の難は免れ得ない。次に坊刻本、卽ち町版としては北京、蘇州、浙江、福建等の地に盛んであつたが、質に於ては蘇州、最に於ては福州が最も勝つてゐた。刻書の種類も經、史、子、集より、道、釋二藏の刊行に及び、更に實用的の醫卜の書、戲曲小說、府縣の地誌まで編刊するに至つた。これによつて明代の學藝は非常な勢ひで一般に普及した。

宗教の國粹化

佛教は明時代になると元代の反動として國粹的となり、喇嘛教は次第に衰へ、佛教各宗は太祖以下の諸帝から非常に厚遇され、佛教保護の法律制度まで嚴にせられ、次第に隆盛に赴いた。しかし教理方面には何等見るべきものなく、たまたま嘉靖帝が深く道教を信奉して佛教を排斥迫害したため、佛教は敢なく滅亡への道を降つた。しかし明末になると、雲棲蓮池大師が出て佛教の本質に立還り、法相の差別を打破して混融佛教を唱導し現世應報主義の道德思想を鼓吹したことは注目すべきで、これは當時の儒家にも親はれ、儒、佛、道三教を一にして實用的に仕上げたもので、その清朝思想界に及ぼした影響は殊に大きく、明末以後の實際道德はこゝに確立された。支那が、今日、混亂の極に陷つても、なほ民間に一脈の道德思想を傳へ、その社會を完全な混亂に陷れないのはこれに基づくといはれてゐる。

宋、元、金を經て、道教の教權は非常な發達を遂げたが、明代になると內容的には更に發達するところなく、たゞ道藏が完全に編纂されて、その教法が普及流布された。そして一時榮えた全眞教もこの頃にはまた次第に形式化して儀體と迷信とに終始し、正一教、卽ち南方系の道教に壓迫され、兩者は混淆してしまつた。

この頃、ヨーロツパ人の東洋來航と共にキリスト教の支那布教もはじまつた。明末には北京附近だけで數千人の信者があつた。キリスト教宣教師は傳導の傍ら西洋科學の進歩を示して支那人に刺戟と尊敬とを起さしめるやうにしたので、天文、數學などのほかに、キリスト教に關する宗教畫も弘め、西洋畫法や版畫等をも移植した。

社會組織の變遷

一般社會に於ては、元代における蒙古第一主義により破壞された從前の支那社會がやうやく復興されたが、支那社會の主要構成要素たる士と民との階級差は、宋以來漸次接近し、殊に明代に於ては教育の普及の結果と科擧の利用とにより、一層縮少された。

また天下の人民を分ちて民と軍とに二大別し、民は州縣の文治に屬し、軍は衞所に隷し、屯田して軍務に服せしめることとした。州縣の文治は里甲の制を基礎とするもので、十戶を甲とし、十甲を里とし、それ〳〵の首長を設けて監督させ、別に長者を選んで里老とし、鄕黨の民俗訴訟を處理せしめる自治制度を復興し、別に都市に於ては會館、公所等が設けられた。殊に太祖が社學を建てて村里に至るまで教育を普及せしめたことは、たとへそれが時代の要求に合せず、早くも廢止せられたとしても、文化進展上の效果は甚大であつた。

太祖は天下の土田を調査して魚鱗圖冊といふ土地臺帳をつくり、戶口を配比して賦役を定め、丁口と土田との關係を整へた。また元初からの諸種の租稅が整理統一され、大いに民心に副ふものありと期待されたが、中華以後は豪强の土地兼併甚だしく、加之、官官の橫暴や僧侶、道士などの遊民の增加等と相俟つて流民を激增させ、人民の困苦は甚だしく、殊に萬曆以後は軍事費としての種々の徵稅が行はれ、國運の衰亡を早めた。

通貨は銅錢と紙幣とが用ひられたが、兩者共に準備が不足で通用がうまくゆかず、これに反して銀の使用が次第に增大した。

商業はます〳〵盛んとなり、殊に明は內亂が少なかつたので、交通は大いに發達し、漕運も一層利用された。永樂以後は年に四百萬石の米が運ばれたといふ。外國貿易は、陸上では西北の茶、馬市、滿洲の馬市などがあり、これは同時に一般互市を伴ひ、官の監督下に盛んに行はれたが、海上貿易はあまり振はず、成順以後僅かに積極的となり、一時禁止された市舶司を復活したが、外國貿易は官業としたため次第に衰へ、たゞ琉球人のみが盛んに活動しただけである。

六　歐米文化の侵入

文化國家の建設

明の滅亡の後を承けて興つたのが、滿洲民族の國家清である。康熙から雍正を經て乾隆に至る三代百三十餘年間は、清代二百七十年を通じて、外征は屢々行はれたけれども、その內治は最も平和な時代であつた。

清朝は、國民の民族的相違を顧慮して人心收攬に努力し、官吏のごときも滿漢人同數宛を採用すると共に、仁政による文化國家の建設に努力した。清朝の君主は自ら儉約して人民の負擔を輕減したばかりでなく、元代と同じく各民族の習慣は尊重したが、元の支配が武力に重きを置かれたのとは反對に、支那の文化によつて君德を養ひ仁政を行ふ聖天子たるを期した。即ち最高の德を備へた者こそ眞の天子なりとした。

清朝は滿洲の野蠻生活から、一躍、支那の文化生活に入つたため、支那の文化に多少眩惑された形で、この點は、蒙古人と異なるところである。

乾隆帝は、漢人に對して高壓方針を採り、思想や言論を抑壓するほか、四體清文鑑を作つたり、漢籍や佛典の滿洲語譯等を試み、滿洲文化も低劣ならずと誇示しようとしたが、實際は、乾隆帝自身が支那文化に心醉した傾向があり、支那文化を標準とし、そこまで滿洲文化を引上げたい意圖に他ならなかつた。されば康熙帝の頃に。ヨーロッパ文明を利用する方策が樹てられても、支那文化を中心としてこれを融合同化する大勢は如何とも出來なかつた。

かくして滿洲人は支那を統治してゐる二百七十年の間に全く支那文明に化せられ、遂には支那人と異ならない感情を有するやうになつたばかりでなく、野蠻生活から脫出した人間として文化生活への憧憬も大きかつたのである。

學問の奬勵

清朝の文運は、初期三代の盛世に於て著るしく促進されたが、それは盛世の三帝が擧つて學事を奬勵したからである。學事の奬勵は、一は漢人の懷柔策でもあつたが、一はこれら諸帝がいづれも支那の學藝を愛好し得る天成の學才を有してゐたためである。滿洲人の君主から次第に漢人の帝王へとかはつてきたのだ。

康熙帝は深く支那學に沈潛したのみならず、實利、實學を好み、西洋科學を愛好し、宣敎師達を召してこれを研究した。かゝる天子の好學と共に、或は科學により、或は博學鴻儒家により、天下の人材が登庸されて要路に並び立ち、朝廷の盛儀を加へた。またこれら諸帝は、學者文人を優遇するために種々の大編纂事業を企てたため、支那のごとき文字の國に於ては殊に朝恩の渥きを感ぜしめ、文運の隆昌を來したのである。

そしてかゝる清初の學者は、その富力を著るしく增進してきた江南地方から主として擧出したことも、太平の餘澤であることを示してゐる。主なる編纂物は『大清一統志』五百卷、『古今圖書集』一萬卷、『四庫全書』七萬八千七百三十一卷等である。中でも『四庫全書』は乾隆年間に編纂され世界に誇るべき支那學術の集大成で、大いに讀書人の研學を盛んならしめ

た。

文運の隆昌

當時、政敎の中心は、朱子學が用ひられたが、清朝の學風をひらいたのは江南の地より起つた顧炎武、黃宗羲を中心とする明末の遺儒であり、復明運動に失敗してから任官を肯んぜずして樸學の門をひらいた人々である。

彼等は、明儒の流弊たる空疎なる觀念論をしりぞけ、實事求是と稱し、古書に信を徵する研究方法を盛んにした。いはゆる考證學である。その結果として經學の研究が精密となり學問的となつたが、これは經學の生命たる實踐性を離れるので、學問研究法としては成功しても、經學の生命たる經世致用の精神を失つたゝめ、清朝では一世を指導する獨創的指導家は出現しなかつた。

考證學の盛行に伴つて古典の研究が盛んに行はれるや、その基礎となり補助となるべきものとして、音韻、小學、金石、校勘、輯佚等の諸學も勃興し、惠棟、戴震、段玉裁等によつて訓詁の學が深められ、漢學が復興された。

他方、古賢の精神を知るために歷史的研究の必要を說く者があらはれ、史學が盛んになつた。また地理學も漸次發達を來した。

文章に於ては、清朝が科學の制度に八股文を用ひたのと、一方、漢學の流行に伴ひ、駢麗文が隆盛を極めた。しかし後には安徽桐城の地に方苞が出て古文を主張し、桐城派と呼ばれた。

詩人としては吳梅村、王漁洋あり、戲曲では孔尙任の『桃花扇傳奇』、洪昇の『長生殿傳奇』は共に傑作として知られ、小說では『紅樓夢』が名高い。文藝評論家としての金聖嘆も文化に貢獻があつた。

書畫は共に明末の董其昌の風が行はれ殊に繪畫では南宋畫風が盛んであつたが、花鳥畫の蔣廷錫は最も著はれ、同じく沈銓はわが國の畫壇にも影響を與へた。この他、美術工藝に於ては、豪壯なる陶磁器や、優雅なる織物が發達し、この時代に於てその頂點に達した。

文化の移入轉出

建國當初、西洋火砲の威力に驚いた清朝では、順治帝が早くもアダム・シャールを官吏に任用した。彼は新に時憲曆を頒布して大いに重用されたので、宣敎師の數は非常に增加した。好學の康熙帝は西方科學をいよ〳〵愛好してこれが研究を奬勵したので、フェルビースト等は天文觀測器械を完成し、吳三桂の亂には大砲、小銃を製造して清軍を助けた。

清末には、ブーヴエー、レヂス等十人のフランス人は、支那全土の實測圖を完成した。その作製には九年の日數を費や

し、世界における支那地圖の原本となつた。しかもこの地圖は、支那本土各省には漢字を以て城邑、山川等の名をしるしてあるが、蒙古、滿洲、朝鮮、西藏等の關外各地には滿洲文字を以て地名を註し、支那の領土と清朝との關係を語るものとして意義深い。

宣教師にして渡來する者も非常に多くなつてきた。そしてキリスト教内の派閥鬪爭も甚だしくなつたので、後にはジエスイツト派以外は禁止された。大體、清初に於て西洋科學の重用されたのは、社會經濟的な一般文化上の必要からではなく、むしろ支那統治のための必要から出づるものが主であり宣教師の方でも、政治經濟上の目的はなく、單なる布教のための手段に過ぎなかつた。雍正帝は、すべてのキリスト教を禁止したが、乾隆帝はやゝ緩和し、建築技術の方面にこれを利用した。しかし昔日の佛はなく、漸次、西洋科學の輸入は絶えて阿片戰爭にまで及んだ。

しかしキリスト各派の爭ひの結果として、各派の宣教師達は、盛んに支那の民俗文化の研究を試みたので、その報告等は歐洲における支那知識の普及に效があつた。そして歐洲に優秀な支那研究家が輩出するやうになつた。

かく支那の思想、文學などが西洋に紹介研究されると共に、支那思想の西方文化に與へたものもまた尠くなかつた。

要するに、この時代の學藝は東西文化を綜合し、誠に隆盛であつたと共に、支那は實質上から歐洲近代國家の再認識を受けはじめたのである。

學問・思想の危機

清初全盛を極めた考證學も、その研究方法の精緻さに於て近世科學に匹敵するものであつたが、たゞ古典の批判整理に終始して、新文化の建設に留意するところがなかつたから、その研究が一定の限度に達すると、徒に學問の遊戲化となつて空論が多く、その活力は衰へた。殊に嘉慶から道光にかけて國内の秩序が紊れ、外國の脅威が加はり、就中、學藝の中心地たる江浙の地が劫掠され、學者文人の生活が壓迫されると共に、彼等の研究にも支障をきたし、これと共に日に增す内外の脅威は現實への自覺を喚起し、再び經世致用の學としての公羊學を勃興せしめた。

元來、清朝の考證學は、爛熟した漢學で、いはゆる古文學であつた。從つてその行詰りは、當然、微言大義、孔子の精神を重んずる公羊學を起したのである。龔自珍は『蒙古圖志』を著はし、魏源は『海國圖志』を書き、いづれも公羊の大義に則り、清朝の政治に鋭い批判を下した。

殊にこの公羊學を大成したのは康有爲で、彼はその政治論に於て、社會の進化を衰亂、升平、太平の三段階に分ち、公羊三世の說と禮記の大同論とを融合し、世界主義、平和主義

の大同の世の實現を期すると共に、滅滿興漢を唱へて清末革命運動に大なる影響を與へたが、彼は多分にフランス革命思想家の影響を受けてゐた。

章炳麟は、考證學のほかに佛說や西洋思想を研究して經世の學を講じ、歷史的研究の立場から排滿思想を鼓吹した。彼は民國革命の理論家として知られてゐる。また當時老子、墨子の研究が盛んになり、老墨の思想にあらはれた社會思想は西洋の理學と相通ずるものとして盛行するに至つた。

西洋文化の採用

思想的にかゝる重大局面に對すると共に、一方、政治的にも内外共に頗る多事多端であつた。六歲の同治帝が東太后、西太后の後見を受けて帝位に即くや、恭親王は自ら政治を指導し、諸外國との親和を主義とし、西洋文化を採用し舊弊を一新せんことに力めた。

第一に着手したのは軍備の改善であつた。英佛の將校を招いて歐式訓練を施し、上海、福州、蘇州、天津に兵器・兵船を造るための機械局とか船政局を設け、また陸海軍の留學生を獨、英、佛に派遣した。次で、西洋學術を修めるために留學生が米國に送られ、更に外國語の研究や自然科學の輸入に資するため、京師に同文館が置かれた。かく洋風、洋學の輸入は頗る盛大であつた。

これと共に、内政に於ては努めて滿漢の別を廢し、漢人の有力者を進んで任用することとした。これは長髮賊の亂に、漢人の功績が大きかつたためである。

かく清朝の國運を一新せんとする企圖があつたに拘らず、これら先覺者の中にさへ西洋文明の眞價は認められず、徒に精鋭なる兵器を購入し、模造し、または操練し、或は水陸の學堂を興しさへすれば强兵の實を擧げ得べしとなし、その根抵にある政治、經濟、思想の研究に思ひを致さず、しかも朝廷には洋法洋學を學ぶを以て祖法に悖る罪人となす、保守主義者もあつた。

されば同文館の卒業生も、或は衣食の資を得ることが出來ず、またアメリカへの留學生も、歸國後、職を得ずして困窮した位である。

清國は開港地に於て外國人の居住權を認めたが、支那人は外人の居住地を成る可く限定することを望み、外人もまた支那人との雜居を好まなかつたので、開港地には必ず外人居留地たる租界が發生すると共に、南京條約以後、治外法權の權利を外人に與へてしまつた。

また當時キリスト教は邪教であつたから、官吏、紳士は信徒とならず、不良の徒で宣教師の庇護を恃んで罪を遁れ、また訴訟に勝を占めんとする不純な者が信者となつた。さうして遂には教會堂の燒拂ひ、宣教師の殺戮、孤兒院の破壞、領

事館の襲撃となり、外人をして乘ずる機會を多からしめた。

經濟文化の變換

日清戰爭に脆くも敗れた支那は、日本の勝利の原因を明治維新にありとし、從來のごとき形式的な西洋模倣ではなく、國家の制度組織の變更でなければならぬ、變事でなく變法であるといふ變法自强說が唱へられ、光緒帝は、康有爲を用ひて改革に着手し、すべて日本を範とし、科學の制度や學制等が改められ、わが國の文化は著るしく支那に及んだが、朝廷にはなほ保守派の勢力衰へず、光緒帝は幽閉され、朝廷は再び守舊派によつて占められ排外の風は朝野を風靡した。

列國の烈しい利權闘爭は支那に多大の政治的影響を與へたが、阿片戰爭以後、支那に押し寄せた歐米の文化的經濟的影響は殊に甚大であつた。

西京條約以後、次第に開港場も增加し、歐米諸國との貿易が隆盛に赴くにつれ、綿糸、綿布等の輸入は大いに增加し、これに對し支那よりは茶、絹を輸出したが相殺するに至らず却つて次第に印度茶、セイロン茶、日本茶の産出が增大したのと、その質の低下したるとにより支那茶は漸次イギリス市場から驅逐された。

一般民間に於ては、外國の機械工業による多數の廉價優良なる外國製品が低い關稅を乘り越えて社會に供給され、これと同種類の支那手工業品が打擊を受けるやうになつてきた。例へば、マツチ、石油、ランプ等が入つて、蠟燭屋、提灯屋が失職し、機械製綿布が入つて小規模の農村家内工業が成立し得られなくなり、鐵道、汽船の運行と共に、從來の小運輸業者は沒落する有樣であつた。

支那の民族資本の活動も開始され、鑛山の採掘、鐵道の敷設、紡績業、製糸業が起つた。しかしかゝる經濟事情の變動と共に多數の失業者が出來て、彼等は新らしい流民として移民の名に下に夥しく海外へ流れ出た。またこの頃から諸外國の金融的進出も顯著となつてきた。

民國革命の成功

日清戰役前後から廣東の孫文を中心として滅滿興漢の革命運動が起つたが、常に失敗して孫文達は海外に亡命してゐた。

孫文は、明治二十五年、三合會と聯絡して興中會といふ秘密結社を設けたが、明治三十八年、東京で黄興と共に中國同盟會を組織して革命運動をつゞけるや、その勢は燎原の火のごとく天下の青年學生を熱狂せしめた。

宣統元年、地方議會の基礎として開かれた各省諮議局も、その翌年、國會の基礎として北京に開かれた資政院も、たゞ民論を伸張し、或は煽動するため、朝廷を壓迫する機關となつた。

偶々四川省民が叛亂を起し、武昌にあつた湖廣總督端方が武漢の兵を以て鎭壓に赴いた虚に乘じ、革命黨の黄興等は武昌に擧兵し、遁げそこねた清の旅團長黎元洪を擁して漢陽、漢口を占領し、一ケ月經たぬ中に全國の三分の二は革命動亂に投じた。民國革命はかくして成功したのである。當時孫文はアメリカにわたが急遽歸國し、臨時大總統に推され、南京に共和政府を組織し、中華民國と稱し、五色旗を國旗と定め翌年を以て民國元年とした。

かくして清朝は滅んだが、清の滅亡は歷代支那王朝の滅亡と異なり、天子の失德惡政のため民心が離れ天命が去つたためではない。西洋諸國との關係がはじまり、支那が天下を支配するといふ傳統的な天子帝國の理想そのものが滅んだためである。

七　新文化の建設

古典派の大勢

歐米文化の普及と共に、舊支那社會が漸次變貌を餘儀なくされたことは、清朝末期からの現象であるが、この傾向は、民國の成立と共に、著るしくなつた。

これを思想、學術の立場から見るに、革命當初の政治現象が新舊兩勢力の抗爭であつた如く、思想界もまた混沌たるもので、曾て革新運動の先驅者であつた康有爲、章炳麟は、袁世凱の政治的活動を支持し、劉師培は、支那には君主なかるべからずと唱して共和政治に反對し、祭天祀孔令を發して儒教を國教と定めんとした。これは革命運動の保守的傾向を代表したものであるが、この傾向は學術思想界一般に漲り、かかる傳統的守舊思想が主流となるに至つた。

これと共に、一方には西洋學術を採り入れて清朝考證學を發展させる者あり、梁啓超は革命志士としの活動と共に、墨子の研究に傑出し、墨子を以て西洋の科學精神と一致する唯一の古典だと述べ、墨子研究の風を盛んにした。

またこれとは別個に、純粹の科學的研究の業績をのこして支那學界の輝かしい存在となつたものは、羅振玉、王國維の二人による殷墟出土の龜甲文研究であり、これは支那古代史研究に一巨石を投じたものである。

王國維は、別に、道德的文學觀が傳統的に支配し詩文のみが文學研究の對象と考へられた從來の傾向に對し、戲曲、小說を文學研究の對象とし、『宋元戲曲史』を著はし、斯學の先覺となり、支那近世文學發展の一因をなした。

思想革命と文學革命

陳獨秀による思想革命、胡適による文學革命は、西洋の新文化、即ちデモクラシーと科學の移植を試みたことであり、支那新文化運動史の最初の一頁を飾つたといふことができる。

陳獨秀は民國四年、『新青年』といふ雜誌を發行し、傳統的封建的文化に反對し、新文化運動に邁進、康有爲等が帝政運動に參加して尊孔運動を起すや敢然としてこれに反對し、儒教道德は奴隷道德なりと儒教排斥の急先鋒となつた。世にこれを革命思想と稱してゐるが、この運動は更に廣く傳統的支那文化の破壞にまで進んだのである。

胡適は民國六年、『文學改良芻議』なる一文を發表し、文學には思想と感激とが含まれなければならないことを主張し、古い漢文を捨てて現代の口語文を用ひる必要があるといふ文學革命論を唱へ、青年學生屆に非常なる反響を呼び、白話文學は新文化のシノニムとさへなつた。

魯迅が、小說『狂人日記』を發表するや滿天下を狂喜せしめ、遂に現代支那文壇の指導者となるに至つた。

然るに、第一次歐洲戰爭後、ヨーロツパにおける物質文明への懷疑的傾向と共に、民國に於ても傳統的文化の復興が見え始め、また一方ではロシヤ革命及び國共合作の影響をうけて社會科學の研究が隆盛を極め、實驗主義的文化運動は衰退し、辯證法的唯物論が盛行して、社會經濟史學の擡頭が目立つてきた。これと共に左翼文學もまた全盛となり、上海を中心としてロシヤ文學が飜譯されたが、北伐完成後は、民族主義文學が鼓吹奬勵されるに至つた。

三民主義の原理

孫文の思想の中心をなすものは、いふまでもなく三民主義である。三民主義は現代支那の政治思想の指導原理である。中國國民黨の建國大綱には、

國民政府は革命の三民主義及び五權憲法に基づきて中華民國を建設す

とあり、その重要さを示してゐるが、この三民主義がはじめて公表されたのは廣東國民政府の成立當初であつた。しかしその第一聲は、明治三十八年、日本に於て結成された革命同盟會の席上に於てであつた。

三民主義も、革命運動の進展、世界情勢の變化に伴つてその內容に多少の變化を生じてゐる。しかし民族、民權、民生の三主義より成立してゐることに變りはない。

民族主義とは支那民族の獨立であり、民權主義とは各人に機會の均等を與へんとするもので全民政治といはれ、民生主義とは社會問題の解決を示すものであり、その方法として地權の平均と資本の節制とを强調する。

三民主義が西洋思潮の影響を强く受けてゐることはいふまでもなく、三民主義には共產主義と相類するもの、反帝國主義的主張、國家資本主義的意見などが陰顯し、客觀的情勢の變化に伴ひ、或はファツショ的民族運動に利用され、或は排外運動の指針となり、或は國共合作の基礎地盤となり、或は浙江財閥活躍の理論的根據を與へるやうにもなつたのである。

それ故に、汪精衞は、純正三民主義への復歸を叫んでゐるのである。三民主義は、その主唱者たる孫文が逝べてゐるやうに、飽くまでも救國主義である。

次に五權憲法とは、司法、立法、行政、考試、監察の五權であり、五權憲法を以て組織された政府が、はじめて完全な政府といひ得るといふのである。

教育の新方向

教育は、民間成立當初に於ては未だ混沌たるものであつたが、民國十八年から三民主義を以て教育の根本方針と定められ玆に於て、久しく支那の傳統的教育方針であつた孔孟の道は遺棄され、後に蔣介石の統一政策のため、再び尊孔方針が採用されたが、遂に抗日排日の教育へと劃期的の方向轉換をしたのである。

研究及び學校組織の上にも西洋思想が採り入れられ、學制も原則として初等六年、中等六年、高等四年乃至六年の三段階に分れ、この他に師範教育があるが、大體に於て日本に倣つたものと考へられる點が多い。義務教育は下級小學（六歲から十歲迄）である。

一九三〇年の調査によると、大學及び專門學校一〇三、師範學校八四六、中學校一八七四、職業學校二七二、高等小學校一三六五二、尋常小學校一七六〇六二、幼稚園八二九である。

支那は、古來、學問を尊び、教育組織も備はつてをり、外國人の手に成る教育施設も少くないが、一般民衆の大部分は文盲であるといはれる。その主なる理由は文字にありと稱され、近來、一種の假名の使用が行はれるやうになつた。

日支事變前、舊國民黨の教育方針が、東洋平和を破壞した事實に鑑み、中國臨時政府は、成立後直に北京、北平、清華、師範、交通の五大學、その他省市立五百餘の大中小學校を保管し、日支關係の和協を目指して過去の排日教科書の一掃と東亞現實の事態に立脚し、東亞諸民族の和親と協力を理想とした教育方針を決定し、政府の手で、小中學百五十五種の國定教科書を編纂すると共に、小學校教育の全般的普及竝に北支各省に於ける農村文化の振興を目標に、鄉村教育十ケ年計畫を樹立し、同時に、鄉村文化の傳播、農村知識の振興、識字運動の昂揚の三項目を揭げ、大規模なる文化運動を起し、迷信と猜疑に埋れた農村の明朗化を圖つてきた。

新支那と宗教

支那に現在行はれてゐる宗教は、佛教、道教、キリスト教回教、薩滿教等であるが、漢民族の間に最も勢力のあるのは佛教と道教であり、しかも一般支那人は儒、佛、道三教を混同して信奉してゐる現狀である。

佛教は日支事變前、二十六萬七千の共有寺廟及び庵院があり、七十三萬八千餘人の僧尼がゐた。宗派は臨濟宗が最も多く、天台、曹洞、律宗等も散見する。支那佛教の活動の中心團體は、中國佛教會と中國佛學會とである。民國の思想界哲學界の有力者が、それぞれ熱心な佛教教理の研究者であることはその特色であり、山西の五臺山は、佛教徒崇敬の中心である。

道教は、外觀頗る雜然としてをり、その教勢も數字にはあらはれてゐないが、支那人の俗信としての勢力は恐るべきものがあり、支那民族の生活を知るには道教を知らねばならぬさとへいはれるほどで、支那人の年中行事は、今日でも、道教から由來したものが多い。

回教は、現在、その教徒の數は明確でないが、約四千萬人と推定され、全支に亘り、その中心地は西北支那である。清朝時代には壓迫政策が採られ、回教徒の大叛亂があつたが、民國になつてからは或はこれを利用し、時には壓迫して新疆地方の回教徒の反亂となつた。支那の回教徒は、殆ど漢化した漢回、または東干と稱するものと、漢化の度少く頭部に布を卷く纏回とに分れ、兩者共に戒律嚴重で、漢人に比し勤勉誠實である。

キリスト教は、一八五八年の天津條約により布教權を認められてから漸次信徒の數が增加した。その中、天主教には約四千の僧尼と二百數十萬の信徒あり、特に北支五省に多い。新教は二千の外人宣教師と五千の支那人が協力して四十四萬餘の信徒を有し、婦人解放、阿片及び飯酒の禁酒問題など、實際的な奉仕運動につとめてゐる。しかも兩者とも、醫療、教育等の文化的運動に努力し、支那青年層への影響は甚大である。

交通運輸の現狀

支那の地形は、海岸線から遠く離れ、內河の利用し得るものも少くないが、鐵道、自動車等による陸地交通網の完成が目下の急務とされてゐる。最近、航空事業と共に陸上交通網の建設が着々進められてゐる。

支那事變は、比較的交通施設の整備せる地域が日本軍の占領下に入り、新政權は大いにこれを利用してゐるが、重慶政府は奧地の交通不便の地に追ひ込まれるに至つた結果、奧地に於てもまた急速に交通改善が進められてゐる。

國民政府は、一九三二年の鐵道法により、全支の鐵道を國營、公營、民營の三種に分ち、主要幹線は原則として國營とすることとなつた。一九三五年末における國有鐵道は十六線全長九千四百粁、これに私有鐵道及び省有鐵道を加ふれば約一萬粁となるが、これを資本系統別に見れば、外國資本が壓倒的勢力を占めて居り、これこそ半植民地化せんとした近代支那の特異な性格を示すものである。鐵道借款の最多額を占めるものはイギリスで、佛、獨がこれに次ぐ。

支那事變の進展と共に、一九三九年には國有鐵道の七割強が日本軍の勢力下に歸した。

揚子江、黃河、漢水をはじめ、國內を縱橫に流れる諸河川に加へるに、運河の開鑿もまた千餘年前から行はれ、支那の水運は頗る發達してゐる。現在の開港場中、澳門、汕頭、芝罘ほか五港をのぞく以外は、悉く河川に沿つて發達したことも支那らしい特徴の一つである。

商業航空事業は、從來、支那獨自の西南航空公司のほか、中國航空公司、歐亞航空公司があつたが、支那事變以後は、國民政府との關係上、經營空路の轉換を餘儀なくせられ、僅かに西南を通じ重慶と海外との連絡にあたつてゐるだけである。現在、支那本土の大部分は、塘沽停戰協定に基き、北支航空路を經營し來つた惠通公司の後身たる中華航空株式會社が運航してゐる。

第一徴兵保険株式會社

京橋區銀座西三ノ三

東京海上火災保険株式會社

東京市丸之内一ノ六

電話代表丸之内(23)三七一番

名鑑

三重、一志、豊地村

元縣會議員　**中村　治三郎**

氏は明治三年の生れにして、元一志郡農地村長、並に縣會に於て特異的存在として知られた人である。即ち一風ある名物男としても自然に備はる様式を持つてゐる偉人でもある。氏は古稀を過ぎる高齢であるが尚矍鑠として萎えざる肉體と精神力を包藏し、其の意氣は若年を撞着たらしめてゐる。

明治二十七八年日清戰役には現役として從軍し、日露戰爭にも砲煙彈雨下を潜つて功績を擧げ、更に昭和六年には中支南京、漢口方面を視察旅行を爲し、又昭和九年縣會議員當時には十名の一行に加つて皇軍將士の慰問に滿洲各地、及び泰安方面を巡運する等、前後四回に亘り大陸に足を進めたる氏は、彼地の事情に精通した人である。

縣議時代は「聯隊長」の異名を奉られ、底知れぬ胆腹に舌を捲かしめ、昭和十三年には、村治功勞者として榮譽の彰功碑を建設され、永く後世にその德を殘してゐる。

因みに碑面の揮毫は、前遞相永井柳太郎氏が、ものにしたものである。

三重、志摩、鵜方村

醫學博士　**眞田　英一**

本院は大正十五年十月、從來交通不便のため諸般の施設に遲れ、文化の惠澤に乏しく志摩郡民に濟生保健の道を講ずるため設立されたるものにして、現院長醫學博士眞田英一氏統率の下に産科婦人科外科、レントゲン科等、その他の施設と共に人材を網羅し、五棟五十室、收容人員八十名の堂々たる偉容を誇つてゐる。

附設事業に縣指定看護婦養成所があり最近には附近町村の組合組織による隔離病舍併置も實現されんとしつゝある。

本院長眞田英一氏は三重郡日永村眞田彌藏氏の三男として明治四十一年一月一日に出生、第八高等學校理科を卒へ、昭和七年三月京都帝大醫學部を卒業、更に同九年六月京大醫學院に入り辻寛治博士指導の下に滿三ケ年內科學を研究、十二年七月二十九日醫學博士の學位を授けられた。主論文は「內分泌と生體內インヂカン合成に就て」である。以來京大醫學部副手を囑託せられ辻內科に勤務中、その人格手腕を認められ昭和十三年五月高砂醫院長に招聘せられ四代目の要職に就任され、同時に縣指定高砂病院附屬看護婦養成所長となり診療の傍ら看護婦生徒

の育英に努められてゐる。

眞田博士の卓越せる手腕と崇高なる人格は高砂病院の生命であり、本院今日の盛況を贏ち得られたる要因の第一は、氏の犧牲的精進の賜物と稱するも過言ではない。

卽ち先生の果斷臨機の診療は、絶大なる信賴と敬仰を蒐める所以である。

高砂病院磐石の基礎はかゝつて先生の德望にあり、益々その發展興隆を續けてゐる。

三重、宇治山田市本町

勢南銀行 取締役 **乾 碩也**

氏は渡會郡大內山村の出身にして、東京早稻田大學の卒業である。

氏は夙に勢南銀行に入りて此處に勤務すること二十年の長きに亘り、昨昭和十五年七月、氏の確固不動の努力と、異常なる才腕は遂に酬いられる所となりて、當行頭取の要職に就任するに至た、當地方に於ける少壯實業家としての名聲を博してゐる人士である。

斯くて氏の溫厚篤實なる人格は、當地方民の多大なる信望と尊敬の的となり、併而氏の手腕に信賴して其の經濟緩和之に伴ふ經濟的向上に期待する所また甚大なるものである、而して氏は金融機關としての機能を可及的に發揮して、銀行自體の堅實なる進展を期すると共に、當地方民の福利增進に寄與する爲め、全力を傾注して日夜一途邁進してゐる。

三重、宇治山田市宮後町

糀屋商店 取締役 **河村 清之助**

氏は本年三十六歲の壯年にして、慶應大學を卒業し、代々の家業たる味噌醬油釀造業の經營に從事し、その代表取締役に就任、その明朗且つ近代的なる氏の獨自の方針に依り、健實なる發展を見てゐる。

なほ當市商工會議所議員として、將來の躍進を大いに期待されてゐる。

先代清兵衞氏は市會議長、商工會義所會頭の要職に在りて市政方面に活躍し、大なる功勞を殘した人望家であつた。

有爲なる人材として衆望厚く、多額納稅者として、家運隆々たるものがある。

家庭には四人の子女あり、圓滿なる雰圍氣は、當に明朗なる生活を招來してゐる。

三重、北牟婁、三野瀨村

農林業 正八位勳六等 **濱口 忠藏**

當家は代々農林業を營まれ、當村屈指の家柄として聞えてゐる。

當主濱口忠藏氏は明治十六年三月一日の出生にして、家業繼承以來、一意專心業務に精勵され、家運の發展向上に資するところ甚大なるものがあつた。

現在、村長、產業組合長、漁業組合長の要職にあり、村治に、產業、漁業の經濟樞軸として、產業報國に貢獻せられる功績は蓋し枚擧に遑のない位である。

卽ち兩組合長としては組合精神の普及徹底により、組合の繁榮を致し組合員の福利を增進し、延いては國力の擴大强化に寄與せんことを期され、日夜寧日なき奮鬪を續けられてゐる。

特に時局は未曾有なる難局に際會し、產業開發の根本として產業組合に課せられたる責務は益々重大なるものがあり、

これが運營の完遂により、以て東亞共榮圈確立の一翼たらんとする、氏の存在は重要不可缺のものである。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、村民の信望は絶對的である。

因に、令息は目下京都帝大、大學院には研究中である。

三重、一志、八知村

山林業 **藤田 政次郎**

氏は現在七十七歲の高齡なるが、なほ壯者を凌ぐ程の元氣である。而して談論風發にして何等衰へも見えず、新時代への風調と能く理解し、全ゆる方面に對しての經驗を基準として、社會的見識と批判は實に驚異的のものがある。

而して當主政次郎氏は六代目の人にて當地方に於ける豪家として廣く知らる。

又政次郎氏養嗣子は、津市にて醫業を營み、孫の博氏が氏の山林業を繼いで努力してゐる。

斯くて氏は溫厚篤實にして且つ誠實なる人格は、衆人の信賴と尊敬の的となつてゐる。

三重、一志、香良洲町

香良洲漁業協同組合

當地方は近海漁業に依つて其の家計を保ち、その年產額も數十萬圓と稱されてゐる。而して當地方は將來の進展も期待さるゝこと、又甚大なるものがある。

三重、一志、大三村

村長 **中島 近**

電話一七番

氏は本年三十六歲の才腕家にして、當地の舊家であり、醬油味噌の釀造を家業として、大いなる躍進を目指して、是が成果を獲得すべく、一意專心努力を續けてゐる。氏は早大の卒業にて、實に溫和誠實の紳士として衆望厚く、且つ將來への健實なる進展を期待されてゐる。更に現在大三村々長の要職に就任し、村の行政に獻身的活躍をなし、村政の堅實なる運行と共に、村民の精神的並に經濟的向上を獲得の爲め、其の努力は實に信賴と衆望の的となつてゐる。

三重、一志、香良洲町

香良洲漁業協同組合

氏は本年五十三歲にしてなほ頑健なる體力を保つてゐる。而して當地の豪家で土地及び山林々多量に所有し、是等の運營に惠念して良好の成果を收め、將來へ

理事長 今村金左衞門

氏は本年四十二歲の盛氣滿々たる紳士にて、若年の頃より組合人として活躍し、三十五歲にして理事長の職に就きて、組合の健實なる進展を圖りて其の成果を收め、併而組合員の福利增進に全力を擧げて努力し、其の信望と尊敬を一身に負えり。斯くて氏を中心としての各事業は逐次發展しつゝあり。

三重、一志、川口村

村長 **前川 定**

氏は本年五十三歲にしてなほ頑健なる體力を保つてゐる。而して當地の豪家で土地及び山林々多量に所有し、是等の運營に惠念して良好の成果を收め、將來へ

の堅實なる發展と其の擴充に邁進してゐる。

又氏は其の敏腕と誠實を認められ、村長に推されて、村政の向上に全能力を傾けて努力してゐるが、氏の人格と確固たる信念に期待される事また甚大なり。

なほ長男は歸還兵にて、名古屋三井物産へ、二男は住友社員として勤務中に出征されて目下現地に活躍中。三男は鐵道省へ、又四男は工業學校に在學中にて、その子福者なること、及び圓滿なる家庭生活は、常に羨望と信賴的信賴の的になされてゐる。

三重、一志、八知村

林業家　永納良雄

當家は本地方に古き家歷を有する舊家にして、代々林業家として聞えてゐる。

當主良雄氏は本年五十二歲、現慶應義塾々長小泉博士と同期に慶大を卒業され、その後約十年間、東京電燈に勤務したが後辭任、歸鄉以來は一意專心家業に精勵され、その業績は極めて顯著なるものがあり、その眞摯堅實なる經營方針は、同業間の好指標として賞讃の的である。

氏は資性溫厚にして篤實、識見高邁なる人格者であり、非常時局下に際會し產業の開發增進を圖り、直ちに國策に順應し、以て東亞共榮圈確立の一翼にらんことを期され、日夜間斷することなき至誠を致されてゐる。

家庭に於ては五人の子福者として極めて平和な生活を營まれ、長男は日本大學工學部在學中であるが國家非常の秋に際會し、武勳目出たき限りと云ふべきである。

三重、一志、竹原村

製材工場主　日置幸左衛門

電話四日市(代表)一七番

當家は一志郡の出身にして、本年六十三歲である。氏の生涯は多彩を極めて幾多の難關に遭遇し、特に大正八、九年當時のバニック時代には文字通りの裸一貫となり、殆ど再起は絶望されてゐたが百戰不撓の努力家である氏は、美事に鋭鋒を現はし四日市末廣町に材木商を營まれ日夜を分たぬ奮鬪により、家業は着々たる成果を擧げ、昭和九年には製材工場を竝立され、その業績は益々勝れたるものがある。

その貸付、貯蓄の膨大なること、また現下の重大時局を認識せる組合員の努力は、すべて他組合を遙かに凌駕してゐる。

創立當時の基礎に比し、現在の堅實なる發展をみれば今昔の感に堪えざるものがある。

現理事長奧坂氏以下各役員とも、日夜孜々として至誠の奉公に邁進してゐる。

氏は當理事長としてはもとより、數多の要職にあげられる資性俊敏重厚にして又情理に厚き人格者にして、夙に敬神崇祖躬らを持すること極めて嚴、氏子總代として神齋のことに與ること多年、心からなる神恩奉謝、佛恩讃仰の心境に住まはれ、その手腕達識と共に、村民の信望は絕大なるものがある。

三重、一志、八知村

八、知信用販賣購買利用組合

電話九番

當組合は村民の福利繁榮を根本とするため共同の施設をなす目的で、設立したものである。

當地は山間部にあるため、その產出品の大部分は木材で、蒟蒻、木炭等を販賣してゐる。

資性溫厚、衆庶の信用は殊の外高い。

三重、一志、豐地村

豐地村役場

電話一番

本村は群の中東部、中川、川合兩村の南隣にあり、地形北及び南に高く中部宮古川の流域に沃野が拓けてゐる。

產物は米、麥、繭等にして、學校は豐地小學校、豐地青年學校があり、神社としては豐地神社、また寺院は眞宗高田派眞性寺、曹洞宗永平寺、眞言宗高野派善福寺等がある。

名所は國寶藥師寺があり、至つて著名である。

村長　宮村芳彥

氏は明治、大正の兩時代に亘り縣政界にその人ありと知られたる宮村勇三郎氏の嗣子として明治三十二年の出生にして、縣立中學を經てさらに最高學府を卒業、以來鄉里に在つて嚴父のよき輔佐役となり鄉黨に絕大なる信望を博してゐる。

然し何分にも尊父は縣政、郡政、政村を通じ本縣政界の重鎭として幾多の貢獻をなし、殊に全國に著聞せる優良組合、豐地信用組合を創立し三十有餘年に亘る功勞者であるため、永らく尊父の陰にあつて奮闘されてゐたが、現在では村長、村農會長、翼賛會村支部長、縣壯年團聯盟理事長等の要職を兼ね、漸次華々しき表面舞台に登場されて來た。

即ち村常會、部落會、隣保班の整備確立により萬民翼賛の主旨完徹を期し着々たる實績を擧げつゝある。

氏は資性濃厚にして篤實、識見又卓抜なる俊英にして、村民の氏は屬望するところは甚大なるものがあり、今後の活躍は刮目して待たれるところである。

三重、四日市市朝日町
醫學博士　津田久三
電話一九〇七番

氏は四日市市に於ける醫學博士の草分とも云ふべき人で、今日に於ては全く粗製濫造の感があるが、二十有餘年正以前に在りての其の貴格は星の數よりも尚少かつた位で、文字通り眞の最高權威者の榮譽を獲得した學者として衆人の信頼と尊敬を一身に集めた人士である。斯くて氏は其の間研究に精進し、學界の謎を解いた手腕を持ち、早く中央に出て斯界の輿望を双肩に擔ふ偉大なる存在であつたにも拘らず、功名名聞には無關心にて、大衆の救濟或は衞生思想の普及と確保を以て自己の天分とし、同市諏訪裏に巨費を投じて大病院を設立、爾來數十年を一日の如く渡頭して、同市氏の保健衞生に不斷の努力を續けられた人である。

而るに今日漸く老齡の域に達して健康も勝れず、不得已第一線より勇退するこゝに決意して施設一切を市に寄附移管し、現在は朝日町に居を構え、閑雲野鶴を友としつゝ、斯界の仲展形相を見守つて居る。奔放磊落、極めて平民的であるため、凡ゆる階級から敬慕されてゐる。

なほ書畫骨董の鑑賞或は彫刻の愛玩を趣味として餘生を送り、興が湧けば自ら彩管を揮ひ、殊に其の漫畫の如きは全く玄人の領域に到達してゐるとの事である。

斯くて氏は當地方の元老として、又稀に見る權威ある學者として重きを爲してゐるのみならず、人情に厚く、市民に對しては協力これが世話をして、全ゆる方面に殘した功績は實に多大である。

三重、四日市市濱田町
合同運送株式會社　常務取締役　廣瀨留吉

氏は明治二十三年、四日市に生る。十七歳の頃同市驛前村山運送店に入り、忠實奉仕を續け大いに活躍せり。その後村山、山中兩者の合併に依り、大同運送店が設立せるや、四日市支店長の重責を負ひて就任せり。

昭和二年鐵道省の勸說に基き、運輸業合同の機運と成り、四日市支店、三重運輸合資會社、山中運送店を打つて一丸とする四日市合同運送株式會社の常務取締役の地位に就任す。爾來常に第一線に立つて從業員を精神的に督勵すると共に、同社の發展に寧日なき努力を傾け、昭和十四年三月專務取締役に昇進し、その敏腕と熱誠に依り、當社が縣下の運送業界に堂々と君臨し得るの業績を獲得したのは、全く氏の努力に負ふ所、尠少ならざるものがある。

氏は大兵肥滿にして物に動ぜざる人柄と、剛腹にして寡默實行の人として、縣下同業者間に斷然頭角を現し、躍進鄕土の物資輸送に東奔西走する氏に、なほ多大の進展を期待してゐる。

三重、四日市市石原町
石原產業海運株式會社

當社は馬來半島に鐵鋼石及ボーキサイト鑛の優秀なる鑛山を經營し、近くは比律賓群島及海南島に於て鐵鑛石の鑛山を經營し、本邦に於ける製鐵業及アルミニユーム工業に多大の貢獻をなしつゝあると共に、數年前より內地鑛山の開發に着手し、內地に於いも幾多の鑛山の經營をなしつゝある現狀である。此の結果單なる採掘業より轉じて、此の豐富なる資源を以て原料より製品迄の一貫作業を計畫し、この計畫の對照となつたものが、當四日市工場である。

玆に於て海陸交通至便の工業地帶として優秀なる諸條件を具備せる、四日市市舊陸濱に三十五萬坪の敷地を買收し、當社經營の內地各鑛山產の鐵石を主體としたる成果を擧げ、益々堅實なる發展を遂げつゝある。之により他よりの買鑛を併せて金銀銅製練、硫酸、燐、石灰製造を計畫し、更に將來の計畫として此の銅を加工し眞鑄砲、砲金等銅の合金製造、及び銅板、銅線の壓延を行ふ伸銅所、又硫酸より大規模なる硫安製造工場或は又樺太方面に於て採掘中の當社石炭の原料となる低溫乾溜工場及び南洋方面の特種鑛石を原料とする特種鋼の製鐵所等が四日市工場の包含する計畫である。

尚特筆すべきは從業員及その家族の福利施設の完備徹底を期し、保健衞生、修養慰安を計り、或は會社敷地の一部に住宅需當を設け全部無料にて貸與する計畫等萬全を期されてゐる。

斯くて從業員一同は專心產業の國家的使命を體し、產業報國の實を擧げんとし紛骨碎身の至誠を致しつゝある。

三重、名賀、名張町
元縣會議員　富永貞英

氏は明治三十六年師範を卒業し、爾來敎育界に君臨する所となり、縣下の最高峯津市養正小學校長に就任し、續いて名張校長に轉じて鄕關に綿を飾つてゐる。其の後名古屋大成小學校長に榮轉、此處に於て校舍の移轉新築の大事業を完成し不滅の名聲を擧げ、今なほ中京人士に富永校長の名を讃はしめてゐる。而して敎育界を去るに及んで名古屋市中區庶務課長を一ヶ年勤め、昭和三年推されて名張町長に就き、大いにその手腕を揮ひ、名

張町中興の父とし、育ての親として尊敬せられてゐる。昭和六年縣會議員に當選同十年無投票再選、政友會三重縣支部幹事長の重責に任じ、黨內外の應接處理に非凡の才腕を發揮して、大いに認められるに至つたのである。

斯くて氏の政治的生命は依然として旺盛なるものがあり、支部の樞機に軼掌してゐる聖地の縣會は、必ずや氏の捲土重來近き將來に其の懷しい颯爽たる雄姿を壇上に見ゆる日を待望し、翹望してゐるのである。

三重、志摩、鵜方村
鵜方村郵便局

當局は開設以來、當村々勢及び產業の發展に寄與して、その功績は極めて顯著なるものがある。

當局は二級郵便局として鵜方村、立神村、神明村、濱島町一部を區域として他方一般の通信事務、貯金事務、爲替事務電話交換事務に多大の便宜を計り、村民の感謝の的となつてゐる。

今や未曾有なる難局下に際會し、通信事務の重大性は言を俟たず、現局長以下從業員一致協力し遂年その業績を擴張し益々發剌たる活躍を致しつゝある。

氏は通信事務に關與、以來獻身的なる努力を續けられ、その功績は甚大なるもの

局長 勳八等 中川 雄也

のがあり勳八等を賜はる光榮に浴した。

現在信用組合長、大政翼贊會村支部理事等の要職を兼ね、日夜寧日なき至誠を捧げられてゐる。

卽ち擧國の精神を體し、八紘一字の顯現に邁進、以て東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期されてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公を信念とする人格者であり、多事多難の時局下に於て今後の活躍は衆人等しく期待するとろであり、その信望は絕大なるものがある。

三重、志摩、濱島町
海運業 井上 勇吉

常家は先代まで鰹節の製造を家業とせるものである。當主勇吉氏は明治二十年の出生にして、現在大政翼贊會志摩郡協力會議員、濱島町會議員四期、學務委員その他幾多の要職に在りて奮勵され、特に本郡海運交通の先驅者として濱島町海上交通機關の發達に貢獻せられたる功績は洵に甚大なるものがあり、町民の感激措かざるところである。

卽ち氏が海運界に關與せる大正十年當時は、本町に於ける機構施設も極めて微々たるものにして、その業勢も殆ど見るべきものがなかつたが、氏の精勵格勤により今日の盛大を贏ち得られたるものにして、本町經濟界に寄與されたる功勞者として業界はもとより、各方面の敬仰の的となつてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者にし、國家未曾有なる非常の秋に際會し、海運業を通じて國力の增進を計り、以て東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され、各員一致協力し益々奮闘を續けられてゐるが氏の今後の活躍こそは、前人等しく刮目して待つところである。

因みに、家庭は氏の人格が當に反映して、至極圓滿である。

三重、志摩、濱島町
濱島町役場

電話三二番

本町は明治二年島羽藩に屬し、同年十一月度會郡に合併され、同九年四月、三重縣の管轄するところとなり、同二十二年十月村制施行、大正八年十月一日町制を施行し今日に至れるものである。

本町は郡の西部を占め西北は度會郡と界し、南は熊野灘に面してゐる。南方海上に御座岬あり、海陸物資の集散地として聞え、鳥羽と同樣の良港にして、志摩電鐵の開通以來、海陸の交通連絡利便となり、京阪神、中京方面の遊覽客の本町名所舊蹟を探勝するものが甚だ多い。

產業は農產物、畜產物、林產物、水產物等が盛であり、官公衙は濱島郵便局、縣水產試驗場がある。學校は町立濱島女子技藝學校、その他があり、神社は村社宇氣比神社、八柱神社、楠御前八柱神社等がある。寺院は臨濟宗楓樂寺、龍江寺禪宗明王院、曹洞宗吞潮院、寶泉庵、江月寺、德林寺等にて、名勝は矢取島、目戸山、濱島古噴、朝日山、不動ノ瀧、千疋山、楠御前柱神社等があり、名物は鰹節、あはび、眞珠が高名である。

町長 柴原 庄太

氏は曩に同町漁業組合長として在職すること二ケ年半、その間、漁村經濟の樞軸としての組合精神の普及達成に盡瘁され、當時過途期にあつた組合に對處して幾多の紛糾難關を艾除し、組合員は云ふまでもなく、以て町勢の發展、經濟更生に貢獻されたる功績は衆知の事實である。

氏は明治三十八年の春には若冠二十八歲にして縣立水產學校の前身たる崎島水產學校長となり、現縣會議員石原圓吉氏の先考圓吉氏の後援を得て、水產敎育に精勵すること十四年の永きに亙つた。併も當時は實業敎育に對する認識乏しく、我が柴原校長は學校組合の議員、或は畑違ひの職員に白眼視され、延いては父兄等の心なき非難に遭ふなど、その校長生活は苦闘血涙の歷史であつた。斯くて四十二歲の二月敎育界と袂を別つたが、やがて氏の達見は同校を郡立とし、幾何もなく縣立とならしめた。

その後は保險に投じて奮闘され、極めて顯著な業績を示されたが、時恰も支那事變勃發し、間もなく衆望を擔ひ、本町長に就任され、六十路を越した身ながら銃後奉公の至誠に一貫し、晝夜兼行の努力を續けられ、或は生產擴充に、或は軍人遺家族の慰問慰藉に、文字通り滅私奉公の活動に、間斷なき鄕黨感謝の的となつてゐる。

氏は資性重厚にして謹嚴、識見又卓越せる人格者にして、その幾多の功績と共に各方面の信望は絕大なるものがある。

家庭に於ては三男二女の慈父として、それぞれ學業を授け、自治の道を與へ、親として、社會人として、偉大な足跡をのこしてゐる。

三重、志摩、鳥羽町
小濱協同漁業組合

本組合は漁村經濟の樞軸として產業の開發、經濟更生を圖り、以て組合員の福利を增進し、町勢向上に寄與せんために共同の施設をなすを目的とし、明治三十五年十二月二十六日に創設され、以來國

運の進展にともない、その機能は一層強化される事を要求され、昭和十二年二月一日、現在の組織に改組せられたるものである。

爾來幹部役員の畫策施行は洵に機宜に適し、着々とその業績を擧げ、最も堅實にして優良なる組合として嘖々たる名聲を博してゐる。

即ち、海産物漁獲高は年産約二十萬圓を算し、今後の發展は益々期待されるところである。

現組合長古川氏は先任石原氏の後を襲ひ、昭和十六年一月就任されたるものにして、統制經濟下に於ける物資不足の折柄、漁業用物資の購入、漁獲品賣捌、組合員への物資配給等に献身的なる奮闘を續けられ、その功績は洵に甚大なるものがあつた。殊に未曾有なる時難に對し、組合精神の普及徹底により直ちに國策に順應し、以て東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期され、日夜間斷なき至誠を捧げつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の精神に一貫されたる人材であり、又當地隨一の有力者として內外の信望を一身に

三重、志摩、鵜方村

農會長　森本徹也

當森本家は志摩郡鵜方村の素封家として聞え、先代確也氏も縣名夙に高く、代議士として中央、地方の政界、財界に巨大な足跡を印されたることは尙記憶に新たなものがある。

當主徹也氏はその二男として明治十九年一月の出生、明治四十三年北海道帝國大學を卒業し、翌四十四年歩兵第五十一聯隊へ入隊、大正元年滿期除隊歸鄕するや、勢南銀行、志摩電鐵株式會社各取締役として令名を馳せ、地方金融、交通界に貢獻すること甚大なるものがあつた。

なほ在軍人分會長として、鄕軍の樞軸となり、その功績は極めて顯著にして、陸軍大臣より銀盃を授與され、また帝國在鄕軍人會總裁宮殿下より最高有功章を賜はつた。

現在、村農會長、軍友會長、遺家族會長、大政翼替會志摩郡支部理事、鵜方煙草耕作組合長、その他の要職にあり、地方產業の開發に盡瘁し、特に近代的農業經營と農事の改良、山村、漁村の振興など、物心兩方面から指導啓發に貢獻されその業績と共に村民の信望は絶大なるものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、識見高邁なる人格者であり、未曾有なる難局に際會し、一層產業の增進を圖るため鵜方村水稻耕種改善役計を實施し、或は農會塾を開設し、村勢向上に資するなど、その活躍は誠に目覺しき限りである。

三重、志摩、鳥羽町

町會議員　石原楠次郎

氏は夙に漁業經濟の樞軸として組合に課せられたる責務の重大性を認識し、過去十數年間鳥羽町小濱漁業組合長の要職にあつて、組合精神の普及徹底により、組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し以て產業報國の至誠を捧げんことを期された功勞者であり、郡下漁業組合の長老として聞えてゐる。

現在志摩郡水產會理事、鳥羽町々會議員の要職を兼ね町勢の發展向上に日夜間

斷なき努力を續けられ、その業績は極めて顯著なるものがあり、今後の活躍は益々期待されてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、數々の功績と相俟つて、町民の信望は絶大である。

特に國家未曾有なる難局に際會し、新しき歷史の建設がなされんとする現在、國策に順應し以て東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期される氏の存在は、一層重大なる意義を有するものと云ふべきである。

三重、志摩、濱島町

貸席料理店組合長　森　新助

氏は明治二十年の出生にして、山田中學校の出身であり、昭和四年三月以來、三期連續して町會議員に當選し、同十一年三月、衆望を擔ひ助役に就任、町長を輔佐して萬全を期し、町勢の伸展に寄與されたる功績は、極めて顯著なるものがある。

氏はこれより先、大自然の寶庫深海に漁撈する漁人の安息所を設置し、明日の活力を注ぐに遺憾なきを期され、十數年間、貸席料理店組合長として奮闘されてゐる。

氏は夙に俊傑出藍の譽高き逸材にして若冠二十歳にして水產學校の教師として精勵され、或は消防組頭として多年貢獻せられた功により表狀を授與されるなど氏の生涯は正に奮闘の活歷史である。

現在、漁業組合長、軍友會長、その他生命保險、火災保險の代理店を經營せられ日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

特に國家未曾有なる難局に際會し、銃後施設の完備、產業經濟の樞軸として組合精神の普及徹底に依り、以て國家目的完遂一寄與せられる等、氏の活躍は目覺しきものがあり、席、溫まる暇もない。

氏はこれより先、大自然の寶庫深海に

三重、志摩、鳥羽町

常　安　寺

當寺は曹洞宗にて舊領主九鬼氏の菩提寺として、當志摩郡內の五十一個の寺を統轄する大寺院である。

現住職は二村佛學氏で、本寺の風格と尊命の確保に、或は全國的の檀家及び信徒の信望に副ふ爲の努力は實に甚大なるものである。斯くて本寺が廣く尊崇の的となつて今日の寺格を獲得し、併而本宗界に於ける頭角的地位を把握して嚴然たる名聲を馳せて、萬人が本寺に拜侍するに至るは當然のことにして、其の殷賑は又大いに期待されてゐる。

住職　二村佛學

師は名古屋の出身で、幼少頃當寺に入りて、先師の訓育を受け、且つ東京駒澤大學を卒業したる當年三十九歳の宗教界に於ける新人として嘱目されてゐる。師の圓滿なる風格、溫和なる人位は名僧高識を偲はせのものがあり、又この反面新時代に對する敏敏なる感覺と烈々たる情熱は、師に接する者をして只々偉伏するものがあり、その將來への活躍は大いに期待されてゐる。

なほ師は現覺營會郡協力會委員でもあり、斯界の方面に對しても亦その盡力に

期する所あるは勿論である。

斯くて師の存在は宗教界には勿論のこと、其の他一般社會の全ゆる方面に於ても重きを爲して、衆望の的となつてゐる。

三重、志摩、鳥羽町

町會議員 **吉田 謙介**

氏は松阪の生れにして、當地長門旅館の養子として今日に至つたのである。

一時教育界方面身を投じたるも、家業の旅館業の殷賑に伴ひ、是に專念すると共に海産物の營業にも活躍をするに至つたが、現在に在りて旅館業を長子一郎氏に委し、孫相手の穩居の身分にて後生を過し得る境遇に置かれてゐる。而して氏の人格及手腕は地方民の待望已む所なく町長の公職に、又産業組合長、及び翼贊會郡理事の要職に推擧せらるゝ所となつて、各方面に對する氏の犧牲的努力は實に驚異的事蹟を多大に殘してゐる。又人間味豐かなる氏の風格は達ふ人をして直ちに敬慕の念を起さしめて衆望を負ふこと生甚大なるものがある。現在六十一歳の高齢なるもなほ矍鑠として、大いに社會公共に貢獻してゐる、氏は全く敬服の的である。

三重、志摩、甲賀村

産業組合理事長 **松村 庄次郎**

氏は傳修大學の出身にして、歸鄉の上當地方の教育者として鄉土士弟の教育に從事したるが、數年にして意を轉じ、産業組合設立されるや其の理事長に就任し氏の學識と事業人としての才腕を以て、專ら組合の發展に專念し、逐次榮進の一途を辿り、村民の經濟的向上と其の緩和に貢獻したる事蹟は實に甚大なるものがあり、併而經濟中樞としての確固たる基礎を築き得るに至つたのである。斯くて氏の組合人としての造詣は實に深きものがあり、新體制下に於ける産業組合運營に對する氏の才腕と薫蓄は、大いに期待し得る所のものがある。なほ村會議員の公共事業へは勿論、其の要職にも在り、公共事業方面に對しても驚異的事蹟を殘して居り、氏の存在は當地方に於て實に重要なる人士として嘱目されてゐる。

三重、北牟婁、尾鷲町

實業家 **速水 健治郎**

氏は明治七年十二月の出生にして、聖地三重の財界、事業界の重鎭として聞え百五銀行、引本醬油、三重共同蓄貯銀行相互商事株式會社等の社長、取締役の要職にあるのみならず漁村に在つては引本漁業組合を設立し、山村にとつては縣山林會副會長として、兩者ながら大衆の福祉增進に、涙ぐましき奮闘をつゞけられその功績は甚大なるものがある。

卽ち昭和五年、山林會總裁宮殿下より有功賞を拜受するの光榮に浴された。

現在は前記各要職の傍ら、一千數百町歩に及ぶ山林經營に主力を注ぎ、雜木林並に用材の改良、製炭事業の開發等に盡力し、益々積極的なる活躍を續けられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、高風清節の逸材であり、衆望極めて篤く、幾度か代議士、長者議員に立候補を促されたが、氏は一切耳を藉さず、實質的には政治家以上の手腕を發揮も、數々の業績を殘し

てゐる。

時恰も未曾有なる時難に際會し、産業の開發は直ちに國力に貢獻するものであり、延いては東亞共榮圈確立の基礎にして、この難局下に於てこの人材を得たることは、聖地三重の大なる誇と云ふである。

三重、北牟婁、尾鷲町

商工聯合會北牟婁支部長 **土井 忠兵衞**

氏は明治十六年七月七日に生る。溫厚篤實、公德心に富み、つねに地方自治の發展と民福の增進に力を盡し、地方民の仰慕極めて厚いものがある。明治三十一年十六歳にして家督を相續し、父祖の遺業を繼承したが、爾來自己所有の山林一千百餘町歩の經營に當り、合理的施業を行つて一般に範を示し、地方林業界の進歩改善に務めてゐる。明治四十五年に尾鷲林産物同業組合を設立し、自ら組合長として活躍し、天下に誇る尾鷲材の聲價向上に一意邁進して、遂に今日の旺盛を見るの因を作つたのである。

氏は又、三重縣山林會林政調査會委員、八木山土工保護森林組合長、縣山林會評議員、帝國森林會評議員、三重地方森林會議員等々の林界に於ける要職に就きて貢獻を爲し、又北紀銀行取締役、頭取として現在に及び、金融業に盡瘁、また商工聯合會北牟婁支部長の要職に就任して大いにその手腕を揮つてゐる。

氏は尾鷲高等女學校建築費を寄附して紺綬褒章を賜はり、その後縣立尾鷲中學の建築に際しては私財を醵出して同飾版を授與されてゐる。常に博覽會、共進會などへ木炭、木材を出品し多數の彰狀を受けてゐる。大正二年町會議員に推され今日に至るまで此の方面にも貢獻したる事績は實に多大なもので、氏の將來に對する事業の進展は大いに期待されてゐる所である。

三重、北牟婁、相賀町

製材業 **岡本 銀次郎**

氏は明治三十三年大阪に出生し、約十年前本相賀町に轉居され、製材業を經營されて現在に至れるものである。

氏は本業開始以來は家運の興隆發展に不眠不休の奮闘を續けられ、その間幾多の難關に遭遇したるも、不撓不屈の氏は美事にこれを突破し、遂に今日の大規模なる製材所を建設されるに成功したるものである。

現在當町同業界の重鎭として、その堅實眞摯なる營業方針は絶大なる信望を有し、好評嘖々たるものがある。

氏は又本事變發生するや勇躍應召され赫々たる武勳を樹立し、目出度く歸還されたる勇士である。

資性質實にして剛健、滅私奉公の精神に一貫されたる人格者にして、その新進氣鋭の才幹は今後の活躍を期待して充分なるものがある。

家庭には夫人千穗榮さんとの間に、六人の子女を惠まれ、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

三重、北牟婁、相賀町

製材業 **熊谷 甚太郎**

電話五〇番

氏は明治四十一年の出生にして、夙に俊敏出藍の譽高く、若冠三十歳にして獨

立、製材業を經營され、以來家業の發展向上に日夜粉骨碎身の努力を續けられ、その堅實眞摯なる營業方針を以て着々たる業績を示し、遂に今日の盛大を贏ち得られたるものである。

現在、本相賀町業界に於ける新進氣鋭の事業家として重きをなし、その聲望は絶大なるものがある。

氏は資性俊敏にして重厚、仁德に厚き人格者であり、夙に本業を以て國策に順應し、滅私奉公の精神に一貫し、片々たる利害を超越して、大東亞共榮圈確立に貢献せんことを期されてゐる。然もなほ前途幾春秋に富み、今後の活躍は益々期待されるところである。

家庭に於ては、夫人みきさんとの間に三子を擧げ、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

三重、北牟婁、尾鷲町

中岡産婦人科院

電話七〇番

本院は大正九年現院長中岡邦治氏の開院されたるものにして、氏は明治二十五年七月十九日の出生。大正六年慈惠會醫學專門學校卒業後、醫師の免許を受け、大正六年四月より翌七年三月まで同校附屬病院に勤務され、以來本院開設まで高崎市佐藤醫院に勤務した。

氏は醫療報國の精神の下に日夜献身的な研鑽を續けられ、曩には尾鷲町幼稚園嘱託醫、産婆養成所教授等を歴任され、當町民體位向上に貢献するところ甚大なるものがあつたが、一層斯學の深奥を研究せんとして昭和九年六月、再び慈惠醫大研究科に入學し、同十二年卒業、遂に昭和十五年三月醫學博士の學位を受けられた。

提出論文は、第一編「近紫外線ノ土壤虫卵ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究」第二編「近紫外線ノ目高魚ノ卵發育ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究」である。

氏は資性溫厚にして篤實、識見高邁なる人格者にして、現在郡醫師會理事、當町幾多の小學校醫を兼任せられ、その卓抜せる臨床手腕と共に斯界の聲望は絶大なるものがあり、又町民の敬仰を一身に蒐められてゐる。

また多彩なる趣味人として、劍道、茶道、乘馬等を嗜み、何れも大家の見識を有してゐる事を以てしても氏の風格を知るべきである。

三重、北牟婁、九鬼村

素封家 中村國助

當家は先代より當九鬼村に居住し、海産物仲買業、並に林業を經營され、當地方に於て一、二を競ふ資産家として聞えてゐる。

當主國助氏は本年六十五歳、家業繼承以來は專心業務に精勵され、その堅實にして眞摯なる營業方針は同業界の好指標として好評嘖々たるものがある。特に國家未曾有なる難局に際會したる現在、産業の開發に依り國力の增進に貢献し、臣道實踐の至誠を捧げるべく、日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、又情理に厚き人格者であり、本村内有力なる存在として、業者間の信望は絶大なるものがある。家庭に二男子を惠まれ、長兄は夙に家業に奮闘され、次男は横濱專門學校卒業後、本事變に應召され、北支に轉戰、

赫々たる武勳を樹立され、最近目出度歸還、目下は家業に從事されてゐる。

三重、北牟婁、相賀町

醫師 永谷正一

氏は明治四十三年、愛知縣の出身である、夙に醫學に志を立て、昭和十年名古屋醫科大學を卒業後、相賀町神谷病院に勤務され現在に至れるものである。

氏は專心醫療報國に邁進し、町民の體位向上を圖り以て質實剛健なる精神を涵養せんことを目的とし、日夜間斷なき努力を續けられてゐるが、その臨床手腕と識見は定評のあるところにして患家の信望は絶大なるものがある。殊に時局は未曾有なる難局下にあり、人的資源の要望今日の如きはなく、この國家目的に順應するために氏の如く新進氣鋭の人材を得たることは、實に本町の幸福のみにとゞまらない。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の精神に一貫されたる人格者であり、なほ前途幾春秋に富み、その將來は益々期待されてゐる。

三重、北牟婁、相賀町

農繭會委員 柴田元一

當家は代々當船津村に農を家業とせる舊家にして當主元一氏は尊父庄次郎氏の男として明治四十四年に出生した。

氏は尾鷲中學校卒業後、現役兵として入隊され陸軍少尉の肩書を有してゐる。除隊後は父君を補佐して專心家業に盡瘁される一方、農繭會委員として鄉土統後青年の訓育指導に努力されてゐる。

氏は資性質實にして剛健、新進氣鋭の人材にして、現下帝國の直面せる事態を正確に認識し、村民一致協力、産業の增進を計り、以て東亞共榮圈確立の國家目的完遂の一翼たらんことを期され、營々致々たる奮闘を續けられてゐる。

即ち村内に於ける信望は甚大なるものがあり、氏に課せられたる期待は重且大にして、今後の活躍は刮目に値ひするものがある。

家庭に於ては尊父庄次郎氏八十歳の高齢を以て益々健在、昨年結婚されたる、つぎの夫人と、琴瑟相和し平和な生活を營まれてゐる。

三重、北牟婁、尾鷲町

尾鷲町役場

電話一番

本町は太古、神武天皇御東征の砌統制し賜ひし土地の一部にて熊野と稱した。明治二十一年四月、中井、天滿、矢濱、向井、大曾根、南の六ケ村を合せ町制を實施、尾鷲町と稱し現在に至る。

東は太平洋、西は奈良縣吉野郡上北山村に、南は南牟婁郡北輪内、北は北牟婁郡相賀町に接してゐる。

産業は水産、木材、炭材、木炭が主なるものである。

學校は尾鷲中學校、尾鷲高等女學校、尾鷲小學校その他九校がある。

神社は鄉社尾鷲神社があり、寺院に曹洞宗金剛寺がある。

町勲七等 長之助

氏は當尾鷲町長その他數多の要職を兼任せられ、町勢の發

展興隆に日夜寧日なき努力を續けられ、その功績は極めて顯著なるものがあり、その溫厚篤實なる人格と共に町民の信望は絶大なるものがある。

三重、北牟婁、尾鷲町
町會議員 歯科醫 **仲 美男**

氏の家は特に名門ではないが相當古い家柄である。氏は當地方齒科醫界の長老で、三十年の長期に亘る歷史を有し、患者の信賴を受けてゐること實に莫大である。副院長の繁也氏は令息にして、東京齒科醫學專門學校を卒業して居り、家業を扶けて活躍をしてゐる。醫師岡村齋一郎氏は純神道の研究家であり、又書を著はしてゐる程の人で、その外醫師一名と從業婦三名が從事、尙設備の完備してゐる醫院として有名である。氏は又、日刊「南海新報」の經營にも裏面的に援助してゐる。現在町會議員の要職にもあり、その職責を全ふしてゐる。

氏は齒科醫としてその家業に專念してゐるが、特に患者に對して親切第一主義を以て臨み、常に斯業の研究に沒頭して患者への福音に務めてゐる。そのほか保險の普及に、又健康保險の完璧に一身を堵してゐる。

更に溫厚篤實にして高潔清廉の人格は衆人の多大なる信賴と尊敬を一身に集め且つ大いなる期待を掛けられてゐる。

三重、北牟婁、船津村
植林業 **楠 三郎**

當家は先祖代々植林業を家業とし、又地主として聞え、當主三郎氏に至つて十三代の家歷を有する名望家である。

當主三郎氏は本年五十七歲、家業繼承以來は專心これが進展に精勵し、同時に產業經濟の樞軸として產業組合長として產業活躍、或は耕地整理、河川工事等、村勢の發達向上に貢獻されたる功績は甚大なるものがある。

特に時局は未曾有なる難局に際會し、產業組合に課せられたる責務は愈々重且大なるものを認識し、組合精神の普及徹底により、組合員の福利を增進し以て村勢の擴充强化に寄與し、延いては國家目的完遂に資せんことを期されてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、情理に厚き人格者にして、村治、經濟更生に殘されたる功績と共に村民の信望は絶大なるものがある。

家族は尊父九十三歲の高齡を以て益々健在にして、長男は京都帝大法學部在學中、その外七人の子女を惠まれ、和氣藹々たる生活を營まれ、村民羨望の的となつてゐる。

三重、北牟婁、引本町
醫師 **奥野幸左衞門**

電話二八番

氏は學校卒業後、なほ十有餘年に亘り東京に於て醫學を研究し、當地開業以來既に二十年の歷史を有し、その醫療、衞生設備の完備と明敏果斷の臨床手腕は、夙に定評のあるものにして、患家の信賴は頗る厚く、嘖々たる名聲を博し、當院の基礎は磐石の感がある。

現在引本町軍友會長、翼贊會町支部理事の要職を兼ね、非常時局下の國策に順應し、國力增進、下部組織の使命達成に或は出征軍人遺家族の慰問等銃後國民の

指導者として日夜間斷なき努力が續けられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、識見高邁なる人格者であり、哲學、宗敎、社會問題等行くところ可ならざるはなき博學の士でもある。

氏は本年五十六歲、その數多の功績と共に町民信望は絶大なるものがあり、本町屈指の偉才として今後の活躍は益々期待されてゐる。

三重、北牟婁、桂城村
鳥勝定置漁業共同組合

本組合は當時の桂城村の狀態に即し、漁業經濟の樞軸として、その存立は不可缺のものなるを痛感し、有志一同の盡力により相互扶助、共存共榮の組合精神の普及達成により、組合員の福利を增進し延いては村勢の擴充進展に寄與せんことを期されて設立されたるものである。

設立以來既に五年、この間組合員協力一致して業績の發展に盡瘁され、着々たる成果を收め、その業況は逐年增進し、最も優良なる組合として嘖々たる名聲を博してゐる。

即ち尊父忠太郎氏は區會議員を始め幾多の公職を歷任し、極めて顯著なる功績を殘されたるは町民周知の事實である。特に廣大なる町有林を所有するに至りたるは全く氏の努力によるものにして、その町財政に寄與されたるところは甚大である。然も老來益々壯健、悠々自適して居られるは、洵に目出度き限りである。

常主正平氏はその男として、明治十七年十月の出生にして、曩に軍人分會長、尾鷲町長、漁業組合長等の要職を歷任し精勵恪勤致らざるなき努力を續けられ、現在三重縣々會議員その他の公職にあり日夜滅私奉公の至誠を捧げつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、識見高邁なる人格者にして、未曾有なる非常時局下に於て大政翼贊會の主旨を普及徹底せしめるべく、各方面に新體制の眞意義を演じ、日本精神の眞髓發揮に貢獻され、町民の信望は絶對的なるものがある。

三重、北牟婁、尾鷲町
縣會議員 **濱田正平**

三重、北牟婁、長島町
長島町役場

電話一番

常家は當町に連綿たる家歷を誇る隨一の舊家であり名望家として聞えてゐる。

組合長 山口勝三郎
（郡内にても屈指の商店として堅實眞摯な營業方針を喧傳されてゐた。本組合長就任以來は日夜業界の向上に精勵し、特に未曾有なる時難に際會、本組合に課せられたる責務の益々重大なるを認識され、公益優先、產業報國の至誠を捧げ、以て聖戰目的完遂に貢獻されつつある。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の精神に一貫されたる人格者であり、業界の信望は絶大なるものがある。

氏は夙に當地に於て海產物商を營まれ

本町は明治二十一年四月長島浦を長島村となし、同三十二年三月町制を實施して今日に至つた。縣道木本線、外吉津、長島線、大杉谷線等があり、又省線鐵道長島驛ありて交通至便の要地である。

産業は地勢の關係上水産が最も發達しその他鬼菜石花菜、甘橘類が盛である。

學校に長島小學校、長島青年學校があり、神社は村社長島神社、寺院に曹洞宗佛光寺、眞宗長樂寺がある。

名所に愛宕山、大島、江ノ浦、長島城跡があり、鮑、甘菓子は當町の名物として著名なるものである。

助役　大久保宗十郎

當家は連絡三百有餘年の家歴を有し、先祖代々庄屋として聞えたる赤羽村切つての名望家である。

氏は明治十年十月二十一日の出生にして、養に赤羽村收入役、助役、村長、郡會議員、縣町村長會監事等の要職を歴任され、村治に貢獻すること多年、現在長島町會議員、助役として、町長石倉龜三郎氏を輔け、町勢の進展向上に寧日なき努力を續けられてゐる。

殊に長島町より赤羽村に通ずる縣道は全く氏の奮鬪により開通せるものにしてその功績は甚大なるものである。

氏は資性溫厚にして篤實、圓滿なる人格者であり、町民の信望は極めて厚い。

三重、北牟婁、須賀利村　須賀利村漁業組合

組合長　村　山下清助

本組合は漁業經濟の樞軸として、事業の合理化により組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し、以て村勢に寄與せんことを目的とし、明治三十六年六月設立したるものにして、以來國勢の進展に伴ひ組合の機構も、一層の整備强化を要求されるに至り、昭和十一年四月現在の組織に改組したるものである。

爾來幹部役員の經營は、まことに機宜に適し、極めて活潑なる業績を擧げ、縣下最も優秀なる組合として、その名聲は嘖々たるものがある。

即ち本組合は昨年度農林省より七萬圓の補助金を受け幾多の事業を完遂し、而も今回令國水産界に魁けて漁場より直接中央の需要者に供給し、以て底物價政策の主旨を顯現せんことを期し一月より、縣漁業組合聯合會を通じ共同出荷を行ひつつある。

なほ今後の事業として完全なる冷凍設備の設置等が計畫されてあり、その實現も近きにありと期待されてゐる。

氏は明治三十五年の出生にして、前名を恭一と稱し、先代清助氏の遺志に依り清助を襲名し、漁業家として當家五代目を繼承した。

氏は日本大學商經科に學び、學成るや歸村して現に須賀利村漁業組合長、翼賛會須賀利村支部理事、村會議員等その他幾多の要職にあり、日夜東奔西走し寧日なき奮鬪を續けられ、その功績は甚大なるものがある。特に大陸發展に熱烈なる抱負を藏し、最近も海南島その他を視察され、その豐富なる識見手腕は實業果の嘱望するところであり、知名大會社より指導者として懇望されること枚擧に遑のない程である。資性溫厚にして篤實、又情理に厚き人格者にして、各方面の信望は絶大なるものがある。

三重、北牟婁、錦町　錦漁業協同組合

當組合は漁村經濟の樞軸として、その存立は不可缺のものなるを痛感し、有志一同の盡力により、相互扶助、共存共榮の組合精神の普及達成により、組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し延いては町勢の擴充進展に寄與せんことを目的とし、明治三十六年二月十八日創立せられ、その後國勢の進展に相俟つて組合機構の整備强化の必要を見、昭和十年九月十日現組織の制定を見たるものである。

本組合は錦町一圓を區域となし、その業績は極めて顯著なるものがあり今後の發展は益々期待されてゐる。

即ち共同販賣事業は鰯定置漁業、揾揚繰網その他の漁穫高は逐年向上の途を辿り、共同購買事業は國策の遂行上各種物資に統制に依り配給機構に大變革を加へられたるにも拘らず、本組合の設備宣しきを得、就中石油類に關しては實績等に依り配給せられるため組合員に大なる不便を感じしめず、貸付事業は前記の通り配給機構の變體革と需要物資の統制强化に漁業用資材に於ては總て現金に等しき取引の關係上多額の資金を要し、本年度の貸付漁船新造、漁具、漁網購入資金等にして、これが回收の狀況は全般的に可成り良好の成績を示し、その他各事業とも極めて發剌たる業績を擧げてゐる。

組合長　坂口久之進

氏は三重師範卒後當町小學校に奉職し兒童訓育に精勵すること二十餘年に及び、教育界に寄與されたる功績は甚大なるものがあつた。

現在組合長、大政翼賛會錦町支部理事の要職にあり、愈々奮鬪を續けられてゐるが、現組合の各理事は殆ど氏の德化を受けたる教へ子であり、その德望は絶對的である。

三重、北牟婁、尾鷲町　尾鷲漁業協同組合

本組合は明治三十六年二月二十四日設立許可を受け、爾來內容の充實に、諸設備の完全、堅實なる經營等に依り、着々その事績を擧げて今日この盛榮を獲得するに至つたのである。而して現在保證責任の組合であり、內山平藏氏を組合長に推藏して、本組合の盛榮に邁進してゐるのみでなく、その全機能を發揮して組合員の業務上指導並びに奬勵、併而是が連絡に完璧を期して、驚異的躍進をしてゐる。

斯くて現在に於ける業界中にあつてその事業、設備、其他全ゆる角度より觀るも縣下でも優秀組合として認められ、且つ將來への發展も多大の期待を掛けられてゐる。

組合長　內山平藏

氏は引本町の出身で昭和十二年郡水産會の副會長に推され更に同十五年三月會長に就任、斯くて氏の特異的手腕を揮ひ、豐かなる蘊蓄を傾けて東奔西走、以てその職意を完ふして多大の貢獻をしてゐる、なほ氏は引本町役場を經て須賀村助役兼漁業組合長を十數年の長期に亘つて勤務、昭和十二年尾鷲漁業組合長に就任した北牟婁郡水産界きつての權威者である。

資性溫厚にして高潔清廉の人格は衆望と尊敬を一身にあつめ、併て町長が氏への

對して期待してゐる事に副ふため實に目ざましい活躍をしてゐる。今や非常時局下に於ける水産界の使命は益々大なる折柄氏の奮闘を希つてやまないものがある。

三重、北牟婁、尾鷲町

林業家　土井八郎兵衛

當家の祖はもと三河武士にして、代々海部郡濱中に住居してゐたが後、當尾鷲町に移り、當時何人も夢想だにしなかつた植林事業の遠大なる計畫を樹て、近郷近在はもとより、遠く和歌山領北山の邊りまで、人工植栽による山林經營に當つた。

その子孫又相ついで祖業に從事し、精勵恪勤致らざるはなく、連綿玆に三百餘年、單に林業三重の大御所たるに止まらず、今や同家の所有林は全國的に著名なるものである。

當主八郎右衞門氏は明治五年十月十日の出生にして、夙に俊敏出藍の譽高き逸材として聞え、明治二十三年帝都に遊學最高學府を修めて、明治二十六年歸鄉し父家を繼承された。

以來性來の快腕は遺憾なく發揮され、克く植林方法の改善並に保護、奬勵に努力すると共に搬材の機械化、林道の開鑿生產品の規格統一、販賣方途の合理化確立等々に不斷の盡瘁をなし、尾鷲用材の今日の名聲を轟かすに至つた重因は、殆んど氏に歸するものと云ふも溢美ではない。

氏は又同地方切つての有力者として信望篤く、衆には株式會社尾鷲銀行を創設してその頭取となり、或は日本勸業銀行支店の前身たる三重農工銀行の設立委員となり、更に北牟婁郡會議員、三重地方森林會議員等の要職に推薦され、地方財政に偉大なる足跡を殘されたる一方、社會公共事業のためには物的、心的兩面に亘り甚大なる貢獻を致してゐる。

就中、三千噸級汽船を橫付けにし得る尾鷲築港の完成に盡瘁されたる功績は燦然として輝き、永遠不滅の光彩を放つてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、その數多の業績と相俟つて當地方に於ける聲望は絕對的である。

三重、北牟婁、尾鷲町

實業家　井上秀作

氏は明治二十八年一月の出生にして、夙に俊敏出藍の譽高き逸材として聞え、同志社大學法學部經濟學科を卒業し、大正十年大阪ビルブローカー證券へ入社し後調査課長に榮進したが、昭和八年尾鷲町土井本店の招聘に應じ顧問となり、土井石油會社の設立に關與し、これが取締役に就任され、同十一年土井林業株式會社取締役、次で三和林業を創立し、その代表取締役となり、その他尾鷲工作所、三和自動車商會、三和海運商會を各創立その取締役會長に就任、又尾鷲索道、三重礦油などの重役を兼ねてゐる。

斯くの如く氏は天下に著聞せる大土井の事業を背負つて飛躍的な手腕を揮ひ、紀州事業界の第一人者として聲望は絕大なるものがある。

由來紀州の天地は海と山との資源に惠まれ、特に近時の交通は頓に利便の度を加へ、その上に當井上氏の如き卓越せる人材を得たることは、今後の發展に重大なる貢獻をなすものとして注目され、事業界、政界に颯爽たる勇姿を仰ぐのも近きにありと期待されてゐる。

氏は資性謹嚴にして重厚、識見又高邁なる人格者にして、その手腕力量と相俟つて、鄉土の敬仰を一身に蒐められてゐる。

三重、北牟婁、尾鷲町

北牟婁郡水產會

當水產會は、大正十一年水產會法が制定せられると同時に設立されたるものにして、傘下に十七の漁業組合を擁してゐる。

爾來二十餘年その使命とする業界の指導、奬勵及業者間の連絡に大いなる治績をあげ、殊に近年躍進目覺しい沿岸定置漁業の健全な發達に力を効し、全國に誇る鰯敷漁場に凱歌をあげ、水產三重の雄たる機關として寔に顯著な活動を續け、本縣下沿岸漁獲高の三割を北部で占有してゐる。また鮪、鰹など遠洋漁業にも努力し、引本、尾鷲、須賀利を主として逐年發剌たる成績を示し、度會郡に次ぐ生產高を擧げるに至つた。

會長　內山平藏

創立當代より多年會長の重位にあつた速水健治郎氏は餘りにも有名な業界の最高峰、先覺者であり、その功績は喋々を要しないが、昭和十二年副會長に推され、更に同十五年三月會長に就任せられたる我が內山平藏氏は引本町の出生にして、尾鷲町役場、引本町役場を經て須賀利村助役兼漁業組合長を十數年間勤務、昭和十二年尾鷲漁業組合長に就任せる北牟婁郡水產界切つての權威者である、斯の人材と天與の條件に惠まれたる本會の前途は、益々多幸なるものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、手腕又卓越せる人格者であり、その信望は絕大なるものがある。

會長　內山平藏

速水健治郎氏は餘りにも有名な業界の最高峰、先覺者であり、その功績は喋々を要しないが、昭和十二年副會長に推され、更に同十五年三月會長に就任せられたる我が內山平藏氏は引本町の出生にして、尾鷲町役場、引本町役場を經て須賀利村助役兼漁業組合長を十數年間勤務、昭和十二年尾鷲漁業組合長に就任せる北牟婁郡水產界切つての權威者である、斯の人材と天與の條件に惠まれたる本會の前途は、益々多幸なるものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、手腕又卓越せる人格者であり、その信望は絕大なるものがある。

町長　吉田惣次郎

氏は大政翼贊會錦町支部長、農會長、畜產組合長等の要職を兼ね日夜奮闘を續けられ、部落常會を通じて町勢の進展に寄與されたる功績は極めて甚大なるものがある。

特に當町は、神武天皇御東征の砌御上陸の地にして、氏は錦町顯彰會を設立し自ら會長に就任されてゐる。

卽ち畏くも 神武天皇の御東遷あらせらるゝや、大和に御討入あらせられるに際し、荒阪津、又の名は丹敷浦に兇賊丹敷戶畔を誅戮あらせられた。その荒阪津なる丹敷浦はこゝ三重縣北牟婁郡錦村として嚴然昔のまゝに存してゐる。然るに世の學者或は濱の宮說を唱へ、新宮說を唱へ、或は二木島を唱へ、その他なほ二三の說をなすに鑑み、本錦村聖蹟顯彰會を設立されたるものである。

こゝに三重縣史蹟名勝天然記念物調査會委員鈴木敏雄氏は、夙に皇祖の御東遷

三重、北牟婁、錦町

錦町役場

當町は昭和十五年十一月、二千六百年を記念に町制を施行せられたるものにして、產物は水產、林產、農產、工產、畜

にあたり、丹敷浦御上陸なる重大聖蹟の明確ならざるを慨し、數年來志摩郡及南北兩牟婁郡は言ふに及ばず、遠く東牟婁郡に赴き、最近の發達になる考古學的見地より精細に現地を調査し、更に古書に參照し、遂に斷じてこの聖蹟はこの地北牟婁郡錦村にありと決定した。

之盛し村民の古傳と自重心に符合せるものであり、こゝに至るまでの町長吉田氏の功績も、又大なりと云はなければならない。

三重、北牟婁、尾鷲町
木材業　福山　稔
電話五三番

當家は祖父の代まで林業を營まれてゐたが、尊父稻太郎氏に至つて木材業を家業とされ、以來四十餘年の歷史を有し、當地業界の重鎭として聞えてゐる。

稻太郎氏は多年町會議員として町政に參與し、幾多の業績を殘されたる長老的存在であり、又德望高き人格者である。現在もなほ重鎭として林產物同業組合評議員の要職にあつて、業界の樞機に關係し益々精勵を續けられてゐる。

當主稔氏はその長男として明治三十六年七月二十一日に出生し、三島重砲兵聯隊に入隊、少尉に任官された。

現在、在鄕軍人分會長、大政翼贊會尾鷲支部理事等の要職を兼任せられ、日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

氏の抱負は人間生活の三大要素たる住宅に關係する事業上、その責務の重大なるを認識し、國策の線に沿ひ、職域奉公の完遂を期するにあり、就中、小業者と雖も充分なる機能の發揮を可能ならしめる組織制定の急務なることを痛感し、これが達成に貢獻せんことを念願としてゐる。

氏は資性實直にして剛健、滅私奉公の精神に一貫されたる人格者であり、當尾鷲町を背負つて立つ中心的なる逸材として、町民の信望は絕大である。

三重、北牟婁、長島町
長島信用組合

當組合は產業經濟の樞軸として、業界の相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、組合員の福利增進を圖り、以て町勢の發展に寄與せんことを目的とし、大正十五年二月十五日設立認可を得たるものである。

爾來、幹部役員の畫策施行はまことに機宜に適し、着々たる業績を擧げ、極めて順調なる發展を遂げつゝある。

特に國家未曾有なる難局に際會し、組合に課せられたる責務は愈々重大なるものがあり、組合員一致協力現時局を認識し、產業報國の實を擧げ以て東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期されてゐる。

組名長　大西義之助

氏は雜貨、米穀、煙草販賣を家業とし堅實眞摯な營業方針を以て聞えてゐるが、長島町當時の慘況により產業組合設立の急務なることを痛感し、有志と相謀り、遂に本組合の設立を見、以來引續き組合長の要職にあつて精勵し、本組合今日の盛況を贏ち得られたるものであり、その功勞は甚大なるものがある。

なほ現に米穀產業組合長、翼贊會支部理事等の要職をも兼任され、日夜寧日なき奮鬪を續けられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の精神に一貫されたる人格者であり、本町經濟更生に貢獻せられたる幾多の業績と相俟つて町民の信望は絕對的である。

三重、北牟婁、引本町
林業家　濱田　半四郎

當家の祖は遠く豐臣秀吉の族下として勇名を馳せたる家柄であり、以來連綿たる家歷を有する舊家である。

林業を以て家業としてからも既に六十有餘年を算し、當地林業界の重鎭としてその發刺たる業績と共に業界の信望は頗る厚い。

當主半四郎氏は本年二十八歲、新進氣銳の事業家として、父業繼承以來の活躍は瞠目に値するものがあり、その堅實眞摯なる營業方針は業界に於ける好指標として嘖々たる名聲を博してゐる。

氏は今支那事變勃發するや、勇躍應召され、赫々たる武勳を樹立され、この程凱還されたる勇士である。

現在翼贊會町支部理事として日夜寧日なき奮鬪を續けられてゐるが、特に氏の抱負とするところは、專ら質實剛健なる氣風を涵養し、以て銃後青年の意氣を昂揚し、未曾有なる時難に卽して微動もせざる人材を育成せんことである。

氏は資性謹嚴にし實直、滅私奉公の至誠に一貫されたる逸材であり、然もなほ前途に幾春秋を惠まれ、他日の大成は衆人等しく嘱望するところである。

家庭に於ては夫人との間に、一男を擧げ、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

三重、北牟婁、引本町
引本町信用組合

本組合は當町に於ける金融機關として昭和三年設立されたるも、創業當時は幾多の難關に遭遇したが、幹部役員の身的な奮鬪によりこれを克服し、その後は基礎ゝ鞏固になり極めて順調なる發展を擧げ、その出資總額は九十二萬圓に達し以て町勢の進展に寄與せんことを目的とし、殊に未曾有なる時艱に際會し、庶民金融の圓滑を圖り以て產業の開發に資せんことは本組合に課せられたる重責にして組合員一致協力して初期の目的完遂に精勵しつゝあり、その前途は益々有望なるものがある。

理事長　濱田　雅郎

氏は多年本組合の專務理事として貢獻され、その功績は極めて顯著なるものがあり、昭和十六年二月、手腕と力量とに依り衆望を擔つて組合長に就任され、以來は組合精神の普及徹底により國策に順應し、以て東亞共榮圈確立の一翼として臣道實踐の至誠を致さんことを期され日夜寧日なき努力を續けられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、その功績と共に業界の信望は絕大なものである。

三重、北牟婁、引本町
引本漁業協同組合

本組合は組合精神の普及徹底により、組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し以て町勢の進展に寄與せんことを目的とし、明治三十六年六月二十六日創設せられたるものにして、以來國勢の進展向

上に伴ひ組合の機構も一層強化整備を要求されるに至り、即ち昭和十一年一月一日現組織の制定を見たるものである。

爾來幹部役員の更策施行は洵に機宜に適し着々たる業績を示し、その古き歴史と共に縣下に於いても最も優良なる組合として好評嘖々たるものがある。

組合長 連水昇一

●氏は曩に町助役、引本信用組合長等その他幾多の要職を歴任され各界に貢献せられたる功績は甚大なるものにして、その手腕識見は定評のあるところにして、特に信用組合は氏の奮闘により創設されたるものであり、本町經濟界に殘されたる足跡は洵に重大なるものがあつた。

現在引本漁業協同組合長として、日夜間斷なき努力を續けられ、漁業經濟の樞軸たる本組合の存立意義を認識し、以て國策に順應し延いては東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期されてゐる。

氏は資性温厚にして篤實、公平無私なる人格者であり、業界の信望は極めて厚く、今後の活躍はます〳〵期待されてゐる。

三重、北牟婁、尾鷲町

林業家 **田中五男**

電話二三八番

當家は代々農を家業とせる尾鷲町屈指の舊家であつたが、先代に至つてこれを廢業し、以來は五男氏の令兄が製材業を經營され今日に至れるものである。

當五男氏は、明治三十七年の出生にして、年齢二十四歳の時獨立され、爾來營々孜々として家運の發展隆盛に精勵し、その堅實眞摯なる營業方針は業界注目の的であり、尾鷲檜、尾鷲杉を專門に取扱ひ、東京秋田木材深川支店を取引先として同一致協力して通信事務に精勵され、成績は極めて良好にして良く通信事業の本旨を全ふしてゐる。

現在須賀利信用組合常務理事、大政翼賛會須賀利村支部理事等の要職を兼任せられ、日夜寧日なき奮闘を續けられ、その功績は極めて甚大なるものがあり、各方面の信望を一身に蒐められてゐる。

即ち信用組合常務理事、大政翼賛會村支部理事として、國家未曾有の難局に對處し、組合精神の普及徹底を圖り產業開發の原動力たらしめ、貯蓄報國の完遂を

亞共榮圏確立の一翼たらんことを期され、臣道實踐の至誠を捧げらつゝある。

資性明朗にして豪膽、又情理に篤き人格者であり、その業績と共に町内外の信望は絶大なるものがある。

三重、北牟婁、須賀利村

郵便局長 **奥村俊平**

氏は曩に東京に於て海軍指定商として油製造業を經營され頗る顯著な業績を示されてゐたが、其の後歸鄉し、先代に引續いて本郵便局長に就任され、從業員一同一致協力して通信事務に精勵され、成績は極めて良好にして良く通信事業の本旨を全ふしてゐる。

現在須賀利信用組合常務理事、大政翼賛會須賀利村支部理事等の要職を兼任せられ、日夜寧日なき奮闘を續けられ、その功績は極めて甚大なるものがあり、各方面の信望を一身に蒐められてゐる。

即ち信用組合常務理事、大政翼賛會村支部理事として、國家未曾有の難局に對處し、組合精神の普及徹底を圖り產業開發の原動力たらしめ、貯蓄報國の完遂を期し、或は銃後運動の強力化に貢献するなど、その活躍は洵に目覺しきものがある。

氏は資性温厚にして篤實、識見又卓越せる人格者であり、滅私奉公の至誠をもつて東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期されてゐるが、氏の今後に課せられたる責務は愈々重大なるものがある。

三重、北牟婁、尾鷲町

林業家 **田中光一**

電話二三番

當家は先代か木材業を經營して以來、二十一年の歴史を有し、父子二代に亘る事業家として業界の信用は絶大なるものがあるゝ又町内に於ける徳望も極めて厚く、祖考は戸長、町會議員を歴任し、自治方面に關與してその功績は頗る顯著なるものがあつた。

家業の經營は檜材、杉材等所謂尾鷲材を取扱ひ、その販路は東京、名古屋、横濱方面に及んでゐる。

當主光一氏は現に尾鷲林產物同業組合委員、尾鷲森林組合役員、尾鷲木材協出株式會社重役等の要職を兼ね、眞摯熱誠なる奮闘振りは、將來當地斯業界の中心的人物と屬望され、その前途は刮目すべきものがある。尚氏は自家の山林を所有し、將來はこの方面に主力を盡すを抱負として居る。

氏は明治三十一年の出生にして、今正に働き盛りであり、俊敏溜達の資性と共に、業界の信望は絶大なるものがある。

三重、北牟婁、尾鷲町

齒科醫師 **岡村齋次郎**

氏は明治三十一年聖地宇治山田市に出生した。當家は代々伊勢神宮を中心とする御師所屬の陰陽師の家柄であり、曾祖考の代まで陰陽師として令名があつた。

氏は幼少より惟神道教を學び、現に尾鷲町に宗教結社をもち自ら代表者となり「かむながらのをしへ」の普及徹底に努力しつつある。

惟神道の教學は、廣義に於ける綜合文化の建設原理にして、即ち八紘一宇の國家經營學、臣道實踐學であり、これを揚することによつてのみ皇謨を翼賛し奉ることが出來る。その理由は日本固有のこの教へを究明することなくして、國體を實生活に反映することは不可能であるからである。と、

これは氏の確信するところである。

氏は曩に、その著書「國教惟神道之眞相」「神武天皇熊野御巡幸及大和御入國謹考」「神路乃光」「語音と品詞の分類反文の構成に就て」「神代」「皇化」等を近衛首相をはじめ要路の大官に贈り、惟神道をみをしへとする日本主義運動に盡瘁してゐる。

氏は又獨學力行の人材にして朝鮮總督府の齒科醫檢定試驗に合格し、現在同町仲齒科醫院に勤務中である。

その資性謹嚴にして重厚、博學達識の人格者であり、伊勢の聖地にこの人あるは宜なるかなと云ふべきか。

家庭には夫人との間に四女を惠まれ、和氣藹々たる生活を營んでゐる。

三重、南牟婁、有井村

南牟婁郡農村工業利用販賣組合聯合會

電話二四四番

當聯合會は南牟婁郡下十九の產業組合を組合員とし、昭和十四年八月二十七日事業を開始したるものである。而して利用部としては下駄の製作を主として、佃煮類小箱、タイル枠、カマボコ板等を作り、販賣部にては縣下を始め、大阪、新宮市、名古屋方面に連絡を求めて其の衝に當て、本聯合會本來の使命に邁進してゐる。尙ほ下駄製造工場及び製材工場を設置して、各責任者を配して本格的事業の完遂に務めてゐる。現聯合會長には片岡喜久夫氏就任し、專務理事に片岡文作氏、外理事七名、監事三名の役員がをり各一致協力以て其の目的達成に多大の盡力を拂ひつゝあり、將來の成果は衆人の刮目期待してゐる所である。又本聯合會設立に就ては三角田喜作氏の功勞甚大なるものがあり、斯くて今日の優秀なる業績を擧ぐることを得たのである。氏は又村長としても、凡ゆる方面に向つて大いに功績をは現した人士である。

理事長 片岡喜久夫

氏は井戸產業組合理事にして且つ本聯合會理事長を兼任してゐる人士で、本會理事長としての重任を果す爲めに盡せる努力は極めて甚大である。即ち此方面に於ける氏の手腕力量は實に驚異的なもので、將來に對する進展は一に氏の双肩に掛けられてゐる程である。尙ほ溫厚にして且つ高潔なる人格は衆望の的であり、而して氏に信賴する一般の期待も亦多大なるものである。

三重、南牟婁、北輪內村

北輪內 信用販賣購買利用 組合

電話八番

本組合は當時の北輪內村の悲勢により產業組合存立の不可缺なるを痛感し、三木里浦、名柄、小脇の三字を區域とし昭和十年創設認可を得たるものにして、當初は信用、購買を事業としたが昭和十一年一月より販賣部、同十六年より利用部を設置し現在に至れるものである。

爾來幹部役員の盡策施行は極めて機宜に適し、着々たる發展を遂げ、その業績は極めて顯著なものがある。

即ち販賣部は木炭、炭俵、鷄卵、購買部は米、麥、醬油、肥料、飼料、生活必需品、利用部は精米事業、信用部は貸付、貯蓄の奬勵等を行ひ、何れも顯著な成果を收めてゐるが、特に時局下に於ける貯蓄には一層の努力を拂げ、近々天引貯金案も實行の運びにある。

組合長 西川慶三

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫したる人格者にして、現在、村會議員、部落常會長等の要職に兼任せられ村治に關しても多大の貢獻を致したることは、村民齊しく感激するところである。本組合長就任以來、組合精神の普及徹底により組合員の福利增進はもとより、以て產業開發の重責を擔ひ、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期して、夙夜粉骨碎身の努力を續けてゐる。

宜なる哉、本組合は今日の隆盛を致し昭和十三年四月には組合擴充、機能整備に盡瘁したる功績により、努力賞を授與されるなど、氏の內外に於ける信望は絕大なるものがある。

三重、南牟婁、阿田和町

阿田和町 漁業販賣協同 組合

本組合は漁業經濟の樞軸として、業界の相互扶助、共存共榮の組合精神の普及達成により、組合の繁榮を致し組合員の福利增進を圖り、以て町勢の進展に貢獻せんことを目的とし、明治四十五年三月二十九日創設され、後世運の進展に伴ひ當組合の機構も一層の整備擴充を要求されるに至り、昭和十四年十月三十一日現在の組織に改組したるものである。

爾來幹部役員の盡策施行はまことに機宜に適し着々と業績を擧げ、益々順調なる發展を遂げつゝあり、最も優秀なる組合として嘖々たる名聲を博してゐる。

特に國家未曾有な 難局に際會し、組合に課せられたる責務は愈々重大なるものがあり、組合員一致協力し、克く現時局を認識し、產業報國の實を擧げんことを期し、極めて漫剌たる活動を續けられてゐる。

組合長 宇井九四郎

氏は當地方屈指の舊家として聞えてゐる宇井家に尊父常市氏の男として、明治二十九年九月十九日に出生した。夙に俊穎英才の譽高き逸材であり、夙に區會議員として奮闘し、現在町會議員四期、當組合長を兼任せられてゐる。

日夜間斷なき努力を致されてゐる。

即ち堅實にして積極的なる方針に依り陣容の整備を圖り組合員の經濟更生に寄與されたる功績は、極めて顯著なものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、情理豐かな人格者であり、町政の明朗化と町民の福利增進に貢獻せる大いなる足跡と相俟つて、町民の信望は絕對的である。

理事長 久保菊平

氏は明治二十二年十月一日の出生にして、夙に村長に就任され、村勢の擴充發展に貢獻されたる功績は頗る多く村民感謝の的であつた。

本組合の設立功勞者であり、初代理事長榎本光藏氏より引繼ぎ、專心組合精神の普及徹底に務め積極的なる經營方針と相俟つて、組合員の經濟更生に寄與されたるところは甚大なるものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、情理豐かな人格者であり、村民の信望は絕大にして今後の活躍は益々期待されてゐる。

家庭にあつては、家を整へ、子女の敎育に意を用ひ、和氣藹々たる家庭を營んでゐる。

三重、南牟婁、新鹿村

新鹿村 信用販賣購買利用 組合

電話六番

本組合は産業經濟の樞軸として相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により、組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し、以て村勢の擴充に貢獻せんことを目的とし大正十五年三月五日設立認可を得たるものである。

爾來幹部役員の盡瘁施行は極めて機宜に適し、頗る顯著な業績を擧げ、益々堅實なる發展を遂げつゝある。

本組合は新鹿の大部分、大字波田須の一部を區域としてゐる。

その事業は購買部に於ては米、麥、木炭、酒、砂糖、雜貨、呉服類その他日用品を取扱ひ、その配給の圓滑なることは當組合の最も誇るべき點である。販賣は米、鷄卵(縣下)、木炭(縣外)が重要なものであり、貯金は國民貯蓄、報國貯蓄、戰爭貯蓄、据置等があり、極めて優秀なる成績を示してゐる。

而して購買、販賣、信用、利用の總ては專務理事喜田素一氏が掌つてゐる。

當組合の設立功勞者は故竹内傳藏氏、山口孫一氏、太田庄次郎氏、太田虎助氏等であり、現役員は理事長太田庄次郎氏を始め專務理事喜田素一氏、理事和田貞治、監事北口甚三、仲萬助、喜田文治の諸氏である。

本組合の特色は當地が南牟婁郡唯一の鰮敷瓦地網の漁業地である點、その網種も、サンマ流網、大網、平敷網(ムツ、ムロ、アヂ、エビ網、落網、モツタ網—夏魚を取るもの)の多種に亘つてゐることである。

地區は提賀一圓の同業者を以て組織しその販賣網は京阪、名古屋、東京、大連朝鮮等に及ぶ。

購買方面は漁業用資材一切、他に米、麥、酒、醬油、酢、砂糖等である。

人的資源不足の折柄、如何にして漁獲を多くするか、その科學的研究をし、將來遠洋漁業を爲す計畫である。

役員としては、理事長中村市右衛門、理事濱中嘉平、川口壽、監事中村順次郎中村繁一の諸氏である。

附屬關係組合として提賀浦共同鰮大敷組合がある。

理事長 太田庄次郎

氏は當村の村勢に鑑み產業組合存立の念務なることを痛感し、有志と相謀り當組合設立に盡瘁され現在尙組合長の要職にあつて益々機構の整備强化に奮闘されつゝある。特に未曾有なる時艱に際會し當組合に課せられたる責務は愈々重大なるを認識し、日夜間斷なき努力を續けられ職域奉公の完遂を期して居られる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、村民の信望は絶大なるものがある。

三重、南牟婁、南輪内村

梶賀浦漁業協同組合

組合がある。

理事長 中村市右衛門

氏は當組合理事長としてはもとより、村會議員等の要職にあげられ、一貫せる信念を以て至誠の奉公を致してゐる人格者である。

家代々屈指の舊家として由緒ある家柄として村民の敬仰を集め、先代は家業の傍ら、公共のため功勞をつくして知られた人である。

氏はその男として呱々の聲をあげた。幼にして悠容として迫らざる態度は夙に大器として矚目され、家業に於ても傳來の財を更に大ならしめ、今日に至つてゐる。

責性重厚にして信望篤く、今や押しも押されもせぬ村の重鎭である。

三重、南牟婁、木本町

醫學博士 大石 碩也

氏は明治三十六年に生誕し、代々醫業の家柄に依り、氏も現業を經營するに至れり、且つ當地に於ける舊家にして、併せて血緣者もすべて醫師となつてゐる。

氏は第三高等學校を經て、京都帝大の醫學部を卒業し、腎臟の研鑽に沒頭し、昭和九年に醫學博士の學位を獲得した。南牟婁郡に於ては二人目の博士にして、且つ木本町唯一の醫學博士のである。內科を專門として斯業に貢獻する處極めて多く、醫療に或は豫防に、衞生に關する各方面に功績を擧げてゐる。又縣立木本中學校及び有馬小學校の校醫として、或は南牟婁郡醫師會評議員として、その職能を果してゐる。

氏は明朗にして高潔なる人格者にしてその肩書を誇らず、當地方の模範的開業醫として、大いなる信賴と尊敬を受けて益々斯業の研究と衆人の施療に盡力してゐる。斯くて氏の診斷並に治療は、親切を旨とし、本業が昔より仁術と目されてゐるを建前として職責を果すべく、獻身的努力を揮ひ、その目的達成に一途邁進してゐる。

三重、南牟婁、市木村

賛助協力會員 向井 勝三郎

氏は當年六十六歲の高齡なるもなほ壯

年の如き意氣を以て、村政の改善或は自治制の完遂にも大いなる事蹟を殘して村民の尊敬と信望を集め、重要なる人士として矚目されてゐる。且つ當村の元老格の地位に推され、國家への奉公に一身を捧げる事を信條として餘生を送つてゐる。

る。

長男忠氏は日本鑛業株式會社大谷鑛山の會計主任に就職し、次男亘氏は歩兵上等兵にして中支より歸還せし勇士でありその家庭生活は惠まれたるもので、極めて圓滿である。

なほ氏が協力會議員の職にあるは最も人材を得たるもので、氏の敏腕と鋭氣は大いに期待されてゐる。

三重、南牟婁、泊村
古泊浦漁業協同組合

電話一三三番

當組合は明治三十五年十二月六日に設立され、昭和十一年二月改組されたものである。區域は泊村沖合一圓にて、遠洋漁業をも行ひ、漁獲類は縣下は勿論、大阪、名古屋、和歌山各縣方面に販賣してゐる。

現理事長には島崎良之助氏が就任し、その他各役員を有して、當組合の堅實なる進展に一意專心努力してゐる。組合の向上は自然組合員の福利增進を助長することになり、全機能を發揮してその目的完遂に邁進しつゝある。

組合長 島崎良之助

氏は當年五十三歳の働き盛りにして、當村草分の一人として名を知られてゐる。代々漁業を以て家業とし、これが發展に過進してゐる。

更に南牟婁郡協力會議員、翼贊會村支部理事、郡水產會委員、村會議員、郡會議員、漁業組合理事等の要職にあつて、是等各方面に亘つてその職責を全うすべく、大いなる氏の努力と實行力を以て目的達成に活躍されてゐる。斯くて氏が殘した功績は極めて多く、衆人に尊敬と信望を負うて期待さるゝ所甚大である。

氏は弓術に趣味を有し、繁忙の身にそれの慰安としてゐる。なほ氏は當村の中心的推進力を持つた人望家でもある。溫雅な人格者にして、又情誼に富める議讓の風格は又特に敬慕さるゝ所で、其處にも氏への期待厚き所以でもある。

三重、南牟婁、荒坂村
二木島浦漁業組合

電話一三番

本組合は漁村經濟の樞軸として、物的資源の開發確保を目的とし、明治三十六年設立認可されたるものにして、保證責任二木島里浦漁業協同組合、無限責任甫母浦漁業組合、須野漁業組合の三組合と提携し、極めて潑剌たる業績を擧げてゐる。

漁獲物の主なるものは、鰯、鯖、秋刀魚、鰹等にして、主なる漁法はアグリ網サンマ流網等である。本組合はこれらの九割までを加工して、京阪地方へ出荷し二木島里浦組合は鮮魚のまゝ各市場に販出してゐる。この他本組合は組合員の福利增進に資するため、漁業用資材の共同購入、或は二木島魚市場、貯氷庫、共同販賣所等の施設を有してゐるが、今後は一層その機能を強化し、非常時局下國策に順應すべく、四組合大同團結の機は近きにある。

二木島浦 内田權三郎

氏は溫厚篤實にして、又情誼に富める人格者にして、現在翼贊會村支部理事の要職を兼任して、益益圓熟せる手腕を揮ひつゝある。特に一村一組合の主唱者であり、二木島里浦組合長牧戸平四郎氏、甫母浦組合長坂田利

三郎氏、須野組合長濱田兵藏氏等と共に保證責任荒坂村漁業協同組合設立を計畫し、日夜寧日なき奮闘を繰けてゐる。

三木島浦 牧戸平四郎

氏は翼贊會郡協力會議員、村支部理事、村會議員等その他幾多の要職にあり、その才腕識見は夙に著名なるものにして村民の信望は絶大なるものがある。

甫母浦 坂田利三郎

氏は資性俊敏重厚なる逸材にして、滅私奉公の至誠の下に紛骨碎身、以て業界に寄與したる功績は普く人の知るところである。

荒坂村 濱田兵藏

氏は現在區長の要職を兼任して、產業報國の主旨を體し、以て國家目的完遂に協力しつゝあり、資性謹嚴實直にして仁義に篤く、衆人の敬仰を一身に蒐めてゐる。

三重、南牟婁、木本町
松本松太郎

縣會議員

電話一〇一番

氏は明治五年六月南紀木本町に出生した。夙に俊敏出藍の譽高く、夙に大志を漁業界に注ぎ、當地特有の鰯大敷網に奮闘されたる業績は頗る顯著なるものがある。

現在、縣會議員、縣參事會員、町會議員(五期)、紀南自動車株式會社重役、その他の要職を兼任され、益々豪快なる活躍を續けられてゐる。

氏は資性重厚にして豪放、又仁俠心に篤き人格の所有者であり、その溫情により再起したる者枚擧に遑なく、この人の爲に死なめ、とは關係漁業者の一般概念であり以てその德望を察すべきである。

今や政友會三重支部の重鎭として君臨し、鄕里に於ては町會議員の最古參として敬仰され、また南紀自動車株式會社の創設者として現に取締役に就任され、交通文化の開發に貢獻しつゝある。

なほ最近は木本港の改修に眞摯な努力を傾注し、百五十萬圓の豫算にて、その第一期工事は昭和十五年二月に起工されてゐる。本工事は昭和十五年二月に起工されるところは萬大なるものがあり、その竣工は鶴首して待たれてゐる。

三重、南牟婁、尾呂志村
尾呂志村信用販賣購買利用組合

本組合は相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し、以て產業經濟の樞軸たらんことを目的とし、明治四十三年一月十二日に創設されたるものである。

爾來幹部役員の畫策施行はまことに機宜に適し、頗る活潑なる業績を擧げ、益益堅實なる發展を遂げつゝある。

本組合は尾呂志村一圓を區域となし、貯金、貸付、購買販賣、利用事業等何れも優秀なる成績を示し、その基礎は磐石なることを思はせてゐる。

役員に組合長宇戸平正壽氏以下、常任理事山田保久、同生駒定助、理事生駒善助、前田豐太郎、西村文夫、眞砂榮治郎常任監事眞砂虎太郎、監事南佐助、西畑善四郎の諸氏がある。

組合長等 宇戸平正壽

氏は、資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫したる

人格者。村長の傍ら本組合長就任以來日夜寧日なき努力を續けられ、今日の盛況を贏ち得られたる功勞者にして、その手腕力量は嘖々たる名聲を博し、業界の信望は絶大なるものがある。

三重、南牟婁、荒坂村

荒坂村購買販賣利用組合

電話一〇番

本組合は二木島浦、二木島里浦、甫母浦、須野の四部落を區域とし全村加入、相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し以て村勢の進展に寄與せんことを期され、大正十四年三月七日設立認可を見たるものである。

以來幹部役員の需策施行まことに機宜に適し、その業況は極めて潑剌たるものがある。

顧來村當局及び部落會との連繫頗る圓滑にして昨年以上の剩餘金を得てゐる。

組合長　竹内長太夫

氏は曩に村長として村治に關し、多大の貢獻をなし、その聲望は嘖々たるものがあり、現在村會議員、再度の本組合長の要職を兼任せられ部落常會、漁業組合と相提携し益々精勵恪勤を續けられてゐるが、その手腕力量は既に定評のあるところであり、本組合今日の盛運を贏ち得られたる原動力としてその功績は絶大である。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、その業績と共に各方面の敬仰を一身に蒐められてゐる。

三重、南牟婁、有井村

井戸購買販賣利用組合

電話木本二〇一番甲

本組合は明治四十三年一月十二日の設立にて、南牟婁郡最古の組合であり、昭和十五年に創立三十週年記念を擧行して益々その基礎を固めると共に、將來への進展を祝福したる程のものである。

當組合理事長には森本牝市氏推されて就任し、理事には森本信一、片岡喜久夫、片岡定光、片岡小次郎、森正人の五氏が就任、監事の職には森本正之助、西垣戸定壽、久保奈良三の三氏が就きて組合事務の完璧は勿論、その業務の本格的使命達成に全努力を盡されて、逐次その業績の完遂を獲得するに一途邁進してゐる。又事業は信用部、販賣部、購買部利用部等の四種となし、各部にはその責任者を配置してその整備を期して順調なる進展に將來を期待されてゐることは、また實に多大なるものがある。

又組合を中心に區部落常會が協力和合をなして、不可分の形體を以て實績を擧げてゐる。又販賣製產物の增產、及び貯金の奬勵には特に努力を傾注し、之と共に利用部の活躍にも凡ゆる計畫を樹てゝ所期の成績獲得に全員寢心してゐる。

理事長　森本莊市

氏は現組合理事長の重職にありて、その手腕並に蘊蓄は大いに認められてゐる。歷史の上より見て最も古く、且つ順應なる進展を續けて來た當組合の理事長としての氏は、その間組合の爲に盡力せる努力は、實に言語に絶えざる程のものがあり、氏の力が組合に貢獻せし所また大なるものがある。

氏の溫厚篤實なる人格は能く信望を負ひ、その手腕は將來を期待さるゝこと甚

大にして、氏の存在は當組合に於ても最も重きを爲してゐる。斯くて當組合の將來も廣く各方面より囑目されてゐる次第である。

三重、南牟婁、市木村

助役　富士本朝吉

當家の祖は市本富士（淺間神社）の神職であつたが、その後は代々農を家業としたるものにして、當村屈指の舊家として高名なる家柄である。

當主朝吉氏は明治三十七年の出生にして、現在翼贊會村支部理事、昭和十三年九月以來は助役を兼ね日夜間斷なき努力を續けてゐる。

即ち當村の產物としては「柑橘」が全國的に著名であり、その產額は日本一を誇稱するものであるが、現時未曾有の難局に際會し、產業報國の建前より一層これが增收を圖り、以て國富の增進に貢獻し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され、村長西垣戸定助氏を輔けてその活躍は極めて積極的なるものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、その業績手腕と共に村民の信望は絶大なるものがあり、名實共に當村の中心的人材として近き將來は村長の器たりと屬望されてゐる。

三重、松阪市

市會議員　倉谷嘉平

電話一三二番

氏は明治十七年二月十五日に生る。而して現在居住せる地が松阪に併合される以前、即ち今日に至るまでの二十八、九年前に當地に移住し廻漕業を經營した。而して木材の運搬を主とし、名古屋方面に搬出する取引實績は、極めて多大である。なほ市會議員以外にも、商工會監事、學務委員、參事會員、村會議員、區長等の要職にも就任し、各方面に亘つて、驚異的發展を現出するに至つてゐる。

斯くて氏は當地の有力者にて、時局に就いて民衆の認識を深め、氏自らこれが指導に務めてゐる。また村民の向上發展の爲には、犧牲的努力を盡してその世話方として重きをなしてゐる。

三重、南牟婁、市木村

翼贊會委員　畑林耕十郎

當家は市木村十六軒の草分中の一にして、代々庄屋を勤められた名門であるが現在では本家に當る畑林家は衰亡し、當家が同族中家名を保持する唯一のものである。

先代千代松氏は不幸にして二歲の折慈父を失ひ、九歲の時より他家に奉公し、文字通りの赤貧と闘ひ、長じては粒々辛苦、市木木綿の行商をなし、夫妻協力して克く今日の基礎を築かれたる努力家である。氏は人の世話になる人間になる勿れ、僅かでも人樣の世話の出來る人間たることを信念として居られる。

當主耕十郎氏は、その長男として出生し、尊父の敎訓を體得し、家運の發展向上に精勵して來た。

現在大政翼贊會市木村支部理事、下市木區長、檀家總代、氏子總代等の要職にあり、家業なる農作、柑橘、養蠶等多角的農事を經營され、產業報國、邁進し、特に未曾有なる時艱に際會し國家目的完

遙に貢献すべく、報國貯金、共同作場、遺家族の勤勞奉仕等に率先して活躍し、區民の指導者として臣道實踐に碎身の努力を續けてゐる。

氏は責性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、村民の信望は絶大なるものがある。

家庭には夫人との間に一男一女をあげ既に長男は配偶者を迎へ一子を惠まれ、和氣靄々たる生活に營まれてゐる。

因に長男惠美夫氏は目下出征奮戰中。

三重、南牟婁、有井村
有井村漁業協同組合

本組合は漁村經濟の樞軸として物的資源の開發確保を目的とし明治三十六年設立され、以來國勢の進展により同組合の擴大整備を必要とし、昭和十五年八月二十日改組し現在に至れるものである。

爾來幹部役員の畫策施行まことに機宜に適し、益々順調なる發展を擧げ、その業況は極めて潑剌たるものがある。

本組合は半漁半農の組合であり、地勢の關係上良港なく、その區域は有井村沖合一圓としてゐる。

漁獲物の主なるものはブリ、サワラ、アヂ、サバ等にして、その漁獲法は底地網、地引網等である。

本組合はこれ等の漁獲物を主として木本魚市場へ出荷し、極めて顯著な業績を示し、最も優良なる組合として好評嘖々たるものがあり、前途はいよ〳〵有望である。

組合長　速水　乙若

氏は責性溫厚篤實にして、公平無私の人格者であり、現在村會議員を兼任せられ村治に關しても極めて重大なる貢獻を致されたるは、普く人の知るところである。併して本組合長就任以來は、專心組合精神の普及達成を計り、組合員の福利增進はもとより、以て村勢の向上に寄與し、延いては非常時局下の國家目的完遂に資せんことを期され。日夜寢食なき至誠を捧げられつゝあ る。

即ちその手腕力量は定評のあるものにして、その多彩なる業績と共に村民敬仰の中心となつてゐる。

家庭もまた極めて平和である。

三重、南牟婁、五郷村
五郷村信用販賣購買利用組合

電話三番

本組合は昭和四年十二月設立の認可を受け、事業開始は信用部、購買部として昭和十年には利用部を設けて營まれて來てゐるのである。而して業務區域は五郷村一圓にして、各部はその方針に依り着着進展するに至り、各區に所在する支所を總括して之が堅實なる發展に盡力して來たのである。各支所には主任制を取り各二名宛の所員が從事してゐる。

なほ現理事長には齋藤敬一氏が就き、專務理事に垣內喜佐司氏が推され、外八名の理事、及八名の監事が在任して本組合の進展に專念してゐる。而して支所は寺谷、和田、桃崎、湯谷の各部落にあつて、業務の充實並にその發展に盡力してゐるのである。更に當組合の主眼とする所は信用部の擴充發展に置かれてゐる。

理事長　齋藤　敬一

氏は現本組合理事長に就任し、併て村長をも兼任してゐる

而して氏は就任以來日夜を分たず、一意專心その內容充實に、或は堅實なる進展に全力を傾注して、極めて優秀な成果を收めてゐるが、又その傍ら村長としての職責をも完うする爲め、獻身的努力を盡してゐる事は、村民の多大なる信賴と尊敬を一身に集めてゐる事に依り、知ることが出來る。斯く溫厚にして高潔なる人格は、凡ゆる方面に反映して、現在當地方の重鎭として囑目されてゐる人士である。

三重、北牟婁、九鬼村
市原醫院長　市原　俊雄

氏は明治三十年一月三日、岐阜縣に生れた。

夙に、俊敏出藍の譽高き逸材にして、大阪醫科大學に學び、卒業後は大阪に於て開業されたが、當時九鬼村は無醫村にして、村民保健、衞生思想普及に遺憾の點尠からず、當村有力者もこれを憂慮し即ち、市原氏を招聘せられたるものである。

氏は元來、內科に卓拔なる手腕を有せられるものであるが、當村に開業以來外科部をも併置され、村民の體位向上に日夜粉骨碎身の努力を續けてゐる。

即ち患家のみならず、村民の信賴は頗る厚く、益々眞摯潑剌たる業績を示されてゐる。

當市原家は、一人俊雄氏のみならず、醫療報國を信條とし、尊父も、氏の兄弟方も醫師として精勵しつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、明敏果斷の臨床家であり、その多彩該博なる識見とにより益々顯著な活躍を致しつゝある。

家庭には夫人との間に五子を惠まれ、和氣靄々たる生活を營んでゐる。

三重、北牟婁、赤羽村
山林組合長　信用組合長　水谷　幾之丞

氏は北牟婁郡三野瀨村の豪家川口氏の三男として出生、二十八歲の時、當水谷家の養嗣子として入籍されたるものである。

氏は農業學校卒業後、農事試驗場に三ケ年間勤務、退職後は一切の公職を避けて農事に專念され、果樹栽培、農事改良等に精勵し、極めて顯著なる業績と、今後の組合に課せられたる責務は一層重大なるものがあり、氏の活躍は、益々期待されるところである。

氏は資性溫厚にして篤實、本年四十五歲の働き盛りであり、時變下絕好の指導者と云ふべきである。

家庭に於ては六人の子女の慈父として和氣靄々たる生活を營んでゐる。

三重、北牟婁、九鬼村
九鬼村役場

電話四番

本村は郡の南端を占め西及び南は南牟

裏郡に界し、東は熊野灘に面してゐる。本村の産物は水産を首位に、林産工産これに次ぎ逐年隆盛に趣いてゐる。

學校は九木小學校、九木青年學校、早田小學校、早田青年學校があり、神社は村社九木神社があり、寺院に菩洞宗の眞嚴寺、觀音寺がある。名所は九鬼城跡、八鬼山荒神、三思丘公園等がある。

村長　九鬼　鐵雄

會村理事等の要職にあつて、日夜精勵恪勤を續けられてゐるが、特に非常時局下に於ける大政翼贊の實踐運動として部落常會を設置し、右常會を通じて生活の改善を斷行し、冠婚葬祭に於ける虚禮を廢し、勤勞奉仕による村内諸施設の修理、增設を圖るなど、氏の功績は甚大なるものがある。

なほ氏は、夙に産業經濟の樞軸として産業組合設置の急務なることを痛感せられ、漁業組合設立に奮闘され、多年同組合長として村勢に貢獻せられたることは村民周知の事實である。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公を信條とする人格者であり、その革新的な手腕と共に、村民の信望は絶大なるものがある。

三重、南牟婁、阿田和町　町會議員　鈴木信一　電話一四番

氏は明治三十八年十一月二十五日に生る。而して漁業を以て家業とする家に養育され、後和歌山師範學校を卒業、新宮市に於て教育界の人となり、退職するや三濱統制運輸株式會社の重役として就任し、本格的にその特異的手腕を振ひ、併て順調なる發展と確固たる内容の充實に一途邁進して現在の隆昌を獲得するに至つたのである。而もなほ健全なる進展を目標とし、其の目的達成に文字通り東奔西走し、日夜を分たぬ一大活躍に身を堵してゐる。

斯くして業務多端の中にありて、町會議員、青年團長の要職に就任し、是等の職責完遂に盡力してゐるのみでなく、社會公共事業方面に向つても犧牲的努力を爲して、地方一般の人々から厚い信望と尊敬を受け、又之に酬ゆるため目覺ましき活動を續けてゐる。

家庭には夫人キヨエ氏と三男一女の子女を持つて、常に和氣靄々、外見するも羨やましい程の圓滿な生活を營んで居り氏としての唯一の慰安場所として、その雰圍氣に浸つてゐる。

三重、南牟婁、鵜殿村　山徳製材株式會社　電話二四番

本社は、昭和十三年十二月の設立である。而して取締役に山本德次郎氏が就任し、是が堅實なる進展と確固たる内容の充實に一意專心邁進して、漸く今日の如き隆榮を招來することを得たのである。その販路は主として關西、關東、臺灣方面に迄及び、現在六十有餘名の從業員を使用し、當地方としての大會社である。その昔は單なる製材業として存在せしものに過ぎなかつたもので、その内容も實に微々たるものであつたが、然し製材業の元祖である。今後に於ける發展大いに期待されてゐる所で、氏の今兒山本富太郎氏を代表取締役に戴き、全員一同、

現時局に順應して目覺ましい活躍をしてゐる。

取締役　山本德次郎

氏は明治二十九年三月二十一日に生る和歌山縣の出身で、事業に對する手腕と蘊蓄は特異的なものを持ち、本社の經營に當つては實に目覺ましい進展の下に堅實な運行に務めてゐる。現在六十有餘名の從業員を使役し、その統制、優秀なる製品、攀實なる取引等に事業家としての氏を知る事が出來るその昔氏は大阪市にて木材問屋をしたる經驗があり、今日この要職に就任して是が全ゆる點に付ての施設を完備して着々進展の一途を辿つてゐる。且つ溫厚篤實なる人格は斯界のみに止らず、一般よりも多大の信望と尊敬を受けてゐるは勿論その將來にも期待を掛けられてゐる。

家庭には一男四女があり、子福者としての氏の慰安は、此の家庭生活にあり、實に圓滿なる生活を營んでゐる。

三重、南牟婁、井田村　産業組合長　村會議員　西熊次郎

氏は明治二十年十月三日に生る。氏の先々代、先代共、自治方面へ對して實に偉大なる事蹟を殘した功勞者であり、而も教育上にも亦多くの功績を擧げた人である。斯くて氏は現在も村會議員、産業組合長、學務委員、常會長等の要職にあり、その職責完遂に日夜奮闘を續けてゐる。更に當井田村に省線驛架設問題の起つた節に氏は私財を投じて完成に犧牲的努力を盡して成功せしめる等、社會公共事業にも多大の貢獻をしてゐる。

氏の溫厚篤實な人格は一般の厚い信頼と尊敬を一身に集め、之に酬ゆる爲に筆紙に絶する活動をしてゐる。且つ氏の特異的手腕と熱意に一般民よりの期待を受けてゐることも多大である。

家庭には夫人と一女あつて、實に圓滿にして和氣藹々たる生活を營んでゐる。

三重、南牟婁、鵜殿村　工業組合長　製材商　南園　安太郎

氏は明治二十九年一月に生る。而して奈良縣の出身にして、現在當地にありても工業組合の組合長の職に就任し、爾來日夜兼行、よく東奔西走、當組合進展の爲に盡瘁してゐる。

又家業の製材業を經營して、今日この隆昌を見るに至る間、實に多大の障碍を突破して來た氏の撓ゆまない熱意と努力の賜である。なほその以前、新宮市にて多年木材業界に身を投じて、是が研究と商道の會得に苦心を重ね、大いに其の眞髓を捉へて、漸く當地に獨立創業する運びとなつて、その目的を達成し、現在の隆昌を招來し得たことは、成功の一人者として廣く知られるに至つたのである。而してその取引は關西、大阪方面、更に名古屋、東京方面に取引して居り、その業績は正に頭角を現はしてゐる。

その他豆炭の火付の素を製造して、この方面にも實質的成功を收めてゐる。斯く氏が成功するを得たのは偶然ではなく實に驚異的努力と熱の賜で、斯界は勿論一般の人々からも多大の期待を掛けられてゐる。

なほ溫厚篤實にして高潔清廉の人格は各方面からの信頼と尊敬の的となつてゐる。家庭もまた極めて平和な營みをなしてゐる。

三重、南牟婁、阿田和町

阿田和町役場

電話四番

本町は明治二十一年阿田和、柿原、引作の三村を合併して阿田和村となり、昭和八年十月一日町制施行、現在に至ったのである。而して町長に中垣四八郎氏を推し、町制の整備、自治の改善、社會施設に依る町民の福利増進に邁進して、現在町役場として他の追從を許さぬだけの業績を收めてゐる。なほ現時局に即應した凡ゆる施設並びに事業に對しては、極力是が完遂に努めて、國家へ對しての貢献にも大々的活動に盡力中である。

町長 中垣四八郎

氏は初め伊十郎と云ひ、その後父の名を繼承して四八郎と呼ぶに至った。氏の家統は初め四郎右衞門を襲名すること四代、四八郎を襲名すること三代に亘る舊家である。氏は青年時代役場の書記として就任し、種々村制の役員となり、鋭意自己の職責を完行して多大の功績を現はし、現在町長に昇進するまで代々中尾姓を名乘り農を家業とせる名門である。

當主磯助氏は明治十一年十月二十五日の出生にして、憲政の神尾崎學堂先生と多年特別の親交あり、先生の選擧事務長として盡瘁せられたるは衆人の良く知るところである。

氏の區民指導は「土は血なり」と云ふにあり、食糧物資の不足を外國に仰げば金貨によつて購はれ、今日開墾に依つて農産物の增産を圖れば、直接金貨の獻納と同義なりとの信念を有してゐる。

現在、村會議員六期、翼贊會村支部理事、區長、波田須開墾實行組合長、檀徒總代等の要職にあり、日夜精勵恪勤を續けられてゐる。

即ち區有荒原を二十ヶ年計畫にて二町歩宛、區民の協力により開墾し、四十町歩に亘る耕地をつくるべく波田須開墾實行組合を結成し、昭和十六年三月十九日發會式を行ひ、なほ產業組合の支部設置を計畫、目下準備中である。

氏は資性淸廉にして重厚、情理に厚き人格者であり、而も齡六十を越え青年の如き覇氣と情熱と氣魄を藏し、學堂會員

三重、南牟婁、新鹿村

村會議員 翼贊會委員 竹本龜助

當家は川中島合戰に聞えたる武田の臣中尾氏を先祖とし、明治九年士族を返上

氏の特異的手腕とその蘊蓄を以て、凡ゆる方面に對して活躍し、其處に多大の事績を殘してゐる。なほ農會長、翼贊會支部長の要職にもあつて、時局下に即應しての施設及び事業には文字通りの東奔西走日夜を分たね努力を拂つてゐる。

斯くて氏は大正十二年頃在鄕軍人分會長をしてゐる折、明治九年日本に於ける最初の遭難船雲陽艦の救濟事業の發起人にして是を完行、昭和十二年漸く待望せる齋藤實閣下夫妻以下、山本五十六、堀悌吉、中島資朗の各閣下の來阿を仰いでこの記念祭を行つたのである。しかも氏は町長を四期務め、その間表彰を受けること數度にて、一般民が氏に對する信頼と尊敬は實に厚きものがあり、溫厚篤實なる氏の人格の反映である。なほ町長としての氏は將來への期待を掛けられてゐることと又甚大である。

三重、南牟婁、井田村

井田村信用販賣購買利用組合 組合長 西熊次郎

氏は現井田村信用販賣購買利用組合の組合長の要職に就任し、その特異的手腕を縱橫自在に振つて組合の發展に文字通りの東奔西走、こゝに今日の如き隆盛なるものにした功勞者である。斯くて氏の存在は當組合の重要なるものとなり、その信望と尊敬を一身に集めてゐる。同時にその期待に副ふ爲め一意專心不斷の努力を續けてゐる。

資性溫厚にして淸廉なる人格は、自然斯界のみでなく、一般の信頼も亦多大である。

三重、南牟婁、南輪内村

古江浦漁業組合

電話賀田六番

本組合は漁業に關する改良と發達を計

なほ產業組合の設立に當つては大いなる努力を拂つて成功し、又大敷網組合の創立の折にも多大の功勞を樹てゝ、一般の信頼を受けてゐる。更に各新聞代理店を經營してゐるが、勿論氏の不撓の努力は驚くべき業績を招來してゐる。

斯くて溫厚篤實、高潔淸廉の人格者で當町發展の上からも、重大視されると共にその將來を期待されてゐる。

三重、南牟婁、阿田和町

翼贊會委員 產業組合長 川合勝之助

氏は明治十八年一月二十日に生る。氏の家は當地方に於ける資產家として知られてゐる。而して氏は翼贊會郡理事、並に產業組合長の要職にあつて、其の職責完遂に日夜東奔西走、多大の功績を殘し自治產業方面に對しても特異的な氏の手腕を以て目覺ましい實績を擧げてゐる。卽ち當町自治の功勞者であり、併て重要なる存在として、衆望と尊敬を一身に集めてゐる。尾崎行雄氏に師事してその風格に相似たものがある。

たるの名を恥かしめざる逸材である。

氏は又未曾有なる難局下に對處し、國民貯蓄に徹底の精勵し、その功績も極めて顯著なるものがあり、曩に名古屋遞信局長より感謝狀を授與された。

蓋し氏の如きは新體制下に得難き人材として、村民の信望は絶大なるものがある。

因に長男利一氏は和歌山縣にあつて、海運業を經營してゐる。

るため共同の施設をなす目的で、明治三十六年に設立したものであるが、昭和十一年一月十三日に現組織に改めたのである。

本組合は當地が南牟婁郡第一の遠洋漁業地として知られ、鰹、鮪、シビの漁獲のため鹿兒島方面から、或は北海道、遠く南洋方面にまで出かけることである。

人的資源不足にも拘らず、漁民道場をつくり、新漁民道を敎育して青年を指導し、縣内でも有名なる模範組合といはれてゐる。

地區は古江浦地區一圓で、その販賣先は、京阪神、名古屋、東京方面で、購買方面は漁業用資材一切、酒、味噌、醬油等の生活必需品である。

役員としては理事長大川半藏、專務理事大川富一、理事大川龜次郎、監事下地秀松、庄司武市の諸氏である。

なほ組合關係の人にして、三重縣遠洋漁業組合長より表彰された人は左の通りである。

大川喜一郎(機關長)——以上昭和十三年度第一回目。

大川喜一郎、大川國次郎、中森勘右衞門(機關長)——以上昭和十一年度。

理事長 大川半藏

三重、津市岩田町

氏は當理事長としての外に、數多の要職にあげられてゐる人格者にして、つねに一貫せる信念と遠大なる抱負を以て至誠の奉公を致してゐる。

當家は屈指の舊家にして、また由緒ある家柄として知られてゐる。

先代は家業の傍ら公共に功勞をつくした人であつた。

氏はその男として呱々の聲をあげた。幼にして悠容迫らざる態度の持主で、夙に大器として囑目された。

家業に於いても精勵恪勤にして、その相續せる財産は當時に比し遙かに大ならしめ、今日に至つてゐる。

資性重厚にして信望が篤い。

家風また、氏の人格を反映して人情に篤く、義理を重んじ、清濁合せ容む大度量は部下に慕はれ、人にも尊敬される所以である。

氏はつねに如何にして漁獲を多くして組合を富ますべきかの、科學的研究に心を碎いてゐる人である。

今や押しも押されもせぬ斯業の重鎭として、堂々たる貫錄を示してゐる。

三綿協會

三重、津市岩田町

電話五〇一番

當協會は縣下綿糸綿布類の配給機關として昭和十四年設立さる。而して理事長に丸山好亮氏就任し、本協會の堅實なる進展と共に、本來の使命完遂の爲め、獻身的努力を盡され、創立後なほ日淺きにも拘はらず、現在の隆盛を招來するに至つた。此處に於て業人の氏に期待する所また甚大にして將來への躍進を信賴する所以である。

理事長 丸山好亮

氏は當地に於ける一流の綿糸綿布問屋を營業し、昭和十四年三綿協會設立さるゝに及び、是が理事長の職に就任して、特異的手腕に依る經營方針に因り、逐次繁榮しつゝあり、なほ日本綿糸商業組合聯合會理事、三重縣綿糸卸商業組合理事長、日本タオル工業組合聯合會理事、三重縣毛糸卸商業組合

理事長、津市會議員等の要職にもありて、その職責は實に重きも是に攝ゆます一意專心邁進に務めてゐる。更に溫厚篤實にして且つ誠意溢るゝ氏の人格は、衆人の信望と尊敬を一身に集め、その反面事業の健實なる發展をも、氏に信賴するを最善の方策として期待されること又甚大である。

三重、北牟婁、尾鷲町

裏貴會委員
郡聯合青年團長

高濱忠夫

電話七二番

當家は尾鷲町に於ける屈指の舊家にして、代々業種業を營んでゐた。

當主忠夫氏は明治三十七年の出生にして京都中學を卒業後、鄕里に歸り六ケ年の間尾鷲町及び同町矢ノ浦小學校に奉職し兒童敎育に精勵され、昭和六年職を辭すると同時に現在の地に學用品、文房具商を經營され、その堅實眞摯なる經營方針は絕大なる好評を博し、極めて發剌たる業績を擧げられてゐる。

現在北牟婁郡聯合青年團長、尾鷲町青年團長、翼贊會郡支部理事、警防團部長

當家は代々山林業を家業とせる名望家であり、當主林兵衞氏は年齡二十歲の頃より林業に從事されその卓越せる經營法は業界注目の的であつた。

氏は曩に村長、助役、村會議員、中央山林組合長等の要職を歷任し、村治、產業の開發に甚大な貢獻を致されたる手腕家である。

特に明治四十三年尾鷲索道の開鑿發起人となり、これが完成を圖り、或は舟、村に軌道を作り、木材運搬の利便に供し以て村勢の擴充に寄與せんとして、舟、村長、名古屋山林支局長、その他山林業有力者を遊說すること滿二ケ年、その不撓不屈の熱誠は關係當局を動かし、昭和三年事業に着手、工費十萬圓を費して昭和六年遂にこれの完成を見るなど、その功績は絕大なるものがある。

即ち舟、軌道の完成は尾鷲木材を日本的に著名なるものにしたるのみならず、それまで三百年の永き間交通不便のため伐材不能であつた奥地御料林の巨木が運搬し得るやうになり、加ふるに木炭生產の素地を作るなど、村民にして氏の惠澤を感ぜざる者は絕無である。

三重、北牟婁、相賀町

林業家
元村長

野中林兵衞

電話三二番

氏は資性溫厚篤實なる人格者にして、本年七十三歳の高齢ながら老來益々發剌たる活躍を示し、檜、杉の植林の重要性は勿論であるが、現非常時局下の國策に順應し、松を多量に植林し、パルプ、松脂等の採取を計畫されるなぞ、その意氣は壯者をしのぐものがある。

三重、北牟婁、相賀町

信用組合長
郵便局長

野中孝治

電話引本六九番

當家は代々林業を營み當主孝治氏にして六代を數へ、本町屈指の舊家として聞えてゐる。

氏は明治三十六年の出生にして、北海道農大林學部出身の逸材にして、町勢の發展に貢獻するところ極めて甚大なるものがあり、町民の敬仰を一身に蒐められてゐる。

即ち有賀町信用販賣購買利用組合長、紀北木材商業組合長、翼贊會村支部理事昭和十四年以來は郵便局長等の要職を兼ね日夜寧日なき努力を續けられてゐる。

即ち關西方面に著聞せられる有賀組合の鷄卵は一に同氏の盡力に依り生産せられたるものと云ふも過言でなく、全國的に飼料不足の折柄、飼料雜を救ひ、本年度の如きに二萬羽に及ぶ增殖を見たるは、その裏面に於ける氏の涙ぐましき精勵を知らなければならない。なほ郵便局長としては局員一同協力して局務に盡瘁し、通信事務界に大きな足跡を殘してゐる。

氏は夙に新農民道を唱導し、農民の一學手一投足は、直ちに皇國興廢に關するものであることを力說し、農業並國の根本精神普及に奮鬪してゐる。

林業家としては曩に當局に統制機構に關する眞摯なる意見書を提出し、業界の福利增進を圖るなど、その業績は枚擧にいとまのない程である。

氏は資性溫厚にして篤實、識見又卓越せる人格者であり、又詩人としても聞えてゐるが、今後の活躍は最も期待されるところである。

三重、北牟婁、引本町

歯科醫師
町會議員

櫻井一雄

電話三七番

當家は先代の時當地に來住し、德望頗る厚き家柄であり、先代も町長の要職に就任せられ町自治に貢獻せられたる業績は甚大なるものがある。

當主一男氏は先代の男として明治二十八年一月一日の出生にして、夙に俊敏出藍の譽高く、笈を負ひ東京齒科醫學專門學校に學び、業了るや歸鄉し、本町に開業、その卓拔せる手腕と該博なる識見は患家の絶大なる信賴を得て、業況は極めて盛大なるものがあり、開業以來既に二十餘年當地齒科醫界の重鎭として、名聲嘖々たるものがある。

現在町會議員、翼贊會町支部理事の要職にあり、未曾有なる時艱に際し國家目的完遂を期し日夜間斷なき至誠を致されつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の精神を信念とする人格者であり、銃後國民の指導者として氏の今後に課せられる期待は極めて重且大なるものがある。

三重、北牟婁、錦町

信用組合長

吉田治三郎

氏は當錦町信用組合長就任以來既に二十年、この間國勢の發展に伴ひ本組合の機能の强力を圖り、日夜間斷なき努力を續けられて來たが、時恰も國家未曾有なる難局に際會し、本組合の使命も益々重大なるを痛感され、專心組合精神の普及徹底により、組合の繁榮を致し組合員の福利增進はもとより、以て國力擴充に貢獻し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期してゐる。

即ち氏を中心として幹部役員の畫策施行は極めて機宜に適し、その業況は生々潑剌たるものがあり、益々堅實なる發展を遂げつゝある。

本組合は郡下隨一の優良組合として定評があり、貯蓄額の如きもその比を見ざる成績を示してゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、又情理に富みたる人格者にして、業界に寄與したる功績と共にその信望は絶大である。

三重、北牟婁、尾鷲町

尾鷲信用販賣購買利用組合

電話五四番

理事長 濱田周三郎

本組合は産業經濟の樞軸として、相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により組合員の福利增進はもとより、以て產業報國の完遂を期し、昭和五年設立認可を得たるものである。

以來幹部役員の畫策施行はまことに機宜に適し、頗る顯著なる業績を擧げ、益々隆盛なる發展を遂げつゝある。

本組合は尾鷲町一圓を區域とし、現在二千二百名餘の組合員を擁し、最も優秀なる組合として、嘖々たる名聲を博してゐる。

以來幹部役員はもとより組合員一同協力一致し、業況の發展に盡瘁せられ、遂に今日の、優良組合となりたるものである。

本組合は當村民全部の加入をみ、その機構の整備とこれが運用は理想的なるものにして、村金融、販賣購買等總て組合を通じて實行されてゐる。特に當地は全國に著名なる近海鰮漁地であり、一期に於ける漁獲高は數十萬に達することがある。

理事長 川上義輔

氏は本組合長就任以來は組合精神の普及徹底を圖り、以て非常時局下の國策に順應し、產業報國の至誠を致さんことを期され、日夜寧日なき奮鬪を續け

き奮闘を續けられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、その手腕業績と共に斯界に於ける聲望は絶大なるものがある。

三重、北牟婁、長島町
平岡産婦人科院

本院は産婦人科を專門として數年前に開院せられたるものにして、以來院長はじめ各當事者の獻身的努力により極めて顯著なる業績を擧げ、その眞摯熱誠なる臨床手腕と完備せる醫療設備と相俟つて患家の信望は絶大なるものがある。

院長 平岡俊一

氏は明治三十五年の出生にして、名古屋醫學專門學校に學び昭和五年卒業、その後は名古屋の某病院に勤務されてゐたが、遂に獨立され、當地に開業し現在に至れるものである。

氏は資性溫厚にして篤實、明察果斷の名醫として聞え、夙に醫療報國を生涯の目標とされ、日夜寧日なき奮闘を續けられてゐるが、その一例として入院料支拂困難なる患家には入院料を顧慮せず、懇切なる治療を致されるなど、正に醫に仁術の主旨を體せるものとして、衆人敬仰欣慕の的となつてゐる。

三重、北牟婁、長島町
長島町漁業協同組合

本組合は漁業經濟の樞軸として産業の合理化を圖り、以て組合の繁榮を致し、延いては町勢の發展に寄與せんことを目的とし、明治三十六年五月七日創設されたるものにして、以來國勢の進展に伴ひ本組合の機能も一層整備强化を要求されるに至り、遂に昭和十一年三月三十一日現在の組織に制定されたるものである。

爾來幹部役員の盡瘁により、極めて順調なる發展を遂げ、その業況は發剌期著なるものがあり、最も優良なる組合として好評嘖々たるものがある。

組合長 長井政太夫

氏は曩に町會議員として自治方面に貢獻すること甚大なる外、殊に本組合長に就任された當時は、本組合の經營が最も困難なる時代にして、これが再建に盡瘁せられたる努力は絶大なるものがあり、以來七年間は苦闘の歴史であつたと云ふも過言ではない。而し百戰不撓の精神は遂にこれ等の難關を突破し、現在郡内に於ける最も有力なる組合に築き上げられたるものにして、歴代組合長中にあつて、最大の功勞者として、組合員間の聲望は絶對的である。

氏は資性質實にして剛健、滅私奉公に一貫されたる人格者であり、國家未曾有なる難局に際會したる現在、本組合絶好なる指導者として今後の活躍は益々期待されてゐる。

三重、北牟婁、尾鷲町
福定鐵工所

電話四五番

本鐵工所は先代の創設したるものにして既に三十年の歴史を有し、本町最古の工場として令名がある。

營業種目は蒸氣機關、製材機等を製造してゐたが、非常時統制經濟下に際會し

鐵材不足の關係から、現在では概ね山林具（木材運搬機）漁業具（造船機具、船具、内燃機關修繕）及び小規模なる製材機を製造、その販路は奈良、長野、靜岡、山梨、兵庫、京都方面に及んでゐる。

所長 福定正信

氏は明治三十年の出生にして、現在郡鐵工機械器具組合理事、町内總代として日夜精勵恪勤を續けられてゐる。

氏は資情溫厚にして篤實なる事業家であり、工場の設備に就ても細心の注意をなし、採光通風、諸施設も完全なるものであり、模範的工場として聞えて居り、從業員十五名より慈父の如く欣慕されてゐる。

三重、北牟婁、相賀町
今井清六

翼賛會委員 郡聯合軍人分會長

電話引本一三番

當家は尊父清七氏の代より木材業を經營し、當主清六氏までに六代の家歴を有する名望家である。

即ち尊父清七氏は三十年間村一町會議員として奮闘、現に町會議員中の長老として重きをなし、自治方面の功勞者として敬仰されてゐる。

當主清六氏はその長男として明治三十九年の出生にして、松阪商業學校卒業、步兵少尉に任ぜられたる勇士にして、現在、郡聯合軍人會分會長、翼賛會郡支部理事、相賀町軍人分會長、紀北木材商業組合理事等の要職にあり日夜精勵恪勤を續けてゐる。

即ち翼賛會理事の立場より、眞に國策に順應し、東亞共榮圈確立の中心勢力涵養を理念とし、産業界の代表者としては大、中、小、各業者に各々その所を得さしめための機構の整備を要望し、以て生産擴充を圖り國家目的完遂に協力せんことを期されてゐる。

氏は資性謹嚴にして實直、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者にして、本町中心的の偉材として各方面の信望は絶大なるものがある。

三重、多氣、大淀町
間宮利七

元縣會議員

氏は資性俊敏にして重厚なる逸材であり、曩に縣會議員、村長、農會長、大淀町初代町長等の要職を歴任され、自治方面に貢獻されたる功績は甚大なるものがあり、特に大正十二年村役場の出火に際してはこれが收拾に粉骨碎身の努力を續けられたるは村民衆知の事實である。時恰も村制より町制に移らんとする過渡期であり、その間に町長の重責を擔はれたる氏の歴史は苦難連續であつた。而して不撓不屈の氏は遂にこの難關を突破し今日の大淀町の基礎を築かれたのである。

現在郡聯産組合長、町會議員、伊勢布苔水産合資會社代表社員等の要職に在つて、日夜獻身的努力を續けられてゐる。

伊勢布苔は博覽會、共進會等より、品質優秀を認められ、各種褒賞牧を受領せる優良品である。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の精神に一貫されたる人格者にして、各方面の信望は絕大なるものがある。

三重、松阪市田原町

贊襄會委員　松本喜男

氏は現在大政翼贊會市支部の理事に就任し、今日の時局に卽應して其の職責を完うするに、全能力を傾けて國家的事業に獻身的努力を盡してゐる。斯くて衆人を指導し、現在の國際情勢を認識せしめて、能く、銃後の責務完遂に邁進してゐる。

斯くて氏の高潔にして溫厚篤實なる人格と、誠實なる實行力は衆人の信賴と尊敬を受ける所にして、國家への犧牲的努力は極めて甚大なるものがある。

又氏の敏腕並に蘊蓄は將來への進展期待されてゐるのみならず、各方面に亘る躍進的發展にも重要なる人士として衆望を集てゐる。

三重、松阪市垣鼻町

縣會議長　辯護士　田村　稔

電話七六二番

氏は明治二十七年十月、三重縣宇治山田市岩淵町に出生し、大正十年東京帝國大學法學部卒業、大正十三年松阪市に辯護士を開業し、地方に於ける信任は頗る厚く、選ばれて縣會議員に當選三期、現在縣會議長の椅子にあり、縣下各種機關の要職を兼ねるほか、松阪、飯南獵友會長の任にある。

元政友會に所屬し、縣政に不斷の盡瘁貢獻をなされたことは、百二十萬縣民のよく愼があり、縣河の如き快辯家として聞えてゐる。

趣味はスポーツにして庭球、野球は勿論、あらゆる運動に精通、行くところを知らぬ有樣で、青少年體位向上に奮鬪し又狩獵家としては同地方に於ける名射手であり、百發百中、會員を敎導することは餘りに有名であるが、近時縣政その他各方面の事務多端のため、好きなスポーツ界に進出する寸暇もなく、文字通り席の溫る邊がない。

本職の民刑專件の取扱ぶりは、職業をはなれ、家族の相談相手た懇切さを示し依賴者の信賴は絕大であり「辯護士は田村先生」との定評が高いことは、故濱田國松氏の敎養訓育の成果と稱すべきか。

氏は體重二十五貫に餘り堂々たる偉軀をもち、縣會議場を壓するの慨がある。而し一面後輩を誘掖する點は慈父の如き溫情家であり、特筆に値する美點であり國家益々多難なる現在、その自愛を祈ること切なるものがある。

三重、松阪市殿町

衆議院議員　長井　源

電話三三九番

氏は明治二十七年八月、三重縣飯南郡

粥見町大字島野に出生した。大正二年三月三重縣師範學校卒業後、四ヶ年敎職にあり、大正十二年明治大學法學部法律科を卒業し、高等試驗司法科に合格、昭和二年一月松阪市に辯護士を開業、同年十月三重縣會議員に選ばれ、爾來その職にあること三期、副議長として多年在任、昭和三年七月より歐米諸國を視察し先進國の政治、經濟、敎育等諸施設の見聞を廣め最新知識を極め、地方發展に寄與すると共に縣政に貢獻するところ多く、殊に飯南郡地方に印した氏の努力と足跡は大きい。

昭和十一年衆望を擔ひ衆議院議員に當選二回に及び今日に至り、元民政黨本部青年副部長、情報副部長、三重支部總務に選ばれ、衆議院に於て國家總動員法委員をはじめ、宗敎團體法豫算、建議、請願、米穀自治管理法、又徵兵各委員並に理事のほか、耕地協會副會長、茶業組合中央會議員、縣農會特別議員等々、中央地方に於ける公職は枚擧に遑なく、寡欲にして恬淡表裏なく、宗敎的信念に强く、一燈園生活の信仰者である。

特筆すべきは地方の大小を問はず各種團體の會合に招かれて、晝夜の別なく、遠近晴雨に拘らず出席し、新體制の方途を敎導し、遂くは北海道、台灣、鮮滿に至るまで國民精神振興の講演に自己を忘れて出動し、常時席の溫ることがない。

なほ護國勇士の公葬を新聞などで知るや、萬障繰合せて參列し、弔辭朗讀、遠地に旅行中は弔電を手向ける等、新體制を衆に說き、或は、宗敎精神の根元を顯現して、あまりなきものと云ふべきである。

氏は資性謹嚴にして重厚、識見卓拔せる人格者であり、日常生活は新體制は自己からとなし、好物のタバコ、酒類を九月一日より排し、燈影即ち一燈園生活の主義に則り、燈影の光を尊重し新體制に卽應、自家からはガソリンを除外してペタルを利用する等、氏の新生活ぶりは衆の好指標たるを失はず、各界の敬仰を一身に蒐めてゐられる。

三重、飯南、射和村

前村長　竹川　信太郎

當家は本村屈指の資家であり、連綿たる家歷を誇る名家である。

當主信太郎氏は本年七十六歲、襄に、射和村長として村治に貢獻すること四十年、その他產業組合長、町村長會長等幾多の要職を歷任し、村の發展的併合、學校建築、役場の建築、或は道路の改修、產業組合の設立等、現在本村內における諸施設は總て氏の奮鬪に依り完成されたるものにして、その功勞により表彰されたることは枚擧に遑がない。

現在、勢南乾繭共同販賣利用組合長、郡農會長、縣農會評議員、南勢茶業研究所長、村農會長、その他の重職を兼任され、老來益々旺盛なる活躍を致されてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、長者の風格を有する人格者であり、その日常は質實淸廉を極め、縣下有數の偉才として村民敬仰を一身に蒐めてゐられる。

三重、松阪市垣鼻町

松阪鐵工所　社長　安西　三四生

電話五一八番

氏は大正六年三月四日に生る。現時局

下重工業時代への飛躍　巨歩を運ぶ松阪鐵工所こそ、新時代に應はしい青年社長安西三四生氏の主宰に拘るものである。その輝かしい業績は今や業界に不動の社礎を固めてゐる。同所は曾ての松阪商工會副會長故安西友吉氏が大正元年六月個人經營にて創業し、專ら農具の鑄造を業とした松阪鑄鋼所を前身とし、大正十二年六月事業擴張に伴ひ、株式會社に改組したが、同十四年八月これを解散して再び個人經營に移し、爾來凡ゆる研究と努力に依り、凡ゆる點に整備したる折、即ち昭和四年以來は鐵工部に力を注いで途に優秀なる國産を誇るシー・シー工具製造を行ふやうにあり、その飛躍途上に友吉氏の急逝する所となつたのである。而して氏は弱冠ながら父の遺業を繼承すると共に雄々しく奮起し、親讓りの逞ましい意志と進取の氣象を以て改組を斷行、こゝに合資會社としてその社長に就任し社名も松阪鐵工所とし、新らしく火造工場を增設の上、鐵工所としての凡ゆる方面を整備して、逐次進展の一途を辿つて今日の隆榮を招來したのである。この間に於ける氏の不撓の努力と、熾烈の熱意の賜である。

溫厚篤實であり、高潔清廉の人格は、斯界のみにならず、一般民の信頼と尊敬の的であり、併てこの手腕蓋蓄に期待を掛けてゐること又莫大である。

三重、松阪市茶與町

製材業　**清川千雄**

電話三六五番

氏は明治三十七年に生る。長するに及び村田木材合資會社に勤務してその業を習得し昭和十一年獨立創業するに至る。而して松阪市に於ては新しき事業として業目を集め、その營業に當つては誠實勤勉を信條として努力したる所に、幾多の先輩を凌駕して絶大の信用を獲得するに至り、その進展振りは全く驚異に値する程である。且つ飯南郡、一志郡方面の杉材、檜材を氏の工場にて角材、或は板割にして名古屋、東京方面に取引をして居り、その隆盛は實に將來松阪市木材界の中心的推進力と成る程である。

又氏は伊勢木材同業組合、松阪製材組合、松阪商工會の會員でもあり、「誠實」を以て氏の信念として、大いに職域奉公に務めてゐる。

斯くて氏は明朗且つ豪毅なる性格を持つ人格者で、人情味豊かであり、衆人に敬慕されてゐる。家庭には貞淑なる夫人の外、三人の子供を持つて、その生活は實に圓滿である。

三重、松阪市長月町

木材商　**上田常吉**

電話四四五番

氏は明治二十八年十二月二十日當縣下に生る。木材業を志し十二歳の時斯業界に奉公務めをし、二十二年間の長きに亘つて主人大事に、又斯業の研究と眞摯を把握する爲に一身を堵して盡し、昭和元年初めて獨立創業するに至つたのである

現在自家用トラック二台を所有して、大々的なる活動を續け、今日斯業界に於ける重鎭を爲すに至つたのも、實に氏の不撓不屈の努力と精力的活動の招來した當然の酬いと見るべきである。又氏はよく時局を認識し、國策に順應したる營業方針の下に、健實なる事業の進展に凡ゆ

る方策を樹てゝ斯界の先驅者と認められてゐる。

斯くして繁忙なる家業に活動しつゝ、伊勢同業組合評議員、三重縣電柱同業組合會計理事の要職にもあり、是が職責を完遂するが爲にも犧牲的努力を拂つて、その目的を貫徹してゐる。

氏の溫厚篤實にして眞面目なる人格は斯界には勿論、一般地方民の信望と信頼を集め、而て本市に於ける成功者一人者として、尊敬の的となつてゐる程である。

家庭には貞淑の聞え高き夫人があり、能く內助の功をなして家業を助けて、至極圓滿なる生活を續けてゐるが、子供がなく、只そのことに寂しさを洩らされてゐるが、家業に依り是を慰め、一意專心その進展に邁進しつゝある。

三重、松阪市上川

農具諸機械販賣業　**柴山嘉三郎**

氏は明治三十一年九月四日の出生にして、文字通りの徒手空拳より身を起し、大正十二年には農具商を經營し粉骨碎身の努力を傾注、昭和三年には諸機械販賣を營まれ、頗る顯著な業實を擧げ、爾來益々堅實なる發展を遂げつゝある。

即ちその業況は最近十年間に於ける販賣額は、三重縣下隨一たる驚異的躍進を示してゐる。

特にヤンマー・デーゼル・エンジンの販賣は、極めて優秀なる成績を收め、昭和十二年山岡內燃機株式會社長より表彰状を授與された。その他氏の受領せる表彰状は枚擧に遑なく、如何に忠實眞摯なる經營なるかを如實に物語るものである。

氏は資性溫厚にして篤實、公平無私なる人格者であり、農村民の信望は絶大なものにして、近く將來には市會議員の席上に颯爽たる英姿を仰ぎ得るものと嘱望され、その前途は洵に洋々たるものがある。

三重、松阪市中町

市會議員　**佐久間德三郎**

氏は明治三十一年七月十八日に生る。斯くて三代に亘り長谷川商店に勤、現在同商店の支配人を辭してその相談役となつて大いに手腕を振つてゐる。

現市會議員、學務委員、區長、その他神社佛閣の總代等の要職に就任して、職責を完遂する爲め犧牲的努力を盡して、大なる事責を擧げてゐる。

氏は又、子弟の學校教育に力を入れ、長男は慶應義塾法科卒業、現在製粉會社に勤務し、次男は早稻田大學政治經濟學部卒業後、商工省に勤務中であり、三男は中學に在學中にて、大いに勉學中である。

資性溫厚篤實なる氏は、地方民の信望と尊敬の的となつて居り、その手腕と蓋蓄に又多大なる期待がかけられてゐる。

家庭は至極圓滿にして、和氣藹々たる零圍氣は、家外にまで流れてゐる有樣である。

三重、松阪市隣保館內

市會議員　**上田音市**

氏は尊父長八氏の男として明治三十年二月二十六日の出生である。

夙に俊敏出藍の譽高く、弱冠二十三、四にして自治方面に關與し、その將來の

大成を期待されたものである。

現在近畿融和團體常務理事、三重縣厚生會理事、伊勢表工業組合理事、同工業組合聯合會理事長、司法保護委員、市會議員、區長、聯合町內會長等の要職を兼ね、關係事業として隣保館を經營され、日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

卽ち各方面に亘り貢獻されたる業績は其大なるものがあり、特に未曾有なる難局下に際會し產業の振興は、國力の增進に重大なる關係を有し、又人的資源の培養の必至なるを痛感され、これが完遂は直ちに國策に順應するものとして、その活躍は特に顯著なるものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、各方面の信望は絕大である。

三重、松阪市新町

藥種染料商　**東谷正季**

電話一〇番

當家の創業は明治三十八年にして、當地屈指の藥種染料商として令名があり、その業況は頗る顯著なるものにして、堅實眞摯なる營業方針と相俟つて、その信望は絕大なるものがある。

當主正季氏は先氏淸氏の男として、明治四十五年一月十二日、河藝郡一ノ宮村に呱々の聲をあげた。

昭和七年大阪藥學專門學校を卒業するや父業一切を繼承し、以來一意專心家業の進展向上に精勵し、現在に至れるものである。

氏は資性溫厚にして篤實、公平無私なる人格と共に、業界新進の逸材として嘖々たる名聲を博してゐる。

氏は敬虔なる信仰家として禪宗に歸依し、又高雅な趣味人として音樂を愛好される良き意味での近代的紳士である。

家庭には母堂ヒサさん高齡を以て益々健在、夫人シゲさんとの間に二男二女を惠まれ、和氣藹々たる生活を營み、町民の的となつてゐる。

三重、松阪市白粉町

市會議員　**矢津傳次郎**

電話九〇二番

當家は松阪市に於ける屈指の資家であり、殊に先祖は近村矢津村草分の家柄として聞えてゐる。

當主傳次郎氏は明治三十三年の出生にして、昭和八年その當時まで各種新聞合同販賣店であつた店を引受け「大阪每日新聞」專賣所となし、新聞の持つ文化的使命を認識し銳意之が經營に當つた。

これより先、氏は存立の危機に直面せる紀伊自動車株式會社の再建に盡瘁され營々孜々として苦難の經營を續けること四ケ年、その眞摯、懸命なる奮鬪は着々として成果を擧げ、遂に同社今日の隆盛を齎ち得られたるものである。

現在同社の重役、松阪市商工會監事、三重縣大阪每日會幹事長、市會議員、白粉町區長等の要職を兼任し、日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

氏はなほ敬神崇祖の信念より、縣社本居神社の造營昇格を圖り、これが實現に邁進され、名士、要路の有力者を勸說すること多年、最近は大每發行の「少國民新聞」紙上を借り、これが達成を全國識者に訴へんと計畫中である。

氏は資性瀟達にして重厚なる紳士であり、他面情理に篤き人格者にして、その實眞摯なる營業方針と相俟つて、その信望は絕大なるものがある。

高邁なる識見と相俟つて當地方の信望は絕大なるものであり、非常時局下好指導者として、松阪市勢の伸展、並に文化の建設に重大なる役割を果すものと期待されてゐる。

三重、松阪市茶與町

木材業　**萩原直一**

電話二〇番

氏は明治三十七年の出生にして、木材業界に關係してより二十二年の研鑽を積み、遂に昭和六年獨立開業、〇を商標として奮鬪され、その堅實にして眞摯なる營業方針は、松阪市茶與町一圓の業界に著聞せられるところであり、その信用は絕大なるものがある。

氏の營業は、木材を一志郡、多氣郡、飯南郡の諸產地より素材のまゝ購入し、杉丸太を主に、檜、松等を製材し、販賣せるものにして、その主要なる取引先は名古屋、東京方面である。

現在伊勢木材同業組合、松阪木材商業組合員として組合精神を正しく認識され公益優先の信條の下に、日夜獻身的努力を續けつゝある。

氏は資性明朗にして瀟達、しかも情理に篤い人格者にして、その風格は業界齊しく敬仰するところであり、同店從業員も氏を玆父の如く敬慕し、和氣藹々たる中に、優秀なる營業成績を擧げてゐる。

三重、松阪市垣鼻町

材木業　**大西健三**

電話八二二番

當家は三重縣飯南郡に有し、主として丸材販賣を家業とし、その販路は名古屋方面一圓に及んでゐる。

氏は飯南郡の出身にして、本年三十八歳の働き盛りであり、松阪商業學校を卒業し、家業を繼承して以來一意專心、業勢の發展向上に精勵して、着々成果を擧げ、その業績は極めて顯著なるものがある。而して現町長に酒井與三治氏就任し、町制の革新並にその進展に盡瘁して居り、遂次その成果を收めてゐる。

氏は現在相賀町長及町農會長の要職に在つて手腕を振ひ、

町長　勳八等　**酒井與三治**

氏は資性質實にして剛健、滅私奉公の至誠に一貫したる人格者であり、業態一致協力して、利害を超越して國策に順應し、以て東亞共榮圈確立の一翼として奮鬪せんことを期し、日夜間斷なき盡力を致してゐる。

家庭に於ては、尊父六十九歳の高齡を以て益々健在、業界の最長老として信賴され、夫人ヨシ子さん(三十歳)との間に三子を惠まれ、和氣藹々たる生活を營んでゐる。

三重、北牟婁、相賀町

相賀町役場

電話一四番

相賀町は明治十二年に相賀、小山浦、便の山を以て相賀村となし、昭和三年に町制施行されて現在に至つたのである。

郡の中央は稍南郡に位して東に引本町須賀利村、桂城村通ずる尾鷲引本本道、南北に津、木本線延びて交通要衝の地である。

又斎産組合長その他にも就任し、大いに期待をかけられてゐる。更に氏は永年行政官として縣下各警察署長を歴任し、町長の職に就きて十有餘年にも亘つてゐる人士で、その溫厚篤實にして且つ高潔なる人格は、町内の信頼と尊敬を一身に集めて、極めて重要の士として嘱目されてゐる。なほ人情味豊かなる氏は、能く町民の世話を爲し、その信望と敬慕を受けること又甚大である。

三重、北牟婁、長島町
鮮魚問屋　長井宗平

當家は代々鮮魚仲買問屋を經營し、その業況は頗る發剌たるものがあり、その堅實眞摯なる營業方針は同業者間に絶大なる信用を博してゐる。

當主宗平氏は本年三十六歳の壯年にして、現役兵として入隊、除隊後現在に至るまで十有餘年、在郷軍人長島町分會長を勤め、なほ翼賛會町理事、警防團班長青年學校指導員等、多方面に活躍され、その功績は極めて顯著なるものがある。

氏は資性質實にして剛健、情理に篤き奮闘家であり、處世の道にも一見識を有し、町民の聲望は甚大なるものがある。

時恰も未曾有なる難局上にあり、物的人的資源の要請は一層大ならんとする時氏は青年學校指導員として、專心至誠盡忠の青年を訓育し、以て國家他日の要に資せんことを期されてゐる。

家庭に於ては兩親益々壯健であり、夫人との間に五人の子女を惠まれ、和氣靄々たる生活を營まれてゐるが、誠に目出度き限りと云ふべきである。

三重、北牟婁、船津村
信用販賣購買利用　組合
組合長　松場　明雄

氏は本組合創立當時より關與され組合員の福利增進はもとより、以て村勢に寄與せんことを期されてゐたが、組合長就任當時は本組合の最も不振の時代にて、この難局を擔つて奮闘されたる功績は甚大なるものがあり、組合間の信望は頗る篤い。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の信念に一貫されたる人格者にして、現在村會議員その他の要職を兼ね、日夜間斷なき至誠を捧げられ、村治に重要なる貢献を致してゐる。

三重、北牟婁、桂城村
白浦漁業協同組合

本組合は明治三十六年五月二十日設立され、昭和十一年十月二十八日現組織の設定を見たるものにして、漁業者相互扶助の強調によつて現下の經濟的打開と啓發に邁進し、或は組合事業の向上に眞摯なる努力を重ね、着々として組合員の經濟的福祉はもとより組合内容の強化確立をなしつゝある。組合員また克く協力一

致、總親和の實を擧げて遺憾がない。

組合長　濱田　友平

氏は村會議員、區長との他の要職を兼任せられ、特に本組合長就任以來は漁村經濟の樞軸として、村勢の擴充に、經濟更生に、極めて重大なる役割を課せられたるものなるを認識し、これが機能の強化を圖り、以て非常時局下にある國家目的に即應し、職域奉公の至誠を致さんことを期してゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の精神に一貫されたる人格者にして、その手腕功績と共に村民の信望は絶大なるものがある。

三重、北牟婁、須賀利村
須賀利村役場

本村は古の相賀莊にして、もと桂城村と共に引本町に入りたるが、後分離し、古くより漁業を以て聞えた所である。その地勢は引本町の東にある半島地にあり南熊野灘に面し、中部に突出するを尾南曾鼻といひ、二個の灣入を作り、東を本須賀浦、西なるを須賀浦と稱し、須賀浦は良港にして和船の進入に適してゐる。

産業は水産が最も發達し、その他農産林産、工産業、畜産等がある。官衙に須賀利郵便局、寺院に菩洞宗派の普濟寺がある。本村に於ける部落常會の機能は極て理想的に遂行され冠婚葬祭に於ける費用の節約、或は門松の如きも、松の根本を切らず、その枝を用ふるなど資源愛護の重要性を認識せしめ、公儀の消化も一家の主人の所勞に據らず、婦人の得たる金によりなされる等、その組織と業績は縣下に於て最も優秀なるものがあり、過般縣知事が來村され、その成果を賞讃されたることがある。

村長　新家　德信

氏は當村長就任以來既に二期を數へ、その間本事變發生と共に應召され、赫々たる武勳を樹立して歸還されたる勇士にして、歸還以來は聖戰目的完遂を期され、日夜寧日なき努力を續けられてゐるが、一例として本村民はもとより、村内歩行中の喫煙を絶對に許さず、總ゆる時間を産業增進に勤員され、以て東亞共榮圏確立の一翼たらんことを念願とされてゐる。

氏は資性質實にして剛健、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者にして、村民の信望は絶大なるものがある。

三重、河藝、一身田町
素封家　辻　孫一郎

氏は明治三十四年の出生にして、法政大學の法科を學びたる俊才にして、河藝郡一身田町の多額納稅者として高名なる方である。

實に本縣の貴族院議員小林嘉平治氏の令嬢を夫人として迎へられ、極めて惠まれたる生活を營まれ、常に社會公共事業に專念せんこと信條とし、これ等の目的達成に當り、その豐富なる資財を投ぜること枚擧に遑のない程である。

殊に氏は眞摯敬虔なる信仰家として聞え、同町に大伽藍を誇る眞宗高田派本山專修寺の理財員として經理の重責を分擔され、十萬人講の評議員に推されて求道の衆生に先鞭をつけるなど、法燈の隆盛を希願せられる偉大なる存在である。

社會的には、實に勤銀津支店長の前身農工銀行に勤務され、極めて謹嚴なる勤

務振りを讃はれたものである。

氏は資性温厚にして篤實、高潔なる人格者であり、その燃ゆるが如き佛恩奉謝と衆生濟度の熱情は、萬民齊しく畏敬するところである。

時恰も未曾有なる難局下に際會し、外にあつては前線皇軍將士の辛苦に思ひを致し、出動軍人の慰問に、また内にあつては銃後擁護事業に盡瘁され、以て國家目的完遂に協力し、東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期され、日夜寧日なき至誠を捧げてゐる。

三重、度會、吉津村

材木商 加藤甚平

氏は當年四十歳にして、當地の出身であり、且つ少壯事業家として衆人に認められてゐる。材木業に從事して、不言實行、且つ誠實を目標とする經營方針に因り、今日の實績を招來し、併て將來へ進展を期待されてゐる。

上述の如く家業に專念し、繁多な身で村會議員の公職にも就任して、村政に努力を傾注して公共事業に貢獻することに生れ、温厚篤實なる人格と、卓越せる識見とをもつて、各方面の信望は絶大なるものがあり、當村に於ける元老的存在である。

三重、南牟婁、木本町

林業家 前川義雄

電話三番

當家は代々林業を以て家業となし、當町五舊家の一にして、又屈指の素封家として聞えてゐる。

尊父佐左衛門氏は縣會議員、町長、銀行頭取等の要職を歴任し、實には代議士に立候補されたる程の人望家であり、自治、金融界の大立物である。現在は東京に住居し、悠々自適して居られる。

當主義雄氏は佐左衛門氏の長男として明治三十七年の出生、中央大學法科に學び、優秀なる成績を以て卒業されたる俊英であり、家業繼承以來は專心家業の發展に盡瘁され、その卓越せる手腕により極めて顯著なる業績を示し、現在に至れるものである。

氏は夙に産業報國を信條とし、殊に國家未曾有なる難局に際會し、これが增産は直ちに國力擴充に寄與するものなることを確信、日夜倦々孜々たる奮闘を續けてゐる。

氏は資性温厚にして篤實、詩藴豊かな文化人として町民の信望は極めて厚く、近き將來には當町政に重大なる地位を占むるものと、各方面の期待は頗る大である。

三重、南牟婁、木本町

木材業 奥川龜三

電話一四九番

當家は代々林業を以て家業となし、當町五舊家の尤として聞えたる素封家である。

當主龜三氏は明治三十年の出生にして明治大學法科を卒業後、歐米に遊學すること多年、幾多の收穫を得て歸朝せらるる博覽多識の逸材である。

家業を繼承以來は鋭意之が經營に盡瘁し、産業報國の熱誠の下に着々なる業績を示し、當地業界の重鎭として不動の地位を確保され、その聲望は絶大なるものがある。

現在三重縣南牟婁郡協力會議々長の要職にあり、日夜間斷なき努力を續けられてゐるが、特に未曾有なる非常時局に際會し、民心の昂揚、産業開發の合理化を圖り、町民の福利增進はもとより、以て東亞共榮圏確立の一翼たらんことを期し臣道實踐の至誠を捧げつゝある。

氏は資性重厚にして剛腹、識見卓越せる人格者であり、その滅私奉公の精神と共に各方面の敬仰の的となつてゐるが、近き將來には名實共に當町の長たるの器として嘱望されてゐる。

三重、飯南、宮ノ前町

叶林業會社長 堀逸三

當家は當地方切つての豪家山林家として著名であり、當主逸三氏は本年五十五歳にして、飯南郡波瀬村の豪家田中氏の令弟であり、幼少の頃堀内家の養嗣子として入籍されたるものである。

氏は早稻田大學に學び、學成るや歸鄉され、以來は家業一切を繼承し一意專心努力され、その卓抜せる手腕達成により極めて多大である。

家庭には二人の子供ありて、その生活は實に明朗にして圓滿である。

なほ温厚篤實にして實行力盛んなる人格は、多大の信望と尊敬を受けることゝなり、現在氏の存在は當地にて極めて重きをなしてゐる。

三重、度會、吉津村

造船業 濱地喬

氏は本年二十六歳にして、昨十五年二月、一線より歸還し、先代よりの造船業を經營するに至れり、而して資材難と人的不足等の困難を突破して、一路造船報國に驀進してゐる。なほ將來に於ける船舶の製作を目ざして、全能力を傾けて奮闘中で、更に遠洋漁業の進出を志ざして、その準備に浚巡してゐる。

氏の温厚篤實なる人格と、躍進的抱負は、本業の將來に、大いに期待されてゐる。

家庭には母堂のみにて未だ妻子なく、只々母堂への孝行を盡して、愉しく日を送つてゐる。

三重、南牟婁、市木村

市木村信用販賣購買利用組合

電話一三番

本組合は産業經濟の樞軸として、相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により、組合員の福利增進を圖り、以て産業報國の完遂を期し、大正九年九月創立せられたるものである。

爾來幹部役員の畫策施行まことに機宜に適し、着々たる業績を擧げ、益々堅實なる發展を遂げつゝある。

本組合は、市木村一圓を區域とし、出資總額一萬四千六百圓、現在五萬圓を目標として一層眞摯な努力が續けられてゐる。

理事長 勳八等 古部三郎

氏は多年村教育界に關與して斯界に貢献せられ、その功績は甚大なるものがあり、勳八等を賜はりたる逸材にして、現在翼賛會村理事の要職を兼ねて老來益々旺盛なる奮闘を續けてゐる。

氏は本年七十一歳、當村切つての豪家

家運は益々隆盛の一途を辿り、極めて顯著な業績を擧げられた。

現在翼贊會郡理事、堀内家一族を以て組織されたる叶林業會社の社長として益益精勵恪勤を續けられてゐる。特に未曾有なる國家非常の秋に際會し、業界一致協力して産業の開發を計り町勢の進展に寄與し、以て國策に順應し、東亞共榮圏確立の礎石たらんことを期され、寧日なき奮闘を致されつゝある。

氏は資性温厚にして篤實、識見又高邁なる人格者であり、業界の信望はもとより各方面の敬仰は絶大なるものがあり、氏の今後の活躍は等しく恬目して待つところである。

三重、飯南、波瀬村
村長　田中彦左衞門
電話五番

氏は當年六十五歳の高齢なるも、今なほ矍鑠として若年を凌ぐものあり、當地方切っての素封家にして、十五代四百年の家系を有してゐる。代々酒造業を營んでゐたが、途中にて山林業に轉じて、これを事業とし、今日にいたったものである。

氏は温厚篤實にして、德望極めて厚く村民の敬慕と信頼を一身に集め、家運の隆盛を圖ると共に、村民一同の經濟向上と精神的指導にも全力を傾けてゐる。

明大法科を卒業、目下主計中尉として廣東方面の戰線にて活躍中の長男を有し次男は四高を經て東京帝大を卒業したる秀才である。

三重、飯南、櫛田村
櫛田信用販賣購買利用組合
理事長　永田彦次郎
電話六七四番

本組合は大正十四年の設立で、現理事長永田彦次郎氏は設立當初よりの理事長にて、本組合の内容の充實に、又堅實なる業務の進展に、大いなる努力を盡され、今日の成果を收めるに至ったのである。

なほ當組合は、その實績の上から見るもその使命を完うするに足る成績を擧げて居り、組合員は經濟的向上と精神的指導に對して全機能を發揮して、組合自體の目的達成に邁進してゐる。

氏は現理事長の職に在って、當組合創立當初より理事長にて、その手腕と蘊蓄は大いに認められてゐる。斯くて該組合聯合會の常任監事としても殆んど寧日なき程の活躍をし、或は統制下に於ける肥料の按分配給、同價計算に對する氏の經驗に立脚しての理論は多分に重きを爲し、又當地方に於ての組合病院の設立に對しての準備とその計畫に日夜努力する等、極めて繁忙の身に各方面に對しての確固たる發展を獲得する爲の努力は、實に言語に絶する程のものがある。

更に温厚にして且つ高潔なる氏の人格は、全ゆる方面に反映して、その信望と敬慕を受けること實に甚大にて、大いに將來を期待されてゐる。

三重、飯南、花岡町
花岡町役場
電話六七四番

當町は明治四年廢藩置縣に際し、第三大區の内、小西の區に組込まれ、明治七

年八月第十區となり、事務取扱所を大黒田に置かる。明治十一年三月の區劃改創に伴ひ大黒田組と改稱、同二十一年四月町村制實施に當り花岡村と呼稱、昭和七年七月一日町制實施と共に花岡村を花岡町となり現在に及んでゐる。而して當役場はその創設以來、凡ゆる障碍並に難關を排除し、極力是が内容の充實に、或は堅實なる發展に東奔西走を續け、遂に今日の模範的町役場となって現在に至ってゐる。又單に役場の進展にのみ努力してゐるのではなく、その絶對的統制の下に全員一致協力、町民の經濟向上、之に伴ふ福利增進に活躍してゐる。その目的はこゝに達成して町民から厚い信望を持たれてゐる。

町長
若林健次郎

氏は現在町長の要職に在って、町政に或は公共事業に全能力を傾注して、町長としての職責を完うし、今日に至るまでに殘された事績は實に偉大であり、その數知れぬ程である。又町會議員に、區長に、或は農會及産業方面に就任して、大いなる活躍をしてその責任を果してゐる。

資性温厚にして高潔な氏の人格は、町民の敬慕する所で、その信望或は尊敬を一身に集めてゐると豊かなる蘊蓄に、全町民擧って大いに期待してゐる。

三重、松阪市垣鼻町
材木商　田中惣七
電話五七六番

氏は明治二十五年六月、大内山村に生る。而して現在家業の材木商を經營し、當地方に於ける斯業界にありて、その頭角を現すだけの業績を收めてゐる。此處まで至る間の氏の活動は實に目覺しきものがあり、併てその艱難辛苦を突破して不斷の努力が招來した賜である。

なほ石家業に專念する傍ら、松阪市會議員、松阪信用組合理事、松阪商工會議員、軍人會副分會長等の要職に就任して當地方に於ける經濟、教育、政治方面にて、多大の事績を擧げてゐる所向つて、その職責を全うすべく、日夜東奔西走して、多大の信頼と尊敬の的となってゐる所に一般の厚い信頼と尊敬の的となってゐる。而して、材木商の實績は、その商報「丸に惣」の印が殆ど通貨の如く信任されてゐるのを見ても理解され所である。

開業は大正十四年であるが、その取引先は全日本内地は勿論、朝鮮、台灣、樺太方面に迄及び、優秀なる商品の供給、之と同時に何品に依らず他店に於て引合はぬ様な物に對しても、易々諾々として引受け、正直に、誠實に、且つ親切にと云ふ信條の下に經營して來た賜で、巨萬の富を作り上げた素因である。

氏は温厚篤實、併で誠忠情厚の人格者で、人情味厚く、能く當地方の絶大の信頼と尊敬を集中せしめてゐる程である。

家庭は至極圓滿で、當地方に於ての模範家庭として羨望の的になってゐる。又斯界に對するその進展は大いなる期待を掛けられてゐる所で、氏も亦順調なる發展を目標として徹底的努力を盡してゐる所である。

三重、松阪市殿町
縣會議員　従七位　西川　市太郎
電話八九番

常家は「四ツ又の酢屋」で著聞せる松

阪市大字下村の素封家である。

當主市太郎氏は西川家の五代目として明治三十一年二月産聲をあげ、大正五年松阪工業卒業、志願兵として鄕土部隊に入營、昭和三年歩兵中尉に任官、從七位に叙せられた。

昭和十年秋の縣會議員選擧に政友派の大御所安保庸三、後藤脩の兩氏は、白晳の青年西川市太郎氏を候補に立てた。血戰の相手は松阪市切つての名望家で、大先輩の岡惠氏であつたが、美事に榮冠を獲得し、更に十四年の選擧にも因緣の强敵と再び中原の鹿を爭ひ凱歌をあげた。

即ち西川氏は今や堂々たる縣會の中堅的存在であり、同時に松阪市會議員を兼ね、實業方面は、山田松阪自動車株式會社、松阪商工業組合協會長、神戸信用組合理事、松阪電鐵會社監査役、その他數多の取締役の要職にあり、縱橫の鬼才を謳はれてゐる。

爰に神戸村が松阪へ合併の當時、氏は在鄕軍人會神戸分會長の重職に在り、終始嚴正中立の態度を以て部內の統御に異數の手腕を見せ、今なほ關係者間に喧傳せられるところである。

昭和十四年の通常縣會では終始沈默を守り、監視の態度を持されてゐたが、他面調査委員長として委員會をリードし、明快な裁斷に本舞台以上の腕の冴えを示され、前途なほ洋々たる逸材である。

氏は資性溫厚にして篤實、識見卓越せる人格者あり、各界の聲望は絶大なるものがある。

三重、宇治山田市浦田町

猿田彦神社
記官　**宇治土公貞幹**

氏は明治三十三年に生る。若くして惠まれ高潔は人格を慕はれてゐる。幼時浦柳の女史を令姉とする關係もあつて、京都美術學校に入り、更に京都繪畫專門學校に進んで前後五ケ年丹靑の道を究め、異常の天分に發揮して人々を驚嘆せしめたのである。

斯くて碩學猪熊淺麿氏に就き國文學を又た風俗研究會長江間務氏に師事して、歷史風俗を攻學研究を續けたのである。

氏が國體明徵、日本精神作興、肇國觀念の鼓吹に付いてその蘊蓄を傾けて說き來り說き去る信念と拘負とは、東亞新秩序建設の聖業達成に躬を以て「神道報國」に邁進する氣高くも尊い姿である。溫厚にして明朗、侵し難い氣品を備えた氏は青年時代保健の一助として庭球、弓道に親しみ、特に弓道は入神の妙技を謳はれ現に大日本弓道會三重支部長に推されてゐる。

而して當神社は天孫降臨を迎えて御啓行の大任を完して猿田彦命を奉祭する社にして、宇治土公家は實に神代から連綿と續く由緒ある家柄で、猿田彦命は同家の遠祖である。我等は神德讃仰の參拜者が踵を接して群かる同神社と、齊主の上に神明の加護いよ〳〵大なるを信じて疑はないのである。

三重、松阪市垣鼻町

材木商　**大塚耕三**

電話三二三番

氏は當年六十二歲の高齡なるが、現地にて材木商を營み、その統腕と實行力に因り、業績益々擧がり、今日にては斯業界の重鎭として嘱望されてゐる。

鼻にて重きを爲してゐる。

氏は秋田縣化山本郡の出身にして、昭和八年當地に移住して秋田材の販賣に努力せり、その間凡ゆる困難と戰ひ、是を突破して現在の隆盛を招來した事は、要するに氏の忍從と不拔の精神力に依る成果で、將來への健全なる進展を大いに期待されてゐる。

三重、松阪市茶與町

材木業　**岡部一男**

電話一二八番

當店は電柱材を主として取扱ひ、三重縣下に於て最も古き歷史を有するものにして、その堅實眞摯なる營業方針は定評あるもので、主なる取引先は東邦電力であり、その業況は極めて潑剌たるものがある。

當主一男氏は業界に於ても最も世情に通じ、共存共榮の精神を以て奮闘されつつある努力家にして、特に國家未曾有の難局下に際し國策を忠實に遂行し、公益優先を信條としてH夜間斷なき活躍を續けてゐる。

三重、松阪市

市會議員　**村田淺治郎**

電話四四二番

氏は明治十九年七月松阪市に生る。現在氏の在住する區に於ける地主會總務部長の職に在つて、區長を輔佐し、且つ町民の指導する役職にて、その區の財政或は行政上の完遂に努力されてゐる。而して昭和四方市會議員の要職に就任して、現在に至るまで三期に亘り、氏が殘したる功績は多大なるものあり、且つ當地に於ける重要の人士として、又溫厚篤實、高潔なる人格者として衆望と信頼を集めてゐる。なほ氏の本業に對しても相當の蘊蓄を持つて、業界の役員に就き、その內容充實と將來への進展に、獻身的努力を拂ひ、町內での有力者として認められてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、又情理を盡める人格者にして、誠私奉公の精神と共に業界の信望は絶大なるものがあり、松阪市業界の重鎭として嘱望されてゐる。

因に長男も尊父を輔佐して實業に精勵され、新體制下有用の材として屬望されてゐる。

三重、松阪市日野町

伊勢木材同業組合長　**小津芳藏**

電話一七番

當家は當地方に著聞せる名門であり、又連綿たる家歷を有する舊家である。

當主芳藏氏は明治二年六月の出生にして家督繼承以來、一意專心家業たる木材業に精勵し着々業績を擧げ、その堅實眞摯なる營業方針は、業界の好指標とされてゐる。

當家は先代より木材業に從事し、市郡は勿論、縣下に於ても最も古い歷史を有し、當地業界の大御所として君臨されてゐる。

即ちその信望は絶大なるものがあり、得意先の如きも淸水組を始めとし、著名なる大建築業者のみにして、業況は益々盛剌たるものがある。

現在伊勢木材同業組合長、その他幾多の木材關係組合長理事を兼任せられ、家

業の經營は吟と合息に委ね、專ら組合事務に盡瘁してゐる。

即ち産業經濟の樞軸として業界の向上發展に寄與し、以て町勢の擴充に資せんことを期されてゐる。時恰も未曾有なる時艱に際し産業組合に課せられたる責務は愈々重大なるものがあり、組合精神の普及達成により東亞新秩序建設に貢獻せんとし、老軀を驅つて東奔西走を續けられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、明朗なる紳士であり、滅私奉公の至誠と相俟つて業界はもとより町民の信望は絕大である。

三重、松阪市新町

材木商　**竹岡靜一郎**

材木問屋竹岡商店は、一名「山竹」と稱し、松阪市新町に於て營業をしてゐる。而して良質の建築用材を提供するを以て廣く縣內外にその名を謳はれゐるが、曾にそれのみでなく、量に於ても斷然業界を壓する偉容である。

氏は泗商の出身で、卒業以後絲毫なく家業に勵んでゐる。明治四十四年先代の跡を承け、次々と非凡の手腕を發揮し、その堅實なる隆盛に邁進してゐる。更に機を見るに敏活、行うに果斷、萬全の投資も辭さぬ豪商である。

而して管て業界の不況に逢着するや、滿身に漲る氏の覇氣は勃然これに抗戰し累積する難關を乘切つたのみでなく、將來木材界に一大轉換期の來るを豫想し、合理的なる規格統一に飛び込み、優良品の販賣を案出した。かくて今日の隆盛なる所より昔日の跡を觀る時、その苦鬪は實に血の滲み出る程で、氏の不撓不屈な努力と不變不動の信念を以て活躍した賜である。現在業礎益を固く、非常時局に處して、順風滿帆の實績を擧げてゐる。

趣味は野球であり、遼近を問はず觀戰してゐるのみでなく、松岡商業野球チームの發展に、精神的、物質的に多大の後援をしてゐる。又文筆に秀で、且つ雄辯を以て知らる。

資性溫厚篤實にして高潔清廉の人格者で、業界のみに止らず、全町民の厚い信望と尊敬の的となり、氏も亦是に酬ゆるため、日夜奔走して、遂次目的達成に活躍してゐる。

三重、多氣、相可町

相可町役場

電話六番

當町は上古神領に屬し、弘仁二年京都東寺の施領となり、天正十二年蒲生氏鄕元和三年津藩藤堂高虎、同五年紀州侯等が亞でこれを領し明治に至り、同三年度會縣に屬し、同九年三重縣となり、同二十二年相可村となり、大正八年六月二十日町制を施行して現在に至つた。

位置は南勢ライン櫛田川に沿ひ、津田佐奈、齋宮、西外城田、及び櫛田川を隔てて射和、櫛田、漕代の各村に接してゐる。

産物は米、麥、菜種、繭、鷄卵等があり、學校は村立多氣實業學校、相可小學校、同青年學校等がある。神社は鄕社相鹿上神社、村社相生神社があり、寺院に眞宗長盛寺、天台宗淨土寺、同淨光院、淨土宗淨德寺がある。

町長　上島吉藏

氏は警察官として縣下各署長を歷任され、昭和三年在勤滿

十六ケ年に亘る公職を辭されたものである。爾來縣の地方課、町村長就任々懇望されること屢々であつたが、常に辭退し悠々自適されてゐたが遂に出でゝ、北牟婁郡を始とし、度會郡二見町等の町村長助役を歷任、昭和十四年當相可町長に就任、現在に至つた。

氏は資性溫厚にして篤實、情理豐かな人格者にして、堅實眞摯なる手腕により町政に寄與せる功績は極めて顯著なるものがあり、町民の絕大なる信望を一身に蒐てゐる。

三重、松阪市鎌田町

實業家　**松田清七**

氏は明治三十三年名古屋に呱々の聲を擧げた。當家は代々同地方に山林を有し材木業を經營されてゐたが、その後、貨物運輸業に轉じ、以來業務の進展に粉骨砕身の努力を續けられ、その業況は頗る顯著なるものがあり、昭和十五年秋には有限會社松田商店を設立され、爾來同社社長として益々奮鬪、堅實摯眞なる營業方針と共に同業界の模範として好評嘖々たるものがある。

三重、安濃、椋形村

村長　**田中傳一郎**

氏は明治十九年十二月二十九日の出生にして、曩に村會議員、收入役、助役、町村長會長等を歷任され、現在安濃郡町村長會顧問、家畜保健組合評議員、郡大政翼贊會顧問、村產業組合長、安濃郡乾繭組合常務理事、その他幾多の要職に就任され、衆望を擔うて日夜粉骨砕身の活躍を續けられてゐる。

氏は大正二年椋形村會議員となり、道路の改修、小學校舍の改築、村是の確立など有力なる獻策をなし、常に村當局を支援激勵し、二六時中、村民の福祉增進を叫び、衆望の一致するところ信賴の中心となり、後推されて村長となり、老練圓熟の手腕は昭和十五年二月郡內村長の主翼たる安濃郡町村長會長に推された。

氏は村治百般に素晴らしい成果を收められてゐるのみではなく、同郡乾繭組合の重鎭として養蠶家の羅針盤と稱せられその卓拔せる指導と撓まぬ努力とは、縣內外に誇るに足る驚異的な業績を擧げてゐる。なほ自村農會長、郡農會評議員、又は產業組合創設功勞者として各方面の職務を完遂され、自治產業の興隆に偉大な貢獻をなしてゐる。

特に村內の景勝地「長谷山」の一大遊園化を企畫し、グレート津市の郊外公園として都會人に靜かな憩ひの地を提供すべく津市當局とタイアップし、縣土木部ともまた密接な協議を進め、ハイキングコースの指定、その他諸般の準備は日を遂うて完成しつゝある。

氏は資性溫厚篤實にして識見々卓越せ

る人格者にして、その偉大なる業績と共に各方面の信望は絶大なるものがある。

三重、桑名市京町

桑名市役所

電話二三五番

本市は三重縣の北端桑名郡の東南に位してゐる。斯くて昭和十二年市制實施に伴ひ、自然その區域を增大なるに至り、併て臨海工業地帶として發展してゐる。

而して産業方面に對しては凡ゆる施設を完備すると共に、その實績の向上を圖り、又商工業にも方策々盡し、又特に教育に關しては萬全を盡して子弟の訓育に努めて、現時局に即應しての萬策を樹てて完全なる市政の運行に邁進してゐる。

更に社會事業、警防、衛生等につても可及的施設をなして、その健全なる進展を獲得する爲にも全力を傾注してゐる。

現市長に貝塚榮之助氏が推され、市政の刷新に、或はその堅實なる發展に盡力中である。

又助役に奥山米次郎氏が就任して、市長の輔佐としてに盡瘁してゐる。

市長 貝塚榮之助

氏は明治十五年八月に生誕す、明治三十八年東京高工電氣科を卒業、大正四年株式會社高岳製作所社長に就任し、卓越せる手腕と模範的經營に依り顯然たる地位を占めて來たのである。この外桑名瓦斯株式會社、山中清賞堂各社長、內外編物株式會社取締役等を兼任して、市政及實業界の兩方面に活動して、充分なる成果を收めてゐる。

而して氏は昭和五年名譽助役に就任し又昭和九年には名譽町長として、圓熟せる自治的手腕と該博の識見を以て是に盡し、昭和十三年四月大桑名市の建設に當つて市民の輿論は貝塚氏の再起を要望する所となつて、遂に名譽市長に推されて今日に至つたのである。溫厚篤實にして高潔なる氏の人格は衆望を集め、明朗なる氏の市政方針に大いなる期待をかけてその成果の達成に邁進してゐる。

助役 正七位 奥山米次郎

氏は大桑名市役所の助役に就任し、市長貝塚氏の輔佐役として大いに活躍して成果を收めてゐる。

當市は相當至難なる點があり、是を排除して健實なる進展を獲得するには多大の力を要する所であるが、氏は市長の片腕となり、名コンビとして大いにその將來を期待されてゐる。且つ氏の溫雅と清高なる人格は、市民の信望と信頼の的となつて居り、助役としての氏に大いなる敬慕をしてゐる。

三重、度會、鵜倉村

鵜倉信用販賣購買利用組合

當組合は贄浦、磯梅浦、祭屋浦三ケ所全村の加入組合にて、明治四十二年設立され、村民への物資配給と、唯一の金融機關として、逐年發展の一路を辿つて、今日の成果を收めたのである。又組合員の預金も實に驚異的金額に達し、每年多額の增加を示してゐる。斯くて山本貞三氏を理事長に戴き、組合本來の使命を果する爲め、凡ゆる設備を施して、組合員の福利增進を目指して、全機能を發揮し確固たる經營に努力してゐる。

理事長 山本貞三

氏は當年三十五歳の働き盛りにて、當組合に勤務する事十餘年の長きに亘り、現理事長に就任して五ケ年、組合業務には極めて精通し、各方面より信望と尊敬を受けて、組合の向上發展に獻身的努力をしてゐる。

三重、度會、宿田會村

漁業家 加藤安太郎

氏は明治二十五年の出生にして、夙に俊敏出藍の聲高き逸材として聞え、將來の大成を期待されてゐた。若年の頃より漁業界に志を立て粒々辛苦、幾多の難關を突破して、遂に一代克く三、四十萬を算する巨財を築かれたるものである。

現在當地方漁業界の重鎭として業界の聲望は絶大なるものがある。

時恰も國家未曾有なる非常時局に際會し、産業開發は刻下の急務であり、氏は職域奉公の完遂を期し、日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

氏は資性重厚にして篤實、多年海洋に鍛へられた洞達なる事業家であり、その手腕力量は、既に定評のあるところである。

即ち時局は漸く建設的段階に達し、漁業界に於ても國下の下部組織として極めて眞摯なる協力が要求される現在、これが中心的存在としての氏の活躍は益々期待されてゐる。

因に氏は山田市若淵町に玉水旅館を經營され、優秀なる設備を家庭の延長的雰圍氣方針の下に盛況を極め、旅客の好評を博してゐる。

三重、度會、二見町

江村信用販賣購買利用組合

本組合は相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し、以て産業經濟の樞軸たらんことを目的とし明治四十五年に創設されたるものである。

爾來幹部役員の善策施行はまことに機宜に適し、頗る活潑なる業績を擧げ、益益堅實なる發展を遂げつゝある。

本組合の區域は大字江村一圓にして村民全部が加入し、生産品の賣捌、生活資材及び肥料等の配給は極めて圓滑に行はれ、貯金奬勵の主旨徹底により、その貯蓄額も又極めて優秀なる成績を擧げてゐる。

なほ當地は婦女子の副業として、叺の製造が盛んにして、年額約四、五萬圓に達し、當村の經濟に貢獻するとこ洵に大なるものがある。

理事長 喜多與一

氏は本年四十七歳の働き盛りであり、本組合長就任以來、産業報國の主旨により日夜間斷なき努力を續けられ、特に時局艱難未曾有なるに際し、本組合の指導者として村勢に寄與し、延いては東亞共榮圈確立に資せられたる功績は沒すべからざるものがあり、溫厚篤實なる人格と共に、村民の信望を一身に蒐めて居る。

三重、桑名市桑名

桑名通運株式會社 專務取締役 長谷川薫

電話一三〇番

氏は明治二十四年、三重郡八郷村に生る。四日市商業を卒業し、明治四十二年大阪の伊藤忠商店へ入り、五ケ年孜々として精勵、後桑名の名家長谷川家を嗣ぐに至つた。當時の長谷川家は驛前にて運

送店を經營してゐたもので、氏も亦その店務に携はり、經營方面に任ぜられ、大いに敏腕を振ふと共に豐富な蘊蓄を傾けて今日の隆盛を招來したのである。而して昭和二年二月鐵道省の方針に從ひ、運送店合併の機運に際し、率先して斡旋に努め、遂に今日の桑名合同運送株式會社を設立、推されて常務取締役に就任した。

而して氏は昭和六年一月家事の都合上第一線から退いたが、同年十二月同社が未曾有の難局に遭遇するに當つて、關係諸氏の懇望切なるものがあり、再び現職に復し、克く難局を突破して、遂に安固の地盤を築き上げたのである。而して同八年業績の向上に伴ひ、時代の趨勢を洞察して同業者をその傘下に蒐め、組織の改善、社業の擴充強化を圖つて、桑名通運株式會社と改稱して直ちに專務取締役として相變らず重きをなしてゐる。

たほ氏の信條は本業を以て天職とし、會社と運命を共にして、一意專心頑張ることで、實に心強い決意を持つてゐる。又至誠明朗にして理解力に富み、溫厚篤實なる人格の紳士である。併て業界に限らず一般の信望特に厚く、將來への躍進を大いに期待されてゐる。

三重、津市伊勢町
縣會議員　酒井萬馬

當家は三重縣一志郡に於ける屈指の舊家として、連綿たる家歷を有する名望家である。

當主萬馬氏は明治二十四年一志郡の出身にして、夙に俊英出藍の譽高き逸材であり、笈を負ひ東京慶應義塾に學び、後早稻田大學に轉じ、同校政治科を卒業した。

卒業後は三菱の貿易部に入社し、健康を害して退社するまで五ケ年在勤せる、模範的社員であつた。

一志郡に歸鄕以來は各種の名譽職を歷任され、特に昨年まで自治上極めて困難なる村と稱されたる一志郡大三村の村長に就任され、機宜に適せる施策實行により、これが飛躍的發展を遂げしめたるは氏の偉大なる政治的手腕の發露として、名聲嘖々たるものがある。

現在縣會議員、同參事會員、市會議員、津市警防委員、市學委員等の要職に在つて益々發剌たる業績を擧げられてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、情理に厚き人格者にして、庶民の難には病中と雖も靈力する熱意の所有者であり、數々の功績と相俟つて各方面の信望は絕大なるものがあり、近々には市會議員として奮闘すること滿三期に及ばんとし、表彰されるは時の問題である。

三重、三重、菰野町
町會議員　旅館壽亭主　葛谷春太郎
電話六五番

氏は愛知縣の出身である、偶々病氣療養の爲め、當湯の山溫泉に來てその藥効と附近の風光明美に驚き、その所有者より讓渡を受け、多額の資本を投じて大小數十棟の別館を建築して、浴客の利便に供してゐる。更に凡ゆる施設を完備し、中部地方の代表的溫泉地として廣く知られてゐる。なほ現時局に際し、國民の健康を確保するに最適の溫泉地たらしめることに、氏の獻身的努力を期待されてゐる。

而して明治二年迄は菰野藩地であつた

が昭和三年町制實施され、村が町と改稱されて今日に至る。又交通至便にして當溫泉まで電車、自動車の湯治客を吸集して、當地方の經濟的向上と町の隆盛を獲得し、町民の禮利增進に獻身的活動を盡してゐる。

三重、度會、南海村
漁業家　中村岩五郎

氏は當南海村の出生にして、遠洋漁業家として令名あり、海王丸外二隻を所有されて、極めて潑剌たる業績を擧げ、當地漁業界の重鎭として嘖々たる名聲を博してゐる。

卽ちその漁獲額は三十萬圓に達し、然も逐年向上の一途を辿りつゝあり、業界注視の的である。

氏は幼少の頃より海に親しみ、海を家となして鍛練され、明治三十八年には海軍機關兵として日露戰役に從軍し、赫々たる武勳を樹立されたる勇士である。

現在磯浦漁業組合長、三重縣漁船組合顧問、翼贊會縣理事等の要職を兼ね、日夜寧日なき奮闘を續けられてゐる。

氏は本年五十六歲の働き盛りであり、氣宇廣大にして洞達、如何にも海洋人に相應しき風格の所有者にして、公平無私なる人格と共に、業界の信望は絕大なるものがある。因に御令息は本事變に勇躍應召され、目下南支に轉戰中である。

三重、度會、五ケ所町
五ケ所町產業組合
組合長　中西與七

氏は本組合長就任以來、一意專心業務に精勵し、未曾有なる難局下にある組合を指導し、職域奉公の至誠を致され、業界の信望は絕大なるものがあつた。殊に產業報國の中心機關たる本組合の責務は、益々重大なるものがあり、今後の奮闘は刮目されるとろである。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の信念に一貫されたる人格者であり、町內の敬仰を一身に蒐めて居られる。

三重、度會、四鄕村
村會議員　產業組合長　坂口愼之助

當家は當地方屈指の豪家として聞えてゐる。

當主愼之助氏は現在村會議員、翼贊會郡理事、四鄕村信用組合長の要職に在つて、日夜粉骨碎身の努力を續けられてゐる。

卽ち、時恰も未曾有なる非常時局に際會し、國家の總ゆる機能が最大限の能力を發揮すべきを要求されつゝある時、翼

贊會郡理事として銃後國民の責務完遂を期し、或は組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、組合員の福利增進はもとより以て國策に順應し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期するなど、その活躍と業績は頗る顯著なるものがあり、村民の信望は絶大なるものがある。

氏は資性濃厚にして篤實、識見又高邁なる人格者であり、然も本年四十四歲の壯年にして、今後の奮闘は益々大なるものがあるべく、各方面の等しく嘱望するところである。

家庭に在つては、二男一女の慈父として、和氣藹々たる生活を營まれ、羨望の的となつてゐる。

三重、度會、北濱村

村松產業組合

當組合は大正四年の設立にして、その業務内容は、信用、購買、販賣、利用の各方面に亘り、躍進的發展を遂げ、郡内にても有數の組合として認められるゝに至りたるものである。當地方の村民は農七漁三の割合に依る生活樣式を持續し、氣候に惠まれ居る爲め農產物は豐かにして且つ、副業としての菅笠の產出も年五、六萬圓に上つてゐる。

斯くて當組合は村民に對する全ゆる部門に關する經濟的中樞機關として大いにその機能を發揮し、なほ目下共同作業場の新設にも鋭力してゐる。

現組合長は森下宮藏氏にして、氏がその職責に對しての犧牲的貢獻は實に偉大なるものがあり、當組合今日の隆盛を招來するに至つたには、氏の滅私的努力に依る所また多大なるものである。

組合長 森下宮藏

氏は現在五十歲の事業家にして、その實業方面に對する才能並に閱歷は、全てを如實に物語つてゐる。

氏が組合長としての履歷は十四五年のものであるが、その間に於ける組合の内容充實に、或は外的發展に貢獻せし事蹟は筆紙に絶するものがあり、斯界の先覺者として廣く知られてゐる所である。

且つ濃厚篤實なる人格は能く人を使するに足り、併て村民より受ける信望と尊敬は又實に多大なるものであり、今日に於ての氏の存在は斯界に於てのみに止らず、當地方の重要なる人士として特に敬慕せられてゐることは、此處に特筆し置く所である。

三重、度會、南海町

信用組合長 漁業組合長 鈴木保郎

氏は滅私奉公の至誠をもつて、公共事業に一身を献げたる奮闘家にして、現在迫間浦信用組合長、同漁業組合長、同區長、驚贊會村理事の要職を兼任せられ、日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

特に兩組合長就任以來は、組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、組合員の福利增進はもとより、延いては國策に順應し東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され、臣道實踐の至誠を捧げられてゐる。

即ち兩組合とも、村民產業開發資金の運用、漁村經濟の樞軸としてそれぞれ潑溂たる活躍を示し、その業績は極めて顯著なるものがある。

殊に當地は眞珠養殖場として港灣の賃

貸料年額九千圓の收入があり、財政的にも極めて豐富なるものにして、道路の增改修、精米所の設置等、何等區民負擔なしに實施され、これらの總てが組合中心に運用され、實に理想的な平和鄕をなしてゐる。

氏は資性濃厚にして篤實、端正なる風格と相俟つて本組合今日の隆盛を致されたる功勞者として村民の信賴は絶對的なるものがある。なほ家庭に在つては六人の子女の慈父として和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

三重、度會、二見町

松下信用販賣購買利用組合

本組合は相互扶助、共存同榮の組合精神の普及育成により、組合の繁榮を致し組合員の福利を增進し、以て町勢の發展向上に寄與せんことを目的とし、大正六年設立されたるものである。

事業としては、組合員の生活物資の配給、その他肥料の配給機構等が整備され組合員の一致協力に依り貯蓄額も極めて優秀なるものにして、益々堅實なる發展を遂げつゝある。

理事長 畑中喜太郎

當家は當地に於て連綿たる家歷を誇る舊家にして、尊父は神職である。氏は夙に俊敏出藍の譽高く若冠二十二歲の、當時より組合幹部として精勵し、その手腕により年齡二十六歲にして組合長の要職に推輓され、日夜間斷なき努力を續けられてゐる。

氏は資性質實にして剛健、滅私奉公の至誠に一貫されたる氣銳の人材であり、今後の活躍は益々期待されてゐる。

因に氏は本事變勃發するや勇躍應召され赫々たる武勳を樹立し、この程歸還された勇士である。

三重、阿山、上野町

畫家 濱邊萬吉

氏は幼少の頃より繪畫に趣味を持ち、縣立上野中學校を經て東京美術學校を志望したるが近視の爲め素志を果し得ず、己むなく家業の手傳ひをする傍ら日本畫の研究に餘念がなく、彩管の道に奥深く踏み入つて、若き血潮を繪畫に湧き立たせた異色ある存在として廣く認められてゐる。

斯くて關東大震災の直後、三重縣の生んだ在京洋畫の大家奥瀨英三氏が上野町に歸鄕するや大いに氏の畫才を認め、特に日本畫より洋畫に專念するやう勸められ、數年間手を採つての指導に、心ゆくまで研究する機會を捉へ、遂に宿望を達成した氏は大いに感泣して、現在自由自在に製作をする事を得たのである。

大正十五年第二回槐樹社展に「カンナ」其他二點の入選を初めとして、同社展に六回、帝展に六回、文展に二回、各入選したのみならず、昭和十二年の太平洋美術展で「唐玩二種」、「雉」の二點が入賞クサカベ賞を獲得する等、天晴れ、恩師奥瀨畫伯の知遇に酬ゆる事を得たのである。三重縣人の洋畫家としては正に奥瀨畫伯に亞ぐ屈指の人で、將來を大いに期待されてゐる。

又、溫厚篤實にして高潔なる氏の人格は、大いなる信望と尊敬を仰ぎ、更に斯界に於ての氏の作品は、誠實にして熱意溢るゝ點に頭角を現はして居り、併而賞賛の的となつてゐる。

三重、阿山、上野町

中外醫藥株式會社

當社は田山八十吉氏の經營に係るものにして、現在に於てはその基礎に、內容の充實に、或は優秀なる製品に對する生産の擴充に多大なる努力を續けて、遂に驚異的躍進の下にその成果を獲得するに至つたのである。而して縣下に於ける製藥、賣藥界の指導的立場にあり、本會の進展は必然的に斯業界に貢獻する所となり、縣下は勿論、國家的にその進出を要望し、併而期待されてゐる所である。

社長　田山八十吉

當地に芭蕉の文と荒木の武とに歷史を飾る伊賀の地にして氏の地に於ける元縣會議員、前上野町長として多大の功績を殘した田山八十吉氏の存在は、廣く知られてゐる所である。

即ち藤堂氏十二萬石の封都伊賀上野に於て、連綿二十餘代を續けた舊家を嗣いだ氏は、大阪藥專を卒業し、父業を繼いでその經營に專念してゐるを、鄕黨の推薦に漸く許諾する所となつて、郡會、及び町會議員となり、更に昭和六年縣會に席を占めて、其の職責を完遂するため氏の殘した足跡は今なほ町民の信望を集め併て敬慕の的となつてゐる。而して昭和四年以來は上野町長の公職にあつて、町勢の向上、町民の福祉增進に專念して茲大なる功績を招來するに至り、町民より慈父の如く思慕せられてゐる。斯くて都市文化施設に、工場の誘致に、或は町立商業學校の開設、醫療機關の創立、重ねて耕地整理事業等に、氏の在任中に貢獻した事跡は枚擧に遑なき程である。

斯くて右の他、三重縣藥劑師會長、藥品賣藥同業組合の組合長、又製藥工業組合理事長等の要職にもあつて、各方面に對しての功勞も實に甚大なるもので、町內に於ての重鎭として、尊敬を受けてゐる。

三重、津市、大門町

津商工會議所

當會議所は明治二十六年の開設で、現議員五十名を擁して居り、會頭に田中林助氏を推戴して商工界の刷新に、內容の充實に、斯業界の堅實なる進展にその全機能を發揮して經濟的向上に日夜專念し今日會議所としては全國的に頭角を現すだけの隆盛を獲得してゐる。此處に中小商工業者の指導機關として、又業務上必要と認むる調査機關として、その他斯界の堅實なる進展を招來するに必要なる事項の研究並に實施機關として活躍すると共に、業者間の連絡、親交、共存共榮の實を擧げるに文字通りの獻身的努力を續けてゐる。

會頭　田中林助

氏は明治十八年五月に生る。嘗つて津米穀取引所理事長として活躍した先代林助翁の長男で、大正七年家督を相續して家業を繼ぎ、米穀肥料商を營み、斯業界に君臨し、現在津商工會議所會頭の椅子にあり、なほ三重共同貯蓄銀行取締役、關西製糸株式會社取締役會長等の要職をも兼ねて、特異的手腕と豐かなる蘊蓄を傾けて職責を全ふするに、日夜奔走して今日の隆盛を招來するに至つたもので、その間の努力は實に多大である。

氏は青年時代よりスパルタ式實務教育を嚴父より享け、その鞠育と教誨は今日の清節を尊ぶ堅實なる意志の持主となり平素より社會公共事業には常に率先してその目的達成に、獻身的努力を拂つてゐる。その外、凡ゆる方面に亘つて盡した氏の功績は今なほ市民の腦裡に深く刻み込まれてゐる。

斯くて溫厚篤實であり高潔清廉の人格は、七萬市民から崇敬を受けてゐる。

家庭には夫人と二男三女があり、常に和氣靄々、極めて圓滿なる生活を營んでゐる。

三重、津市東餘校町

三重縣肥料商業組合聯合會

前津市長　從四位勳四等　**須山榮**

氏は明治七年に生誕、當須山家に養子となり、家運を再興した人で、當家は所謂舊家名門の家柄である。

氏は京都第三高等學校を卒業し、文官試驗に合格する爲に、全ゆる障碍並に苦心と戰ひ、遂にその目的を達成したのである。

のち農商務省に奉職、山林課勤務を振出しに、各專賣局長として各地に歷任、大正十三年郡山專賣局長を最後に退官し三重、津市下部田に歸鄕し、全市民の崇敬を受けたのである。

大正十四年當津市に歸鄕し、全市民の推擧に依り市長に就任、その後市の水道設備、並に下水工事等の難工事を完成、更に教育に關する事項、その他大事業の成功に、或は社會施設に、全ゆる公共事業、或は社會施設等にも驚異的功績を殘し、歷代の市長中にても最も多くの事績を擧げた名市長である。而して昭和十四年下期の配給割當制度實施されるに當つて、縣當局、配給機關共何れも施行當初の關係上、種々の齟齬又は運營の遲滯を來したるも、漸次是正せられて所期の目的を達成するに至つてゐる。

斯くて理事長に稻垣勘四郎氏が推され常務理事に前田茂、堀川宇三郎、九鬼金平の三氏就任して、本會の確固たる充實と、將來への堅實なる經營方針に基いて本來の使命並にその進展を全ふすべく、一意邁進を爲し、驚異的成果を收めてゐる。本會の隆盛は自然組合員の經濟的向上、福利增進に寄與する所大なるため、その事業上の責任も重大なるものがあり將來に對する計畫及方針も絕對的最善最好のものを以て一途躍進を續けてゐる。

氏は語學に堪能して居り、最近は獨乙語の研究に沒頭してゐるとは全く萬能で、特に書、畫の達人としても有名である。

資性溫厚篤實にして、高潔清廉の人格で、且つ人情味に厚く、一般の信望と尊敬を一身に集めてゐる。

なほ氏は當地方に於ての極めて重きをなしてゐる人士で氏を敬慕する者數知れぬ程である。

家庭は至極圓滿にして、幸に和氣靄々たる生活を營み、近隣羨望の的となつてゐる。

なほ本會の決算上の數字に依るも、極めて驚異的なる進展を示して居り、組合員の多大なる信賴並に期待も此處に懸けられてゐる。更に本會の存立は當地方の重要なる機關として認められてゐるのみならず、全國の斯業界に於ても頭角を現はす業績と共に、極めて重要視されてゐるものである。

理事長　稻垣勘四郎

氏は當地に於ける有力者でその手腕と識善は廣く認められてゐる。かくて肥料商業組合聯合會の創立に當りては盡力され事甚大で、現在本會の理事長に就任して、その確固たる內容充實に、或は堅實なる經營に全能力を傾けて、優秀なる成果を收めてゐる。

更に氏の溫厚篤實なる人格と高潔清美の資性は衆人の信望と尊敬の的となり、本事業は勿論、其他全ゆる方面に亘りて期待さるゝ事また多大である。

三重、津市丸之內本町　津市役所

電話（代表）七二四九番

當市は明治二十二年市町村制發布に際し、安濃郡より分離し橋北、橋南と合し市制實施、津市として獨立と同時に大門町に市役所を設置し、次で同三十三年八月西町に廳舍を置く、明治四十二年四月一日安濃郡の一部、塔世、建部の兩村を合併し、更に昭和九年六月一日安濃郡新町を合併、同十一年三月一日同郡藤水村を、同十四年七月一日、一志郡高茶屋村を併せて現在に至つたのである。

市長　堀川美哉

氏は三重縣名賀郡比奈知村で生る。實父保氏の長男で明治三十六年家督を相續、同四十一年早稻田大學經濟科を卒業し、なほ米國コロンビヤ大學及英國倫敦大學に學んで來た。而して東京日日、中外商業の記者として活躍當時、出征軍醫問のため、西比利亞に出張、又歐洲諸國及南洋方面をも視察してゐる。かくて衆議院議員たること二期眞の政黨政治家として活躍を續けたが、昭和五年一月須山榮氏の後を襲つて、第八代の津市長となり、爾來四選今日に至る。更に新興途上の大津市建設のため、全精魂を打込み、各町村の合併を矢繼早に實現せしめ、その目的を達成したのである。又都市計畫の一大事業も、氏の特異的手腕と燃ゆるが如き熱意に依つて逐次進渉し、現在市街の大部分が既に面目を一新してゐる。又當市の發展の一助として工場誘致に奔走し、その目的も着々達成してゐる。かくて氏の功績は偉大なるものがあり、市民から絶對的信望と期待を以て迎えられてゐる。

現在津市長、津商工會議所顧問の要職

にあつて、全ゆる方面に亘つて多大の足跡を殘してゐる。氏の溫厚篤實にして清廉なる人格は、全市民の信賴と尊敬の的となつてゐる。

三重、津市大門町　津信用組合

當組合は產業經濟の機軸として、業界の相互扶助、共存共榮の組合精神の普及達成により、組合の繁榮を致し組合員の福利增進を圖り、以て町勢の進展に貢獻せんことを目的とし、大正十二年二月十六日設立認可を得たるものである。

爾來幹部役員の適策施行はまことに機宜に適し、着々として事業の發展をみ、極めて順調なる業績を擧げつゝある。

特に國家未曾有なる難局に際會し、組合に課せられたる責務は愈々重大なるものがあり、組合員一致協力し、克く現時局を認識、產業報國の實を擧げることを期し、益々奮勵たる活動を續けてゐる。

組合長　岡長三郎

當家は津市に著聞せる名家であり、連綿たる家歷を有する舊家である。

當主長三郎氏は明治三十四年津市中河原に出生し、大正十四年大阪商大を卒業大林組東京支店に入社したが、同十二月一年志願兵として歩兵第三十三聯隊に入營、除隊後大林組名古屋支店に勤務、昭和三年病氣のため退社した。

昭和七年先代の跡を承け津市會議員に當選長の椅子を繼承し、翌年市會議員として活躍現に市會の中堅層として活躍するほか、津市在鄉軍人分會長（歩兵少尉）、先考の創設せる津信用組合長、翼贊會津支部役員等の要職にあり、市街地金融界に堂々の陣を張つてゐる。

氏は信用組合を主宰するや、堅實にして而も積極的なる方針を持ち、他面放慢なる貸付けを愼理し、一方市民の預金はお互ひの信用組合へ、と聲を大にして呼びかけ、內にあつては着々陣容を整備し儘々二ケ年にして預金を倍加せしむるなど、その手腕力量は驚異的なるものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、高風清節の人格者にして、市政の明朗化と市民の福利增進に貢獻せる偉大なる足跡と相俟つて、各界の信望は絕大なるものがあり、その前途は刮目して待たれるところである。

三重、津市上濱町　三重高等農林學校

電話九五六番

本校は大正十一年四月開校し、農學科農業土木學科、及び林學科に各四十名を收容して、授業を開始した。而して上原種美氏が初代校長として就任し、本校發展の爲めに全ゆる障碍を突破して今日の隆盛なる發展の礎石を据ゑた。今なほ名校長として一般に絕讚と尊敬を受けてゐる。

而して同十三年四月には全學級の充實を果し、同年十一月一日文部大臣を始め朝野多數の名士參列の下に開校式を擧行して、爾來この日を以て本校記念日と定めたのである。

又　六十四帝國議會の協贊を經て、昭和八年四月二十八日、本校內に第二拓殖訓練所を設置して、移植民敎育に充當せしめる事になつたのである。而して本所

も逐次その目的達成に邁進して遂に今日の成功を收めるに至つたのである。

更に本校は、農學科、農業土木學科及び林學科の三科に分設されてゐるが、特に農業土木學科は本校の特設科で之を獨立した一正科として設けたのは我國に於ての嚆矢とする所で本校の誇りである。

なほ農村工業實科があり、是は昭和十三年四月七日文部省令を以て、本校の一施設として設置せられ、同年四月二十五日第一回生の入學を許可し、五月二日より授業を開始したもので、本科も亦特異性を持つたものとしてその將來を嘱目されてゐる。

本校はその修了年限三ケ年で、現在に於ける隆榮は目覺ましきものがあり、その教育に對する功績は絶大である。而して學徒の父兄よりの信頼は勿論、一般民の期待も亦多大である。併てその全ゆる設備は特別に完備されてゐるを本校の誇りとし、今後益々その充實と進展を圖つて、その目的達成に邁進してゐる。

校長 高橋隆道

氏は從四位勳四等の局書を持ち、併て農學士の學位をも有して居り、本校としては校長としての氏を誇りとすると共に、絶對的要人である反面、氏としてはその校長の職責完遂に日夜東奔西走の努力を拂つて、一意專心盡力してゐる。氏の溫厚篤實にして淸廉なる人格者で、斯界は勿論一般の人々から多大の信望と尊敬を受けてゐる。此處に於て氏は確固たる信念と覺悟を以て本校の順調なる發展に、併てその目的達成に實に目覺ましき活動をなし、滅私奉公に一身を堵して盡瘁してゐる。

三重、津市南堀端町 石川鐵工所

電話一二一三番

本鐵工所は昭和二年に創立され、種々改善と擴張を行はれて今日に至つたので當所は優秀無比の製粉機の製作を以て廣く知られてゐるが、是は實に斯界技術界の權威者の指導を仰ぎ、最も經濟化されたる製作方針に依り作られたる結果で、同業者間の絶贊の的となつてゐる。

かくて最近本事業の發達に伴つて、將來激甚なる競爭を豫想されて、優秀機の製作を要望されてゐるが、本機は實に頭角を現はしてゐる事は必然的の結果である。現在石川龜吉氏が經營に當つてゐて氏の敏腕と堅實なる方針の下に驚異的成果を現はしてゐる。

經營主 石川龜吉

氏は明治二十二年一月當津市に生る。現在鐵工所を經營しその業績は極めて驚異的なるものあり、斯界にその頭角を現はし重要視されてゐる。又津鐵工機械器具工業組合の役員、その他の要職にもありて大いに活躍をしてゐる。氏は實は斯業界の功勞者であり併て成功者の第一人者でもある。

幼少の頃より技術の習得に專念し、獨立して開業し、幾度か失敗を重ね、七轉八起、遂に今日の成果を獲得したもので海軍の指定工場としての取扱を受け、製品の優秀と、確固たる基礎を持つ工場として斯界に知られてゐる。

人情味豐かにして、溫厚篤實なる人格は、場内には勿論、一般の信望と尊敬を受け、將來の進展も大いに期待されてゐる。

三重、松阪市 笹川紡績工場長 川端宗七

本社は明治初年の創立に拘る、古い歴史を有つものであるが、その間幾多の變遷があり、現工場長川端宗七氏は第四代目の經營者である。

氏は三重縣下屈指の繊維工業家として令名あり、興亞産業の一翼として、紡織界の發展に粉骨碎身の努力を續け、その業績は統制下の物資不足にも拘らず、極めて顯著なるものがあり、本縣下業界の重鎭として、その名聲は嘖々たるものがある。

資性溫厚にして篤實、滅私奉公、公益優先を旨とし、片々たる利害に拘泥せず同業者一致協力し、以て國策に順應して東亞共榮圈確立の强力なる一翼たらんと日夜寧日なき努力を拂げてゐる。

三重、松阪市 興亞紡績合社 松阪工場長 安藤曇吉

中京に於ける興亞紡織の存在は當地方に著聞せるものであり、特に松阪工場はその尤なるものとして多言を要せず、繊維工業界に巨大なる地位を占めてゐる。

工場長安藤氏は當工場に從事することが既に十年、この間當工場業務に揮身の努力を傾注し、本工場今日の盛況を得られたる重要なる存在として、その功績は極めて顯著なるものがあつた。

即ち現在本社長尾崎氏の信頼は頗る厚く、社長の右腕として益々業績の擴大强化に精勵しつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、情理に富み、工場從業員の質的向上にも常に細心の關心を持ち、特に非常たる人格者であり、工場從業員の質的向上にも常に細心の關心を持ち、特に非常時局下に於ける産業報國の建前より、國家目的の眞意を認識され、滅私奉公の精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、一翼たらんことを期され、その活躍は瞠目に値するものがある。

宣なる哉業界の信望は絶大にして、嘖々たる名聲を博してゐる。

三重、松阪市 市會議員 竹岡政助

電話八一八番

當家は開祖以來本市に居住し、連綿たる家歴を有する名家である。

當主政助氏は明治二十六年一月二十七日の出生にして、曩に家屋調査委員、消防組頭等を歴任し、現在市會議員二期、學務委員、三重縣板硝子聯合會長、南勢板硝子組合長、商工會理事等の要職にあり日夜寧日なき奮闘を續けられてゐる。

即ち市會議員として該博高邁なる識見により市民の福祉增進に貢獻せられたる功績は甚大なるものがある。

なほ板硝子組合設立に關しては東奔西走、席の溫まる暇もなき努力を致され、設立と同時に組合長に就任され、組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、組合員の福利と增進を圖り、以て國策に順應し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期されてゐる。

而して時局は益々多事多難の度を加へ産業經濟の樞軸として組合に課せられる責務は愈々重大なるものがあり、氏は專ら組合員に時局の認識を正確ならしめ國家目的完遂に協力しつゝある。

資性溫厚にして篤實、識見また卓越せる人格者であり、その數多の功績と相俟

る。

家庭には女兒四人を惠まれ和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

三重、津市下部田

織工機械器具工業組合聯合會長　**野島　善之助**

氏は明治二十九年に生る。大學出の秀才にて氏の女房役たる工場長佐藤準一氏も帝大工科出身で、而も令弟である。

氏は官界實業界各方面に豐富なる經驗を有し、現在縣下に於ける新進の大實業家としてその名を謳はるるに至つたのである。なほ聯合會長の外、各種組合長並に瀨木製作所代表、津市購買組合長、各會社取締役の要職にもありてその職責を全ふしてゐる。

氏は昭和十三年頃三重縣商工課長を勤め、商工業方面に對して大いに指導誘掖し、退職後三重縣鐵工業組合總數十四組合を以て聯合會を組織し、是が組合長となつて今日の隆盛にまで築き上げた功勞者であり育ての親である。瀨木製作所を創立し、之が堅實なる進展に一大努力を拂つて現在縣下にも數ヶ所の外、名古屋、大阪等にも工場を有して居り、殊に津本社の如きは十餘萬坪の大工場にして、凡そ近代的設備に付ては全く完備されてゐるものである。

かくて氏の事業に就ては實に大成功者として廣く知らるゝ所であり、併て溫厚篤實にして高潔淸美なる人格は、斯界には勿論、地方民の信望と尊敬を一身に集めてゐる程で、その將來への期待も亦甚大なるものがある。

家庭は至極圓滿にして、常に和氣藹々たる生活を營み、近隣羨望の的となつてゐる。

三重、松阪市中町

製菓業
前縣會議員　**岡　惠**

電話一三八番

當家は、遠く天正年間松阪市の創祖者蒲生氏鄕に扈從して當地に來往したに創り、連綿たる家系である。

當主惠氏は明治十三年の出生にして、津藩に於ける吉田流弓術の指南役たる玉置氏の出にして、のち岡家の女婿として入籍したるものである。

當家は揚柳園と號し、伊勢名産として世に知られたる家傳「老伴」、「越之雪」

の本舖にして、長くも明治十三年七月、聖駕御巡幸の際、天覽に供し奉り、御用を命ぜられ、謹製上納の光榮に浴したのを始めとし、各皇族方の御買上げの光榮を得たる名菓にして、各博覽會、品評會等に於て優等の賞牌を受領せし事、枚擧に遑のない程である。

惠氏は第十四世の當主にして、松阪市舊民政系の元老的存在であり、嘗て松阪市が隣村神戸村を併合せんとしたる時、中央政界にまで持ち出す紛爭となり、これが解決のため氏は、當時の縣知事に懇望されて上京し、紛骨碎身の活躍をなして、遂に圓滿に合併せしめた外、或は大內港築港工事起債に際しても、五十餘日間在京して中央當事者と折衝し、これが許可を受けるなど、その功績は不滅なるものがある。

曩には、縣會議員、市會議員、消防組頭、區長等總らゆる公職を歷任して功勞あり、現に商工會監事、中町々會長、その他產業組合創設に盡力し、今なほ同組合理事を擔任して日夜寧日なき至誠を致しつゝある。

その資性識厚にして篤實、識見又卓越せる人格者であり、名實共に當松阪市の恩人として、市民の信望絕大なるものがあり、曾神崇祖の念に篤く、また縣下第一の巨材として聞えてゐる。

三重、志摩、的矢村

村會議員
農會委員　**竹內增右衞門**

氏は本年六十二歲の高齡なるもなほ頑健にして、現在當地の產業組合及び漁業組合の組合長の職にもありて、斯界の健實なる進展と共に、衆人の福利增進に獻身的努力を拂つてゐる。又村會議員、翼贊會郡協力會議員等の要職にも就任し、各方面に亘る公共事業に全能力を發揮して、その職責を全ふすべく、その盡力は實に甚大なり。

なほ氏は本郡內の敎育家として廣く知られ、その功績大なるものあり、併て當地方は風光明美にして且つ古き歷史を有し、南伊勢の龍宮とも稱され、是が觀光客の來遊を獲得のため全國的に宣傳してたるも氏の功勞なり、その成果を收め得たるも氏の功勞なり、その他眞珠の發生地として、又船舶の避難所としてもその名を知られてゐる。かくて

三重、宇治山田市

縣會議員
從六位勳六等　**小林　豐太郎**

群雄覇を爭ふ神都の縣會議員選擧に於て、昭和十四年秋堂々當選の榮冠を得たる小林豐太郎氏は、明治二十三年五月の出生にして、大正三年、明治大學商科を卒業、聖地參拜客の足たる神都バス會社に入社し、常務取締役として交通界に貢獻し、大正七、八年シベリヤに出征、退役主計中尉に任ぜられ、從六位勳六等を賜はつてゐる。

大正九年十二月若冠三十歲にして市會議員に選出されてより、連續五回當選、滿々たる闘志と明晰な頭腦、整然たる論鋒を以つて縱橫に活躍され、先年森議長を輔けて副議長を勤められた。

昭和三年宇治山田商工會議所創設と同時に議員となり、常議員、漁業部長として敏腕を揮ひ、現在同所の顧問である。

氏の政治的手腕は地元民は云ふまでもなく、縣下にまで聞えてゐるが、縣議早

々の通常縣會から早くも頭角を現はし、堂々の論陣、悠揚迫らざる態度は將來の活躍を十分に期待せしめた。市會の雄、縣會の花形、商工會の重鎭たる同氏は、大神都計畫事業やうやくその緒についた際、その推進的存在として嘱望されてゐる。

氏は又實業界方面に於ても神都交通會社囑託、南島運輸會社取締役、山田合同貨物自動車取締役、株式會社日興機械製作所監査役、木炭卸商組合理事長等の要職にあり縱横の才腕を發揮しつゝある。

氏は資性溫厚にして篤實、情理豐かな人格者であり、地方市町村民に大政翼贊の實踐指導に當り、その德望は絶大である。

三重、宇治山田市　澤渦久富

氏は宇治山田市に於てその人ありと云はれる名望家である。

氏は三重師範卒業後、聖地宇治山田市の育英界に參與し、盡瘁致らざるなき功績を擧げること六年、その後は、伊勢神宮に神官として二十年に及ぶ奉仕を續けられた。明治四十五年職を辭するや、その德望により市會議員に推薦せられ、副議長に選ばれ、二期目には遂に市會議長に擧げられ、本市政に殘されたる足跡は洵に甚大なるものがある。

更に大正十三年十一月宇治山田市長に就任され、聖地神都の首班として市民の敬仰を一身に蒐め、のち三重縣政の表面に表はれ、榮えある縣會議長の重職に就かれ、縣政史上輝かして一頁を加へられた。

政界引退後は銘酒「白鷹」の縣下一手販賣を引き受け、壯者を凌ぐ潑剌たる活躍を續けられてゐる。

氏は資性謹嚴にして重厚、高潔なる人格の所有者であり、過ぐる明治三十一年五月二十三日の夜半、神宮齊館炎上に際し挺身重要書類を猛火の中から搬出せし逸話、後日その功績表彰の議起るや固く辭して受けざる奥床しさ、更に俗說に基く「宇治山田市」の名稱改革の議に對し敢然歷史と由緒の尊重すべきを說いて、その議を排くなど、識見德望兩全の巨材として君臨されてゐる。

三重、宇治山田市古市町　前市會議長　國府重周

氏は三重縣津市の出身にして本年五十六歲。夙に俊敏重厚を以て聞え當地來住以來は市會議長、縣會議員等を歷任され本市の發展に貢獻されたる功績は沒却し得ざるものがあり、その偉德は本市民の幾久しく銘記するところである。

現に隱然たる勢力を把持し變らざる愛市觀念に一貫し、本縣政界の大立物として、本縣出身の政治家で氏の援助と指導に關與せざるは極めて稀である。

氏は端正謹嚴なる風格の中に滿々たる鬪志と熱火の如き迫力を藏してゐるが、惜しむらくはその眞情と利双の如き頭腦は却つて氏の中央政界への出馬を阻んでゐるかの感がある。然りと雖も現在閑地に悠々自適されながら、中央政界其の他知名人士との交際は極めて繁忙なるものがあり、遂に蛟龍は池中のものたらずの期待は充分なるものである。

然も時局は多事多難にして、東亞共榮圈確立の國家目的完遂に邁進しつゝある秋、氏の存在は重且大なるものがある。特に物的資源の開發は刻下の急務であり、これに着眼されたる氏は、最近富山縣下に於ける銅山の權利を得、現在その方面に出發の準備に寸暇なき狀態であるが、やがて斯界を通じて國家に貢獻せんとする氏の勇姿を望見するのも、間近きものと確信する。

三重、宇治山田市本町　素封家　猪野宗助　電話七五番

氏の先考は志摩郡片田村の出身で、眞珠界の先覺者であり、その珠の大なる所から、猪野パールとして廣く知られてゐる。

當主宗助氏は縣下中川村の出身で、名古屋高商を卒業して猪野家の養嗣子となり、先代の事業を繼いで是が研究とその經營に專念してゐる。現在三十四歲の壯年で、見るからに明朗であり、溫厚なる紳士として將來を嘱目されてゐる。

家庭には三人の子息に惠まれ、常に和氣藹々とし圓滿なる生活を營んでゐる。

三重、宇治山田市本町　旅館業　西田一雄

氏の實父は、當市々會議長、商工會議所會頭、縣會議長等の要職に就任して、縣政に大なる功績を殘したる名士で、その傍ら家業の旅館業の經營に當りても、當市一流の旅館をその下に集め、所謂旅館王國を築いた程の事業家である。

而して當主一雄氏は現在四十七歲の壯年にして、先考の後繼者としても大いに認められる所があり、事業方面に對する氏の手腕は逐次進展を招來すると共に、斯業界に重きをなしてゐる。又現在商工會議所會頭、警防團長、翼贊會市理事、市會議員等の要職にありて、各方面に對しても大いに努力を盡し、多大なる功績を現はしてゐる。なほ氏は二十貫餘の體格を持ち、溫厚篤實なる人格は衆人の信望を集めてゐる。

三重、南牟婁、新鹿村　遊木浦漁業協同組合　電話一五番

組合長　濱口新三郎

氏は明治十九年五月一日の生れ、現在は漁船を所有し、半漁半農を營んでゐる。曩には郡水產會評議員、區長、青年團長、區會議員等の要職を歷任し、現に村會議員（昭和八年以來）、本組合長（理事長兼任前後三回）を當組合は漁業者相互の福利增進、共存共榮を强調し、以て現下の經濟的打開と啓發に邁進するため有志相圖つて創立し昭和十一年二月、現在の無限責任組織による協同組合に改組した。

爾來幹部役員協心戮力して組合事業の向上に、或は組合精神の徹底に眞摯な努力を重ね、着々として組合內容の强化確立に全力を傾け、組合もまた克く一致協力して、使命の達成に努めてゐる。

區域は遊木浦沖合一圓に亘り、沿岸漁業として同縣下第一位を誇る優秀なる組合である。

網種は底地網にして、主なる漁獲物は鮪、鯖、鰯、鯵等があり、その業況は極めて潑剌たるものがある。一方貯蓄額も好成績を示し、昭和十五年九月よりは天引貯金を實行してゐる。

兼ねて日夜不斷の努力を續けてゐる。複雜なる配給事務を自ら處理し、且つ組合精神の普及徹底により、產業報國に邁進してゐる。

氏は資性溫厚篤實にして、新體制下に於ける當組合を背負つて立つ逸材として村民の信望絕大なるものがある。

三重、南牟婁、井田村
井田浦漁業協同組合

當組合は漁村經濟の樞軸として相互扶助、共存共榮の組合精神の普及徹底により、組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し、以て町勢の進展に寄與せんことを目的とし、大正十五年十一月創設したものにして、その後國勢の發展に伴ひ、當組合の機構も一層整備强化されんことを要求され、遂に和昭十一年一月現在の組織に制定したるものである。

爾來幹部役員の施設經營まことによろしきを得て極めて順調なる業績を擧げ、益々堅實なる發展を致しつゝある。

本組合の漁獲物はシラスを主要なるものとし、その他鰹、鯖等である。

役員は組合長上平虎市氏を始め、理事三名、監事二名がある。

組合長 上平虎市

當家は代々漁業及び農業を家業とされ虎市氏は尊父新吉氏の男として、明治三十一年九月一日の出生である。夙に漁業を志し、精勵恪勤を續け着々たる業績を殘した。

氏は曩に、多年區長、在鄉軍人分會副會長の要職にあつて貢獻し、現在產業組合長の要職にあつて、未曾有なる時艱の下に產業開發、或は銃後運動の指導者として東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期し、職域奉公の至誠を捧げてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、惰理に富みたる人格者であり、多大の功績と相俟つて村民の信望は絕大なるものがある。

家庭には一男三女があり、和氣藹々たる生活を營み、羨望の的となつてゐる。

三重、南牟婁、木本町
木本町漁業協同組合

電話一六六番

本組合は漁村經濟の樞軸として、事業の合理化により組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し以て產業報國の至誠を致さんことを目的とし、明治二十六年創立されたるものにして、以來國勢の進展に伴ひ、組合の機構は一層の整備强化を要求されるに至り、昭和十三年十月二十八日、現在の組織に改組せられたるものである。

本組合は木本沖合一圓を區域とし、漁獲物の主なるものはブリ、マグロ、鰹、鯛、鰺、鯖、鰯等にして、漁獲法は底地網、地引網、一本釣等である。

事業としては日用品一般、漁業用資材の購入、或は漁獲物の集荷販賣、貯蓄の奬勵等がなされ、その業況は頗る發剌たるものにして、最も優良なる組合として嘖々たる名聲を博してゐる。

組合長 山本銀藏

氏は本組合創立の功勞者であり初代組合長として名聲のあつた故南爲太郎氏の後繼として現職に就き、なほ町會議員、南牟婁郡水產會副會長の要職を兼ね日夜寧日なき奮鬪を續けられてゐるが、時恰も未曾有なる時艱に際し、本組合に課せられたる責務は愈々

重大なるものがあるを認識され、組合精神の普及徹底により、直ちに國策に順應し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され、その活躍は益々積極的なるものがある。目下石油購買を計畫し、タンク設備の完成をまつて即時實行される筈である。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の精神に一貫されたる人材にして、その手腕力量は定評があり、業界はもとより、各方面の信望は極めて厚い。

三重、度會、南海村
礫浦信用組合長 中村重郎

氏はその生涯を村行政のために獻げ、日夜間斷なき努力を續けられる奮鬪家にして、現在助役、礫浦信用組合長、翼贊會村理事等の要職を兼任し益々顯著な業績を擧げられてゐる。

特に本組合長就任以來は、組合精神の普及徹底により組合の繁榮を致し、組合員の福利增進はもとより、延いては國策に順應し、東亞共榮圈確立の一翼たらんことを期され、滅私奉公の至誠を致されつゝある。

即ち本組合の活躍は極めて潑剌たるものがあり、その機構の整備と相俟つて產業開發に寄與するところは洵に甚大なるものがある。殊に非常時局下に於ける貯蓄額は頗る優秀なるものがあり、益々堅實なる發展が期待されてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、公平無私なる人格者であり、各界に貢獻せられたる功績と共に村民の信望は絕大なるものがある。

家庭にあつては六人の子女の慈父として、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

三重、度會、神原村
神原村信用組合

本組合は、村民利福增進ため、生活物資は一切組合を通して配給され、又農產物、木炭等の販賣もまた總て組合に依つて行ひ、かつ營業に必要なる資金の貸付や、村民貯蓄を奬勵してゐる。

明治四十二年に設立、殆ど全村加入してゐる。

現下重大なる時局に直面し、幹部はもとより組合員一同一致團結して、日夜孜孜として奮鬪し、あらゆる困難を切り拔け、今日の大をなすに至つた。

役員としては理事長西井常一氏外數氏が擧げられてゐる。

理事長 西井常一

氏の家は村內屈指の舊家にして、先代は家業の傍ら、公共のため功勞をつくした人である。

氏はその男として呱々の聲をあげた。資性重厚にして信用篤く、淸濁合せ呑む大度量の人として、部下に尊敬され、人に立てられる人である。

當理事長としても、一貫せる信念と、大いなる理想を持ち、農業保險の奬勵、農業倉庫の利用等を考慮して健闘してゐる。

當家の家風は旣に恒產ある家に想應はしく、品位と格式自ら備はり、家庭は氏の人格を反映して、頗る明朗である。

三重、松阪市
市會議員 農會副會長 春木伸一

電話七番

當家は當地に於て農を家業とし近在に著聞せる家柄である。

當主伸一氏は博覽達識の逸材にして、衆望を擔ひ市會議員、農會副會長、警防團第二分團長、その他幾多の要職にあり日夜間斷なき努力を續けてゐる。

即ち市會議員としては市政に參與し、市民の福利增進に貢獻し、農會副會長としは農會事業の總てを管理し、農家の經濟更生に盡瘁し、指導鞭撻至らざるはなく、東奔西走の活躍を致されてゐる。

氏は農業立國の建前より農林省の奬勵する方針に基き、農産物の增收を圖り、或は肥料の問題に就ては土地に順應せる使用法を普及するなど、その功績は沒却し得ざるものがある。

なほ最近は極めて大規模なる農業倉庫建築を盡し、その實現は近きにありと期待されてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、その信望は絕大なるものがある。

時恰も未曾有なる時艱に際會し、産業の增産は直ちに國力に影響し、延ては東亞共榮圈確立に關與するものであり、氏はこの認識の徹底を期され、農村振興に奮闘されつゝある。

三重、津市下部田

三重縣信用販賣購買組合聯合會

電話一二三四番

本會は大正六年四月、産業組合中央會三重支會第十二回總會及縣下産業組合總會を、宇治山田市に於て開催したる際、同支會より全縣區域の信用組合聯合會設立の提案に對し、全會一致之れを可決し翌七年四月、縣下産業組合大會を開催の際協議の結果、縣下各部に亙り四十二組合を設立者として、同五月設立者及縣郡市産組係員出席、協議會を開き、定款の議定及理事九名、監事六名を選任した。次で同年九月三十日附、設立許可申請書を提出し、同年十月二日附を以て認可されたるものである。

而して當時縣下には、員辨、三重、安濃、一志、志摩、阿山六郡に、夫々郡域の聯合會が設立されてあつたが、大部分は區域狹少にして且つ所屬組各數の僅少により、事業として見るべきものなかりしを以て、縣聯合會の設立は縣下産業組合運動に一新紀元を劃したる感があり、爾來縣下産業組合の擴充强化に伴ひ、昭和五年十月購買事業を、昭和七年八月販賣事業を開始して、現在に至れるものである。

國内經濟情勢を一瞥するに益々强化される統制經濟の中に處し、本會はあらゆる反産的迫害に對し敢然として立ち、系統機關を總動員して難局に當り、單に農村擁護と云ふが如き小乘的奮姿を脫し、戰時下に於ける重要國家經濟諸機關と自ら任じ、貯蓄奬勵に、食糧其の他の供出に、資材の配給に、その勝れたる機能を遺憾なく發揮し、益々確固たる信念の下に、所屬組合の眞摯なる協力鞭撻を得、劃期的一大轉機を來たさんとしつゝある

本會創立の功勞者は木村秀興氏、宮村勇三郎氏にして、歷代會長は木村秀興氏小泉由藏氏並に馬岡次郎氏である。

會長理事　馬岡次郎

氏は支所を四日市市、津市、松阪市、宇治山田市、阿山郡上野町、南牟婁郡木本町、その他代理所六ケ所、農業倉庫を郡下各所に十三棟を

有する當會長に就任以來、日夜寧日なき奮闘を續けられゐるが、その間、四日市配合工場に不慮の失火あり、或は飼料、資材等の配給上種々困難なる事情に接して起り、木炭、米穀の統制亦總ゆる難局に遭遇する等、文字通荊棘の道を終始せるも、氏の果策施行まことに機宜に適し豫期以上の決算成績を收めてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、各方面の信望は絕大なるものがある。

三重、松阪市

松阪市農會長　小津茂右衛門

氏は明治十一年、この地に生る。當家は當市唯一の舊家名門にして、當家の養子となり、種々の要職に就任して、氏が持つ特異的手腕と識著を傾けて、職域實行に活躍してゐる。而して實家には實母が、常年九十歳の高齢を以てなほ健在である。

斯くて氏は現三重縣五市聯合農會長、松阪市農會長、松阪市農會長、小作、財務、人事兩調査委員、資材配給委員等の要職に就き、その職責を完了するため、文字通りの東奔西走、日夜不撓の努力を拂つてゐる。更に名古屋裁判所少年保護司であり、その他二十七餘の名譽職に在任中、殖産會社長の席に坐して、各方面並に各事業に氏の特異的手腕と識著を傾けて、益々優秀なる組合にする爲め、全く犧牲的努力と云ひたい程の活躍に沒頭してゐる。

更に現時局下に在つて、能く國策に即應した事業の一部として、氏は食糧問題を研究、その最善の方策として、節食の方法より節米の實を擧げる事になつたのである。かくて氏は率先して此の運動に携はり、見事その方策に基いて成功することが出來たのである。

氏は金澤高等學校を卒業し、直ちに東大文科に學び、後京大法科をも卒業してゐる。而して京大講師、立命大學、關西大學等の講師に勤務して、各校に多大の功績を殘してゐる。又氏は幾多の光榮に浴してゐる。かくて長男は大藏省馬政局長、二男は東京地方裁判所民事部判事三男は帝大卒業後、なほ京大農科にて研究に專念してゐる。又その家庭生活は、實に明朗、和氣藹々として圓滿なる生活を營んでゐる。

三重、松阪市鎌田朝日町

材木商　丸山才次郎

氏は當地業界の重鎭として聞えたる材幹にして、夙に松阪市木材商業組長に推され、産業經濟の樞軸たる組合精神の普及達成により、組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し、以て町勢の進展に寄與したる功績は、まことに甚大なるものがある。

氏は現在家業の一切を令息の經營に委ね、專ら町内公共事業に精勵し、益々隱著な業績を示しつゝある。

本年六十二歳、溫厚篤實にして長者の風格を有し、業界の敬仰を一身に蒐めてゐる。

家庭に在つて六人の子女に惠まれ、和氣藹々たる生活を營んでゐる。

三重、鈴鹿、龜山町

龜山合同運送株式會社

當家は當地に於て農を家業とし近在に著聞せる家柄である。

當主伸一氏は博覽達識の逸材にして、衆望を擔ひ市會議員、農會副會長、警防團第二分團長、その他幾多の要職にあり日夜間斷なき努力を續けてゐる。

卽ち市會議員としては市政に參與し、市民の福利增進に貢獻し、農會副會長としては農會事業の總てを管理し、農家の經濟更生に盡瘁し、指導鞭撻至らざるはなく、東奔西走の活躍を致されてゐる。

氏は農業立國の建前より農林省の奬勵する方針に基き、農産物の增收を圖り、或は肥料の問題に就ては土地に順應せる使用法を普及するなど、その功績は沒却し得ざるものがある。

なほ最近は極めて大規模なる農業倉庫建築を盡し、その實現は近きにありと期待されてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、その信望は絶大なるものがある。

時恰も未曾有なる時艱に際會し、産業の增産は直ちに國力に影響し、延ては東亞共榮圈確立に關與するものであり、氏はこの認識の徹底を期され、農村振興に奮闘されつゝある。

三重、津市下部田

三重縣信用販賣購買組合聯合會

電話一二三四番

本會は大正六年四月、産業組合中央會三重支會第十二回總會及縣下産業組合總會を、宇治山田市に於て開催したる際、同支會より全縣區域の信用組合聯合會設立の提案に對し、全會一致之れを可決し翌七年四月、縣下産業組合大會を開催の際協議の結果、縣下各部に亙り四十二組合を設立者として、同五月設立者及縣郡市産組係員出席、協議會を開き、定款の議定及理事九名、監事六名を選任した。次で同年九月三十日附、設立許可申請書を提出し、同年十月二日附を以て認可されたるものである。

而して當時縣下には、員辨、三重、安濃、一志、志摩、阿山六郡に、夫々郡域の聯合會が設立されてあつたが、大部分は區域狹少にして且つ所屬組各數の僅少により、事業として見るべきものなかりしを以て、縣聯合會の設立は縣下産業組合運動に一新紀元を劃したる感があり、爾來縣下産業組合の擴充强化に伴ひ、昭和五年十月購買事業を、昭和七年八月販賣事業を開始して、現在に至れるものである。

國内經濟情勢を一瞥するに益々强化される統制經濟の中に處し、本會はあらゆる反産的迫害に對し敢然として立ち、系統機關を總動員して難局に當り、單に農村擁護と云ふが如き小乘的舊套を脫し、戰時下に於ける重要國家經濟諮機關と自ら任じ、貯蓄奬勵に、食糧共の他の供出に、資材の配給に、その勝れたる機能を遺憾なく發揮し、益々確固たる信念の下に、所屬組合の眞摯なる協力鞭撻を得、劃期的一大轉機を來たさんとしつゝある。

本會創立の功勞者は木村秀興氏、宮村勇三郎氏にして、歷代會長は木村秀興氏小泉由藏氏並に馬岡次郎氏である。

會長理事 馬岡次郎

氏は支所を四日市市、津市、松阪市、宇治山田市、阿山郡上野町、南牟婁郡木本町、その他代理所六ケ所、農業倉庫を郡下各所に十三棟を有する當會長に就任以來、日夜寧日なき奮闘を續けられてゐるが、その間、四日市配合工場に不慮の失火あり、或は飼料、資材等の配給上種々困難なる事情錯を接して起り、木炭、米穀の統制亦總ゆる難局に遭遇する等、文字通荊棘の道を終始せるも、氏の果策施行まことに機宜に適し豫期以上の決算成績を收めてゐる。

氏は資性溫厚にして篤實、滅私奉公の至誠に一貫されたる人格者であり、各方面の信望は絶大なるものがある。

三重、松阪市

松阪市農會長 小津茂右衞門

氏は明治十一年、この地に生る。當家は當市唯一の舊家名門にして、當家の養子となり、種々の要職に就任して、氏が持つ特異的手腕と蘊蓄を傾けて、職域實行に活躍してゐる。而して實家には實母が、當年九十歳の高齡を以てなほ健在である。

斯くて氏は現三重縣五市聯合農會長、松阪市農會長、松阪市農會長、小作、財務、人事爾調査委員、資材配給委員等の要職に就き、その職責を完了するため、文字通りの東奔西走、日夜不撓の努力を拂つてゐる。更に名古屋裁判所少年保護司であり、その他二十七餘の名譽職に在任中、殖産會社長の席に坐して、各方面並に各事業に氏の特異的手腕と蘊蓄を傾けて、益々優秀なる組合にする爲め、全く犧牲的努力と云ひたい程の活躍に沒頭してゐる。

更に現時局下に在つて、能く國策に卽應した事業の一部として、氏は食糧問題の研究、その最善の方策として、節食の方法より節米の實を擧げる事になつたのである。かくて氏は率先して此の運動に携はり、見事その方策に基いて成功するが出來たのである。

氏は金澤高等學校を卒業し、直ちに東大文科に學び、後京大法科をも卒業してゐる。而して京大講師、立命大學、關西大學等の講師に勤務して、各校に多大の功績を殘してゐる。かくて長男は大藏省馬政局長、二男は東京地方裁判所民事部判事三男は帝大卒業後、なほ京大農科にて研究に專念してゐる。又その家庭生活は、實に明朗、和氣藹々として圓滿なる生活を營んでゐる。

三重、松阪市鎌田朝日町

材木商 丸山才次郎

氏は當地業界の重鎭として聞えたる材幹にして、夙に松阪市木材商業組長に推され、産業經濟の樞軸たる組合精神の普及達成により、組合の繁榮を致し、組合員の福利を增進し、以て町勢の進展に寄與したる功績は、まことに甚大なるものがある。

氏は現在家業の一切を令息の經營に委ね、專ら町内公共事業に精勵し、益々顯著な業績を示しつゝある。

本年六十二歳、溫厚篤實にして長者の風格を有し、業界の敬仰を一身に蒐めてゐる。

家庭に在つて六人の子女に惠まれ、和氣藹々たる生活を營んでゐる。

三重、鈴鹿、龜山町

龜山合同運送株式會社

當社は日露戰役後、關西線龜山驛前に創設せられ、爾來、拮据經營、現在の合同運送店の偉容を誇るに至つたものである。

而して本社は自動車營業を兼ね、交通界に貢獻してゐることは人の知るところである。現在葛西榮氏の經營するもので氏が不斷の研究と、確乎たる經營方針に依る才腕は、今日の優秀なる成績を招來したるもので、その間に間に於ける氏の盡した努力は又甚大である。かくて本社は運送を以て町民に利便を與へ、本來の使命を全うすることに專念してゐる。而して將來への發展にも全能力を傾注して躍進中である。

社長 葛西榮

氏は明治十七年に生る。而して當運送會社の設立されるに及んで社長に就任し、斯業の堅實なる躍進と、內容の充實に專念して、遂に今日の驚異的業績を獲得するに至りたるは、實に氏の撓ゆまざる努力と、熱意ある實行力に因るもので、その敏腕は廣く知られてゐるところである。また一度公共事業、或は町民の利害に關する事項に當つては、私利私慾を離れ、犧牲的奉仕に務め、最善の解決を計る等、措しまざる點に、町民は擧つて氏を德として敬服してゐる。又長く町會議員にも就任して重きを爲し、更に商工會議員をも兼ねて、自治、產業方面にも幾多功績を殘しつゝある。昭和十五年の春、小龜町長が辭任するに當つて、町會にては、氏の出馬を極力勸說した結果、漸く承諾する所となつて、輿望を荷つて就任するに至つたので重要性を持つてゐるのである。その外白ある。而して町長としての職責を全うする爲め、全力を傾けて町民の期待に背かざるよう獻身的努力を盡してゐる。

更に小龜氏が縣會議員に立候補した際その選擧事務長として帷幄に智謀を廻らして當選の榮譽を獲得する等、特異的手腕の持主である。

三重、鈴鹿、關町
秋場機械製作所
經營主 秋場安吉

當製作所は時代の要望に卽應したる自動給炭燃燒機の製作を以て廣く知られ、且つその優秀なる製品たる事は、內地は勿論、朝鮮、滿洲方面よりの注文殺倒し

て、製作に全力を傾けてゐるにも拘らずその需要に應じ切れぬ程の繁榮を來してゐる狀態である。本機は日滿專賣特許秩場式の名稱を以て全國的のものとなり、この點に着目して早く着手したる秋場製作所は聖地に於ける斯業界の元祖の名を獲得してゐるもので、先驅者として輝かしい業績を誇つてゐる。本製作品ストーカは燃料節約と國民保健上に不可缺な煤煙防止機にして近時の大都市には極めて米製搗機、繭乾燥機等の逸品をも產業界に送り出して斯界に大になる貢獻をなしてゐる。

氏は元治元年七月關町に生れ、幼少の頃から機械類に深い興味を持つて非凡の才智を謳はれた程である。長ずるに及んで橫須賀、山形、山梨、長野の各地に亘つて製糸機械その他の研究に沒頭し、その間實に波瀾曲折、辛苦忍耐の二十年間を經て、遂にその努力は報ひられる所となつて、氏三十一歲の時初めて現在の地に獨立創業する事を得、今日の隆盛を招來するに至つたので

ある。

而して溫厚篤實なる氏の人格は、信賴と尊敬を一身に集め、又將來の進展を大いに期待されてゐる。

三重、鈴鹿、關町
關町長 伊藤偉作

氏は明治十三年元日に、先代利市翁の嫡男として生る。縣立一中より東京開成中學校に轉じ、進んで岡山六高に學んでゐたが中途にして退學し、一年志願兵として入隊、恰も日露の戰雲に乘じて勇躍征露の庭に幾多轉戰、赫々たる武勳を樹てゝ功五級勳六等を賜はり、陸軍中尉の肩章を以て凱旋せり。而も民國第一次革命に際しては明治四十四年逸早く渡支し孫文を扶けて鴻業達成に力を注いだ人士である。

見からに氣骨稜々、自然に具る國士の風格は、壯年の氏を偲ばせるに十分であり、昭和七年末、鄕黨に推されて町長に就任、今日に至る迄二十年近き間、日夜町政の圓滑、町民の福利增進に專念し時代に卽應せる數々の治績を擧げてゐる。

且つ町長の現職以外に、鈴關信用組合長關農會長、鈴鹿郡肥料商組合長等の要職にも在りて、その職責を全うすると共に實業方面手腕を揮ひ、重厚な人格者として業人に心服されてゐる。

又武人らしく、双劍鑑定に長じ、秘藏の逸品多く、好事家の羨望の的となつてゐる。

三重、河藝、一身田町
肥料商 小林藤吉郎

氏は明治三年八月の出生で、津中學卒業後、一年志願兵として軍務に服し、日清日露の兩戰役に出征、赫々たる武勳を樹てて、陸軍一等主計に進級し、正七位勳五等に叙せられ、双光旭日章を賜はつた勇士である。

歸還後明治四十一年には衆望一致の推薦に依り、一身田村長に就任したが、或る事情から問題が起り、收拾すべからざる事態を招來したる處、氏は誠意を以て克く是を解決して敏腕を謳はれ、爾來大いに治績を擧げ、又宿望の町制實施を初め、基本財產の造成、役場前幹線道路の改修等不朽の功績を殘してゐる。町長辭任後も鄕黨の要望に依り町會議員、學務委員、所得稅その他各調查委員等の要職に在つて、寧日なき活動を續けてゐる。

氏は家業の肥料商を經營し、孜々としてその進展に躍進し、堅實なる業績を牧めて今日に至り、なほ將來に對しても、氏特有の遠謀と方針に基いて、その目的達成に一途邁進してゐる。

その功績中特筆すべきものは、同町耕地整理完遂があり、二百五十餘町歩に亘る耕地は、時局下增產確保を目指す農作物の生產力に多大の成果を擧げてゐるがこれは實に氏が組合長として十數年間苦心を重ねて完成したるもので、後世町民への大きな賜とする偉業である。

三重、阿山、島ケ原村
三阿耐火煉瓦株式會社

本社は佃壯右衞門氏を社長とし、全くの小資本に依り業を起し、信用第一主義を以て斯界一流會社に讓らぬだけの良質の原料を供給する事に努力して是に成功する事を得、なほその研究に日夜孜々

遂に今日の隆盛を獲得するを得たものである。かく優秀なる陶磁器生産に必要なる原料の供給に成功すると共に、また耐火煉瓦の製造に手を染め、立派なる品を完成し、市阪神地方を始め遠く東京方面にまで販賣するに至り、その耐火性の偉大なる事斷然既製品を壓倒する程の稀に見る逸品と折紙を付けられ、異常な賞讃を博するに至り、益々生産能率を高め、併せて製品の改善に意を注ぎ、遂次發展の一途に邁進して現在の隆盛を示し、合資會社を改組し、今日の株式組織として益々業績を擧げてゐる。かくて當社の發展は、社長の才腕とその蓄積に依り、多大に期待されてゐるは勿論、當地方工業界振興の點よりしての當社に對する信頼も亦甚大なるものがある。

社長 個 壯右衛門

氏は明治三十二年に生れ、徒手空拳から今日の大を爲した立志傳中の人である。三阿耐火煉瓦株式會社の社長として今日の名聲を謳はれるに至つてゐるが、此處に至るまでの氏の艱難辛苦は筆紙に絶するものあり、偉なる資本に信用の獲得、原料の細密なる研究と優秀なる製品への成功に向つて日夜を分たぬ氏の努力は遂に今日の大成を招來し、當地方に於ける信望と尊敬を集中する身となつて、正義と努力で一貫した氏の苦闘は見事に酬ひられるに至つたのである。且つ穩健にして篤實なる氏の風格は、人に接すれば必ず好感を與えその人格に信頼してその事業の繁榮に、大いなる關心を持つ者また多き現狀である。

兵庫、川邊、園田村 天理教支教會々長 阪本 文次郎

當家は、代々の舊家にして名望家である。尊父彌三郎氏は手廣く竹商を營む傍ら天野教會に關係し、布教師として令名嘖々たるものがあつた。

氏はその長男として、明治二十一年に孤々の聲を擧げた。夙に天野教養成所別科を卒業し、父の教會たる元大阪芦野教會を明治四十三年に引繼ぎ、こゝは大阪池田大教會直屬となり、昭和十五年、池田支教會、椋橋支教會として昇格するに及び、氏は推されて教會長となつた。

非常なる努力家にして、至誠一貫、朝鮮平壤に二個所の宣教所を設置し、また九州、西宮等にも同樣宣教師を置いて、月並祭や婦人會等を各二回づゝ開いて、布教につとめ今日の大を見るに至つた。

資性溫厚、識見高邁、烈々たる信念に燃え、その人格益々光りを放ち、今や衆庶の尊敬を一身に集め、出でては智德兼備の名教師として令名が高い。

夫人また貞淑の人にして、名教師に相應はしく家庭頗る圓滿、子息二人、他に令妹がある。

兵庫、川邊、川西町 町會議員 阪元 房三

當家は當地方隨一の舊家であり名望家でもある。尊父梅次郎氏は生前當町五代目の村長として二期重任し、その功績は顯著なるものがある。

本組合は昭和十四年二月の創立なれども、その沿革は遠く五十餘年の歷史を有つてゐる。

當組合は北切、花山、廣山、西廣山、南廣山一圓を區域とし、六十三名の組合員を擁し、皮革製造業者の共存共榮の目的を完遂する爲、全機能を發揮して活躍してゐる。

本組合中に北攝協當會が併置され、これは組合と同時に設立したものである。産業報國精神振作興起、消費節約、貯蓄の實行、物資及び廢品の愛護、生活刷新製革技術の向上等々のための諸設備を有し、本組合の目的を達成するために貢獻するところ甚大なるものがある。

當家は當地に於ける隨一の舊家であり名望家である。

氏は尊父與之介氏の長男として、明治十七年十二月四日の生れ、町會議員二期、學務委員、保護者會副會長、川西町軍友會副會長、産業報國會伊丹支部代議員、日本皮革工業組合聯合會理事、當組合役員等約三十年間勤續、その他各種團體、組合等に關係し、各界に貢獻され、その功績は枚擧に遑がない程である。

資性溫厚篤實なる人格者であり、その高邁なる識見と共に、一般の師表と仰がれ、名理事長としてその德望は益々厚いものがある。

兵庫、川邊、立花村 商工會議所議員 上田 龜雄

電話伊丹七七五番

氏は明治三十五年七月の出生にして、月辭任するまで同會の業績發展のため日夜盡瘁し、その功績は洵に大なるものがある。現在尼崎商工會議所議員、保安協會理事、兵庫縣物價調査委員、尼崎荒物商業組合理事等の重職に在り、非常時局下の國策に協力すべく、努力を續けてゐる。

當主房三氏は明治二十三年四月の出生にして、昭和十四年十月町民の信望に依り、名譽助役として就任、貢獻するところ極めて多く、十五年八月家庭の都合上、村民に惜しまれつゝ退職され、現在信用組合理事、川西町消防組會計、榮根區長、衞生、學務、都市計畫各委員等の重職にあり、なほ昭和九年町會議員に當選、以來議員として日夜精勵格勤し、その功績洵に甚大なるものがある。

氏は謹嚴なる人格者にして、皇陵巡拜旅行を好み、また盆栽を趣味としてゐる家庭には、さい夫人との間に一男一女があり、夫人は國防婦人會川西町分會理事として、銃後の務めに勵げんでゐる。

兵庫、川邊、川西町 北攝皮革工業組合

電話池田三〇四八番

理事長 平野 秀平

當家は當地に於ける隨一の舊家であり名望家である。

氏は尊父與之介氏の長男として、明治十七年十二月四日の生れ、町會議員二期、學務委員、保護者會副會長、川西町軍友會副會長、産業報國會伊丹支部代議員、日本皮革工業組合聯合會理事、當組合役員等約三十年間勤續、その他各種團體、組合等に關係し、各界に貢獻され、その功績は枚擧に遑がない程である。

資性溫厚篤實なる人格者であり、その高邁なる識見と共に、一般の師表と仰がれ、名理事長としてその德望は益々厚いものがある。

兵庫、川邊、立花村 商工會議所議員 上田 龜雄

電話伊丹七七五番

氏は明治三十五年七月の出生にして、月辭任するまで同會の業績發展のため日夜盡瘁し、その功績は洵に大なるものがある。現在尼崎商工會議所議員、保安協會理事、兵庫縣物價調査委員、尼崎荒物商業組合理事等の重職に在り、非常時局下の國策に協力すべく、努力を續けてゐる

る。

氏は溫厚篤實なる人格者にして、その積極的手腕と共に各方面の德望は極めて厚く、敬仰の的になつてゐる。

家庭には靜子夫人との間に、子女五人を惠まれ、極めて平和な生活を營んでゐる。

兵庫、加古、加古川町
加古郡自轉車小賣商業組合

本組合は自轉車小賣商業の改良發達を圖る爲め、共同の施設を爲すを以て目的とし、昭和十四年三月三日設立認下したものである。

組合員六一名を擁し、出資總額六、五〇〇圓に達してゐる。

設立以來、組合員の爲、その取扱商品の共同仕入、保管並に各種の協定及び統制を行ひ、組合員は一致團結よく今日の發展をもたらしめた。

現役員として、理事長に埴岡清次郎氏副理事長に尾崎庄太郎氏、理事八田玉二氏、監事に止田善太郎、福田勝の兩氏がある。

理事長　埴岡清次

氏は明治二十二年六月三日の生れにして夙に敏腕を賡く業界に知られ、而も溫厚にして誠實なる人格者である爲、本組合が曾て加古郡輪友會と稱してゐた頃より、永年理事長として活躍し、名聲を近隣にうたはれたものである。本組合の爲には私利私慾を排して、極力その發展に貢獻してゐるが、最近當地區一帶は異常なる發展をなしつゝあり從來の實績による配給では到底圓滑なる配給が不可能とされるに至り、實績の再檢討の必要が叫ばれてゐる狀態であるから、この際、組合に課せられたる使命は非常に重くなつて來た。名理事長たる埴岡清次氏の今後の活躍こそ全組合員の期待と注目の的となつた。

なほ氏は現在加古川町區長及び加古郡古物商工會常議員をも兼ねてゐる。

兵庫、神戸市林田御藏通
鍊炭工業組合理事長　米田種一

電話御影三一九一番

氏は明治二十三年十月十四日神戸市の出生にして、大正四年東京第一高等學校理科卒業、同八年九州帝國大學工學部卒業の俊才にして、卒業後商工省、大阪工業試驗所に勤務、大正十年技師に任ぜられ、同時に歐米留學を命ぜられ、十二年歸朝し復職されたが、大正十五年退官し以來自宅に研究所を設け、窯業關係の研究に沒頭されてゐたが、昭和八年甲陽鍊炭株式會社を創立、取締役社長に就任、次いで昭和十四年株式會社東邦窯業製作所を創設、取締役技師長として今日に至

つた。なほ滿鮮物産の重役をも兼任されてゐる。

資性謹嚴實直にして情理に厚き人格者であり、その高邁なる識見と共に業界に寄與されたる功績は甚大なるものがあり業界はもとより、各方面の信望は絕大なるものがある。

兵庫、姫路市綿町
姫路自轉車小賣商業組合

本組合は昭和十五年一月に設立され、自轉車小賣商業の改良發達を圖る爲、共同施設を爲すを以て目的としてゐる。

役員としては、理事長淺見熊太郎氏の下に、理事は横山四十二、川原儀一、辻上勇吉、淺見三次、小松定次、三木松次木下賀一、鶴井清太郎の諸氏、監事は藤田一松、城田仙松、內山政一の三氏、外に統制委員五名、信用評定員五名が擧げられてゐる。

事業としては、商品の共同仕入、組合員の取扱ひ商品の保管、運搬、組合員相互取引の圓滑化、必要なる資金の貸付等廣範に亘り、設立以來非常な成績を收さめ、組合員は本組合によつて安んじて職域奉公に邁進しつゝあり。

理事長　淺見熊太郎

氏は治十九年五月十五日の出生にして姫路市光源寺町に居を構へ、夙に溫厚篤實なる人格と、卓越せる手腕を以て鳴り、業界の信望を一身に集めつゝ活躍して居たが、本組合の理事長に推戴されるや、組合員の期待に背かず、よく今日の盛況をもたらし、組合の使命を遺憾なく遂行しつゝあり、全組合員の信賴を蒐めてゐる。

兵庫、尼崎市西本町
商工會議所議員　岡本　次三郎

電話八〇七番

人生の目的は活動なり、活動の目的は成功にあり、然れども人格よく素養なくして徒らに成功を急ぐものは終生眞に成功に進む能はざるべし。氏は常に孜々として倦まざるの修業を積み、生肉商として阪神間に、牢乎として拔くべからざるの地盤を固む。

家は代々尼崎藩に仕へたる士族の出にして、先考幸吉氏は一時水引商營みしが四年前八十一歲にて死亡。氏は明治三十五年七月十六日幸吉氏長男に生る。

頭腦明晰にして秀才に富むの氏は、合名會社いろは總本店を開業し、代表者として氏自ら陣頭に立つて、說意專心家業の進展に砕心せる結果、今日盛況を見るに至る。一方公義に奉するの念も篤く、現在尼崎食料品小賣商業組合常務理事、阪神食肉聯合組合長、方面委員、尼崎商工會議所議員として斯業の發展向上に獻身的努力を惜まず、信望又篤く嶷然たる人格は一般の敬服する所なり。

妻女直子さんも亦國防婦人會の班長として盡する所あり、中に一男三女あり、

長男浩嚢君は大阪泰西學院を卒、昭和十一年應召、第一線に活躍、數多の武勳を樹て同十四年歸還せる男士にして、目下父業に從事、その將來を期待さる。

兵庫、伊丹市東町
市會議員　中島　正之亮

氏は、明治二十七年十一月十七日生誕す。代々農業或は園藝を業とする舊家であり名望家である。

而して氏には極めて健在なる兩親ありて共に七十八歳の高齡である。母堂たけさんは山中鹿之助の末孫である。

氏は二十代にして區長代理を務め、その後村政に參與し、村會議員、或は産業組合理事等の要職にも就き凡ゆる方面に關係を持つて村民一同の信頼を一身に集めてゐる。かくて市政制施行に當り初代の市會議員となり、大いに貢獻する處あり、大正三年には衞生隊として軍隊生活に入り、又鄉土に於ける大地主たるのみならず、遠く樹齡にも廣大る土地を有し、資産家としても廣く知られてゐる。

氏は實に德圓滿にして且つ溫厚なる性格は衆人に敬仰さるゝのみならず、氏への信望と期待も首肯せらる。

家庭は夫人えつ江さんに三女あつて、常に明るく朗らかに、子供を中心として極めて圓滿なる生活を營んでゐる。

神戸市貿合區小野柄通
兵庫縣セメント卸商業組合
周旋業　組合長　升井　梅太郎
電話六〇三番

當家は屈指の舊家として、由緒正しい素封家である。代々農業を以つて正業としてゐたが、先代より疊商を始む。

當主は先代清吉氏の長男として、明治二十三年一月二十七日、呱々の聲を擧げ系圖上五代目に當る。

氏は最初、疊商に從事したが、後子息に讓り、周旋業を始む。

推されて周施業組長となり、三十五名の組合員を統率し、管理事務等をも考慮中である。

氏は信用第一主義をモットーとし、孜孜として努力、その結果が今日の大をなすに至つた。

なを阪神電話組合理事にも推薦され、その手腕の練達は關係方面より大いに稱讃せらてゐる。

資性、剛毅重厚、果斷にして細心、今や斯業界の主軸的存在をなしてゐる。

夫人も貞淑の譽れ高く、近隣の尊敬を一身に集めてゐる。

子福に惠まれ、男三人、女六人、いづれも頭腦明敏の噂が高い。

兵庫縣セメント卸商業組合
理事長　樫野　赴夫

本組合はセメント卸商業の改良發達を圖る爲、共同の施設を爲すを目的とし、昭和十五年五月設立認可された。

區域は兵庫縣一圓に亘り、事業は如上の完遂を期する爲取扱商品の仕入、販賣價格の協定、營業に關する指導研究及び調査等が實行され、極めて堅實なる業績を擧げてゐる。

氏は株式會社樫野商店神戸支店を經營し、業勢隆盛を極めてゐる。現在組合理事長の要職にあり、就任以來組合精神の普及達成を期し、專心努力を致し、同組合に貢獻するところ甚大なるものがあり、組合員一致協力の結果であり、溫厚篤實なる人格と共に業界に於ける信は絶大なるものがある。

兵庫、伊丹市伊丹
周旋業　組合長　升井　梅太郎
電話六〇三番

兵庫、伊丹市鈴松
市會議員　吉村　四方海

獨り學のみ深く其他の點を缺けば成功は得て望むべからず、只才智のみを活用して學殖なくんば、久しく信用を保つ能はざるなり、故に一事一業悉くその才と學とを併有して初めて成功を收むべきである。氏今日の地位も亦、這般の理由に依らずとせんや。

氏は明治十七年二月、先代の長男として岡山縣吉備郡足守町に生る。長じて早稻田大學政治經濟學部を出て、山口銀行に入り銀行事務を習得し、久原鑛業に轉じ、更らに鴻池銀行を經て三和銀行に入り、縱橫にその才腕を揮ふ、當時行内に於いて名秘書課長と謳はれしは餘りにも有名である。

昭和十三年國產研磨材料株式會社に迎へられ、專務出原氏の良き女房役として常務に就任、爾來第一線に立つて強固なる信念と粘り强き中に、極めて積極的な達見を織込み、燃ゆるが如き鬪志を持つ中にも協調的態度を持して事に當り、刻苦精勵、殆んど寢食を忘れて社運の隆盛を計りつゝある。

市制施行に際し一般市民の信望默し難く初代の市會議員として市政に參與、一方の旗頭としてその前途を屬望されてゐる。

氏は亦佛像の研究家として江湖にその名高く、書を良くす。

夫人美津子さんは京都高女出身の才媛で、長女淑子さんの外一男一女あり、極めて圓滿の家庭である。

兵庫、伊丹市北村
市會議員　兼田　嘉藏

家族

當家の鄉里は滋賀縣高島郡水穗村にて屈指の豪家として知られてゐる。

氏は滋賀縣師範學校を經て東京高師を卒業し、滋賀縣廳に奉職したが大阪市役所に勤續二十六年大阪市政の生字引とまで言はれた。後に天王寺中學に奉職して、これ亦十

八年間の長きに及んだ。大阪の生活約四十年、閑靜な土地を永住の地と定め、當地に移居したのは今から六年前である。

現在、綠丘土地株式會社常務取締役、紫田土地會社の監査役、雁風莊株式會社の重役等となり、實業家として第一流人物となつた。

また、氏は國民體育向上の見地から、スポーツの奬勵に當り、日本陸軍競技聯盟の創立者であるが、その努力の功に依り、夙に顯彰狀を戴いてゐる。

なほ、氏は現在大阪社會教育課長、全國社會教育主事等をも兼務して、老いることを知らない。

資性剛毅、細心にして果斷、衆庶の信望益々高く、凡ゆる方面に於ける樞軸的人物である。

趣味として運動を愛するは勿論、圍碁をも嗜み、その神技讃へらるべきものがある。

令息健治氏は農大出身にして、講道館柔道五段の猛者である。

男二人、女四人の子寶に恵まれ、多幸な家庭である。

兵庫、伊丹市昆陽
市會議員 前田 昌藏

氏は明治三十年、先代駒太郎氏の長男として呱々の聲を擧ぐ。

家は代々農を業としてゐるが、當地方切つての名望家として知らる。殊に嚴父駒太郎氏は大の信仰家にして、附近の神社、寺院等の改修造營には率先、協力盡瘁せざるはなしと云はれる。

氏も亦資性溫厚篤實にして、衆人の信望厚く、夙に推されて區長となり、地方の發展に盡力し、續いて村會議員、或は方面委員に、將た又産業組合委員として産業の開發に盡す事多年、終始一貫銃後の護りに誠を效しつゝあり、今回市制施行するに當り氏も亦市民の輿望を荷ひ、初代の市會議員として活躍中である。

長男茂弘氏は高松高商を出で、目下大阪瓦斯會社に勤務して將來を嘱望され、次男隆治君は神戸商大在學中である。

神戸市神戸區未町
兵庫縣カーバイト小賣商業組合

當組合は同地區内に於けるカーバイト商業の改良發達及統制を圖る爲め共同の施設を爲す目的で、商業組合法に依り、事務所を神戸市神戸區京町クレセントビル内に置き、昭和十五年二月認可設立をみたのである。

資格として地區内に店舗を構へ、カーバイト小賣業を營む者を以て組織することになつてゐる。

理事長藤田德松氏、常務理事後藤寛一氏、理事山名茂一、辰巳精作、横田一市、山本正之、山本桑治、霜野怡之助、佐野繁治の諸氏。

監事に田口辰二、桑田貫一、橋本新太郎、泉正三、高崎義雄、三好治平氏等の諸氏が就任してゐる。

理事長 藤田 德松

夙に信望あり、推されて當組合理事長の要職につく、至誠一貫、その指導に當つて今日に至る。

常務理事 後藤 寛一

頭腦明敏、事務的才能に長じ、理事長の輔佐役として、多忙な業務の指導を一手に引受け、孜々としてつくしてゐる。資性溫厚、衆望特に高い。

兵庫、尼崎市金楽寺西福寺
醫學士 富澤 忠彦

氏は大正三年十一月二十六日、神戸市林田區遠矢町に福爲氏の長男として生れ、尊父福爲氏は神戸市電氣局に勤務、今なほ健在である。

氏は幼より學を好み、神戸二中を卒へるや濟世救療に志して京城醫大に入り、螢雪の功を積むこと玆に數年、更らに神戸市天兒病院にて學理及實地の研鑽を重ね、昭和十五年五月現地に開業、今日に至る。

資性溫厚にして篤實、人に接するに懇切なれば、開業日なほ殘きにも拘らず、門前常に市を爲すの盛況を示しつゝありて、その前途を嘱望さる。

氏は亦柔道初段の猛者にして、その他スポーツに趣味を有ち、體育の向上に努力してゐる。

兵庫、尼崎市北大物町
市會議員 土田 有間

男子と生れ一事一業を爲さんとせば、須らく刻苦精勵の精神を以て進まざるべからず、氏半生の數奇を極めたる經路たるや、以て後進青年の龜鑑たるべし。

氏は福井縣大野郡阪谷村八町に、明治二十七年四月二十日、四常氏の長男に生る。家は代々農を營みしも、嚴父圓常氏は信仰心厚きところより、遂に僧籍に入り、德養寺(東本願寺派)布教所にありて衆生濟度に献身しつゝあり。

氏は鄉里の小學校を出づるや、立身成功の途を講ずべく、僅か十六歳にして福井市を振出しに大阪市に來り、酒屋、或は餅屋に或は貸物屋に奉公し、更らに大阪市電氣局外務員、砲兵工廠職工となりて、あらゆる辛酸を嘗め盡したる揚句、阪神電鐵に入社した。

爾來恪勤精勵、十年一日の如くに勤めたる結果、上司の認むる處となり驛長に抜擢された。退職後、饅頭屋を開業したが、不幸祝融に見舞はれ、氏半生の努力も一朝の夢と化したるも、不撓不屈の精神を以て維貨商を營み、家業の發展に懸命の努力を續けたる結晶が今日の成功を見るに至り、眞に立志傳中の士として、一般の信望の篤きも亦故ありと云ふべし。

章父圓常氏

氏は又公共に奉するの念厚く、町會副會長、土木委員として町の發展に努力盡瘁、今又市會議員に當選し、重きを爲す。

夫人よしさんとの間に四男二女あり、長男博之氏は神戸村野工業を卒へて尼ケ崎鐵工所に勤務、その將來を嘱望さる。

兵庫、武庫、大庄村

會社重役 **野草良雄**

電話尼崎二〇五番

當家は舊家にして、近鄉の尊敬を集めてゐる屈指の素封家である。

祖考平八氏は五十五歳にして死亡、初代村長として明治二十二年五月より、明治三十六年九月まで村政に盡瘁した。

故 尊父平兵衛氏

尊父平兵衛氏は昭和八年三月死亡、是亦村政の重鎭として、區長を十六年間、村會議員は四期を勤め、後、押されて村長となり、これまた昭和六年八月より同八年一月まで勤續した。

當主良雄氏は平兵衛氏の次男として、大正二年一月十四日の出生、當主を以て約三百五十年を經た舊家である。

氏は尼崎中學校を經て、同志社大學を卒業の俊才。

大地主にして、現に武庫川土地株式會社の重役で借地等の經營をしてゐる傍ら警防團、青年團、其の他、各種公共團體の役員に推されてゐる。

資性溫厚、困難なる要職にあつて終始一貫、中道を步んで偏せず、名指導者との評判が高い。

氏は頗る多趣味で、釣、乘馬等、いづれもその道の達人として知らる。

家庭は賢夫人秀子さんとの間に、子寶はないが、氏の好きな旅行、乘馬等に興じ、頗る圓滿である。

現住所は、武庫郡大庄村榮地四四四番地。

兵庫、武庫、良元村

代議士 **小林房之助**

電話寶塚六〇〇番

氏は明治二十四年大阪に生れ、早稻田大學法科を卒業、直ちに二ケ年間海外に遊學し、歸朝後、故朝鮮政務總監下岡忠治閣下の秘書官を勤め、その職責を完うせるは勿論、上司を輔佐して縱橫に敏腕を振つて名聲を馳せた。

十五六年前當地に轉住し、大正二年、民政黨の前身たる立憲同志會に加盟して政界入をなし昭和十二年四月、兵庫縣より推されて衆議院議員に當選し、宿望を遂げた。

資性溫厚にして純潔、信望厚く、氏に期待するところ甚大なるものがある。

現に日本鐵發、神戸電氣製作の各重役として、將又各會社の顧問等の要職にゐつて、關西實業界に重きをなしてゐる。

四人の子女に惠まれ、平和な家庭を營んでゐる。

神戸市林田區御藏通

神戸長田燃料小賣商業 **組合**

本組合は、燃料商業の改良發達を圖る爲め共同施設をなすを目的とし、昭和十五年八月設立認可されたものである。

地區は神戸市長田警察署管內一圓に亘り、所期の目的を達成するために、取扱商品の共同仕入及共同販賣、取扱商品の保管、運搬、選別をなすための共同設備の設置、營業に關する統制、經營に關する指導研究調査、營業に必要なる資金の貸付又は組合員の貯金の受入等がなされ極めて堅實なる發展を遂げ、その前途は有望なるものがある。

理事長 島津保治

氏は理事長就任以來、組合精神の普及徹底を期し、一意專心奮闘し、同組合に貢獻するところ甚大なるものがあり、非常時局下に於ける組合の指導者として、氏の今後の活躍は業界の齊しく刮目するところである。

兵庫、武庫、魚崎町

武庫郡自轉車小賣商業 **組合**

電話御影二五九二番

本組合は自轉車小賣商業の改良發達を圖るため、共同の施設をなすを以て目的とし、昭和十五年二月二十六日創立したものである。

本組合の地區は、兵庫縣武庫郡一圓と し、組合員のため、その取扱商品竝に營業用品の共同仕入、營業上必要なる物品の保管、運搬のための共同設備等の事業をなしつゝある。

現在組合員は、有力業者を多數の傘下に收めて、その基礎も幹部役員の劃策施行まことに機宜に適して、今や益々鞏固を加へ、年を逐うて順調なる發達を遂げつゝある。

理事長 松田萬次郎

氏は明治二十九年二月二十六日の出生にして、本組合創立當時よりの功勞者にして、顧來現在に至るまで理事長の重職にあり企業合同輪業對策等の實現を速進せしむべく日夜精勵されてゐる。

氏は人格高潔にして、その手腕功績と共に、組合員の信望極めて厚く、この人の下、非常時局下の組合を協力一致して突破すべく、その全機能が活動されてゐる。

兵庫、武庫、尼木村

村會議員 **片岡威雄**

當家は代々農家にして、當村唯一の舊家であり、名望のある家柄である。

先代森之助氏は村會議員等の公職、名譽職にあつて、大いに村政に盡した。

當主は明治三十八年五月十一日出生、伊丹中學卒業後、家督を相續し、自ら農業に從事することを止めて、地主、借家等の經營を興し、大いに家運を發展せし

氏は又公共に奉するの念厚く、町會副會長、土木委員として町の發展に努力盡瘁、今又市會議員に當選し、重きを爲す。

夫人よしさんとの間に四男二女あり、長男博之氏は神戸村野工業を卒へて尼ケ崎鐵工所に勤務、その將來を嘱望さる。

兵庫、武庫、大庄村

會社重役　**野草良雄**

電話尼崎二〇五番

當家は舊家にして、近鄉の尊敬を集めてゐる屈指の素封家である。

祖考平八氏は五十五歳にして死亡、初代村長として明治二十二年五月より、明治三十六年九月まで村政に盡瘁した。

故尊父平兵衛氏

尊父平兵衛氏は昭和八年三月死亡、是亦村政の重鎭として、區長を十六年間、村會議員は四期を勤め、後、押されて村長となり、これまた昭和六年八月より同八年一月まで勤續した。

常主良雄氏は平兵衛氏の次男として、大正二年一月十四日の出生、當主を以て約三百五十年を經た舊家である。

氏は尼崎中學校を經て、同志社大學を卒業の俊才。

大地主にして、現に武庫川土地株式會社の重役傍ら警防團、青年團、其の他、各種公共團體の役員に推されてゐる。

資性溫厚、困難なる要職にあつて終始一貫、中道を歩んで偏せず、名指導者との評判が高い。

氏は頗る多趣味で、釣、乘馬等、いづれもその道の達人として知らる。

家庭は賢夫人秀子さんとの間に、子寶はないが、氏の好きな旅行、乘馬等に興じ、頗る圓滿である。

現住所は、武庫郡大庄村榮地四四四番地。

兵庫、武庫、良元村

代議士　**小林房之助**

電話實塚六〇〇番

氏は明治二十四年大阪に生れ、早稻田大學法科を卒業、直ちに二ケ年間海外に遊學し、歸朝後、故朝鮮政務總監下岡忠治閣下の秘書官を勤め、その職責を完うせるは勿論、上司を輔佐して縱橫に敏腕を振つて名聲を馳せた。

十五六年前當地に轉住し、大正二年、民政黨の前身たる立憲同志會に加盟して政界入をなし昭和十二年四月、兵庫縣より推されて衆議院議員に當選し、宿望を遂げた。

資性溫厚にして純潔、信望厚く、氏に期待するところ甚大なるものがある。

現に日本鑛發、神戸電氣製作の各重役として、將又各會社の顧問等の要職にあつて、關西實業界に重きをなしてゐる。

四人の子女に惠まれ、平和な家庭を營んでゐる。

神戸市林田區御蔵通

神戸長田燃料小賣商業　**組合**

本組合は、燃料商業の改良發達を圖る爲め共同施設をなすを目的とし、昭和十五年八月設立認可されたものである。

地區は神戸市長田警察署管内一圓に亘り、所期の目的を達成するために、取扱商品の共同仕入及共同販賣、取扱商品の保管、運搬、撰別をなすための共同設備の設置、營業に關する統制、經營に關する指導研究調査、營業に必要なる資金の貸付又は組合員の貯金の受入等がなされ極めて堅實なる發展を遂げ、その前途は有望なるものがある。

理事長　**島津保治**

氏は理事長就任以來、組合精神の普及徹底を期し、一意專心奮闘し、同組合に貢獻するところ甚大なるものがあり、非常時局下に於ける組合の指導者として、氏の今後の活躍は業界の齊しく刮目するところである。

兵庫、武庫、魚崎町

武庫郡自轉車小賣商業　**組合**

電話御影二五九二番

本組合は自轉車小賣商業の改良發達を圖るため、共同の施設をなすを以て目的とし、昭和十五年二月二十六日創立したものである。

本組合の地區は、兵庫縣武庫郡一圓とし、組合員のため、その取扱商品竝に營業用品の共同仕入、營業上必要なる物品の保管、運搬のための共同設備等の事業をなしつゝある。

現在組合員は、有力業者を多數の傘下に收めて、その基礎も幹部役員の劃策施行まことに機宜に適して、今や益々鞏固を加へ、年を逐うて順調なる發達を遂げつゝある。

理事長　**松田萬次郎**

氏は明治二十九年二月二十六日の出生にして、本組合創立當時よりの功勞者にして、爾來現在に至るまで理事長の重職にあり企業合同輸業對策等の實現を速進せしむべく日夜精勵されてゐる。

氏は人格高潔にして、その手腕功績と共に、組合員の信望極めて厚く、この人の下、非常時局下の組合を協力一致して突破すべく、その全機能が活動されてゐる。

兵庫、武庫、尾木村

村會議員　**片岡威雄**

當家は代々農家にして、當村唯一の舊家であり、名望のある家柄である。

先代森之助氏は村會議員等の公職、名譽職にあつて、大いに村政に盡した。

當主は明治三十八年五月十一日出生、伊丹中學卒業後、家督を相續し、自ら農業に從事することを止めて、地主、借家等の經營を興し、大いに家運を發展せし

めたが、社會的にも、その才能と誠實さを以て次第に頭角を顯はし、先づ區長に

任ぜられ現在では警防團分團長、村會議員、區評議員東町内會副會長、水利組合委員、大政翼贊會支部理事等の要職を一身に兼ね、廣範に亘つて公共の爲めに盡瘁してゐる。

而して氏の圓滿なる人格と熱烈な誠意とは必然的に、村民敬愛の的となつてゐる。

家庭には、夫人まさ江さん竝に三女あり、頗る圓滿である。

なほ氏の住所は、瓦木村高木字上河原二八三番地。

神戸市湊東區相生町
神戸自轉車小賣商業組合
電話元町二二一〇番

本組合は自轉車小賣商業の改良發達を圖るため、共同の施設をなすことを目的として、昭和九年十二月設立を認可されたるものである。

地區は神戸市一圓に亘り、取扱商品の仕入、取扱商品の保管、運搬、撰別をなすための共同設備、營業方法、販賣價格の協定、資金の貸付又は貯金の受入等の事業が實行され、極めて堅實なる業績を擧げつゝあり、その前途は眞に洋々たるものがある。

理事長 中塚與五郎

氏は明治二十四年五月七日の出生にして、本組合設立當初よりの功勞者にして、以來引續いて理事長に就任して、組合精神の普及達成を期して、日夜盡瘁し、業界に貢獻するところ甚大なるものがある。なほ組合對策として政府の配給のみに依賴せず、これが不足を補ふため營利を二義とせる三和自轉車更生株式會社の設立を計る等、本組合に寄與すべく、益々奮剌たる活動を續けてゐる。

資性實直剛健にして、情理に厚き人格者であり、町會副會長、警防團分團長等の要職にあり、各方面の信望は絶大なるものがある。

兵庫、武庫、瓦木村
阪神教會主管者 手塚寛道

師は長野縣南安曇郡高家村にて、大正四年二月生誕し、幼にして父母兄弟に死別に逢ひ、是が追善の意味に於て僧籍に入り、昭和三年得度、昭和十三年迄東京本社東椅妙緣等にて得度中のである。

師は日本大學附屬中學校を經て、同大學豫科文科に進み更に同校法文學部宗教學科を同十三年三月卒業した。更に富士修學專門道場の助教師となり、進んで昭和十五年九月當教會の擔任教師(主管者)となり、今日に至る。

なほ師は人格高潔にして溫良、能く衆望を負うて主管者としての職責を全うし本會の向上擴充に貢獻すること甚大、氏の才腕に俟つもの特に多い。更に氏が持つ學歷と信念が本會の進運に及ぼす處多大なるが故に、是に懇力する氏の熱と力に、衆人の信賴を把握してゐる。

兵庫、武庫、瓦木村
翼贊會委員 松田彰夫
電話西宮一八八六番

氏は東京市の出身である。嚴父卯三郎氏の三男として、明治四十三年二月十六日に生れた。

先代卯三郎氏は生前、日米協會理事、會社重役等であつたが、神戸市須磨區に在住、當時は須磨方面委員として活躍した。

當主彰夫氏は關西學院に學び、兵庫縣立農林學校に入學同校卒業後、兵庫縣廳に勤務し、前

途を大いに嘱望されたが、事變勃發するや應召し、聖戰の勇士としての尊い任務を果し、現在は辨天町會顧問、軍事分會副分會長、隣保代表として銃後の自治のために獻身的な努力を續けてゐる。それかあらぬか、大政翼贊會が設立されるやその熱意と才能を買はれて、同會武庫郡支部理事に任ぜられたのである。

かくの如く、公務に忙殺されてゐる氏は又、現在堺重工業株式會社に勤務中であり、その勤勉と、溫厚な人格を認められて、上下の信望を集めてゐる。

家庭には夫人光子さんとの間に、一男一女あり、夫人は町内會婦人部班長としてゐる。

兵庫、武庫、大庄村
村會議員 瓦本種藏
電話尼崎五七二番

當家は代々農業を營みたるも、氏の代よりこれを廢し、地主として借地業竝に借家業を營み、實業界に入つた。

尊父新太郎氏は村會議員等の公職を歷任して、同村自治の功勞者であつた。

氏は明治三十年十月十三日、先代の長男として出生、生來進取の氣性に富み、

家督相續後は大いに奮勵して家運の發展を圖り、地主、借地業、借家業を營んで大いに成功をきめ、進んでは關西宅保株式會社取締役、合名會社高山鐵工所の重役等に就任して益々活躍するに至つた。

然るに氏は公共への奉仕に、非常な熱意を有して居り、獨り自己の成功にのみに安じてはゐない。即ち、氏は現在は村會議員、警防團分團長、村稅委員、區劃整理委員等の要職を一身に兼て、村政のため、且つ村民の福祉のため、文字通り寧日なき有樣である。

責性は溫厚にして、勤勉であり、村民の氏に對する信望また輕からず。

家庭には、タツ子夫人あり、內助の功の合間には、國防婦人、愛國婦人會等の役員として活躍してゐる。同夫人との間に一女あり、家庭は非常に圓滿である。

氏の趣味は狩獵である。

氏の現住所は、大庄村西字巽開八七八

ノ一である。

神戸市葺合區御幸通
兵庫縣纖維製品小賣商業組合 聯合會

本聯合會は、所屬組合相互の連絡協調を圖り、併せて纖維製品に關する小賣商業の改良發達を圖るため、共同の施設をなすを以て目的とし、昭和十四年六月設立認可を得たものである。

區域は兵庫縣一圓に亘り、主なる事業は、所屬組合のため取扱商品、又は營業用品の仕入又は仕入の仲介斡旋、取扱商品の販賣、販賣價格の統制、取扱商品の檢査、取扱商品の量的及質的向上を圖り併せて業界の發展を期するため、諸般の指導研究、その他宣傳、市場開拓に必要なる施設の設置等々がなされ、極めて堅實なる業績を擧げつゝある。

理事長 三木定七

氏は當組合理事長として就任以來、組合精神の普及達成を期し、一意專心奮鬪して、同組合に貢獻するところ甚大なるものがあつた。

氏は資性溫厚にして篤實、圓滿なる人格者であり、業界に於ける信望は絶大なるものがある。

兵庫、尼崎市築地本町
防護團班長 杉村千太郎
電話一四六二番

當家は大阪府河內に於ける代々の舊家で、農を正業としてゐたが、土地の發展に伴ひ、氏の代に至つて左官業を志し、先代までの農を廢し、今から三十五年前當地に移居した。

氏は多難に遭遇しても、常に不屈、幾度か辛酸を經て今日の成功を見るに至つた。

現在左官業組合を設立し、自ら組合長となり、副會長二名、相談役一名、評議員五名をその任に當てゐる。

その方針も他の組合と趣を異にし、總て建築法により、防火建築を主唱する建前を執ることで、將來の重要性より見て縣聯合尼崎支部として公認される日も遠くはあるまい。

責性重厚、衆庶の信望高く、推されて築地本町隣保代表、町內評議員、防護團班長等の要職にあり、至誠一貫、その指導に當つてゐる。

趣味として圍碁を嗜み、達人の聞えが高い。

令閨は貞德の譽れ高く愛國婦人會、國防婦人會等の幹部として活躍してゐる。

家庭には二男二女の子福に惠まれ、つねに團欒たる家風は、近隣羨望の的になつてゐる。

兵庫、洲本市幸町
洲本食料品小賣商業組合

當組合は曩に申合組合として存立せるものを改組せるものにして、昭和十五年十二月十日、創立認可されたるものである。

現在、洲本署管內及び、市內に多數有力業者の組合員を擁せる堅實優良なる組合にして、配給、共販等の事業をなし、

特に本組合は島國なるが故に特種組合として、問屋を經ず、產地直接販賣をなしてゐる。同組合は役員、組合員一致協力組合精神の發揚に努力されて居り、その前途は洵に洋々たるものがある。

理事長 竹島藤平

氏は明治十一年の出生にして、國際工業會社食堂、果實園等を經營し、現在洲本木炭同業組合副組合長、下紺屋町隣保組合長等の要職を兼任され寧日なき奮鬪を續けられ、その功績は眞に甚大なるものがある。

氏は溫厚篤實なる人格者であり、業界の信望極めて厚く、今後の活躍は愈々期待されてゐる。

神戸市兵庫區仲町
神戸兵庫燃料小賣商業組合
電話兵庫七一三番

當組合は燃料商業の改良發達を圖るため共同の施設をなす目的で、事務所を兵庫區仲町六三に置き、昭和十五年六月七日に設立認可されたのである。

地區は、神戸市兵庫警察署管內一圓とし、地區內に於て店舖をかまへ燃料（木炭、薪、豆炭、煉炭、コークス）及コロ、其他の附屬器具の小賣を業とする者を以て組織してゐる。

出資一口金額を五十圓とし、金錢を以て拂込むものとする、會員數約二十で、配給分所は八個所にある。

主なる役員をあぐれば、理事長江崎種一、副理事長荒木種治、森永治男、專務理事菊地佐喜雄、常務理事栃尾一政、會計理事園庄三郎、理事政本繁造、森德造、黒田畠四郎、石田繁雄、寺岡重一、監事白崎茂三太郎、野田德市、島田榮造、米澤義雄、有坪貞吉氏の諸氏である。

配給分所長としては金次地區は寺田重虎雄、東地區三賀政次郎、永澤地區有坪貞吉、磯田町地區寺田準甫、入江地區山口仁次郎、吉原地區石田茂雄、業務用配給所長清水亮次、共同運搬部魚住政雄の諸氏。

理事長 江崎種一

氏の家は代々の舊家として、また屈指の素封家である。氏は明治二十三年八月に呱々の聲をあげ、夙に產業に從事し令名嘖々たるものがある。現理事として資性重厚、夙に信望あり、その指導精神としても常に滅私奉公すべて消費者本位として縣の指令に下づき、迅速な配給をして組合の發展を計つてゐる。

家庭も平和でつねに多幸である。

神戸市神戸區加納町
兵庫縣金物商業組合聯合會

本會は、所屬組合相互の連絡協調を圖り、併せて各種金物に關する小賣商業の改良發達を圖るため共同の施設をなす目的で、事務所を神戸區加納町四丁目、新三宮ビル內に置き、昭和十五年四月一日に設立認可されたのである。

地區を神戸一圓とし、地區內に事務所を有する小農具を含む各種金物（造船及船舶用金物を除く）の小賣商業組合を以

て組織する。

出資一口の金額一千圓とし、總て金錢を以て拂込むものとする。

本會所屬の金物商業組合としては、神戸、明石、東播、西播、但馬、氷上、篠山、有馬、川邊、尼崎、西宮、武庫、淡路等である。

主なる役員としては理事長尾上市平、理事吉田則一、松本繁治、津崎悌二、長谷川龜吉、鹽入齊米、山田敬忠、梶田作田、監事としては河井直吉、田中彌三郎、廣野正義、石丸昇三、清原善次郎、書記として西仲泰三等の諸氏である。

兵庫、西宮市池田町
天理教西宮大教會
電話三九三番

當教會は明治二十四年十二月二十二日認可となり、當時、西宮支教會として、濱本町三丁目三二〇番屋敷に建つたものである。

明治二十五年九月、現在の場所に移轉する。

明治四十二年一月分教會、昭和十四年五月中教會、同十五年二月に至り、大教會として昇格す。

會長は、直屬大教會長として本部に勤務、縣主事敎師會分會長として本部に勤務、縣主事敎師會分會長として本部に勤務、縣主事敎師會分

合は三十三組合である。

理事長 黒田巧

氏の家は代々の舊家にして、由緒ある家柄として有名である。尊父は産業自治、並びに公共のためつくした人とて知らる。

氏はその男として明治三十五年に呱々の聲をあげた。資性重厚、夙に信望あり人の長たる素質に惠まれ、のち神戸豆腐商業組合設立の大功勞者で、組合の理事長をかねてゐる。

家庭も圓滿で多幸である。

神戸市湊東區荒田町
神戸豆腐商業組合

當組合は豆腐商業の改良發達を圖るため、共同の施設をなす目的で、事務所を荒田町三の一六二に置き、昭和十五年六月六日に設認可されたものである。

地區としては、神戸市、武庫郡御影町、住吉村である。

組合員既に四六五名の數きに達し、縣下有數の模範組合である。

主なる役員としては理事長黒田巧、副理事長相田作治、常務理事西村正次、外田吉則一氏、常務理事として今村義一氏原田宜二氏、他に理事十一名、監事五名が選任されてゐる。

（理事長黒田氏については聯合會理事長として特記してあるから參照せられたし）

神戸市兵庫區上澤通
神戸金物商業組合

電話湊川七〇六〇番

本組合は團體の本義に則り、滅私奉公公益優先を信條とす配給機關たるの使命を完遂するため、全員一體となり、各種施設を行ひ、健全なる事業の發展を圖り報國の實をあぐる目的を以て、事務所を市内兵庫區上澤通に置き、昭和十五年十月に設立認可されたものである。

地區は神戸市一圓で、地區内に於て各種金物（造船材料器具を除く）の卸又は小賣及二農具の小賣を業とする者を以て組織してゐる。

現役員は理事十五名、監事五名を置き理事の内から理事長一名、副理事長一名常務理事二名を互選する。

現在理事長大向源次郎氏、副理事長吉田吉則一氏、常務理事として今村義一氏原田宜二氏、他に理事十一名、監事五名である。

（理事長黒田氏については聯合會理事長として特記してあるから參照せられたし）

理事長 大向源次郎

明治二十九年六月十五日に呱々の聲をあげ、夙に頭腦明敏を以て令名あり。資性溫厚にして信望厚く、推されて理事長に就任したが、このほか區會議員二期、町會長、商工團體聯盟常任理事、兵庫縣ラスク組合長等の要職を兼任して指導にあつてゐる。さきに青年團長として十三年間盡力し、また當組合創立發起者としての功勞者である。

神戸市兵庫區中道町
兵庫縣燃料小賣商業組合聯合會

本會は所屬燃料小賣商業組合相互の連絡親睦を計り、併せて各種燃料小賣に關する改良發達を圖るため、共同の施設な

す目的で、事務所を中道町三丁目に置き昭和十五年八月十四日に呱々の聲をあげた。所屬組合二十六である。

同縣は有名なる消費縣であるため、一號地、二號地、三號地に區分し、一號地とは純消費地で、八市五十七ケ町村を含む。二號地は消費と生産をする町村、三號地は純生産の地である。一號地は警察區を單位とした二十三の小賣商業組合を置く。

常縣には卸商及び問屋が全然ないことである。これは卸と問屋團體に一部の小賣業者側が主體となつてゐる關係からで兵庫縣木炭荷受配給統制組合を結成して組合本部とし、縣下に二十三ケ所の支所を設置してゐる。

これは主として地區の小賣商業組合長が支所となつてその業務に當る。

主なる役員をあぐれば理事長吉河圓之助、副理事長灘卯作、川口宇之助、田中邦太郎、專務理事菱川猛、理事江崎種一八木馬治、長谷川幸一、巽重三郎、平井作太郎、梶川豐、增本普、三木一雄、川西熊一、赤尾常治、長井要、監事前田並次郎、角谷永治、松本定次郎、其他顧問として鈴間安兵衛、荒木力藏、川西熊一等の諸氏である。

理事長 吉河圓之助

氏の家は舊家としてまた屈指の素封家として有名である。

氏は夙に産業に從事し、努力今日の大をなすに至つた。資性重厚果斷に富み、衆望を集め、推されて當會の理事長となつたが、爾來聯合會繁榮のため盡力し、益々信賴を高めてゐる。

神戸市湊川
燃料小賣商業組合

本組合は昭和十五年九月十八日（事務所を前記聯合會と同じ）に設立認可されたものである。地區は湊川署管內一圓と地區し、會員一九三名を擁し、その配給機構に於いては他縣にみられぬ完璧のものとして、自他ともに許してゐる。理事長菱川猛氏以下、理事十一名、監事五名である。

理事長 菱川猛

氏は明治三十三年十月二十一日に呱々の聲をあげ、夙に産業自治のため多大の貢獻をつくした人で共同仕入等々の施設がなされ、極めて堅實なる伸展を遂げてゐるが、當組合がかく模範的な發達を遂げたのは、一に氏の努力で、これが設立については約一年間、東奔西走、孃の溫まる暇ないほどの、活動を續けたのである。本縣は木炭以外の燃料を他縣に需めてゐるので、企業合同により多數の轉業者を出したが、その犧牲者救濟のため、氏は相當の計畫をたてゝゐる。

家庭、またつねに圓滿多幸である。

神戸市林田區千歲町
神戸洗染商業組合

電話須磨五一番

本組合は、曩に任意組合として設置され、當時より共同施設等を有し、全國一の評があつたが、なほ高度の發展に資するため、これを改組し、昭和九年五月設立認可を得たるものである。

事業として、取扱品の洗濯をなすため共同設備の設置、營業方法及び加工料金に關する協定、加工品中主として乾洗品の檢査、研究所、講習所の設置、材料の共同仕入等々の施設がなされ、極めて堅實なる伸展を遂げてゐる。

神戸市葺合區琴猪町
兵庫縣染料工業藥物小賣商業組合

電話葺合一七三九番

本組合は染料及工業藥物、小賣商業改良發達を圖るため、共同の施設をなすを以て目的とし、昭和十五年六月十八日市一圓を地域としてゐたが、全聯の關係上縣一圓に擴大され今日に至つた。

事業は以上の完遂を期するため共同仕入、共同設備、共同販賣、研究及調査等の事業を行ひ、極めて堅實なる業績を擧げつゝある。

總出費額は一萬圓にして、現在組合員二十五名を擁し、逐年順調なる發展を遂げてゐる。

理事長 青木久太郎

氏は明治二十三年二月十二日の出生にして、當組合理事長に就任以來、組合精神の普及達成を期し日夜間斷するところなき努力を致され、以て組合の進歩發展に寄與するところ極めて甚大なるものがある。

氏は資性温厚にして篤實圓滿なる人格者であり、その業績と相俟つて業界の信望は絶大で、敬仰の的となつてゐる。

神戸市灘區南通り
灘區米穀小賣商業組合

電話御影二一〇九番

當組合は米穀小賣商業の改良發達を圖るため、共同の施設をなす目的で、事務所を灘北通三丁目二番地に置き、昭和十年二月十三日に設立認可されたものである。

地區としては灘區一圓とし、同地内に店舗を構へ米穀の小賣を營む者を以て組織する。

會員既に約百名、目下頗る繁盛してゐる。

主なる役員として現理事長梶甚三郎氏外數名である。

理事長 梶甚三九

氏は當組合創立の發起人總代で、當組合設立は氏の東奔西走の結果であり、また今日の發達も至誠一貫たる氏の努力に負ふものとされる。

理事長 大森麻七

氏は明治十五年十月十日の出生にして組合創立以來理事長の要職にあり、組合の性質上物資愛護に重大なる關係を有するものとして、組合員の技術向上を計る傍、統制經濟下に於ける組合精神の普及徹底を期し、日夜盡瘁し、業界に貢獻されたるところは頗る多く、その功績は燦然たるものである。

氏は資性温厚篤實なる人格者にして、現在町内副會長をなされ、德望は益々高く、各界の敬仰を一身に聚めてゐる。

なほ理事長以下役員は、理事に吉尾保太郎、森澤寛藏、竹本龜吉、大橋房吉、井上安次郎、中山善七の諸氏、監事に林周二、大山彦太郎、鳴瀧鶴三郎、磯貝勝太郎、西村友七、柏木鶴藏、西條與平の諸氏がある。

書記長に伊藤米治氏があり、夫々組合の發展に盡力してゐる。

氏の家は代々の舊家にして、由緒ある家柄として知られてゐる。先代は産業公共のため、多大の功をつくした人であつた。

氏はその男として明治十八年三月十一日に呱々の聲をあげた。現自宅は灘南通四丁目十四番地であるが、資性重厚、夙に信望あり。人の長たるの素質に惠まれ、現在はこのほかに、神戸市米穀小賣商業聯合會理事全國米穀小賣商業組合監事、全國商業組合理事、また自町内にあつては、前には町會長、衛生組合長を歴任し、町内聯合會副會長として重きをなしてゐる。

家庭は、つねに圓滿で多幸である。

神戸市兵庫區島上町
兵庫縣肥料商業組合

電話兵庫四九八一番

當組合は肥料營業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、事務所を兵庫區島上町二十六に置き、昭和八年七月十日に設立認可されたのである。

地區は兵庫縣一圓とし、地區内に於ける肥料卸賣業者を以て組織する。但し人糞尿、鷄糞、荷粉の取扱業者は之を除いてゐる。

出資一口金額二百圓とし、總て金錢で拂込むことである。

主なる役員をあぐれば、理事長後藤吉也、常務理事鈴鹿昌一、天野岩平、理事多木磯太郎、增田吉次郎、監事有馬順二眞野喜平、吉田忠朗、尾上清一郎、主事池武猪、書記長田代權吉の諸氏である。

當組合は縣下に於ける商業組合最初の組合で、その内容と機構には他に誇るべきものがある。

理事長 後藤吉也

氏の家は代々の舊家にして有名なる由緒の家柄である。先代は公共のため大功のある人であつた。

氏はその男として明治十五年に呱々の聲をあげた。資性重厚、衆庶の信望極めて厚く、當組合初代理事長として現在につゝいてゐる。當組合が模範組合として昭和十二年六月に中央會より表彰されたのは氏の努力の賜である。

氏はこのほか、商業組合中央會理事、同會兵庫縣支部の副支部長、全國肥料商業組合聯合會常務理事、翼賛會參與等の要職についてゐる。

家庭もつねに圓滿多幸である。

神戸市神戸區中山手通
神戸婦人子供洋服生地善業組合

本組合は國策に從ひ婦人子供洋服、生地、同附屬品小賣商業の改良發達を圖るため、共同の施設をなすを以て目的とし、昭和十五年七月二十二日設立認可を得たるものである。

その地區は神戸市一圓とし、所期の目的完遂のため、取扱商品及營業用具の仕入、取扱商品の檢査、保管、運搬及裁縫をなすため共同設備の設置、營業方法、販賣價格の協定等が實行され、現在組合員二二三名、堅實な業績を擧げてゐる。

理事長 佐藤金治郎

氏は理事長就任以來統制經濟下に於ける組合精神の普及達

成を期し日夜盡瘁され、統制強化にともなひ、組合員の轉業を極力防止するため、犧牲的精神を以て組合員を援助し、配給制度に就ても政府、組合の見解を一致せしむるための努力を致される等、業界に貢獻するところ甚大なるものがある。

現在町會委員、商工業調査委員、警防團理事等の要職にあり、卓越せる識見と謹嚴實直なる人格と共に、各方面の德望極めて厚く、その活躍は益々期待されてゐる。

兵庫、城崎、豐岡町
城石兩郡菓子工業組合

本組合は城崎郡豐岡町に事務所を有し斯界業界の福利增進、相互扶助の精神發揚を圖る目的を以て設立し、逐次組合の實質的向上に邁進しつつあり、更に本組合設立に當りて、發起總代としての村上東逸氏を始めとして、各役員諸氏の獻身的努力に依り、使命達成に盡力しつゝある。現役員には、理事長に山根甚三郎氏を推し、理事に一柳武夫、江谷周藏、久保田順三、黑坂菊之助、膳所彌四郎、中村欣藏、村田陸藏、濱中半兵衞、濱中龜藏の諸氏、外一名にして、會計には西谷榮吉が坐り、逐次組合の實質的進展に邁進しつつあり、又監事には松永松太郎、八代仙藏、北村垣壹、松永尙一氏等あり外に統制委員十八名、同委員會委員長は村上東逸氏である。

理事長 山根甚三郎

氏は明治卅一年一月八日、京都府に生誕、當組合は初め五郡を以て設立の計畫の處、當地は特に交通不便の山間地なるを以て、郡單位の組合とすることに決し、これが設立に際し各地に於て、種々苦勞せし人にて、二十九歳の折、豐岡町にて某有力者に依り、氏の人格識見を見込まれ、種々の援助を受け、獨立の幾を得、遂に今日の榮位を築いた。

尙組合に在りては獻身的努力を爲し、近く組合事業として、蓄牛（牧場）の經營をも兼ね、轉出業者對策の一助ともなし、又牛乳增產ともなり、一石二鳥の事業として、組合員に期待されてゐる。

氏は聯合會理事、商工會代議員、信用組合代議員等の名譽職をも兼任してゐる資性溫厚高潔にして、能く衆望を負ひ將來への期待を掛けられ、一意專心努力しつゝあり。氏の今後に於ける活躍こそ期待し得るものがある。

神戸市兵庫區戸場町
兵庫縣 砂糖小賣商業組合 聯合會

電話兵庫九二六番

本會は國策に基き兵庫縣に於ける砂糖小賣商の改良發達を圖る爲其統制並に共同の施設をなす目的で、事務所を神戸に置き昭和十五年九月二十八日に創立總會を開き、同年十一月二十日に認可された

のであつた。

地區は兵庫縣一圓とし、地區內の砂糖小賣商業組合を以て組織してゐる。

出資一口の金額を一百圓とし、全額一時拂込である。

主なる役員としては理事長小川善市、理事黑田源四郎、楠田利一、來住廣次、新田喜代、兒島四郎右衞門、岸常三郎、堀田清五郎、監事石原博久、三輪又右衞門、工藤平四郎の諸氏である。

理事長 小川喜市

氏の家は代々の舊家にして有名なる由緒の家柄である。先代は公共のためにつくした人で知られてゐる。

氏はその男として明治二十六年十一月八日に呱々の聲をあげた。資性重厚、頗る事務的才幹に惠まれ、また一面信念の人で、臣道實踐を仕事のモットーとし、昭和十二年六月に神戸砂糖小賣商業組合の書記に就任した當時、基礎貧弱のため將に解散せんとする狀態にあつたのを、もり立て今日縣下有數の組合に仕上げ、昭和十五年五月十日組合は商業組合中央會長より表彰されたのである。

今や斯界の信望を集め、氏はその重鎭として名實ともに貫錄を示してゐる。家庭も恒に圓滿多幸である。

兵庫、洲本市幸町
洲本燃料商業組合

本組合は時局下、急速に重大性を增して來た燃料問題解決の要部面たる、燃料の圓滑なる配給統制に盡力し、以て消費者並に業者をして、安らかに業務に就かしめ、大政翼贊の一翼たるべく設立されたるものにして、着々その使命を達成しつゝあり。

組合の管轄範圍は由良、阿賀、中河原の三區域にあり、現在組合員百名を擁してゐる。

役員には理事七名、幹事三名が就任し事業は主として配給、共同購入、共販等を行つてゐる。

理事長吹田氏は、明治二十三年九月五日出生、溫厚にして豁達、理事長に就任以來、獻身組合の運營に當り、業績また見るべきものあり。名理事長として全組合の信望を一身に集めてゐる、家業は古くより石炭商にして、子息好夫君は福島商業在學中である。

常務理事 宇賀田多一郎

明治三十二年七月十一日出生。實業補習學校卒業にして、前青年團支部長、洲本製氷販賣組合長、普通商業組合信用評定委員等々各種公職を歷任した敏腕家である。

資性は溫厚篤實にして、組合員の氏に對する信望甚だ厚いものあり、常務理事就任以來獻身的努力を續けて來たが、今後とも組合の將來は同氏の活躍に期待するところ大である。

神戸市神戸區元町
兵庫縣 運動具小賣商業 組合

本組合は運動具小賣商業の改良發達を圖る爲共同の施設をなす目的で、事務所を神戸區元町一丁目二五二番屋敷に置き

昭和十一年六月十二日に設立認可されたのである。

組合の地區は兵庫縣一圓としてゐる。加入金は十圓、一口出資金貳拾圓で出資は總て金錢を以て拂込むことである。

會員約三十數名で、主なる役員をあぐれば、理事長山本彦次郎、理事島田幸藏吉岡一、宇田貞四郎、小國光治、堀道三郎、吉川憲三、中村嘉壽藏、監事山本末夫、横野廉治、三好克己等の諸氏。

理事長 山本彦治郎

氏の家は代々の舊家として由緒のある家柄は近在でも有名である。

先代も産業自治のため多大の功をつくした人である。

氏はその男として明治三十年九月十六日に呱々の聲をあげた。夙に産業に心を傾け、當業界に於ても夙起人代表として大功勞者である。

殊に、當組合をして他の組合と趣を異にさせたのは氏の提唱で、卽ち「國民體位の向上、商品向上とその選擇に苦心して良心的の品を販賣するをモットーとする」資性重厚にして、衆望特に厚い。

家風は恒産の出來た家として品位に富み、義理人情に厚く、頗る圓滿なる點近隣羨望の的となつてゐる。

兵庫、伊丹市南野 市會議員 中田淺右衞門

代々農を以つて業とする舊家にして、當村切つての素封家として知らる。氏は明治三十八年三月十日先代淺右衞門の長男として生る。昔時は朝右衞門と稱せるも、後ち淺右衞門と改稱し代々之れを襲名しつゝあり。

先代淺右衞門氏は昭和十五年七十一歳の高齡を以つて逝去せるも、母堂あいさんは今尙ほ健在中である。先代も生前中長年區長を勤め、地方の開發に努力するところあり。當主淺右衞門氏は伊丹中學を大正十三年卒業すると共に尊父を扶け、早くより區長代理、青年團支部長、消防第十一部長等、青年子弟の善導に獻身的努力惜ます爲めに衆庶の信望彌々加はり、今回市制の施行さるゝや選ばれて初代市會議員となり、その將來を囑望さる。

氏は亦忙中閑を得て謠曲、生花に趣味を有つ。

夫人若枝さん國防婦人會班長として銃後の守りに萬全を期すべく活躍し、傍ら一男一女の敎養に努めてゐる。

神戸市 兵庫煉炭配給統制組合

本組合は兵庫縣知事の監督の下に關係各組合と連絡提携し縣内に於ける煉炭の荷受配給の統制をなし、其の需給の調整を圖るを以て目的とし、事務所を神戸市に置き、昭和十五年九月三日に設立認可をみたのである。

地區としては兵庫縣一圓とし、組合員は煉炭（豆炭、孔明煉炭）の製造工場と特約し、兵庫縣内に於て其の卸賣を業とせる者及縣内煉炭工場にして從來直接小賣業者に販賣せる製造工場の代表者を以

て組織するのである。

出資金總額は金壹百拾萬圓で、その出資割當比率は資格審議委員會に於て確認したる實績によつて、これを定めるのである。

役員の決定は總會に於て組合員中より之を選任する。但し必要に應じ理事會の決議により組合員に非ざる者よりも之を選任することが出來るのである。

理事の中より理事長、副理事長、專務理事各一名、及び常務理事三名を互選する。監事の中から常任監事一名を互選する。理事の任期は二ケ年、監事の任期は一ケ年とするが、再選は防げない。

理事監事選出比率は、理事として神戸地區十二名、尼崎地區二名、西宮地區一名、明石地區一名、姫路地區一名、其他四名。監事としては神戸地區一名、尼崎地區一名、其他一名である。

組合は事務遂行の爲め左記の各部併せて支部、出張所を置いてゐる。

一、庶務部　二、經理部　三、荷受部
四、配給部

支部及出張所は地域内樞要の地に之を置き、本部の指令の下に區域内の配給事務を掌る。

兵庫、武庫、瓦木村 翼贊會委員 勤六等 前田守一

電話西宮二八一〇番

氏は和歌山縣西牟郡周參見町出身、明治二十九年三月五日實父萬太郎氏の男として出生。年少の頃より萬太郎氏のよき股肱として、專心家運の發展に盡瘁しては帝國軍人として海軍に入隊し、たまたま第一次歐洲大戰勃發するや、三等兵曹として從軍し、國防の第一戰に於て活躍、赫々たる武勳によりて勳六等を授けられた榮ある勇士である。

除隊後は神戸に來り、慧眼にも、當地に市場の必要なるに着目し西宮北口市場合名會社を設立、自らは副社長として社運の發展に、その手腕才能を傾けた。

同時に氏は、菓子並にパン製造販賣業を營み、その奉仕的な經營振りと、製品の優秀さは、次第に一般の認むる處となり、遂には神戸市内並に甲東園に支部を開設する迄に繁榮するに至つた。

尙、氏は現在は甲東園市場（合名會社）の代表者の地位に在り、その溫厚篤實な資性は、幾多の辛酸によつて益々磨かれ社員一同の敬慕の的である。

氏はこの人格を買はれて、瓦木村商工會副會長に、更に石譯町々會長、警防團副團長、區長代理、大政翼贊會武庫郡支部委員、瓦木飮料組合理事長等の要職を占めて居り、儼範に亘つて、大政翼贊、職域奉公の誠を致しつゝある。

家庭には夫人きみ子さんありて、和やかな家庭を營む。然し氏は不幸にして、夫人との間に一子ありたるも他界せり。

氏の實弟正雄氏と三宅氏とは共に、氏を扶けて、神戸支店責任者、また甲東園責任者として、夫々その經營に大童の活躍をしてゐる。

尙、氏の現住所は、瓦木村字高木石譯西ノ宮北口市場内であり、今後の繁榮が約束されてゐる。

兵庫、芦屋市南垣内

町會聯合會副會長　**五味　嘉兵衛**

家は代々農業を以て業とし、祖先は七代の昔に遡り、當市第一の舊家を以て知らる。代々襲名にして、現在は家主、地主として有名な資産家なり。

氏は先代の長男、明治十一年十月生、幼時より先代を扶けて、家運の發展に盡力し、父母に孝養の誠を盡して模範青年として知られたが、家督相續後は、更に家主、地主として活躍し、家運をして益々隆盛に趣かしむと同時に、その溫厚にして誠實な人格をもつて夙に社會的にも名聲を得、次第に、村に於て重きをなし國勢調査委員、宮寺總代、衞生組合長、村會議員二期等の要職を歷任しきたりしが、現在では芦屋市西山手區町會聯合會副會長として、同市自治に多大の貢獻を爲しつゝあり、町民の信望を一身にあつめてゐる。

枯淡風雅なる趣味をもち盆栽を愛す。家庭には夫人野登さんとの間に一男有りしも、不幸中年にして病死し、現在は關西學院卒業の令孫一人あり、和やかな家庭を營みつゝある。

氏の現住所は、三條南垣内四〇二番地である。

神戸市湊東區多聞通
兵庫縣麵類卸商業組合

電話元町一五二九番

本組合は麵類卸商業の改良發達を圖る爲め、共同の施政を爲すを以て目的とし昭和八年十一月二十日創立されたるものである。

區域は兵庫縣一圓に亘り、事業は以上の完遂を期するため商品及營業用材料の保管倉庫共向仕入、商品及營業用材料の保管倉庫運搬機關及作業所、營業の統制、營業に關する指導、研究及調査、資金の貸付及貯金の受入等の事業を行ひ、極めて堅實なる業績を擧げ、現在組合員二五三名を擁し、逐年順調なる發展を遂げつゝある。

理事長　北國太郎

氏は當組合創立以來、事務所を當住吉村に置き、御影署管内一圓を業務區域とし、現下非常時局に對し、組合の新體制組織を整備して、これが運營の圓滑を圖つてゐる。

現役員は大部種治氏を理事長に推し、副理事長田中俊助氏、專務理事行瀨愛太郎、常務理事廣瀨順治、理事桝田一男、經濟下にある組合事業の進歩發展に貢獻され、その功績は洵に甚大なるものがある。

氏は資性溫厚にして篤實、圓滿なる人格者であり、高邁なる識見と共に業界に於ける信望は極めて厚く、當組合が今日の隆盛を贏ち得たるは、もとより組合員一致協力の賜物であるが、これが重要なる指導者としての氏の功績は、沒却し得ざるものにして、非常時局下に在る組合今後の發展に對し、氏に課せられたる期待は絶大なるものがある。

兵庫、武庫、住吉村

灘米穀小賣商業組合

電話吉田六二三番

本組合は昭和十二年八月設立を認可され、事務所を當住吉村に置き、御影署管内一圓を業務區域とし、現下非常時局下に對し、組合の新體制組織を整備して、これが運營の圓滑を圖つてゐる。

現役員は大部種治氏を理事長に推し、副理事長田中俊助氏、專務理事行瀨愛太郎、常務理事廣瀨順治、理事桝田一男、

小瀨平九郎、荻野熊次郎、西村清太郎、監事高田文吉、宮崎作太郎、藤村文吉、次井幸德諸氏の材幹を配してゐる。

理事長　大部種治

氏は明治廿年の生誕にして、現在本組合長として衆望を負ひ、滅私的努力を以て貢獻しつゝあり、且つ組合員をして、能く時局を認識せしむることに指導し、協力一致以て職域奉公に邁進しつゝあり、氏は亦町會議員、物價調査員、武庫郡經濟更生委員の要職にありて、敏腕を揮つてゐる。

人格溫良高潔にして、組合の將來は氏に期待するところ甚大なるものあり、衆望を蒐めてゐる。

兵庫、加古、高砂町

兵庫縣木炭荷受配給統制組合

高砂配給支所

電話二六四番

當組合は木炭荷受配給の圓滑を期し、配給の統制を强化する目的で、時局に協力せんとする組合として誕生したのである。

當所はその支所として、事務所を高砂町船頭町に置き、その下に五ケ所の配給分所を設け、運營の圓滑を期してゐる。

役員として支部長一名、評議員十二名、務員三名を以て、これが運行に努力してゐる。

支所長　松本定次郎

先代は公共自治の功勞者として、人々の記憶するところである。

氏はその男として明治十九年五月四日に呱々の聲をあげた。

資性重厚、夙に衆◇あり。產業公共事業に干與し、推されて高砂商業組合理事、または木炭部々長となり、或は町總代にあげられ、高砂商工會理事等の要職をも兼ね、百錬の手腕を發揮して多大の貢獻をなしてゐる。

不言實行を旨とし、至誠一貫、孜々として渾身の努力を傾けてゐる。

家庭はつねに和氣藹々として、町内に信望を蒐めてゐる。

兵庫、芦屋市芦屋權ノ深

市會議員　**文野　己之助**

當家は代々の浪つ子で、現在の瀾波が未だ村であつた當時から、大地主で、近鄕の名望家であつた。

先代當時には專ら大阪市に於て借家經營をなして家運の隆盛を計つた、努力の人であつた。

當主は先代己之助氏の長男として、明治二十三年十月二十九日に呱々の聲を擧げたが、大正十五年先代の逝去とともに家名を襲用して遺業を繼いだ。

曩に大阪市に在住してゐたが、煤煙による衞生上の見地と、子弟敎育の立場より、現在の地に移住して約十年ほどになる。

芦屋商事株式會社々長として令名嘖々たるものがある。

氏が如何に人格聲望兼備の好紳士であるかは短期間に土地の要職に推輓された經歷が、これを雄辯に物語つて餘りがあらう。卽ち、家庭防空組合長、軍人後援會委員、隣保班長、町內會々長十指を屈するに足るのである。

手腕百練、益々衆望を集め、市政布かるゝや、推されて初代市會議員となり、現在押しも押されもせぬ名議員である。

資性重厚、頭腦明敏、剛毅なる氣性は趣味として武道を愛し、日本精神の徹底を期す。

家庭も舊家に相應はしく、靜かで品位があることは近隣の評判になつてゐる。

兵庫、洲本市築地町

前湊路蒲鉾工業組合理事長

岸原幸七

電話三七二番

當家は、家系三代を傳へ、代々商業を營んで今日に至り、業運隆々たるものがある。

氏は、明治二十七年十二月一日、尊父辨治郎氏の男として生れ、夙くより業界の向上發展に盡力して、多大の貢獻をなし、昭和十六年湊路蒲鉾工業組合が設立されるや、衆望を擔うて初代理事長に就任して、強化されつつある統制國策を全面的に浴びた組合の經營に一身を投げ出して當り、殊に組合員の營業上缺くことの出來ない資材の油、麥粉、砂糖、味の素の配給に懸命の努力を傾け、顯著なる功績を擧げ、組合の基礎を固くして、人々に惜まれつゝ辭任し、現在は商工會幹事として盡力してゐる。

溫雅敦厚、實行力の旺盛な人柄にしてまた自治公共の念こゝろ厚く、かつ時局に對する認識極めて深く、劇務の傍ら銃後國民の責務遂行に勵み、さきに慰問奉公會より感謝狀を受領した。

今や、當市業界の重鎭として、人々より絕大なる信望をよせられてゐる。

家庭もまた實に健全なる家風をなしてゐる。

兵庫、芦屋市北ノ口

東洋牛乳株式會社々長

助野庄兵衞

當家は屈指の舊家として、四百年以上を經過せる由緒正しい名望家である。

同家は代々家名は庄兵衞を襲用し、先代庄兵衞は幼名を忠三と言つたが、長ずるに及んで庄兵衞を襲名す。非常な活動家で事業慾に燃え、畜產事業を始め、或は素麵製造業を創設して株式會社組織となし、また、青木魚市場株式會社に於ては自ら取締役社長となり、信望頗る厚く推されて村會議員、村長、縣會議員と歷任した。

斯の如く產業自治の大功勞者であつた就中、宮川小學校、現在の芦屋警察署等の建造は同氏の村長時代に遺された足跡として人々の記憶に新なところである。

惜むべし、六十餘才にして逝去。

當主の庄兵衞氏は幼名を純三と稱し、その男として、明治二十九年十二月に呱々の聲を擧げた。氏を以て第十三代目の相續となす。伊丹中學を經て早稻田大學

法科卒業、更に米國コロンビヤ大學に學び大び大正十五年首尾よく卒業、この間在米五年に及んだ。

氏の研學心はこれを以て滿足せず、歐洲各地の視察の途に登ること約二年、歸朝するや先代の遺業を繼ぎ、畜產方面の代表となるは勿論、新に東洋牛乳株式會社の社長となり、青木魚市場會社、其他數多會社の重役として實業界の第一線に走出した。

資性溫厚、信望高く、推されて兵庫縣地代家賃審査委員、警防團分團長(第三)保安經濟委員、町會長、方面委員、芦屋牛乳組合長等枚擧に遑ないほどの役についてゐる。

氏は趣味の人で、釣、角力等を愛してゐる。

夫人嘉壽榮さんは日本女子大出身の才媛、國防婦人會々計理事として活躍。家庭に三女あり、純榮さん、昭子さん、由子さん、和氣靄々たる家風である。

兵庫、芦屋市船戶

市會議員

久保二郎

當家は代々の舊家として近隣の尊敬を集めてゐる屈指の名望家である。

先々代平兵衞氏は二十二年の永きに亘り戶長を勤め、先代平兵衞氏も武庫郡役所の吏員として永年勤務し、村政自治のため代々の功勞者であつた。

氏は先代平兵衞氏の次男として明治二十九年三月二十九日呱々の聲を擧げた。

伊丹中學を經て、大正九年東京商大を卒業し、三井物產神戶支店に勤務したが家庭の事情で退社して、專ら大地主として、土地の貸附、並びに借家の經營に從事した。

村政に大いに關心を寄せ、推されて村會議員、隣保班長、銃後奉公會理事、警防團副分團長、消防組頭、學務委員、財務委員、土木委員、家主組合理事、町會聯合會長等十指を屈する公職に就いて百練の手腕を發揮した。

資性剛毅、果斷益々衆望を集め、市會議員に打つて出づるや堂々として當選、續いて市參事會員に推輓され、今や押しも押されもせぬ市政の重鎭である。

斯く多忙の間にあつて、氏はまた趣味に富むが、就中、スポーツを愛し、ハイキングなどにも時折出かける。殊にテニスは學生時分より好きで、頗る堪能である。

夫人菊江さんは貞淑の聞え高く、近隣の尊敬を一身に集め、推されて國防婦人會第三分會長、山手婦人會幹事會に就き堅實な活躍を續けてゐる。

家庭は極めて靜かで、品位のある家風は是非羨望されてゐる。

兵庫、洲本市幸町

洲本鑓工業小組合

當組合は昭和十五年九月に設立認可されたるものにして、現在にては組合員五六名の小組合であるが、共同作業場の設置、機械の設備等、實に充實せる內容を所有し、その前途は眞に洋々たるものがある。

組合長 西田耕作

氏は明治二十四年大阪に出生し、業界のために日夜盡瘁せられ幾多の功績を殘され、現に當組合長として非常時局下の統制經濟に貢獻すべく、專心努力を續けられてゐる。氏は特

に優秀なる技術の持主にして、將來は滿洲方面に活躍の抱負を持たれてゐる人材にして、業者間の信望は、その數々の業績と共に極めて厚いものがあり、今後その手腕に期待するところ甚大なるものがある。

兵庫、芦屋市山角
市會議員　角戸義一

氏の實家は島根縣邇摩郡鵜浦村に於ける有名な海産物商である。

長兄十四一氏は鄉里にあつてみ、村會議員、産業組合理事等の要職についてゐる。

氏は嚴父磯七氏の次男として、明治二十一年三月十日呱々の聲を擧げ、夙に大阪市に於て建築請負業を營んだが、永住の地を求めて、大正六年當市に移住、建築請負業を正業とする傍ら借家等の經營にも從事して今日に至る。

若き時代より政治を好み、村政當時に於ても村會議員となり、市政となるや、初代市會議員の要職に就き、嚴正を持して市民の要望に答へると共に、市勢の伸展に盡力してゐる。又、押されて土木建築業組合副組合長等々の重要の椅子を占む。

資性溫厚、識見卓拔、殊に圓滿なる人格は百練の手腕と相待つて、聲望一段と加はる。

夫人波子さんも淑德の聞え高く、國防婦人會の役員となつてゐる。

家庭には四男一女の子福に惠まれ、長男敏亮君は阪大工學部卒業後、軍籍にあつて陸軍少尉。

次男正男君、是亦秀才にして、阪大理學部に在學中。

三男三郎君は、日大工科建築科に在學中。

四男博君は松江高等學校に在學中。

長女、民江さんは東京に緣組して幸福な家庭の人となつてゐる。

氏の一家こそ全く羨望の的と謂ふべきであらう。

兵庫、洲本市常盤町
洲本廢品買出人組合
組合長　矢野文吉

本組合は昭和十二年五月設立認可されたるものにして、本組合設立前は任意組合として、組合の機構も不備なるものであつたが、現在では非常時局下の統制經濟時代に適應するために堅實確固たる方針を以て一路發展向上の途上にある。

氏は尊父文藏氏の男として明治十八年八月十八日、洲本市に出生した。明治四十三年以來古物商を營み業勢頗る盛であつた。

夙に淡路洲本廢品組合本部共同集品賣買所主任及び任意組合常時副組合長、並に會計を兼任され斯界に貢獻するところ極めて大なるものがあつた。

併して本組合創立の功勞者として爾來、今日の隆盛を見るに至るまで、その功績は燦然たるものがある。

資性溫雅淳篤にして、熱力あふれる活動家として、組合の內外に信望を蒐めてゐる。

なほ現役員に、常務理事丸尾幸雄、理事三木市太郎、上川金治、橫田增吉、監事三木龜吉、下村晃藏の諸氏があり、組合の運營に懸命の努力をなしてゐる。

兵庫、揖保、網干町
揖保豆腐商業組合

當組合は創立以來次第に組合員の加盟が增加し、その基礎も幹部役員の實策施行まことに機宜に適して、今や益々鞏固を加へ、年を逐うて順調なる發達を遂げつゝある。殊に非常時局下の統制經濟時代にあつて、その使命達成に努力しつゝあり、組合員の共同利益のため、豆、油等の配給事業、その他業界發展のため寧日なき活動を續けてゐる。

理事長　梶尾梅治

當組合が今日の盛況をなし、益々發展せんとしつゝあるは組合員役員の協力一致に依るのは勿論であるが、これが推進力としての氏の存在は洵に重大なるものがある。

兵庫、洲本市內通町
淡路製菓工業組合

當組合は昭和十年七月三日の創立にして、以來順調なる發達を遂げつゝあり、現在組合員一八三名を擁し、現時統制經濟下にあり、資材、原料等の不足にも拘らず配給機構の整備、相互扶助、組合精神の確立等、業者の福利發展に全機能を發揮し、その基礎もまた愈々鞏固なるものがある。

理事長　天野幸七

當家は明治十九年より辨天堂と號して名產物、菓子製造を營み、當地菓子商の大手筋として信用絕大なるものがある。當主幸七氏は明治十四年の出生にして、家業に精勵業績大いに擧がり、現在は組合理事長として多數組合員の指導者として益々奮鬪されてゐる。

氏は香川縣小豆島に於て明治四十四年十二月出生す。

實父稻夫氏は大阪商船に勤務し、夙によき父として、友行氏の敎育に力を注かれた。その甲斐ありて、友行氏は關西學院を經て大阪齒科に學び、優秀な成績を以て學窓を巢立つた。

卒業後は尼崎市に於て松本齒科醫院に勤務し、理論と實地の兩面に亘つて研究を積む。後昭和十四年十月男地瓦木村東大鋼に於て開業し、溫厚そのものゝ如き資性と、懇切丁寧な診療振りに加ふるに

兵庫、武庫、瓦木村
齒科醫　福崎友之

氏は香川縣小豆島に於て明治四十四年十二月出生す。

實父稻夫氏は大阪商船に勤務し、夙によき父として、友行氏の敎育に力を注かれた。その甲斐ありて、友行氏は關西學院を經て大阪齒科に學び、優秀な成績を以て學窓を巢立つた。

卒業後は尼崎市に於て松本齒科醫院に勤務し、理論と實地の兩面に亘つて研究を積む。後昭和十四年十月男地瓦木村東大鋼に於て開業し、溫厚そのものゝ如き資性と、懇切丁寧な診療振りに加ふるに

卓越せる手腕技倆と相俟つて忽にして附近一帯の聲名をかち得るに至つた。

蓋し前途有爲の青年として周圍の氏に對する信望は頗る厚い。

未だ獨身にして趣味は讀書である。

なほ、氏の現住所は西宮市津門稻荷町である。

兵庫、加古、加古川町

加古川米穀統制共同配給所

電話一〇六番

當配給所は、加古郡米穀小賣商業組合の第一區地區一圓を區域とし、國策の線に沿ひ滅私奉公、統制ある食糧の共同配給をなすを目的として設置されたるものである。

非常時局下の統制經濟時代にあつて、よく國策に卽して、組合存立の精神を體し、これが使命遂成に邁進しつゝある。

理事長　淮田光男

氏は明治三十五年二月十五日の出生にして、加古郡米穀小賣商業組合專務理事、同配給所長、縣の統制委員等の要職にあり、政府の代行機關として消費大衆い便を計り、日夜奮闘してゐる識見德望兩全の人格者であつてを博してゐる。

なほ、理事長以下現役員は理事に樫原常次郎、福島國太郎、樽谷直一、石原武夫諸氏、監事に喜多廣一、玉田勝の諸氏が就任して、夫々活躍し、多大の貢獻をなしてゐる。

兵庫、武庫、良元村

實塚地主家主業組合長

藤田長左衞門

電話實塚三七九番

家は代々農家にして、祖先は播州三木播主別所小三郎氏に發す。

先代長左衞門氏は生前、村民の信望厚く、村の長老として村長顧問として、村政の中心をなしゐたり。

當主長左衞門氏は先代の長男、明治十年八月十一日出生す。

幼少より聰明にして、進取の氣性に富みたりしが、長ずるに及び、家督を相續するに及んでは大地主、大借家主として敏腕をうたはれ、社會的にも急速に頭角を顯すに至る。

現在、武庫川住宅地株式會社々長であるが、朝鮮に於て山林、鑛山等の事業を經營し、元銀行重役の經歷を有す。

昭和十五年三月二十日、自ら發起人となつて實塚地主借家組合を興し、現在、全組合員の信望を一身に擔ひつゝ、同組合の長として活躍中である。然して、組合の將來の事業として、住宅難解決の使命達成のため住宅建設等の拘負を有し、近く實現の由なり。

家庭は圓滿にして、夫人妙子さんとの間に一男二女あり。

なほ住所は、良元村實塚である。

兵庫、加東、下車條村

加東郡自轉車小賣商業組合

本組合は昭和十四年十二月設立を認可され、事務所を加東郡下車條村に置き、

加東郡一圓を業務地區として、組合員の福利增進、相互扶助の精神を發揚すると共に、組合本來の機能を發揮しつゝあり而して松本正次氏を理事長に推し、理事に千田利助、小林孝之祐、玉田貞治、河合順次、藤岡周治の諸氏、並に監事として大久保潔、藤本要一郎、松尾勳の諸氏を役員として組合の進展擴充に務め、以てその使命を完うすべく貢獻し、組合員の期待に副ひつゝある。

理事長　松本正次

氏は明治二十四年七月に生誕。而して約二十五年前に加東郡自轉車業組合たる任意組合を松本氏が總代として設立し爾來順調に發展を來しつゝありしものを改組したが、今日の組合となりたるものにして、この間松本氏が業界の先驅者とし、將又理事長として貢獻せる功勞大なるものあり、なほ現在縣聯合會理事の要職にも就いて、獻身的努力を拂げてゐる。

温厚にして高潔、世の信望特に厚い。

兵庫、武庫、良元村

實塚商業組合長　小守通義

電話實塚四二二番

氏は岡山縣英田郡大野村字川上に於て實父友吉氏の三男として、明治三十五年二月出生。家は代々農業を營み、舊家として知らる。

氏は賢明にも、警察官の職務の重要性を痛感し、警察官として身を立つべく決意され、先づ兵庫縣警察部を振り出しに縣警務課を經て神戸市各署に勤務、後縣下實塚署に部長として榮轉。その警察生活は十一年の永きに涉り、實塚署を最後として退職、實塚に居住して、現在は小守工務店を經營、旁ら土地家屋の管理、朝日海上火災保險、尼崎海上火災保險代理店等を營業し、官界に於ける眞摯なる活躍の後、息つく間もなく民間にあつて、なほ、その才能を傾けつゝ活躍を續けてゐる。

精力家である氏は、前記業務の外に、實塚◇業組合、周旋業組合、自家用自動車組合、地主家主組合、古物商組合、阪神電話組合等の多數の組合に組合長として、又顧問として盡瘁され、その圓滿なる人格と手腕とを以て、周圍の信望の一身に集めてゐる。

趣味は頗る多岐に亘り、獲等もその一つである。

家庭には、悅代夫人との間に一男二女あり、長男義人君は目下關西工業學校に在學中である。

なほ氏の住所は、良元村實塚梅ノ木新橋通りである。

兵庫、有馬、三田町

有馬自轉車小賣商業組合

本組合は昭和十五年一月に設立認可され、自轉車商業の改善發達を圖るため、共同の施設をなす目的を以て生まれたものである。

現在役員として理事長に藤崎種作、副理事長山本正一郎、理事堀井丈太郎、監事秋山須也、西井利一郎の諸氏が任ぜられ、組合員は二十三名あり、時局下の職

域奉公に邁進してゐる。

理事長　藤崎種作

氏は明治十八年十二月に生誕。溫厚にして圓滿なる資性の持主である。齊しく衆庶より敬仰せられ推されて任意組合有馬町自轉車業組合長、有馬郡履物商組合顧問等の要職を兼務し、當地業界の尊分的功勞者であり、また町勢伸展のため、寧日なき努力を效してゐる。

氏には、一男四女があり、長男剛三氏（三十歳）は日支事變に於て、勳八等に叙せられた勇士である。歸還後二月、大阪市のバンドブレキ製作所の令嬢と結婚、目下藹々たる家庭を營んでゐる。

兵庫、武庫、良元村
村會議員　橋本　萬次郎
電話仁川二七〇番

氏の祖父若狹は盡忠報國の念に燃える志士であつた。天誅組に加り勤王の兵を擧げた熱血漢であると共に、亦二葉明流の創始者として、砲火藝術の名人でもあつた。

實父幸次郎氏は村會議員として村の自治の功勞者であつたが、八十四歳にして逝去した。

氏は先代の次男として明治十五年五月二十七日出生、青年の頃、一大決心の許に出鄉、懷中無一文にて大阪に走り、そこで獨立自營今日の地位と富をなせる點全く立志傳中の人である。

日露戰爭に從軍、戰功により勳八等を授かる。後、株式會社阪急電鐵、阪急百貨店、出張所を有し、社運は頗る盛んで阪急電鐵、或は大阪府等の指定會社である。爾來が共同購入、配給機構の整備、利益金の貯蓄法等、非常時局下組合の責務を遺憾なく遂行しつゝある。

理事長　梶田作藏

氏は明治四十一年の出生にして、青年團支部長、消防組組頭、國勢調査委員、商工會幹事等の要職にあり、なほ本組合理事長に就任するや氏の兄弟は八人あるが、內、三男虔三氏は大阪市北區小松原町六九の支店に、又六男重春氏は阪急仁川の本社にあつて共に兄萬次郎氏のよき協力者である。

氏は資性剛毅、しかも圓滿なる人格者であり、氏の今日の成功も皆この人格と努力の然らしめたものである。

家庭には、京子夫人との間に一男五女あり、頗る圓滿である。長男哲郎君は目下大阪北野中學に在學中である。

兵庫、洲本市物部町
淡路金物小賣商業組合

當組合は組合員の親睦、共同の利益を增進する目的を以て、昭和十五年二月設立を認可されたるものである。

統制經濟下の組合精神の確立を目標として日夜盡瘁し、その功績洵に顯著なるものがある。

資性質實剛健、情理に厚く、その手腕倆と共に業者間の人望は極めて厚いものがあり、今後を一層期待されてゐる。

神戸市神戸區北長狹通
兵庫縣木炭荷受配給統制組合

當統制組合は、昭和十五年十月、縣木炭配給統制規則により、木炭の一元的荷受配給を行ひ、その需稀調整を圖るを以て目的とし、縣知事の監督下に創設したものにして、組合員は、全國米穀販賣購買組合聯合會、兵庫縣購買販賣利用組合聯合會、從前の兵庫縣木炭配給統制細則に依り現に縣知事の指定にる配給統制團體員、地區內の小賣商業組合又はこれに準するもの、兵庫縣市街地購買組合聯合會、その他知事の指定したるもの等であり、主なる事業は、移入木炭並に縣內產木炭の一元的荷受、政府買上木炭の一元的配給、取扱木炭に附隨する燃料の荷配給、事業に關する指導及び調査等である。

更に配給統制事項を審伐、または決定する機關に統制協議會を設置し、これには組合員中より委員若干名を選任し、統制協議委員會を組織して當らしめてゐる。

組合の機構は、業務分掌により配給部、倉庫部、總務部、經理部、荷受部、薪部の六部を置き、出張所を尾崎地區、西宮地區、明石地區、姬路地區內に設け、郡部單位の支所二十三ケ所、配給分所を二百四十九ケ所設けてある。

現役員（昭和十五年十月創立總會にいて選出）は、理事長は小黑藤兵衛、副理事長は野田常吉、同瀧邦作、專務理事は青木廣吉、常務理事は古元謙一、理事山本松兵衛、內海儀藏、野口政吉、橋本砂治、三好幸右衞門、小林政啓一郎、牛尾久次郎、酒垣忠次郎、中島龜吉、島養茂之助、川口宇助、田中那太郎、寺田純一郎、白濱重男（縣販聯）、小泉秀吉（市街購聯）、安井乙次（全聯販）、監事中川清治（縣販購聯）、青田一郎、前田並次郎の諸氏である。

兵庫、伊丹市北村
市會議員　藤川喜之助

縣下實業界の重鎭として俊敏なる事業手腕を振ひ、素志貫徹せずんば仆れてなほ止まずの概を以つて縱橫に活躍し、常に業界を先導し啓發しつゝある氏は、明治十三年十月、先代喜之介氏の長男として生る。

家は代々酒造業にありしも燃ゆる如き熱意と豪毅調達の識見は家業に慊したるを許さず、夙に伊丹生果株式會社專務、生果組合長、生果聯合組合長として斯業の進步に獻身的努力をなしつゝある傍ら伊丹劇場株式會社取締役、川邊郡砂糖小賣商業組合理事長、株式會社掘拔製絹所取締役、高木

組（大阪市に於て日本銀行、キリンビール等の專屬運送業）に關係し、多忙の身を以つて市會議員として公共に盡瘁し、稀有の努力家として令名高し。

實弟賢二郎氏は目下第一線にありて活躍中なり。

兵庫、武庫、鳴尾村

村社醫院長　**村社新吉**

電話西宮二八三八番

氏は埼玉縣北埼玉郡大田村大字下須戸の出身。

家業は代々農業にして、現在の實兄は農耕業に携る傍、村長として村に重きをなして全村民にその人格を慕れてゐる。

氏は實父右一郎氏の三男として明治十八年十一月八日出生。

醫學を志して、現在の阪大たる大阪高等醫學校に學び、大正二年卒業せる醫學士である。

卒業後は母校に於て、産婦人科に勤務後、松江市、長崎縣等に於て開業し、醫術の實地と理論の兩面に亘つて、愈々修練、研究を積む。大正八年再度阪大に戻り、研究に從ひ該博なる薀蓄を得て後、現地施に於て開業、專門は産婦人科、内科である。溫和なる紳士であり、懇切極まる診察振りを以て聞え、患者の氏に對する信頼は非常なものである。

手腕、人格兼備の名醫である氏は、繁忙なる業務の傍ら、なほ公共の爲に警防團理事として活躍中である。

家庭には、とし子夫人、並に一女ありて和氣藹々たるものあり。

氏の現住所は、鳴尾村字西ノ口一六である。

兵庫、尼崎市机瀬東寺島町

防護團班長　**籔田健吾**

電話二三八四番

當主は熊本縣出身の士族で、代々の富家として、極めて由緒正しい系圖の持主である。

明治三十三年二月二十八日に呱々の聲を擧げた。夙に上阪して大阪櫻川に居住してゐたが、三年前、當地に轉住して永住の地とした。

專ら鐵工所の經營に當り、阪神鐵工組合員として活躍する傍ら、公共産業方面に留意し、多大の貢獻をした。

推されて、木津川分會理事、泉尾第一商工青年學校指導員等の要職に就くや大いに範を遺して辭任す。現在、東寺島町副會長、町内評議員、防護團班長の要職にあつて、常に一貫至誠、指導の任に當つてゐる。

特に附加すべき事は、氏は特別赤十字會員にして、國防資金獻納をしたゝめ、名譽ある感謝狀を受けたのである。

資性溫厚、識見卓拔、その圓滿なる人格と相待つて衆望更に加はり、今や押しも押されもせぬ土地の重鎭である。

趣味として、角力を好み、國民體育の立場から大いに奬勵してゐる。

また、氏は有名な刀劍の蒐集家として知られ、鑑定に於いても、遙かに玄人を凌ぐものがある。

はるゑ夫人も貞淑の聞え高く、四男一女の子福者、長男寛次君、次男嘉三郎君、三男逸也君、四男新治君、長女嘉子さん等、そろつて頭腦明敏。

和氣藹々たる家庭である。

兵庫、武庫、魚崎町

武庫豆腐商業組合

當組合は創立以來次第に組合員の加盟するものが增加し、その基礎を幹部役員の盡策施行まことに機宜に適して、今や益々鞏固を加へ、年を逐ふて順調なる發達を遂げつゝある。特に非常時局下の統制經濟時代に在つて、その使用達成に專心的努力を致しつゝあり。

當組合出資額は、一口二十圓、總口數一〇〇口、拂込金額五〇〇圓に及んでゐる。

當組合の事業としては、組合員の共同利益のため、豆、油等の配給、その他業界發展のため寧日なき活動が續けられてゐる。

理事長　土太右衞門

氏は明治四年八月十五日の出生にして、僅かに二十五歳位より縣下聯合會に盡瘁され、その他中央豆腐組合長等を歷任し、斯業のため貢獻すること極めて多く、今また本組合の推進力として、氏の存在は極めて重要なるものがある。

兵庫、武庫、武庫村

商工會議所議員　**新宮丑太郎**

電話一〇三八番

遠く祖先を長州に發し、先代吉藏氏は農を營み、氏は明治十九年四月一日、その長男として出生。神戸市立山手尋常小學校卒業後、夙に修身濟家の道に精勵、現在、兵庫縣尼崎市尼崎商工會議所一級議員、日本鑄物熔接材料工業組合理事長の要職に在り、その豐富なる手腕を縱橫に發揮しつゝ資性剛毅にして果斷、而も情理に厚き人格は業界人の敬仰已まざるところであり、氏の旺盛なる活躍に期待する處は、實に大なるものがある。

家庭にあつては久子夫人と琴瑟相和し人も羨む圓滿な生活である。

兵庫、武庫、瓦木村

瓦木村役場

本村は高木、荒木新田、上新田、中新田、上瓦林、下新田、瓦林、下瓦林の八大字より成り、もと戸數三百餘の一小農村に過ぎざりしが大正七年阪急本線開通し、西宮北口驛が設置され、程なく同驛より寶塚今津線が分岐せられるや、同線の要衝となり、越えて大正十五年南部下瓦村に阪神大國道開通し、阪神兩大都市を結ぶに至つて、車馬絡繹を極め、路面電車及び國道バスも運行して村内に數ケ所の停留所を設け、これ等は悉く村の發展を刻載する所となり、都人士の來住日に多きを加へて、急激に村の形態を變じて住宅地帶と化するに至つた。

近年に至つては、昔日の一小農村の面影は全く見る事が出來ない。

氏は明治四年八月十五日の出生にして、僅かに二十五歳位より縣下聯合會に盡瘁され、その他中央豆腐組合長等を歷任し、斯業のため貢獻すること極めて多く、今また本組合の推進力として、氏の存在は極めて重要なるものがある。

特に年來氏の擔負として專念する熔接村料、特に鑄鐵熔接棒改良發達に關しては偉大なる氏の事業として斯界に注目されてゐる。

影は一變し、高級住宅軒を並べ、紳商富豪の來住踵を接し、遂に新市街の様相を呈するに至つた。

而も本村は西に六甲の連峰を望み、東に武庫川の清流を控へ、青松連りて風光の明眉人目をして瞠目たらしめ、加ふるに交通至便、文化施設の整備、等郊外安住の理想郷なるを以て、村勢は躍進の一途を辿るのみである。

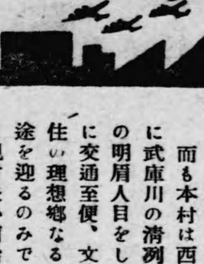
現村長小西治左衞門氏、助役衣笠卓二氏、收入役兼第三係長好井武雄氏、第一係長主事金井政一氏、第二係長主事小野井末吉氏、外に書記九名、技手一名、書記補十一名、雇傭員十四名である。

村長 小西治左衞門

氏は昭和十二年、村民に推されて現職に就任した。

夙に溫厚篤實な人格者として、稀に見る手腕家として、村民のあまねく尊敬され、村長に推されるや、この發展途上にある瓦木村の息つく間もない村政を、絶間ない諸問題を見事に處理しつゝ、進んで時局の線に沿つて、村内の新體制を整へ、堂々と明日の發展に巨歩を運ぶあたり名村長たるを失はぬ。

兵庫、武庫、上甲子村 上甲國國民學校



當校の創立は古く縣下の模範小學校として有名である。近時國民學校と改稱せられ、傳統的な數々のよい教育方針を踏襲して、國家に奉公する意氣に燃えてゐる。

當校は教育地としての環境に惠まれ上甲子園住民の勤儉努力の風習は當校薫育の賜とされてゐる。

現下、時局に即應せる教育方針をとり特に教育勅語にその實踐的指標を求め校長以下各職員一致協力して、兒童の指導に當つてゐる。

尊父故伊三郎氏は村長等の要職に就いて山林改造等の功勞ある。

大正六年、御影師範學校を卒業して、芦屋市（舊し道村精道）小學校に奉職、次いで同郡瓦木小學校の首席訓導に榮轉し、昭和十六年四月、當校の國民學校と改稱と同時に初代校長として就任されたのである。

令室都滿子さん、また國防婦人會役員に推され、一男あり、家庭はつねに圓滿である。

因みに、氏の長兄嘉市郎氏は鄉里貝原町で丹波新聞社の主幹として健筆を揮つて居り、次兄は福知山市で實業家として活躍してゐる。

校長 小田德次

村内の名士にして他界せる惜しい人物であつた。

氏はその三男として、明治二十八年四月に呱々の聲をあげた。現住所は芦屋市打出であるが、出身地は氷上郡大路村である。

兵庫、武庫、御影町 御影燃料小賣商業組合

電話御影四三三四番

本組合は燃料小賣商業の改良發達を圖爲、共同施設を爲すを以て目的とし、

昭和十五年十一月設立を認可された。

事業としては、商品及び營業用品の共同仕入、各種の統制及び協定、配給等、又優良從業員並に組合開係の功勞者の表彰をなす等にして、組合設立の使命を遺憾なく達成しつゝ、設立以來殘して來た足蹟は大きい。

役員は、顧問として石川勉、玉木敬太郎、横田政次郎、森川郁太の諸氏並に相談役して佐野善一、井上新太郎の兩氏を推し、理事長に梶川豊氏、專務理事に坂野健一氏、常任理事に內海八十一氏、理事に米谷文兵衞、谷藤柴一、小山六治、岸本清三郎、谷掛德丸、荻野熊治郎の諸氏、監事に安藤利一、田畑馬之助、安田寅之助の三氏、外に營業統制委員として九氏がある。

理事長 梶川豊

氏ははは溫厚篤實な人格才腕兼備の士として業界に重きをなし、一般の信望を集めてゐる。

理事長に就任後は、專心組合の發達を圖り、滅私公共の爲に盡瘁して居り、幾多の功績を擧げてゐる。

亦、家庭も常に圓滿を極めてゐる。

兵庫、武庫、魚崎町 武庫郡金物小賣商業組合

電話御影五一〇七番

本組合は多種金物小賣商業の改良發達を圖る爲、共同の施設を爲すのを目的とし昭和十四年十一月設立を認可された。

事業としては、商品の共同仕入、各般の協定並に統制をなし、配給の圓滑を期しつゝ、組合設立の使命目的の達成に邁進しつゝあり。設立以來殘して來たる業績は頗る大きい。

現役員は理事長清原慶二郎氏、理事岡本敬治、赤松保吉の兩氏、監事として横田政二郎、仲田初次、八車卯之助の諸氏である。

理事長 清原善二郎

氏は明治三十二年一月二日の出生にして、町會議員二期目を務めて町自治に盡瘁してゐる外、兵庫縣金物商業組合聯合會監事として、縱横に活躍、才腕、人格兼備の士として名高い。

本組合長としても、多數の組合員をよく統率して、組合發展を圖り、獻身的な努力をなしつゝある。

全組合員の信頼の的となつてゐる。

兵庫、武庫、本山村 棟嶽山向榮寺

常寺は釋迦牟尼佛を御本尊とする曹洞宗派の古刹である。寛政九年五月、約龍義見の開山、由利清允尼の開基にして、その間幾多の盛衰を經たが、今日まで法燈の斷ゆることがなかつたと云ふ。

當寺中興の開山は當寺の二世住職洞洲豐三和尙にして、同師の眞摯なる努力により、本堂、書院、毘沙門堂等を昭和十三年二月に竣成し、全く面目一新するに至つた。

住職 岡田關龍

師は明治四十三年二月十日の誕生にして、興聖院に於て修

業し、龍谷大學を卒業。有馬郡中野村青龍寺の住職となり、昭和十四年三月住職として當寺に就任された。この間興聖寺の副鑑を經、熱心眞摯なる布教と献身的な宗團營爲は遂に當寺法燈の熾んな現狀を築き得たのである。

師は溫厚篤實、公共仁德に厚き高僧にして、衆人の信望も又極めて厚いものがある。

兵庫、武庫、瓦木村
齒科醫 小林顯五

原籍は兵庫縣城崎郡城崎町である。

實父一夫氏は縣下小學校の校長として名教育家の名が高かつたが、昭和十一年退職した。

氏は一夫氏の長男、大正四年五月三十日の生れである。

昭和十三年大阪齒科醫專を卒業後、旅順海軍病院勤務となり、昭和十四年六月大阪齒科醫局に醫員として勤務、多年の勉學、研究の上、なほ專心齒科醫としての修業を積み、新進醫學徒として將來を屬望されてゐるが、昭和十五年十一月現地に於て開業し、爾來勤務して、夜間雪に功を積むこと數年、優良の成績を以て出で、赤十字病院に入り外科專門に實地の研究を重ねたるも飽迄向上心に燃る氏は、更に京大に學びて學理の研究を續け、昭和十二年鐘井市富田病院に外科主任として就任、昭和十三年『人體及ビ動物體ニ於ケル光吸收性物質ノ分布並ニソノ病理的消長ニ就テ』の論文を提出、遂に最高學位の博士の稱號を得、十四年二月尼崎市安田病院に勤務、同十六年二月現地に外科專門の醫院を開く。資性溫厚なる人格者にして、惻隱の心常に濟世救療の仁義に志し德望普ねく稱へられる氏の今日ある又宜なりと云ふべし。

手腕とは既に患者の間に定評あり。資性は溫厚にして明朗、スポーツを好み、音樂を愛す。

家庭には實母安子さん健在にして、令弟一人は中學に在學中、未だ獨身なるも家庭は明朗なる空氣に充つ。

氏の現住所、瓦木村甲子園にである。

兵庫、尼崎市杭瀧堂後
醫學博士 納田早太郎

納田家は北海道釧田郡俱知安町字樺山にして、父君傳藏氏は同地の實業家として知らる。

氏は男四人女三人の兄弟の中、明治三十六年六月四日第四男として生れ、鄉校を出るや醫を志して新潟醫大に學び、螢雪の功を積むこと數年、優良の成績を以て出で、赤十字病院に入り外科專門に實地の研究を重ねたるも飽迄向上心に燃る氏は、更に京大に學びて學理の研究を續け、昭和十二年鐘井市富田病院に外科主任として就任、昭和十三年『人體及ビ動物體ニ於ケル光吸收性物質ノ分布並ニソノ病理的消長ニ就テ』の論文を提出、遂に最高學位の博士の稱號を得、十四年二月尼崎市安田病院に勤務、同十六年二月現地に外科專門の醫院を開く。資性溫厚なる人格者にして、惻隱の心常に濟世救療の仁義に志し德望普ねく稱へられる氏の今日ある又宜なりと云ふべし。

兵庫、西宮市馬場町
西宮自動車小賣商業組合

本組合は自轉車小賣商業の改良發達を圖る爲、組合員共同の施設を爲すを目的として、昭和十五年二月設立認可をされた。

設立以來の本組合の活動を見るに、組合員の爲にその取扱商品の共同仕入は勿論、漸次各種の共同設備を設けて組合員

の利用に供し、優良なる店員並に從業員の表彰を行ひ、必要なる資金の貸付を行ひ、各般の配給統制並に協定をなし、組合員をして安んじて、職域奉公に邁進せしめてゐる。

現役員は、理事長白坂仙太郎氏、副理事長公下守一氏、常務理事坂戸勇氏、理事藤井唉二郎、布施辰沼郎、中村宏、安井正義諸氏、監事橋本松太郎、大西新藏天野榮太郎圓諸氏、外に統制委員として、役員側より五名、一般組合員外より四名組合員外より二名がある。

理事長 白坂仙太郎

氏は明治三十八年四月十一日の生れにして、夙に才腕と人格とを以て廣く知られ、市の警防團副分團長、青年團長の要職にあつて、公共の爲獻身的努力をして居り、本組合の理事長に就任以來、その敏腕を縱橫に驅使して、組合の爲に盡瘁しつゝあり、組合の內外に信望頗る篤い。

兵庫、尼崎市西本町
商工會議所議員 白髮信次郎

電話七三番

常家の祖は遠く文政年間播州に發し、天保年間には米穀商を營み家業隆盛を極めたるも嗣子なく、甥久吉氏を養嗣子に迎へ、久吉氏の故鄉尼崎に歸り、呉服商を營み現在に至つたものである。

氏は久吉氏の長男として明治二十七年十月七日の出生にして、大倉商業卒業後家業に專念し、業績は年と共に興隆してゐる。

現在、商事及金錢調停委員、尼崎地區物價調査委員、尼崎商工保安協會常任理事、尼崎商工會議所議員、尼崎商業組合聯盟副理事長、尼崎商店聯盟常任委員、尼崎商店聯盟振興會副委員長、尼崎纖維製品小賣商業組合理事長、尼崎西町會長等の要職にあり、夙て地區內同業者及一般小賣商を統率して職域奉公の誠を致さんとする抱負をもち、これが實現は各方面より期待されてゐる。

兵庫、尼崎市西本町
商工會議所議員 白髮信次郎

電話七三番

氏は潔癖重厚なる人格者にして、各方面の信望は絶大なるものがある。

氏は趣味として謠曲、繪畫、古錢學、考古參考品の蒐集を好み、家庭には現在玆母ちかさんを始め、夫人文さん長男一夫君があり、和氣藹々たる生活を營まれてゐる。

兵庫、揖保、網干町
網干燃料小賣商業組合

電話網走二九番

當組合は燃料小賣商業の改良發達を計るため共同の施設をなす目的で、商業組合法に依り、昭和十五年十月に、事務所を當町新在家に置き呱々の聲をあげた。

組合員資格としては、網走署管內一圓即ち網干町、御津村、大津村、旭湯村、余部村等に於て燃料小賣を營むものに適用されるのである。

設立發起人總代は鹽津豐治氏にして、現役員は、理事長赤尾常治氏、專務理事鹽津豐治氏、理事小林豐吉、同酒木廣吉三田忠次郎、上田義助、三輪瀧治、平田仙次、木村春次、森下貞夫の諸氏である

理事長
赤尾 常治

氏は明治二十五年八月七日に呱々の聲をあげた。夙に町政に干與し、町會議員三期、更に網走商工會長等に推され、又兵庫縣木炭荷受配給統制組合網走配給支所長等要職を歴ね、百練の手腕を揮つてゐる。

專務理事
鹽津 豊治

氏は當組合設立發起人總代であることは前記の通りあるが資性重厚、夙に信望あり、理事赤尾氏のよき女房役として、組合百般の處理にあたつてゐる。

兵庫、尼崎市東初島町
尼崎瓦商組合長 **森脇 彌平**

當家は屈指の舊家にして、代々瓦製造を營む名望家である。代々家名を襲用するを例とし、祖父時代には御殿瓦を造つて納入し、森島家の姓も殿様より拝名されたほどの譽れ高い家柄である。

當主は明治二十八年八月五日に呱々の聲を擧げ、代々の家業を繼いだが、非常な努力家で、業績益々伸展し今日に至つたのである。

夙に推されて、東神島町區委員、氏子總代、衞生部長等の要職を歴任し、大いに範を遺した。

昭和十六年四月尼崎瓦商組合が設立認可されるや、大いに勤儉貯蓄の氣風を奬勵し、推されて組合長となる。

資性溫厚、識見卓拔、その圓熟せる人格と相待つて、今や聲望嘖々たるものがある。

趣味として釣を好み達人の域に至る。

家庭には一男一女があり、夫人は淑德の聞えも高く、圍繞の家風は近隣羨望の的となつてゐる。

兵庫、西宮市今在家町
西宮土地家屋管理回旋業組合
電話五六六番

當組合は、任意組合の頃は、單に同業者間に親睦を計る程度のものに過ざざるものなりしを、組合員中の細谷國太郎、中井龜次郎、山内政吉の諸氏が發起人となり、公認組合としての改組せんとして、東奔西走、献身的努力をなし、昭和三年二月認可せられ、初めて正式の組合として創立した。

爾來、組合員の福利增進、經濟の發展とを企圖し、又組合自體の内容充實、組織の完備に邁進し、以て今日の如き健實なる發達を招來するに至つた。

而して現役員は、木村猛氏を組合長に澤田陽造氏を副組合長に、會計として細谷國太郎、森川角太郎の兩氏あり、一致協力、組合の躍進的に努しつゝあり、今後の隆昌を期待さる。

組合長
木村 猛

氏は明治二十一年六月二十九日生誕にして、原籍は兵庫縣出石郡出石町にして、實父音吉氏は、生前縣下の小學校長として教育界に在ること三十年の長きに亘り、勳八等を拜受した。教育功勞者である。

而して氏は(元)大社村當時の村會議員

を二期、元甲陽土地株式會社土地課長を歴任し、現市會議員、及び現甲陽園保勝土地區劃整理組合評議員の職に在りて、其の職責完遂に献身的努力を拂ひ、且つ氏の溫厚篤實不言實行の人格と其の敏腕は衆望を負ひ、一意專心組合の隆榮と組合員の經濟上の向上に献身的努力を盡しつゝあり。

夫人たつ子さんは婦人會役員にして、二女子の訓育に務め、内助の功を盡してゐる。

兵庫、尼崎市神田中通り
看護婦會主 **加藤 晴康**
電話一〇〇七番

氏は愛知縣中島郡の出身にして明治二十六年四月萬次郎氏の男として生る。大正六年立身成功の志を抱いて鄕土を出て尼崎に來り阪神電鐵株式會社に入る、爾來格勤精勵、十年一日の如く努力し、小資を得て撞球場を開設す。資性溫厚にして着實、且つ社交に長じ、常に孜々として倦まざる修業を積み、その店輔を設備良く、常市唯一の理想的撞球場として一般の好評を得、今日の盛況を見る。

夫人みのさんは阪大緒方産科婦人科出身の助産婦にして一般の信望厚く、大正十一年に看護婦會を創設して後進の養成に努めつゝある外、兵庫縣産婆會代議員を初め、看護婦會、産婆會等の會計を預り、斯業の發展向上に寧日なく献身的努力を惜まず盡瘁しつゝあり。

兵庫、芦屋市打出
醫專寺住職 **杉本 義一**

家柄は眞宗本派本願寺の末寺であり、元祿五年寺社改修に依り一向宗西本願寺派辻本道場として、京都金福寺の末寺である。

この道場は古い歴史を有してゐるが、開基の年暦等は詳ならず、初めは單なる道場に過ぎなかつたが、のち享保十七年釋昇道が本山より阿彌陀如來の立像を請受け、これを以て本尊とし爾來正式な寺となつた。

先代善巧師は初め本願寺に勤め、後當寺住職となつた。

當代義一師は先代の實子にして、明治二十五年二月生。

大正二年三月眞宗本願寺立北陸中學校卒業後、先代を扶けた副住職となり孝養を盡した。後大正十年十月住職となつた。

師は眞摯敬虔な宗教家であり、他面熱心な社會事業家である。信者の死後の救濟のみに止まらず、現世に於ける救濟を第一義となし、縣下聯合保護會甲南支部常任幹事となり、更に社會教育委員囑託武庫區保護委員囑託、方面委員、司法保護委員として活躍、日曜學校、修養保護所等を開設する一方、鍼灸術を營んで、廣く仁術を施し、社會に貢獻するところ實に大である。よつて、昭和十一年縣聯合保護會から表彰され、人々の師に對する信望は非常に篤い。

温厚篤實にして、師の如きは將に、一般の師表として申分無い存在である。
家庭には夫人露子さんとの間に、二男六女ありて和氣藹々、家庭にても亦良き父であり夫である。

兵庫、尼崎市北大物町
尼崎自轉車小賣商業組合

本組合は自轉車及同村屬品並に部分品小賣業の改良發達を圖る爲め、共同の施設を爲し、且つこれ等物品の配給をなすを以て目的とし、昭和十五年二月設立を認可された。
設立後は、組合員の爲、營業上必要な物品の共同仕入、保管運搬、資金貸付、配給並に各般の統制を行ひ、組合員は組合を中心として、舊態より新體制へ迅速且つ鮮かな轉換をなし、新なる商道の實踐に努めてゐる。
役員は、理事長前田政常氏、常務理事赤松登志雄氏、會計理事山本喜久治氏、理事松浦喜志、中西喬、花熊庄次郎、監事杜本馬十郎、逢坂宮治郎、山口正の諸氏である。

理事長　前田政常

氏は明治三十年九月十五日に生れ、温厚篤實な人格者で家庭には夫人露子さんとの間に、二男六女ありて和氣藹々、家庭にても亦良き父であり夫である。
縣業界の功勞者として、夙に名聲は知られてゐた。
本組合理事長の外、兵庫縣自轉車小賣商業組合聯合會副理事長、日本自轉車小賣商業組合聯合會兵庫縣支部長、他方統制協議會委員等要職にある。
本組合理事長としても氏の活動は、眞に献身的なものがある。例へば廢品の他へ移動するを防ぎ、倉庫を設置し、地區内の廢品を集め、之れに依り更生可能の品は利用する等、組合の爲日夜奮闘をつゞけて居り、組合員の信望も甚だ篤く、よく組合員を統率して堅實なる發展をなしつゝある。

兵庫、芦屋市打出
市會副議長　高津久四郎

電話三八四四番

當家は代々高津神社の宮司として奉仕せる名門なり、而かも尊父久右衞門氏は關西實業界の大立物としてその名を謳はれ七十三歳の高齢なほ矍鑠なり。
氏は同氏の三男に生れ昭和四年帝大を卒へたる後ち父業を繼ぐ、長兄久次氏は渡米、ペンシルバニヤ大學を卒へてなほ海外にあり、二兄俊久氏は慶應大學卒業後鐘紡工場長として波多野家を繼ぎ四男豐久氏亦ハルピン北滿製糖會社の常務として、それ〳〵樞要の地位にありて活躍し、氏も亦高津合資會社、清和土地株式會社、日本砂糖貿易、日本航空會社の重役として手腕を揮ひ、一方町内會幹事長として盡すところあり、選ばれて初代市會議員となり、更に、副議長要職に就く、氏は市町會議員中最年小者として、その將來を嘱望さる。
なほ當市打出綠ヶ丘の發展は、一つに尊父久右衞門氏の努力の賜物なりと云はる。
資性温厚篤實なる人格者であり、益々業庶の信望は絶大なるものがある。

兵庫、尼崎市南城内
尼崎燃料小賣商業組合

電話三一〇三番

本組合は尼崎燃料小賣商業の改良發展を圖る爲、共同の施設をなすを以て目的とし、昭和十五年十一月設立を認可された。
本組合は他組合に比し、多數の組合員を擁し、從つて出資總額も多額に上つてゐる。而して合理的なる機構と、その堅實なる運營とにより、順調に發展をつゞけてゐる。
また設立以來、組合員の爲め、共同仕入、共同保管並に運搬は勿論、燃料國策の線に沿つて、種々配給統制等に活躍をつゞけ、全組合員は組合を通じて、專心職域奉公の誠を致しつゝあり。
役員としては、理事長川口宇之助氏を筆頭に、常任理事間所淺次郎氏、理事楠筒米一氏、荒井伊之助氏、谷田忠次郎氏北村利三氏、小林萬太郎氏、監事大長米次郎、小倉善太郎、森口義雄の三氏がある。

理事長　川口宇之助

氏は明治二十七年四月三十日の出生にして、さきに市會議員として三期に亘り活躍をなし、尼崎市政に殘した功績は頗る大きい。
本組合設立されるや、發起人總代として盡力し、且つ多年練磨の才腕力倆と圓滿篤實なる人格を買はれて理事長に推された。
爾來、この大組合に附隨して起り勝ちな、各種の困難を克服しつゝ、見事圓滑なる運營を續けてゐる點、衆目の一致して讃嘆措く能はざるところにして。組合員に絶大の信頼を寄せられてゐる。

兵庫、芦屋市津知才道
町會聯合會會長　古籔　梅太郎

電話二七二七番

歷代の舊家にして當地方唯一の資産家として知らる。殊に往時は江戸は參觀交代の大名の宿泊せし程の由緒ある名望家にして、今なほ當時の門柱、その他家具を保存しありと云ふ。
祖先は尼崎城主より苗字帶刀を許され代々庄屋を勤め、祖父德五郎氏は神戸湊川神社の御普請の際、芦屋の自宅より籠にて普請監督に通ひし記錄、今なほ縣廳にあり、尊父福治氏は亦多年村政に參與して、その功勞淺からず、十年前七十四歳の高齢を以つて逝く。
斯る家に人となるは、隣保組長、衞生組長、部落總代等公共事業に盡した功多く、現在芦屋市西中央區町會聯會合副會長として市の發展に熱心盡瘁しつゝあり。

氏は亦雅號を梅甫と云ひ、生花、茶道に長じ、多數子弟の敎養に努む。
夫人マスさんとの間に子女二人あり、國防婦人分會班長として、寧日なく盡瘁す。

兵庫、芦屋市津知才道
市會議員　永井伊勢吉

電話二九九〇番